

令和元年度

大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント活動報告書

大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会

目 次

はじめに	(ファカルティ・ディベロップメント委員会委員長 大澤 清二)	1
------	--------------------------------	---

I 大学FD活動状況

1 全学FD活動

(1) 授業担当者懇談会実施報告	2
(2) 授業に関するアンケート実施概要	3
(3) 授業に関するアンケート集計結果	6

2 各学部 of 令和元年度FD活動 of 概要報告

(1) 家政学部	90
(2) 文学部	92
(3) 社会情報学部	94
(4) 人間関係学部	96
(5) 比較文化学部	98
(6) 短期大学部	100

3 人間文化研究科 of 令和元年度FD活動	102
------------------------	-----

Ⅱ 全学FD研修

1 研修会の内容及びアンケート結果

(1) FD 研修会

- ①「成績評価についてのFD」123
立命館大学教育開発推進機構教育・学修支援センター
副センター長 沖 裕貴 氏
- ②ループリックの作成と活用・改善方法について 131
立命館大学教育開発推進機構教育・学修支援センター
副センター長 沖 裕貴 氏

参考資料

1. 大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程138
2. 令和元年度大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会名簿140

はじめに

令和元年度大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会委員長 大澤 清 二

令和元年度も本学の教育に関わる全教員、職員の皆様の一致した協力により充実した FD 活動を行うことが出来ました。委員長としてここに厚く御礼申し上げます。ここにご報告いたしますように、授業評価に關しましては基本的には従来の方式を踏襲しつつも、着実に成果をあげることが出来たと思います。また、来る時代に備えてこれまでの調査票による授業評価アンケート方式を見直し、令和 2 年度からは Web を用いた授業評価方式に移行するための検討を慎重に行ってきました。その結果、従来の授業評価項目を活かしつつ新たな質問票を作製し、委員会ははじめ教員諸氏の了解をいただきました。

一般的に言われているところでは、授業中のアンケート方式では授業参加者の 100% 近くの回収が確保できるところ、Web 方式ではこれがかかなり低下するそうです。この点が最も懸念されるところですが、どうぞ教員諸氏におかれましては、学生諸姉によりしくご指導願います。

現在不幸にも世界的な感染症の流行のために、我が国においても、教育システムが大混乱に見舞われています。この報告書が皆さまのお手元に届く時点でも、まだ長期的な見通しを示せない状況があるいは継続していることと思います。

であるからこそ、一層 FD 活動が大事になってくるはずで、教職員をはじめ学生自身も初めての経験をすることになります。授業もおそらく質的にこれまでになく、バラツクようになるでしょう。どうぞこの時こそしっかりした責任ある FD 活動をしていただきたいと思います。

令和 2 年度は教員の方々、職員の皆様のご苦勞が続くと予想されますが、根氣強く FD 活動を続けてください。また、学生諸姉やご家族の不安や苛立ちも想像できます。今は全ての人が痛みを感じている時です。人知を尽くしていただき、この苦境を克服していただきたいと思います。

大妻は今までも何度もこうした試練に耐えて、今日に至ったことを思い出してください。

I 大学FD活動状況

1 全学FD活動

(1) 授業担当者懇談会実施報告

① 概要

今年度も千代田キャンパス・多摩キャンパスにおいて授業担当の教員(専任及び非常勤)並びに理事長・学長、副学長が出席し、学生指導に関する各位のご所見・ご抱負など活発な意見交換が行われた。

② 実施内容

千代田キャンパス 令和元年5月11日(土)

(1) 学科別懇談会 14時40分から16時40分

ア 家政学部被服学科	本館F棟	736ゼミ室
イ 家政学部食物学科	本館F棟	642講義室
ウ 家政学部児童学科	本館F棟	744講義室
エ 家政学部ライフデザイン学科	本館F棟	735ゼミ室
オ 文学部日本文学科	本館F棟	733ゼミ室
カ 文学部英文学科	本館F棟	742講義室
キ 文学部コミュニケーション文化学科	本館F棟	632講義室
ク 社会情報学部社会情報学科	本館F棟	344講義室
ケ 比較文化学部比較文化学科	本館E棟	452講義室
コ 短期大学部家政科	本館F棟	644講義室
サ 短期大学部国文科	本館F棟	734ゼミ室
シ 短期大学部英文科	本館F棟	732ゼミ室
ス 全学共通科目(基礎科目・教養科目)	本館F棟	342講義室
セ 教職課程	別館	教職総合支援センター ミーティング室
ソ 図書館学課程	本館F棟	737ゼミ室
タ 博物館学芸員課程	図書館棟	博物館学芸員研究室

(2) 合同懇親会(立食パーティー) 17時から約1時間(大学校舎アトリウム)

多摩キャンパス 令和元年5月25日(土)

(1) 学部懇談会 14時40分から16時40分

人間関係学部	7号館	7348教室
学科・専攻別懇談会(学部別懇談会後に実施)		
社会学専攻	7号館	7385教室
社会・臨床心理学専攻	7号館	7384教室
人間福祉学科	7号館	7383教室

(2) 合同懇親会(立食パーティー) 17時から約1時間(2号館(学生会館)2階集会場)

(2) 授業に関するアンケート実施概要

①概要

今年度も前・後期においてそれぞれ授業に関するアンケートを実施した。
実施科目数及び回答学生数は次のとおりであった。

実施科目数 前期：1,489 科目

後期：1,457 科目

回答学生数 前期：53,178 名（受講者数 65,071 名 回答率 81.72%）

後期：47,627 名（受講者数 62,309 名 回答率 76.44%）

③ 実施時期

前期：令和元年 7 月 1 日～7 月 20 日

後期：令和元年 11 月 25 日～12 月 14 日

③実施方法

前期・後期ともに、授業担当者がマークシート用紙を配布、実施した。

④調査用紙（4～5 ページ参照）

⑤集計結果及び公表

集計は前期・後期のデータを、それぞれ全体・大学・短大別及び次の分類別に分析した。

※分類：全体、学年別、学生所属別、学年別、授業別、クラスサイズ別、専任・兼任別、年齢別
また、集計結果は、授業科目別集計を授業担当者にフィードバックしている。

大妻女子大学 「授業に関するアンケート」

このアンケートは、授業内容や授業方法の改善を図るためのものです。無記名回答ですので、あなたの成績に影響することはまったくありません。率直に回答してください。また、裏面の「自由記入欄」には授業改善に向けたあなたの意見や要望・希望、感想を書いてください。

1. 科目名・教員名

科目名

教員名

【注 意】
1. H B の黒鉛筆のみ可。
2. 折り曲げ厳禁。
※右側のようなマークは、読みとることができません。(悪い例)

良いマーク⇒

うすい はみ出し

2. 所属学科 (学科専攻・学年・組にマークしてください)

学 部	被服学科	英語英文学科 1 年 / 英文学科 2、3、4 年	人間福祉学科 1、2 年生	学 年	組
	食物学科 食物学専攻	コミュニケーション文化学科	人間福祉学専攻		
	管理栄養士専攻	社会情報学科 社会生活情報学専攻	介護福祉学専攻		
	児童学科 児童学専攻	環境情報学専攻	比較文化学科 1 年生	①	(A)
	児童教育専攻	情報デザイン専攻	アジア文化コース	②	(B)
	ライフデザイン学科	人間関係学科 社会学専攻	アメリカ文化コース	③	(C)
	日本文学科	社会・臨床心理学専攻	ヨーロッパ文化コース	④	(D)

短期大学部	家政科 家政専攻	国 文 科
	生活総合ビジネス専攻	英 文 科
	食物栄養専攻	

3. 次の質問に対してあなたがどう思うか該当する数字の○にマークしてください

① この授業の進め方について

- 1 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった
- 2 教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った
- 3 私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした
※(授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5「そう思う」をマーク)
- 4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた
- 5 質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した
- 6 教員の学生に対する接し方は公平だった
- 7 授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた

5	4	3	2	1	0
そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	わからない/判断しづらい
⑤	④	③	②	①	①
⑤	④	③	②	①	①
⑤	④	③	②	①	①
⑤	④	③	②	①	①
⑤	④	③	②	①	①
⑤	④	③	②	①	①

② この授業の内容について

- 8 授業は学習の目標がはっきり示された
- 9 授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた
- 10 授業の内容は興味深いものだった
- 11 授業の内容はよく理解できるものであった
- 12 授業は自分の将来にとって意味があると思う
- 13 「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった

⑤	④	③	②	①	①
⑤	④	③	②	①	①
⑤	④	③	②	①	①
⑤	④	③	②	①	①
⑤	④	③	②	①	①
⑤	④	③	②	①	①

③ この授業への取り組みとその成果について

- 14 この授業にどの程度出席しましたか
- 15 この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか
- 16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した
- 17 この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った
- 18 この授業によって、新しいものの見方ができるようになった

100% ⑤	90%以上 ④	80%以上 ③	70%以上 ②	70%未満 ①	
3時間以上 ⑤	2時間以上 ④	1時間以上 ③	1時間未満 ②	していない ①	
⑤	④	③	②	①	
⑤	④	③	②	①	
⑤	④	③	②	①	

④ 総合的な印象

- 19 総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う

⑤	④	③	②	①	
---	---	---	---	---	--

⑤ 自由設定欄 (学部独自: ex 担当教員がその場で設定する質問)

- 20
- 21

⑤	④	③	②	①	①
⑤	④	③	②	①	①

自由記入欄は裏面にあります ▶▶▶

K14903T 110kg

【自由記入欄】

【自由記入欄】には授業改善に向けたあなたの意見や要望・希望、感想を書いてください。

① 良かったと思う点

② 改善した方が良くと思う点

③ その他の意見や要望など

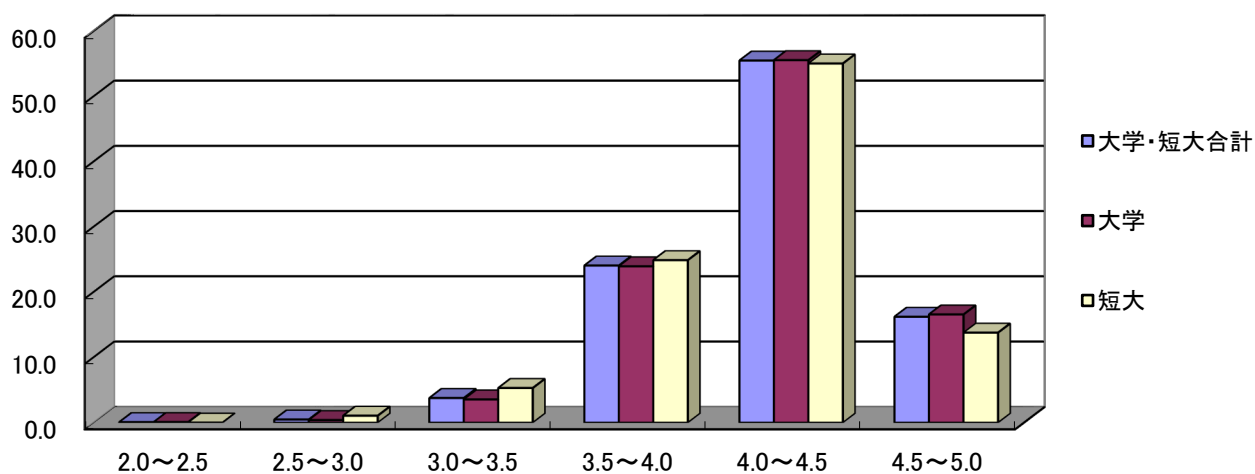
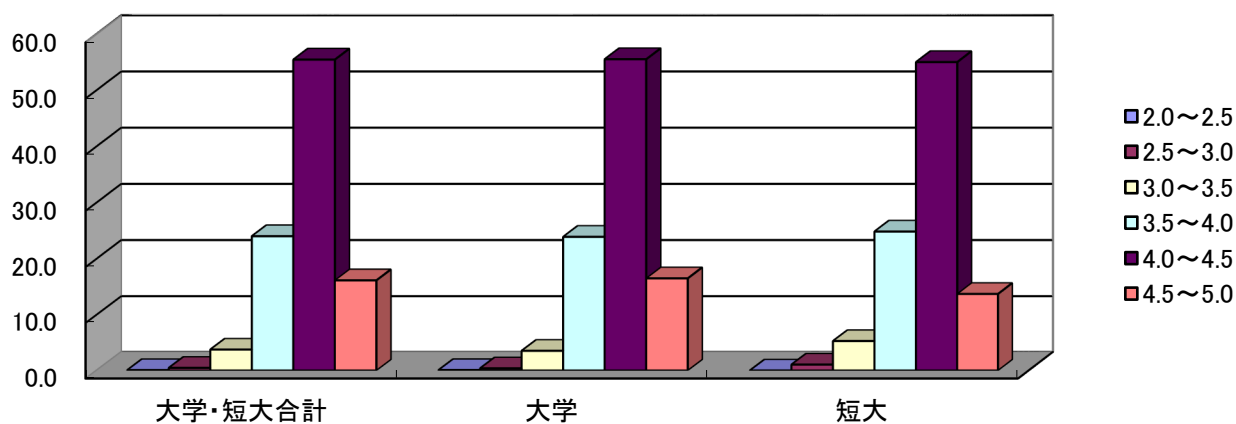
ご協力ありがとうございました

(3) 授業に関するアンケート集計結果

2019年度前期 授業に関するアンケート集計結果(全体)

平均点	大学・短大合計		大学		短大	
	科目数	割合(%)	科目数	割合(%)	科目数	割合(%)
2.0～2.5	1	0.1	1	0.1	0	0.0
2.5～3.0	7	0.5	5	0.4	2	1.1
3.0～3.5	56	3.8	46	3.5	10	5.3
3.5～4.0	358	24.0	311	23.9	47	24.9
4.0～4.5	826	55.5	722	55.5	104	55.0
4.5～5.0	241	16.2	215	16.5	26	13.8

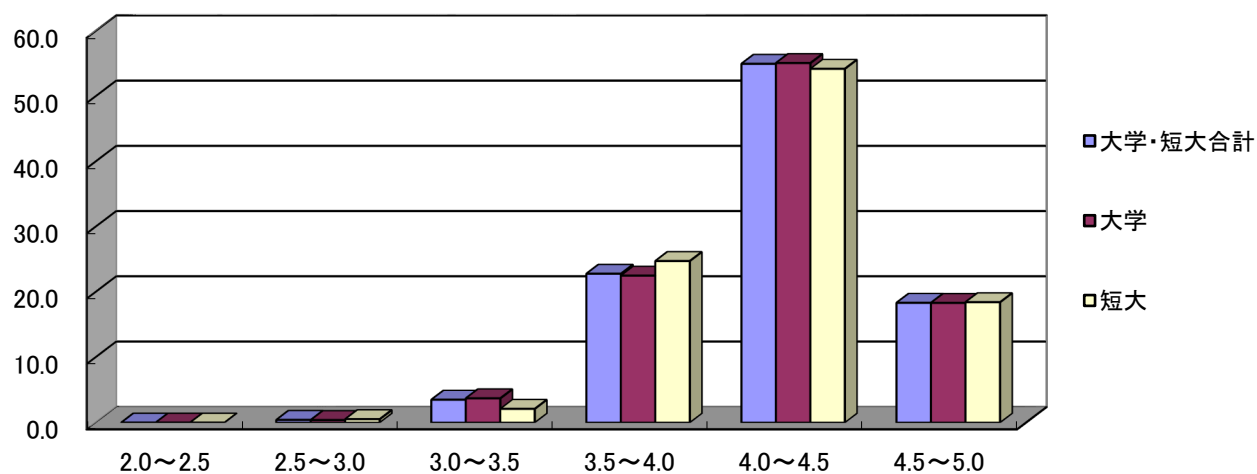
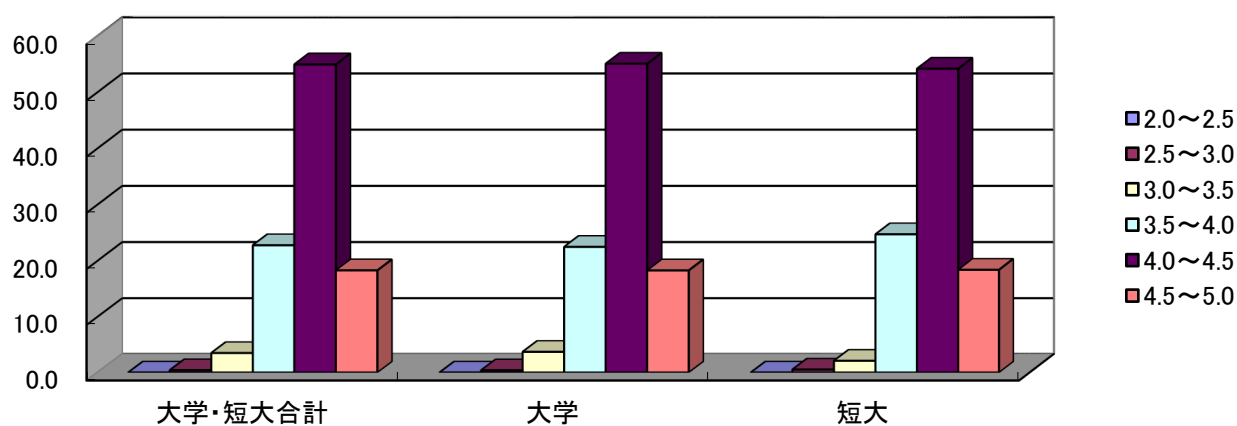
評定平均点分布表



2019年度後期 授業に関するアンケート集計結果(全体)

平均点	大学・短大合計		大学		短大	
	科目数	割合(%)	科目数	割合(%)	科目数	割合(%)
2.0～2.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2.5～3.0	6	0.4	5	0.4	1	0.5
3.0～3.5	51	3.5	47	3.7	4	2.1
3.5～4.0	332	22.8	285	22.5	47	24.7
4.0～4.5	801	55.0	698	55.1	103	54.2
4.5～5.0	267	18.3	232	18.3	35	18.4

評定平均点分布表



2019年度前期 授業に関するアンケート集計結果(全体及び学部別)

対象 科目数	実施 科目数	未実施 科目数
1,504	1,489	15

	全体	家政学部	文学部	社会情報 学部	人間関係 学部	比較文化 学部	大学全体	短期大学部
履修者数	65,071	20,918	12,732	9,703	8,921	5,666	57,940	7,131
回答者数	53,178	17,576	10,527	7,470	7,002	4,526	47,101	6,077
回答率(%)	81.72	84.02	82.68	76.99	78.49	79.88	81.29	85.22

I. 教員のこの授業の進め方について

	全体	家政学部	文学部	社会情報 学部	人間関係 学部	比較文化 学部	大学全体	短期大学部
1 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.33	4.36	4.38	4.19	4.31	4.32	4.32	4.34
2 教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.36	4.42	4.40	4.20	4.34	4.36	4.36	4.37
3 私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.40	4.39	4.48	4.29	4.40	4.41	4.40	4.43
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.14	4.17	4.22	3.98	4.13	4.16	4.14	4.14
5 質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.14	4.14	4.22	4.01	4.12	4.21	4.14	4.13
6 教員の学生に対する接し方は公平だった	4.50	4.52	4.55	4.37	4.49	4.48	4.49	4.53
7 授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.48	4.52	4.54	4.32	4.45	4.48	4.48	4.49

II. この授業の内容について

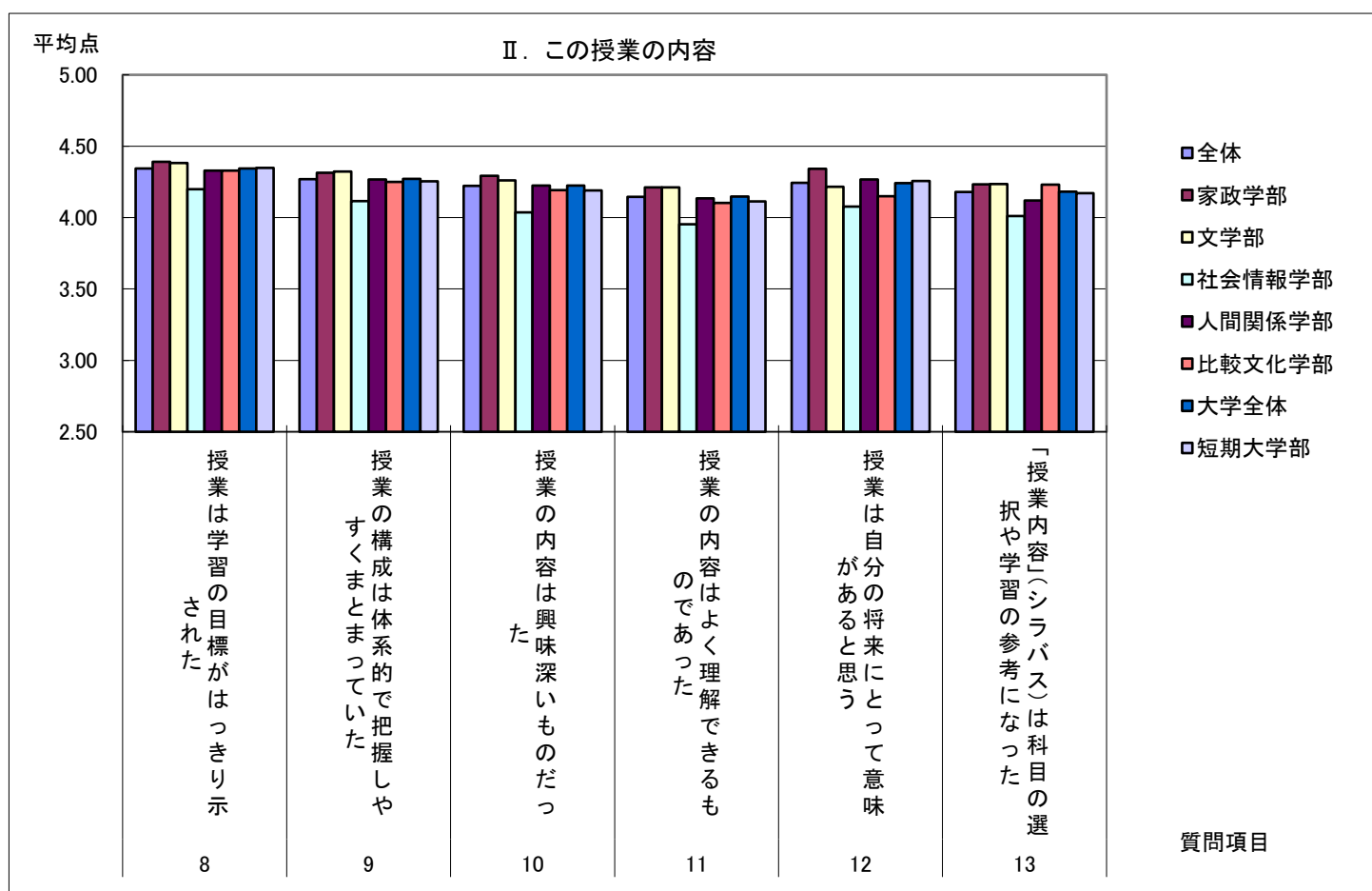
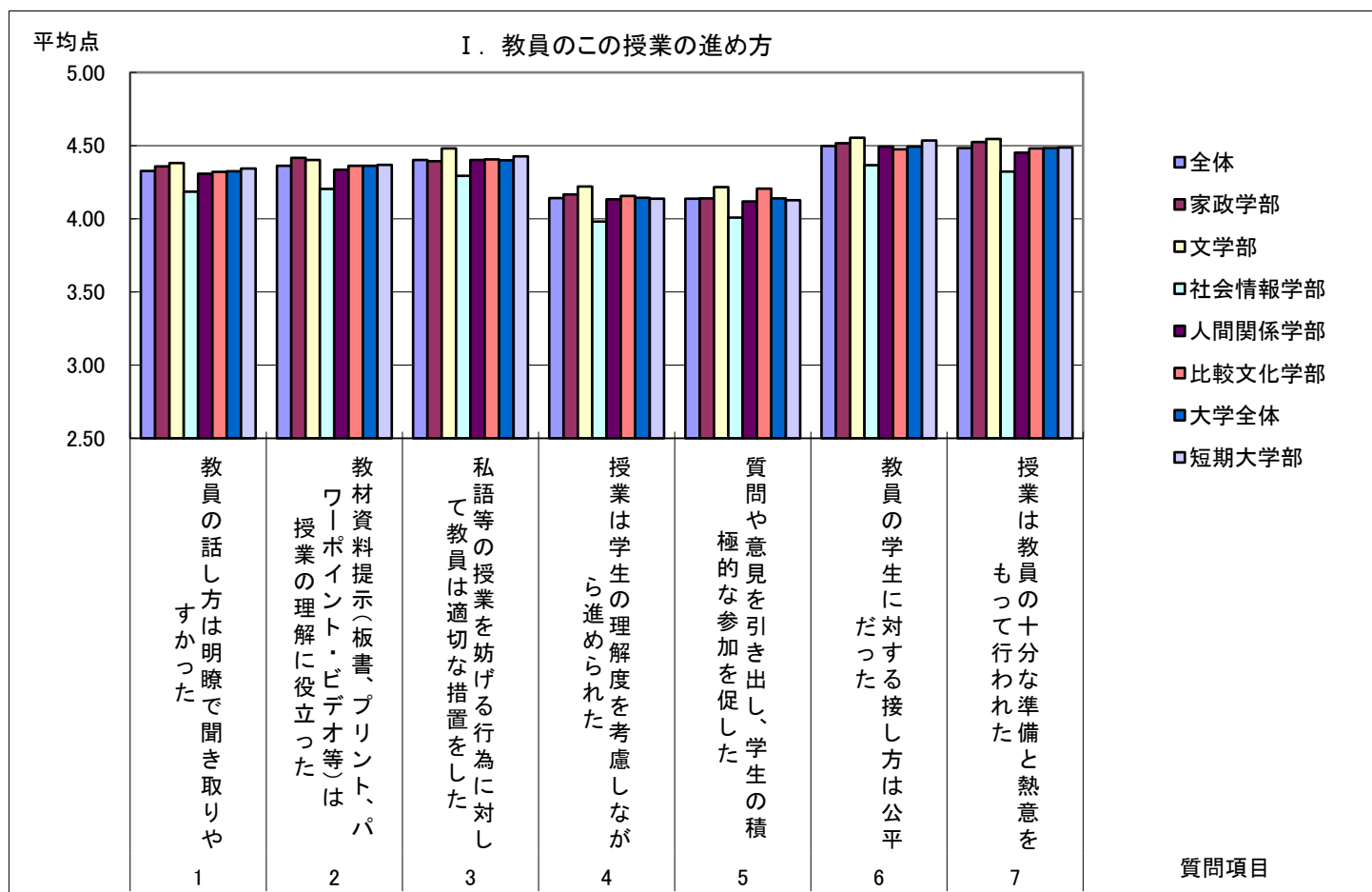
	全体	家政学部	文学部	社会情報 学部	人間関係 学部	比較文化 学部	大学全体	短期大学部
8 授業は学習の目標がはっきり示された	4.34	4.39	4.38	4.20	4.33	4.33	4.34	4.35
9 授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.27	4.31	4.32	4.12	4.27	4.25	4.27	4.25
10 授業の内容は興味深いものだった	4.22	4.29	4.26	4.04	4.22	4.19	4.23	4.19
11 授業の内容はよく理解できるものであった	4.14	4.21	4.21	3.95	4.13	4.10	4.15	4.11
12 授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.24	4.34	4.22	4.08	4.27	4.15	4.24	4.26
13 「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.18	4.23	4.24	4.01	4.12	4.23	4.18	4.17

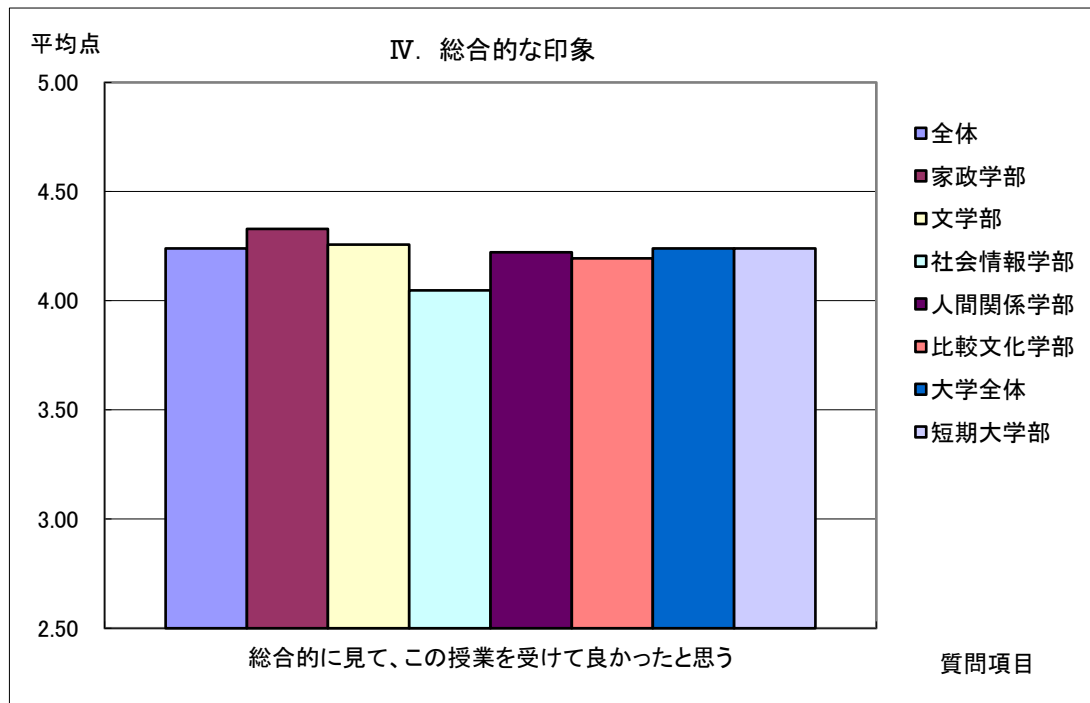
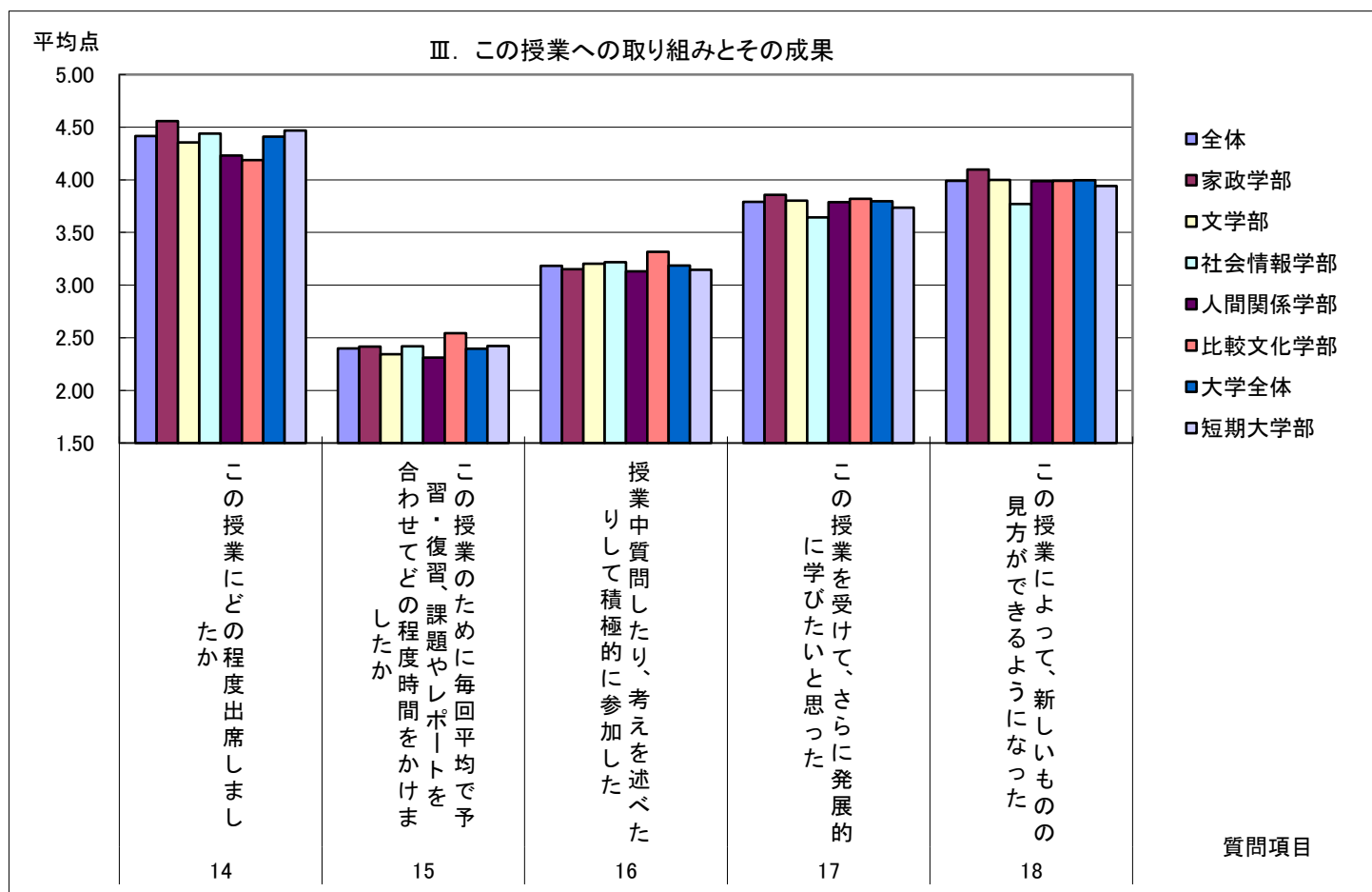
III. この授業への取り組みとその成果について

	全体	家政学部	文学部	社会情報 学部	人間関係 学部	比較文化 学部	大学全体	短期大学部
14 この授業にどの程度出席しましたか	4.42	4.56	4.36	4.44	4.23	4.19	4.41	4.47
15 この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.40	2.42	2.34	2.42	2.31	2.54	2.40	2.42
16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.18	3.15	3.20	3.22	3.13	3.32	3.19	3.15
17 この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.79	3.86	3.80	3.64	3.79	3.82	3.80	3.74
18 この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.99	4.10	4.00	3.77	3.99	3.99	4.00	3.94

IV. 総合的な印象

	全体	家政学部	文学部	社会情報 学部	人間関係 学部	比較文化 学部	大学全体	短期大学部
19 総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.24	4.33	4.26	4.05	4.22	4.19	4.24	4.24





2019年度後期 授業に関するアンケート集計結果(全体及び学部別)

対象 科目数	実施 科目数	未実施 科目数
1,485	1,457	28

	全体	家政学部	文学部	社会情報 学部	人間関係 学部	比較文化 学部	大学全体	短期大学部
履修者数	62,309	19,371	12,285	8,646	9,389	5,727	55,418	6,891
回答者数	47,627	15,676	9,593	6,032	6,521	4,215	42,037	5,590
回答率(%)	76.44	80.93	78.09	69.77	69.45	73.60	75.85	81.12

I. 教員のこの授業の進め方について

	全体	家政学部	文学部	社会情報 学部	人間関係 学部	比較文化 学部	大学全体	短期大学部
1 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.38	4.37	4.41	4.30	4.39	4.38	4.37	4.43
2 教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.40	4.42	4.44	4.31	4.34	4.40	4.39	4.41
3 私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.45	4.43	4.50	4.37	4.43	4.48	4.44	4.47
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.20	4.19	4.27	4.10	4.16	4.24	4.20	4.22
5 質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.20	4.17	4.26	4.15	4.18	4.27	4.20	4.22
6 教員の学生に対する接し方は公平だった	4.50	4.49	4.54	4.44	4.47	4.49	4.49	4.53
7 授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.50	4.52	4.55	4.41	4.46	4.50	4.50	4.51

II. この授業の内容について

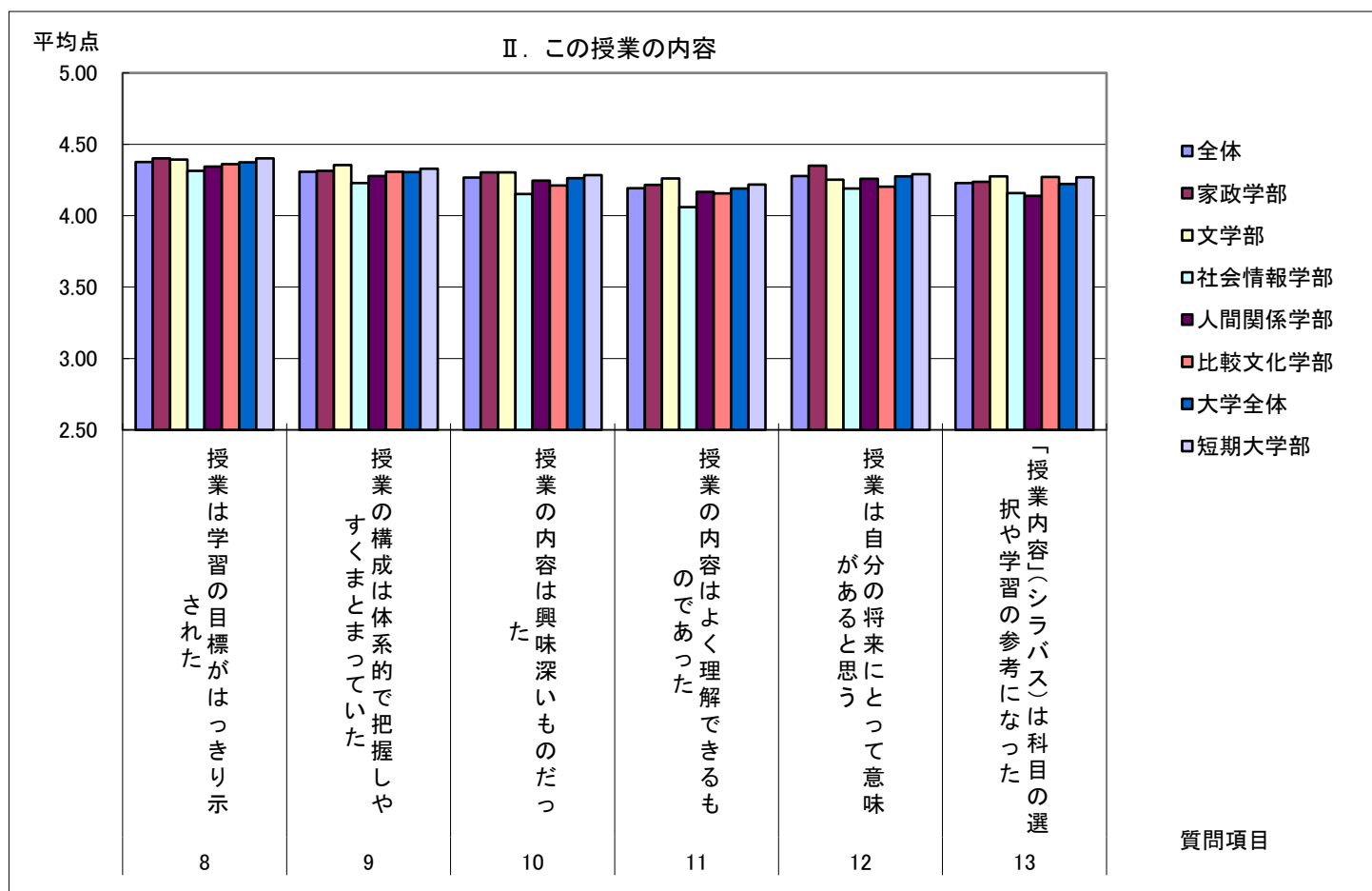
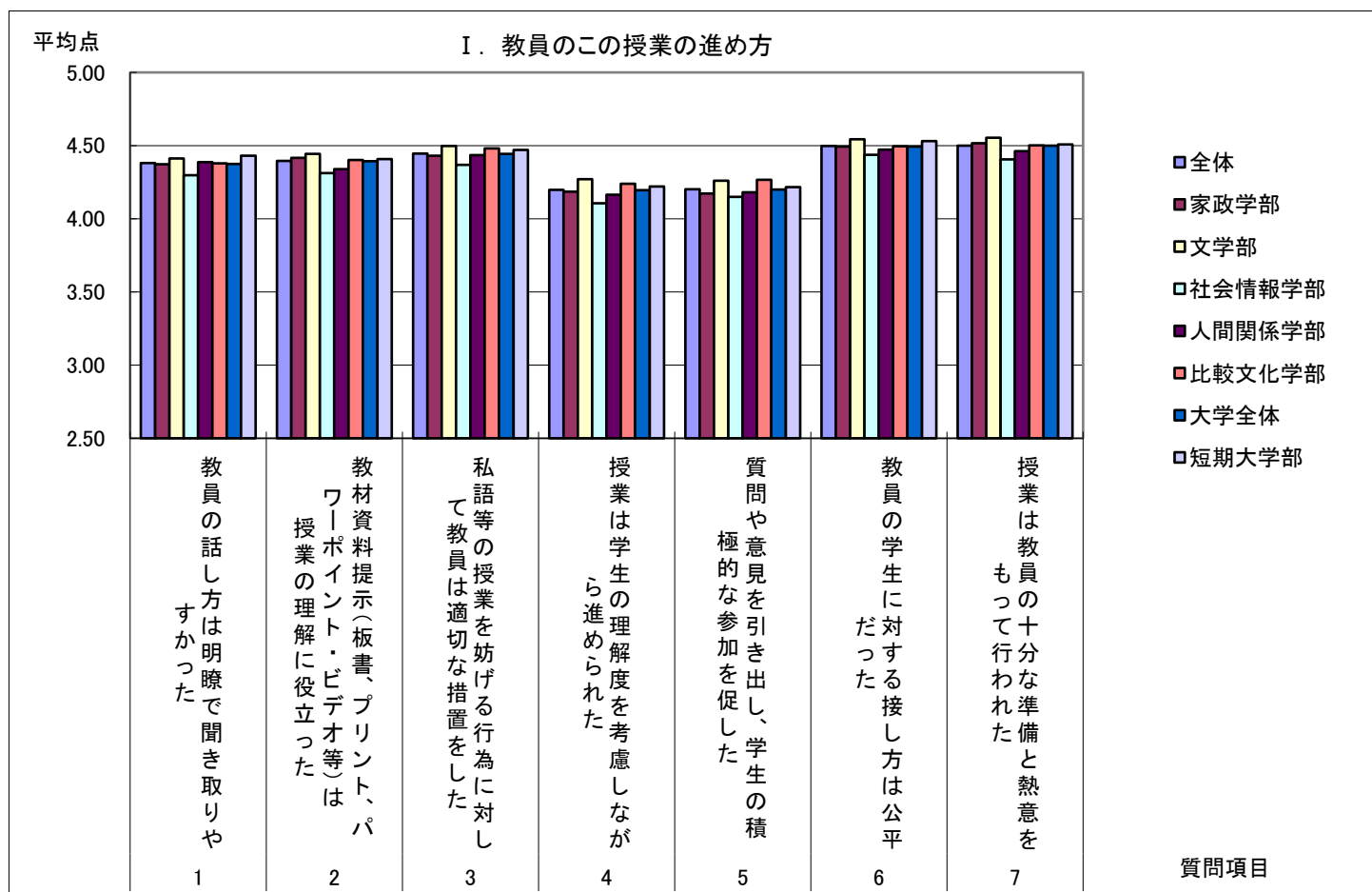
	全体	家政学部	文学部	社会情報 学部	人間関係 学部	比較文化 学部	大学全体	短期大学部
8 授業は学習の目標がはっきり示された	4.38	4.40	4.39	4.31	4.34	4.36	4.37	4.40
9 授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.31	4.31	4.35	4.23	4.28	4.31	4.30	4.33
10 授業の内容は興味深いものだった	4.27	4.30	4.30	4.15	4.25	4.21	4.26	4.28
11 授業の内容はよく理解できるものであった	4.19	4.22	4.26	4.06	4.17	4.16	4.19	4.22
12 授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.28	4.35	4.25	4.19	4.26	4.20	4.28	4.29
13 「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.23	4.24	4.28	4.16	4.14	4.27	4.22	4.27

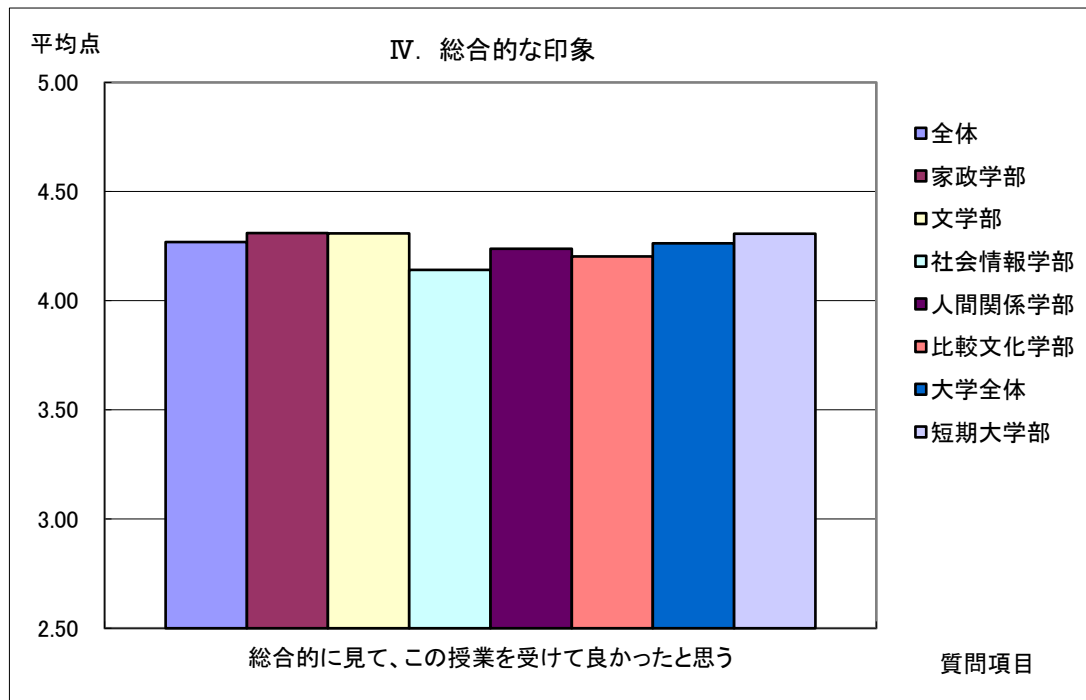
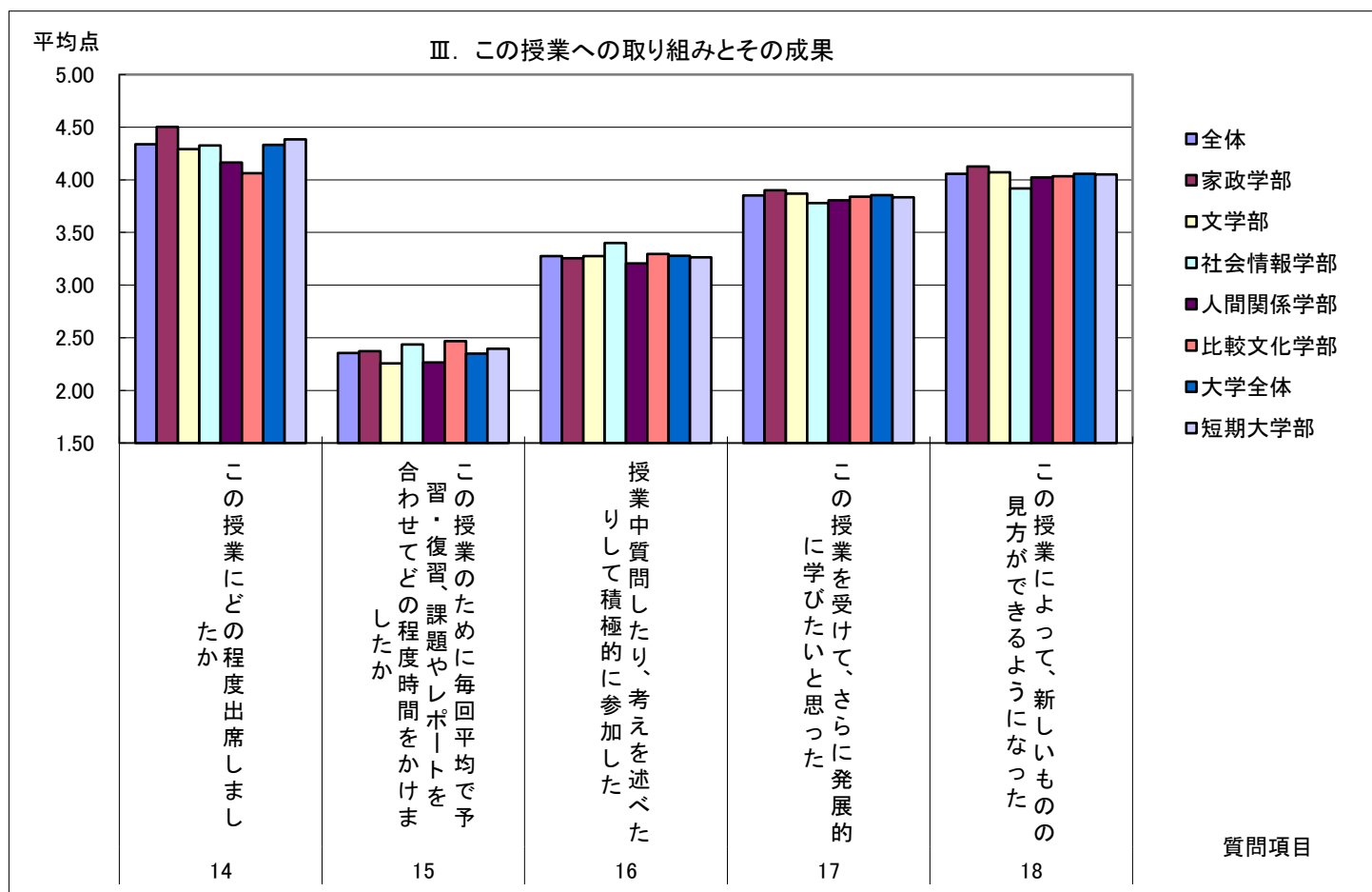
III. この授業への取り組みとその成果について

	全体	家政学部	文学部	社会情報 学部	人間関係 学部	比較文化 学部	大学全体	短期大学部
14 この授業にどの程度出席しましたか	4.34	4.50	4.29	4.33	4.16	4.06	4.33	4.39
15 この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.35	2.37	2.26	2.44	2.27	2.47	2.35	2.40
16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.28	3.26	3.28	3.40	3.21	3.30	3.28	3.26
17 この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.85	3.90	3.87	3.78	3.81	3.84	3.85	3.83
18 この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.06	4.13	4.07	3.92	4.02	4.03	4.06	4.05

IV. 総合的な印象

	全体	家政学部	文学部	社会情報 学部	人間関係 学部	比較文化 学部	大学全体	短期大学部
19 総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.27	4.31	4.31	4.14	4.24	4.20	4.26	4.31





2019年度前期 授業に関するアンケート集計結果(学生の所属別)

回答者数	大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大ミ	大生	大環
	3,389	2,289	1,691	1,884	1,810	3,346	3,205	3,370	3,347	2,946	2,969
大情	大社	大心	大福	大人福	大人介	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英
2,663	2,232	1,999	1,705	653	131	5,188	1,357	1,135	1,798	713	466

I. 教員のこの授業の進め方について

	大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大ミ	大生	大環
1 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.18	4.47	4.32	4.25	4.37	4.38	4.45	4.45	4.37	4.20	4.22
2 教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.33	4.51	4.33	4.32	4.44	4.40	4.50	4.46	4.38	4.21	4.26
3 私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.35	4.51	4.39	4.27	4.31	4.46	4.55	4.51	4.44	4.31	4.30
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.99	4.32	4.04	4.09	4.22	4.21	4.26	4.29	4.23	4.01	4.05
5 質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.00	4.24	4.07	4.12	4.24	4.12	4.17	4.34	4.27	4.02	4.03
6 教員の学生に対する接し方は公平だった	4.43	4.63	4.49	4.49	4.55	4.54	4.63	4.58	4.50	4.37	4.40
7 授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.45	4.64	4.43	4.47	4.57	4.53	4.64	4.57	4.50	4.34	4.36

II. この授業の内容について

	大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大ミ	大生	大環
8 授業は学習の目標がはっきり示された	4.34	4.54	4.32	4.23	4.37	4.38	4.47	4.43	4.37	4.18	4.23
9 授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.20	4.46	4.20	4.18	4.34	4.32	4.39	4.40	4.32	4.12	4.17
10 授業の内容は興味深いものだった	4.16	4.40	4.22	4.28	4.35	4.23	4.34	4.34	4.25	4.06	4.11
11 授業の内容はよく理解できるものであった	4.04	4.32	4.10	4.16	4.29	4.22	4.28	4.28	4.22	3.98	4.06
12 授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.18	4.42	4.30	4.42	4.41	4.32	4.22	4.33	4.24	4.07	4.15
13 「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.19	4.35	4.13	4.06	4.20	4.24	4.33	4.31	4.24	4.01	4.07

III. この授業への取り組みとその成果について

	大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大ミ	大生	大環
14 この授業にどの程度出席しましたか	4.49	4.71	4.85	4.60	4.58	4.48	4.29	4.37	4.37	4.41	4.46
15 この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.54	2.51	2.68	2.06	2.28	2.51	2.37	2.37	2.27	2.30	2.38
16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.09	3.22	3.12	3.07	3.38	2.95	2.93	3.44	3.40	3.17	3.23
17 この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.72	3.95	3.82	3.93	4.00	3.73	3.80	3.94	3.84	3.67	3.72
18 この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.99	4.16	3.99	4.08	4.20	4.07	4.06	4.08	4.02	3.80	3.87

IV. 総合的な印象

	大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大ミ	大生	大環
19 総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.20	4.42	4.25	4.40	4.43	4.28	4.34	4.31	4.27	4.06	4.11

2019年度前期 授業に関するアンケート集計結果(学生の所属別)

回答者数	大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大コミ	大生	大環
	3,389	2,289	1,691	1,884	1,810	3,346	3,205	3,370	3,347	2,946	2,969
大情	大社	大心	大福	大人福	大人介	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英
2,663	2,232	1,999	1,705	653	131	5,188	1,357	1,135	1,798	713	466

I. 教員のこの授業の進め方について

	大情	大社	大心	大福	大人福	大人介	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英
1 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.24	4.20	4.31	4.33	4.60	4.43	4.35	4.40	4.40	4.32	4.25	4.34
2 教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.25	4.25	4.36	4.35	4.56	4.33	4.39	4.45	4.41	4.36	4.24	4.34
3 私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.31	4.39	4.41	4.36	4.56	4.32	4.42	4.49	4.44	4.40	4.46	4.41
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.01	4.03	4.12	4.16	4.46	4.15	4.17	4.18	4.21	4.08	4.00	4.30
5 質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.04	4.06	4.08	4.12	4.41	4.21	4.19	4.01	4.24	4.14	3.97	4.38
6 教員の学生に対する接し方は公平だった	4.38	4.43	4.55	4.49	4.61	4.33	4.51	4.62	4.57	4.50	4.42	4.57
7 授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.36	4.39	4.47	4.46	4.64	4.34	4.50	4.56	4.56	4.45	4.36	4.51

II. この授業の内容について

	大情	大社	大心	大福	大人福	大人介	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英
8 授業は学習の目標がはっきり示された	4.27	4.24	4.36	4.35	4.55	4.18	4.36	4.42	4.42	4.32	4.17	4.37
9 授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.16	4.18	4.29	4.29	4.48	4.23	4.28	4.34	4.31	4.22	4.09	4.31
10 授業の内容は興味深いものだった	4.07	4.13	4.25	4.23	4.49	4.29	4.22	4.23	4.21	4.17	4.06	4.35
11 授業の内容はよく理解できるものであった	3.96	3.99	4.17	4.17	4.41	4.18	4.14	4.19	4.16	4.06	3.95	4.28
12 授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.09	4.15	4.28	4.32	4.51	4.24	4.19	4.35	4.40	4.24	3.93	4.33
13 「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.04	4.06	4.06	4.14	4.41	4.18	4.25	4.24	4.27	4.10	3.95	4.33

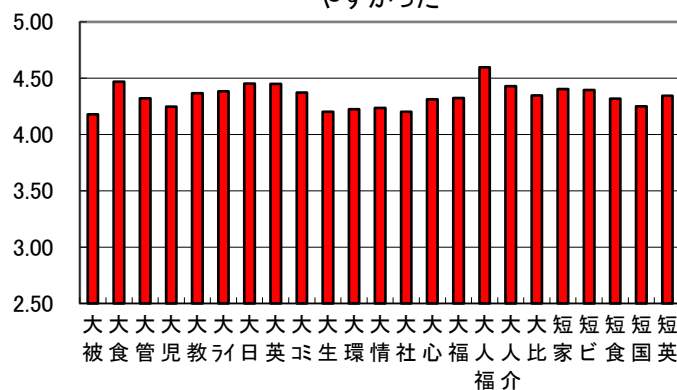
III. この授業への取り組みとその成果について

	大情	大社	大心	大福	大人福	大人介	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英
14 この授業にどの程度出席しましたか	4.47	4.08	4.25	4.45	4.21	3.87	4.24	4.36	4.49	4.67	4.36	4.21
15 この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.44	2.21	2.38	2.34	2.24	2.47	2.48	2.22	2.12	2.73	2.59	2.54
16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.25	3.05	3.11	3.16	3.24	3.74	3.25	2.91	3.06	3.44	2.71	3.50
17 この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.62	3.66	3.78	3.86	4.06	4.05	3.83	3.71	3.75	3.80	3.46	3.95
18 この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.74	3.87	3.96	4.08	4.23	4.15	4.01	4.03	3.89	3.95	3.70	4.11

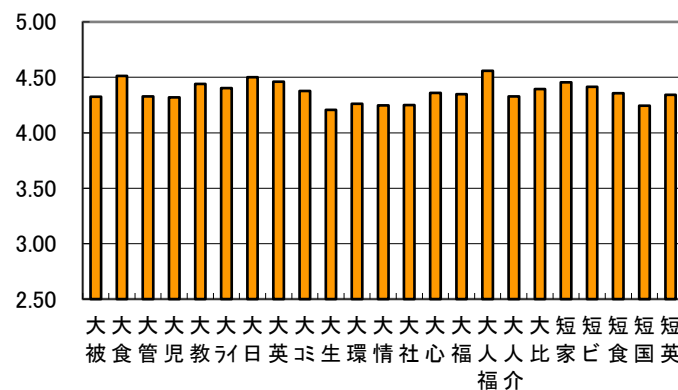
IV. 総合的な印象

	大情	大社	大心	大福	大人福	大人介	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英
19 総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.08	4.11	4.25	4.27	4.45	4.24	4.24	4.31	4.27	4.25	4.05	4.32

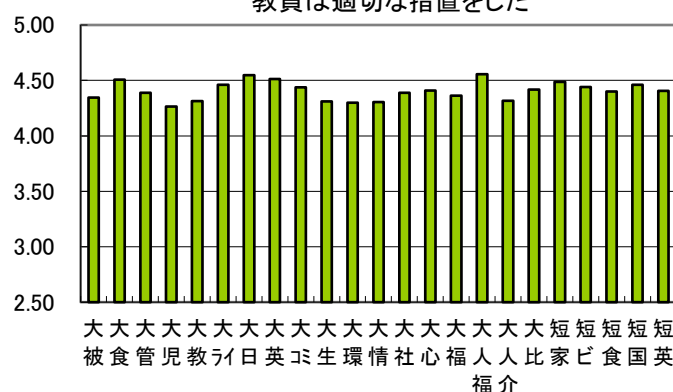
1 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった



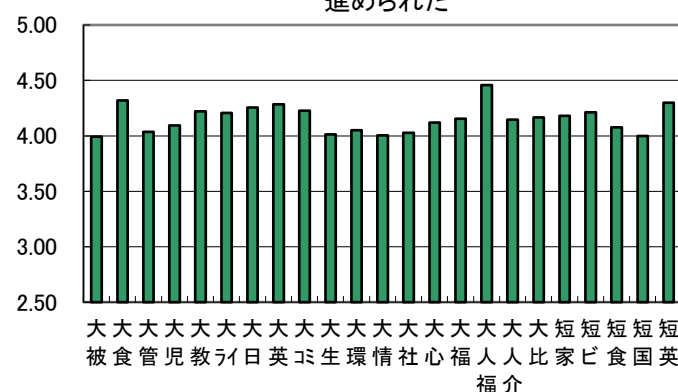
2 教材資料提示は授業の理解に役立った



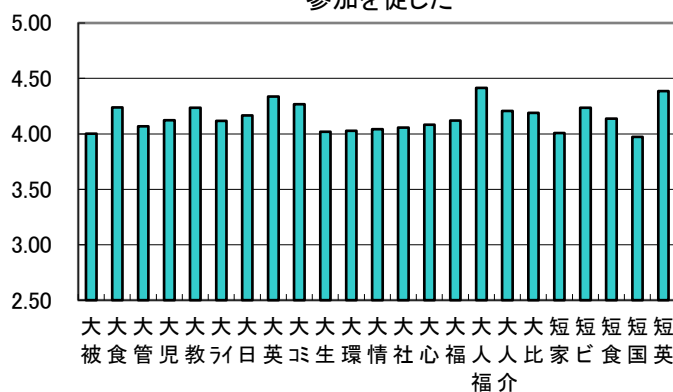
3 私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした



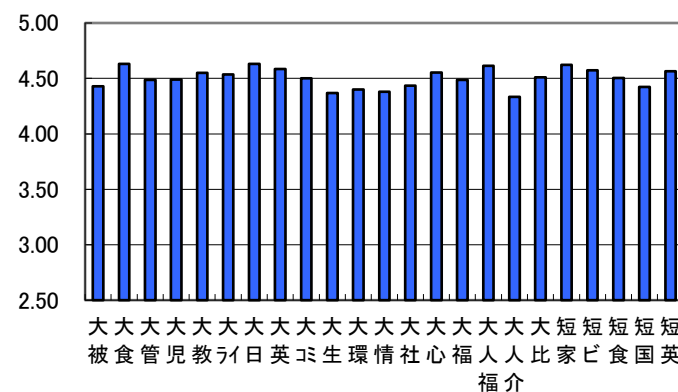
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた



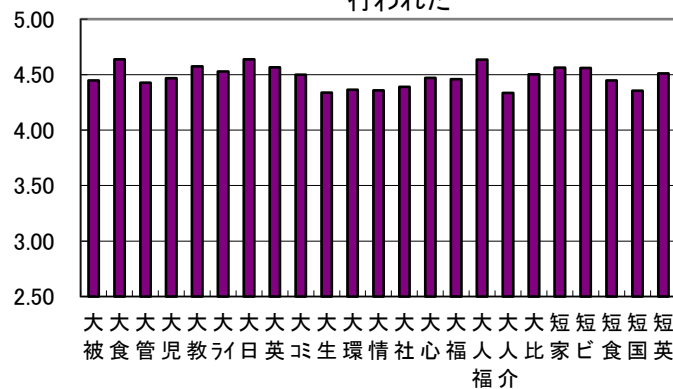
5 質問や意見を引き出し学生の積極的な参加を促した



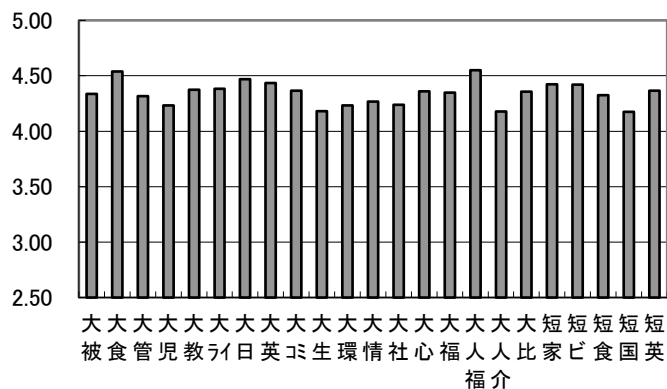
6 教員の学生に対する接し方は公平だった



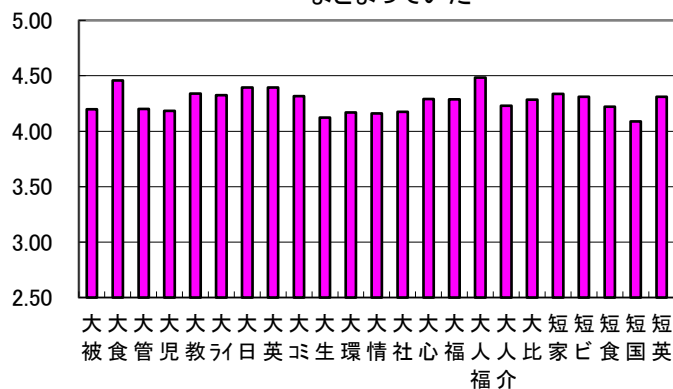
7 授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた



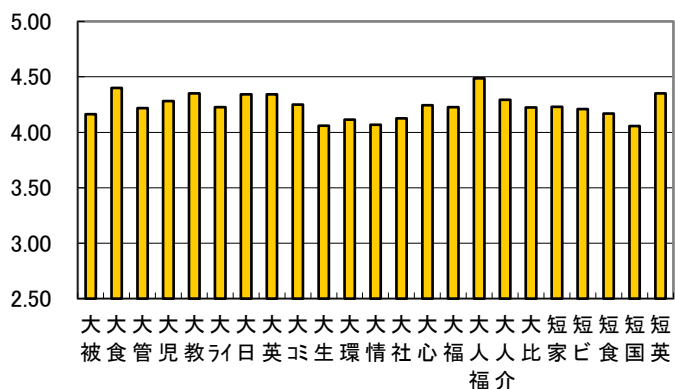
8 授業は学習の目標がはっきり示された



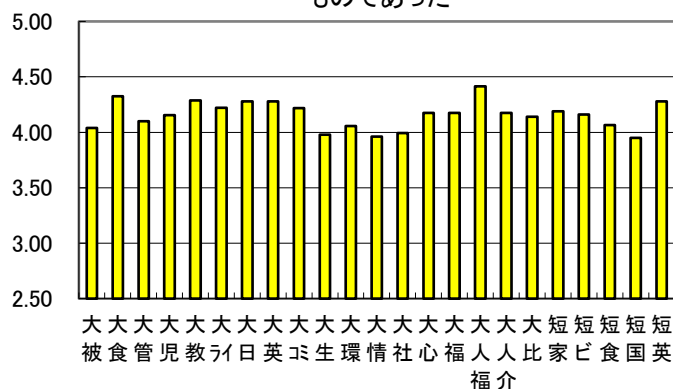
9 授業の構成は体系的で把握しやすく
まとまっていた



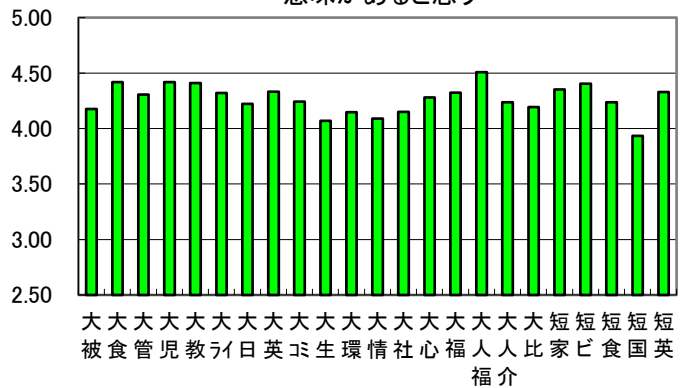
10 授業の内容は興味深いものだった



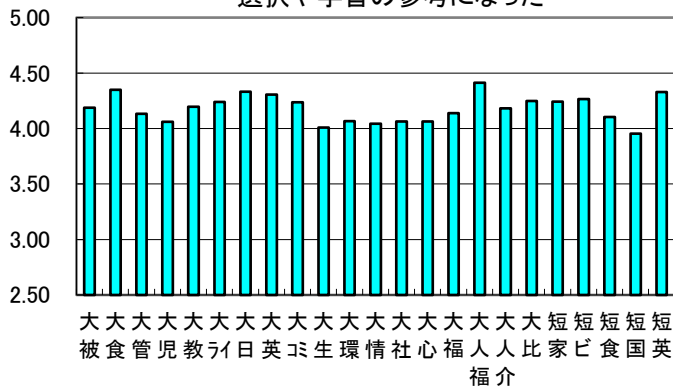
11 授業の内容はよく理解できる
ものであった



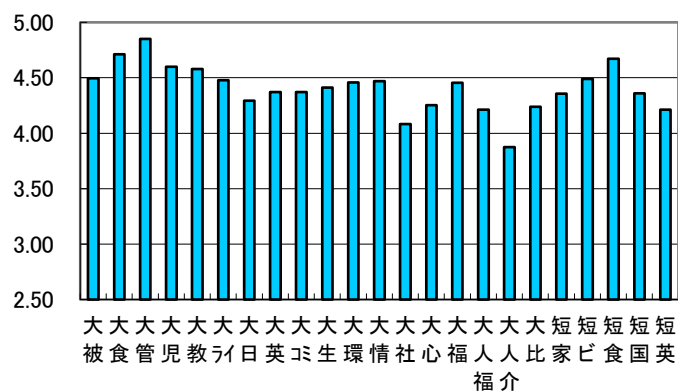
12 授業は自分の将来にとって
意味があると思う



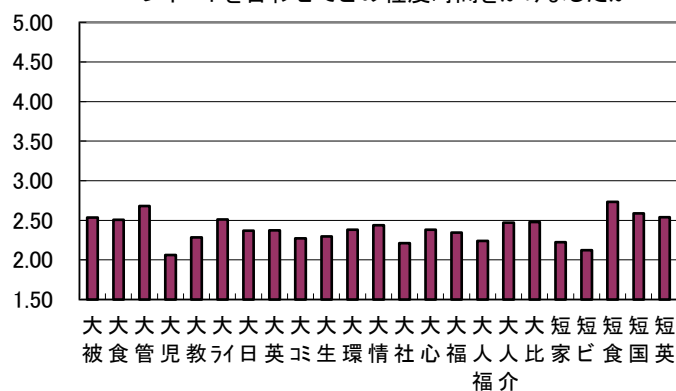
13 「授業内容」(シラバス)は科目の
選択や学習の参考になった



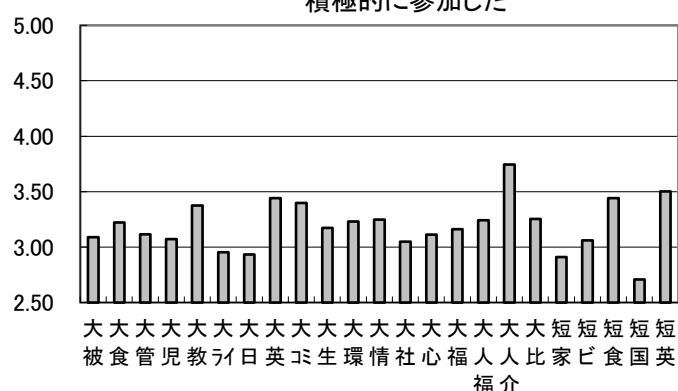
14 この授業にどの程度出席しましたか



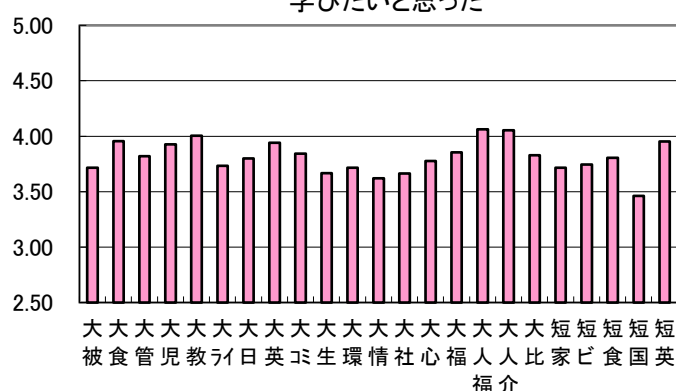
15 この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか



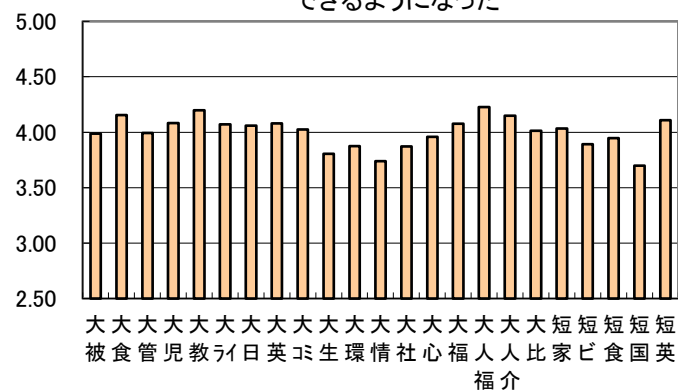
16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した



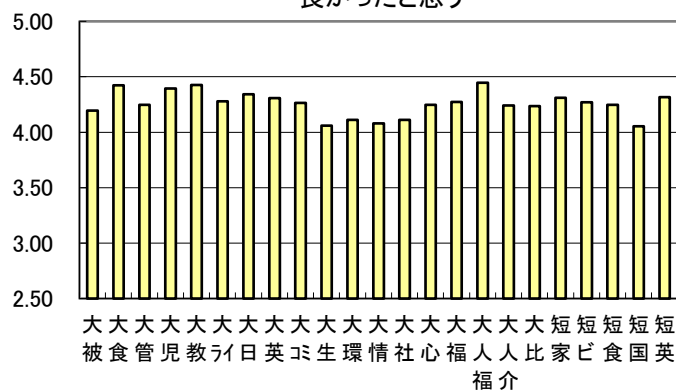
17 この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った



18 この授業によって、新しいものの見方ができるようになった



19 総合的に見てこの授業を受けて良かったと思う



2019年度後期 授業に関するアンケート集計結果(学生の所属別)

回答者数	大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大ミ	大生	大環
	2,980	2,278	1,577	1,845	1,821	2,793	2,914	2,926	2,871	2,610	2,398
大情	大社	大心	大福	大人福	大人介	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英
2,284	1,894	2,021	1,733	515	105	4,623	1,176	819	1,599	591	630

I. 教員のこの授業の進め方について

	大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大ミ	大生	大環
1 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.28	4.38	4.38	4.31	4.39	4.39	4.46	4.45	4.38	4.34	4.29
2 教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.37	4.39	4.38	4.36	4.48	4.43	4.51	4.45	4.40	4.37	4.33
3 私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.41	4.48	4.40	4.31	4.44	4.47	4.58	4.49	4.46	4.42	4.37
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.12	4.21	4.07	4.11	4.25	4.25	4.29	4.31	4.26	4.14	4.16
5 質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.13	4.18	4.12	4.16	4.25	4.14	4.21	4.35	4.27	4.16	4.16
6 教員の学生に対する接し方は公平だった	4.47	4.51	4.42	4.46	4.51	4.55	4.63	4.53	4.50	4.48	4.43
7 授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.49	4.50	4.44	4.50	4.56	4.57	4.64	4.53	4.49	4.46	4.40

II. この授業の内容について

	大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大ミ	大生	大環
8 授業は学習の目標がはっきり示された	4.36	4.43	4.34	4.28	4.41	4.43	4.45	4.43	4.37	4.32	4.32
9 授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.25	4.34	4.24	4.18	4.36	4.34	4.42	4.40	4.31	4.27	4.25
10 授業の内容は興味深いものだった	4.23	4.28	4.25	4.31	4.36	4.28	4.39	4.35	4.27	4.20	4.18
11 授業の内容はよく理解できるものであった	4.13	4.20	4.13	4.14	4.28	4.23	4.30	4.33	4.24	4.14	4.14
12 授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.23	4.31	4.35	4.40	4.42	4.34	4.25	4.35	4.27	4.21	4.20
13 「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.24	4.24	4.14	4.03	4.23	4.30	4.32	4.33	4.27	4.17	4.18

III. この授業への取り組みとその成果について

	大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大ミ	大生	大環
14 この授業にどの程度出席しましたか	4.40	4.72	4.78	4.45	4.51	4.43	4.20	4.33	4.30	4.31	4.34
15 この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.47	2.57	2.49	2.11	2.31	2.29	2.20	2.34	2.19	2.20	2.42
16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.25	3.26	3.36	3.22	3.36	3.05	3.04	3.49	3.42	3.28	3.42
17 この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.80	3.89	3.89	3.97	4.02	3.84	3.86	3.97	3.91	3.79	3.80
18 この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.07	4.09	4.06	4.13	4.22	4.13	4.11	4.12	4.10	3.97	3.96

IV. 総合的な印象

	大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大ミ	大生	大環
19 総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.22	4.28	4.26	4.39	4.41	4.31	4.38	4.31	4.30	4.19	4.15

2019年度後期 授業に関するアンケート集計結果(学生の所属別)

回答者数	大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大コミ	大生	大環
	2,980	2,278	1,577	1,845	1,821	2,793	2,914	2,926	2,871	2,610	2,398
大情	大社	大心	大福	大人福	大人介	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英
2,284	1,894	2,021	1,733	515	105	4,623	1,176	819	1,599	591	630

I. 教員のこの授業の進め方について

	大情	大社	大心	大福	大人福	大人介	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英
1 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.34	4.24	4.44	4.44	4.54	4.55	4.40	4.47	4.55	4.36	4.39	4.51
2 教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.33	4.21	4.42	4.37	4.44	4.40	4.42	4.48	4.51	4.32	4.39	4.50
3 私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.37	4.36	4.48	4.45	4.54	4.28	4.47	4.61	4.54	4.37	4.52	4.47
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.09	3.99	4.20	4.25	4.34	4.33	4.23	4.31	4.33	4.16	4.15	4.34
5 質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.16	4.02	4.22	4.23	4.38	4.41	4.26	4.19	4.35	4.23	4.16	4.41
6 教員の学生に対する接し方は公平だった	4.45	4.34	4.56	4.51	4.56	4.50	4.51	4.65	4.61	4.44	4.45	4.57
7 授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.43	4.34	4.52	4.52	4.51	4.51	4.52	4.59	4.62	4.42	4.51	4.56

II. この授業の内容について

	大情	大社	大心	大福	大人福	大人介	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英
8 授業は学習の目標がはっきり示された	4.36	4.18	4.42	4.41	4.42	4.36	4.39	4.51	4.49	4.34	4.33	4.40
9 授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.26	4.13	4.35	4.33	4.37	4.37	4.33	4.43	4.46	4.25	4.29	4.38
10 授業の内容は興味深いものだった	4.18	4.08	4.33	4.29	4.34	4.30	4.24	4.30	4.40	4.23	4.26	4.41
11 授業の内容はよく理解できるものであった	4.04	4.01	4.22	4.23	4.30	4.32	4.18	4.26	4.36	4.16	4.16	4.35
12 授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.18	4.07	4.31	4.34	4.40	4.38	4.24	4.32	4.49	4.28	4.09	4.38
13 「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.18	4.02	4.14	4.19	4.32	4.37	4.30	4.33	4.40	4.19	4.17	4.36

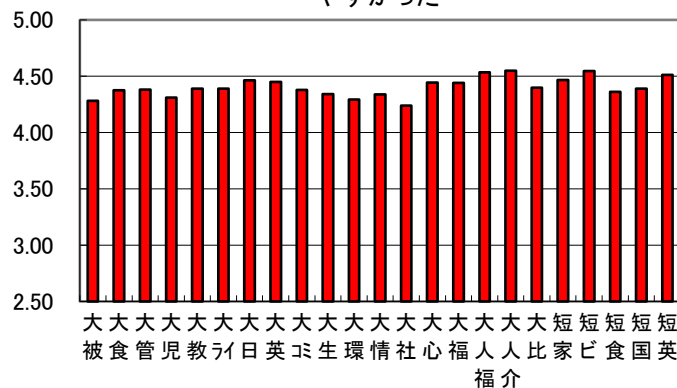
III. この授業への取り組みとその成果について

	大情	大社	大心	大福	大人福	大人介	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英
14 この授業にどの程度出席しましたか	4.37	3.98	4.19	4.32	4.23	3.98	4.11	4.28	4.28	4.66	4.18	4.13
15 この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.56	2.12	2.42	2.21	2.27	2.37	2.45	2.17	2.07	2.75	2.39	2.76
16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.43	3.07	3.23	3.24	3.27	3.77	3.29	2.93	3.15	3.67	2.97	3.57
17 この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.78	3.59	3.84	3.90	3.99	4.18	3.85	3.75	3.88	3.96	3.68	4.00
18 この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.94	3.84	4.06	4.12	4.16	4.33	4.05	4.07	4.07	4.11	4.00	4.09

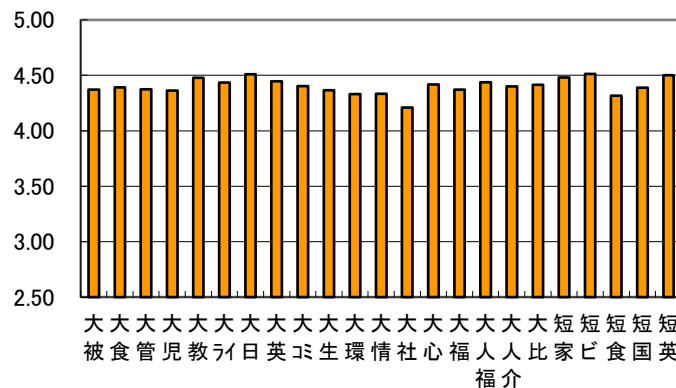
IV. 総合的な印象

	大情	大社	大心	大福	大人福	大人介	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英
19 総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.16	4.04	4.32	4.32	4.35	4.41	4.23	4.33	4.43	4.31	4.19	4.42

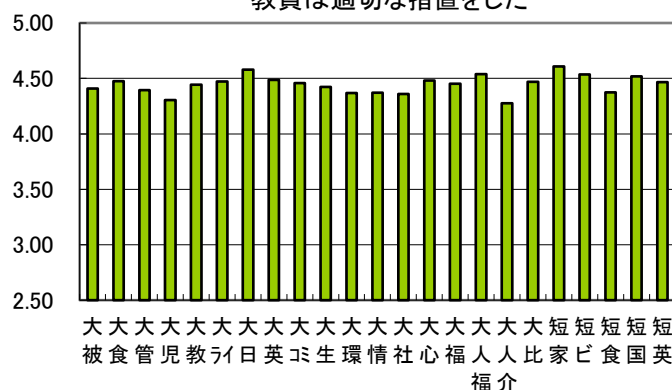
1 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった



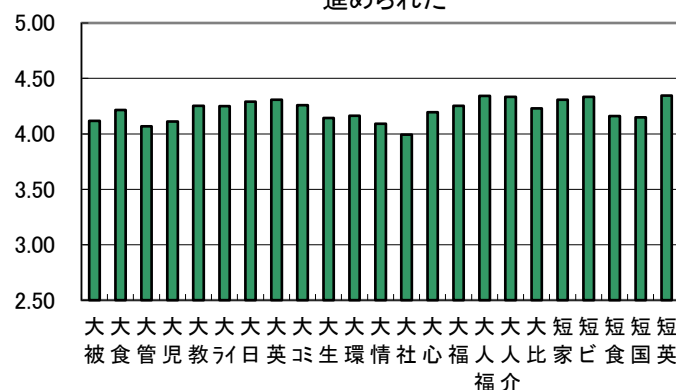
2 教材資料提示は授業の理解に役立った



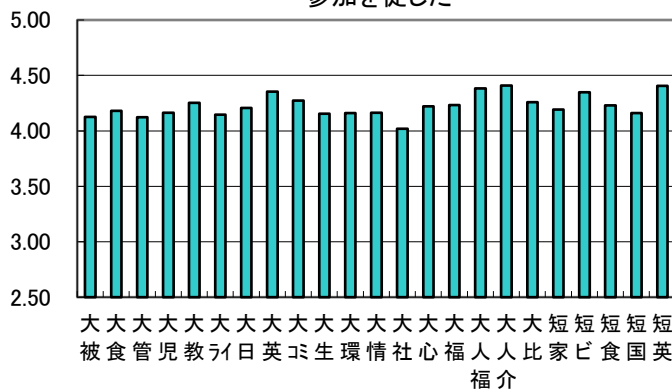
3 私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした



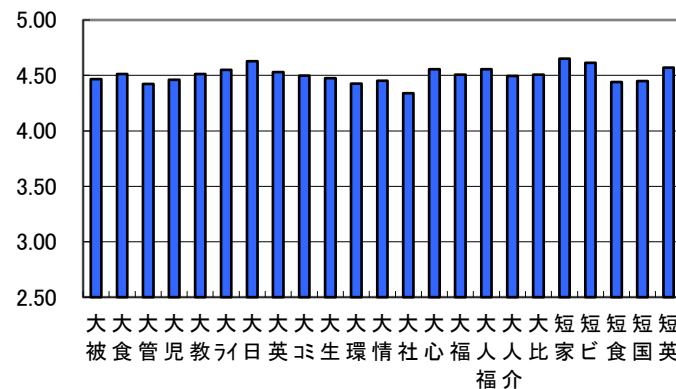
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた



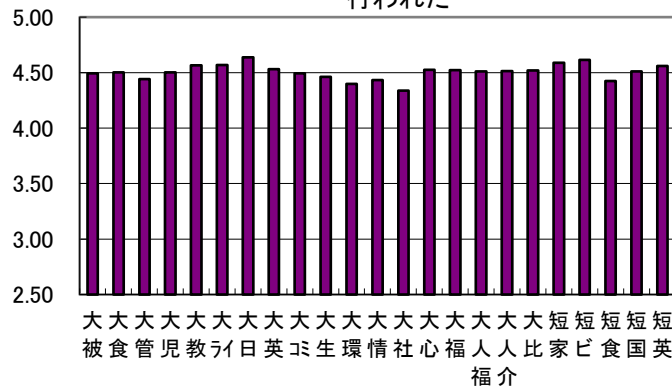
5 質問や意見を引き出し学生の積極的な参加を促した



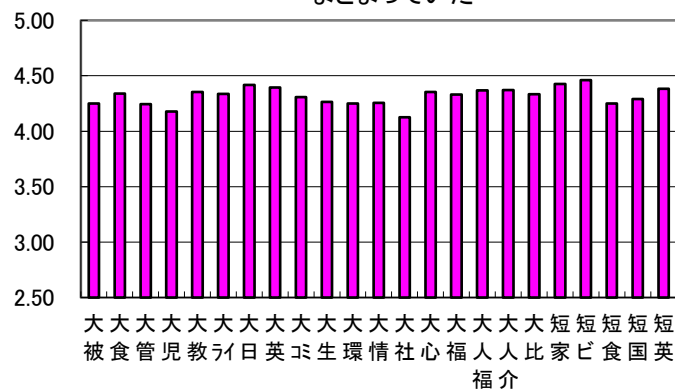
6 教員の学生に対する接し方は公平だった



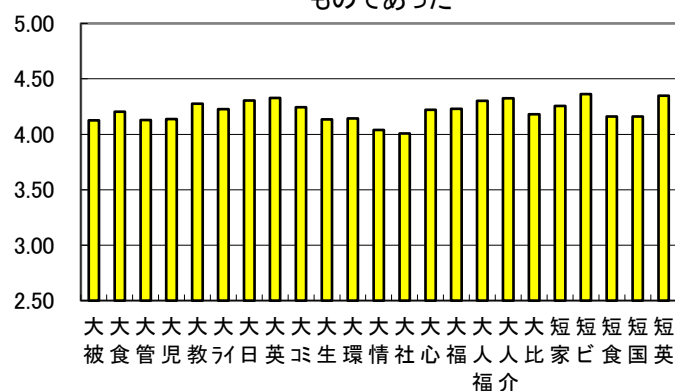
7 授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた



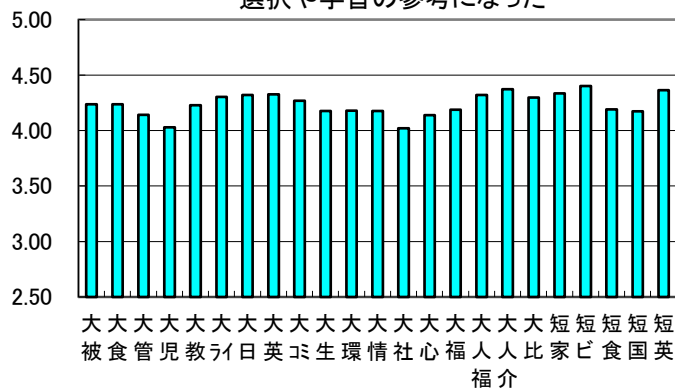
9 授業の構成は体系的で把握しやすく
まとまっていた



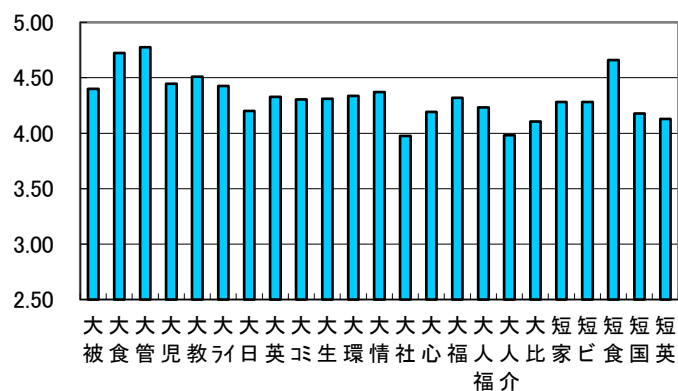
11 授業の内容はよく理解できる
ものであった



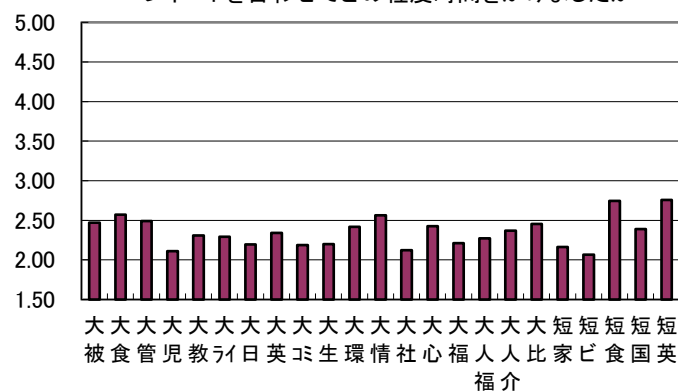
13「授業内容」(シラバス)は科目の
選択や学習の参考になった



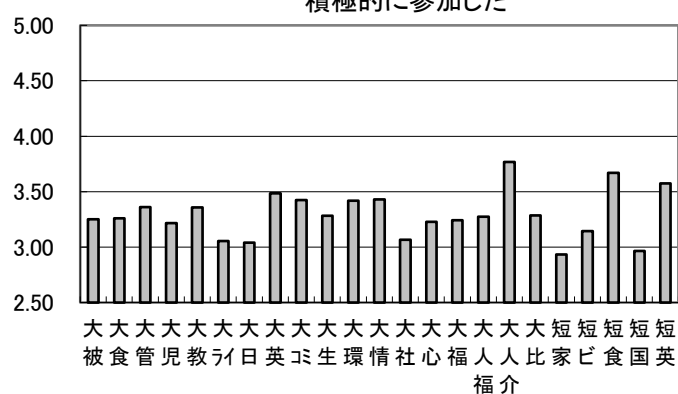
14 この授業にどの程度出席しましたか



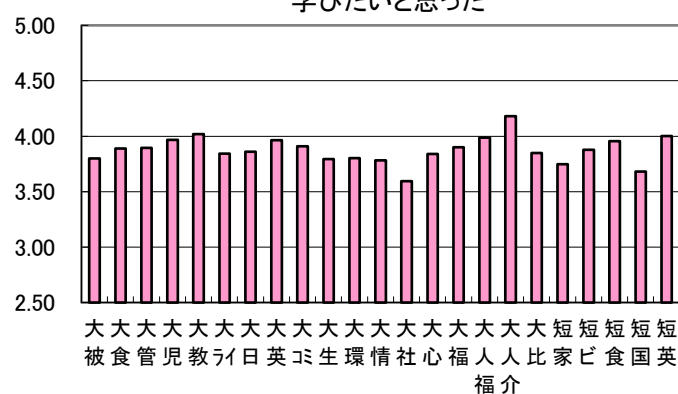
15 この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか



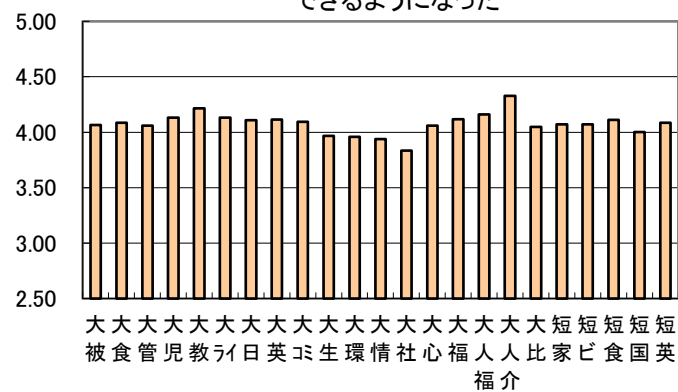
16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した



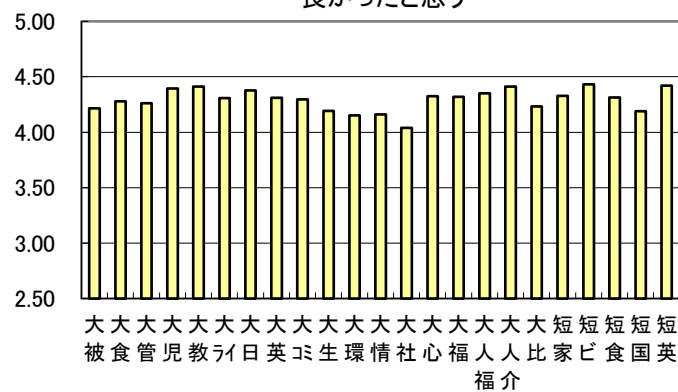
17 この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った



18 この授業によって、新しいものの見方ができるようになった



19 総合的に見てこの授業を受けて良かったと思う



2019年度前期 授業に関するアンケート集計結果(学年別)

	大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	短大1年	短大2年
回答者数	16,639	16,171	10,033	2,535	3,409	2,075

I. 教員のこの授業の進め方について

	大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	短大1年	短大2年
1 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.36	4.27	4.33	4.45	4.31	4.41
2 教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.42	4.32	4.32	4.44	4.35	4.41
3 私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.46	4.35	4.37	4.44	4.42	4.45
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.19	4.11	4.10	4.27	4.08	4.23
5 質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.16	4.13	4.10	4.25	4.06	4.20
6 教員の学生に対する接し方は公平だった	4.58	4.44	4.43	4.55	4.54	4.56
7 授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.54	4.45	4.44	4.55	4.47	4.53

II. この授業の内容について

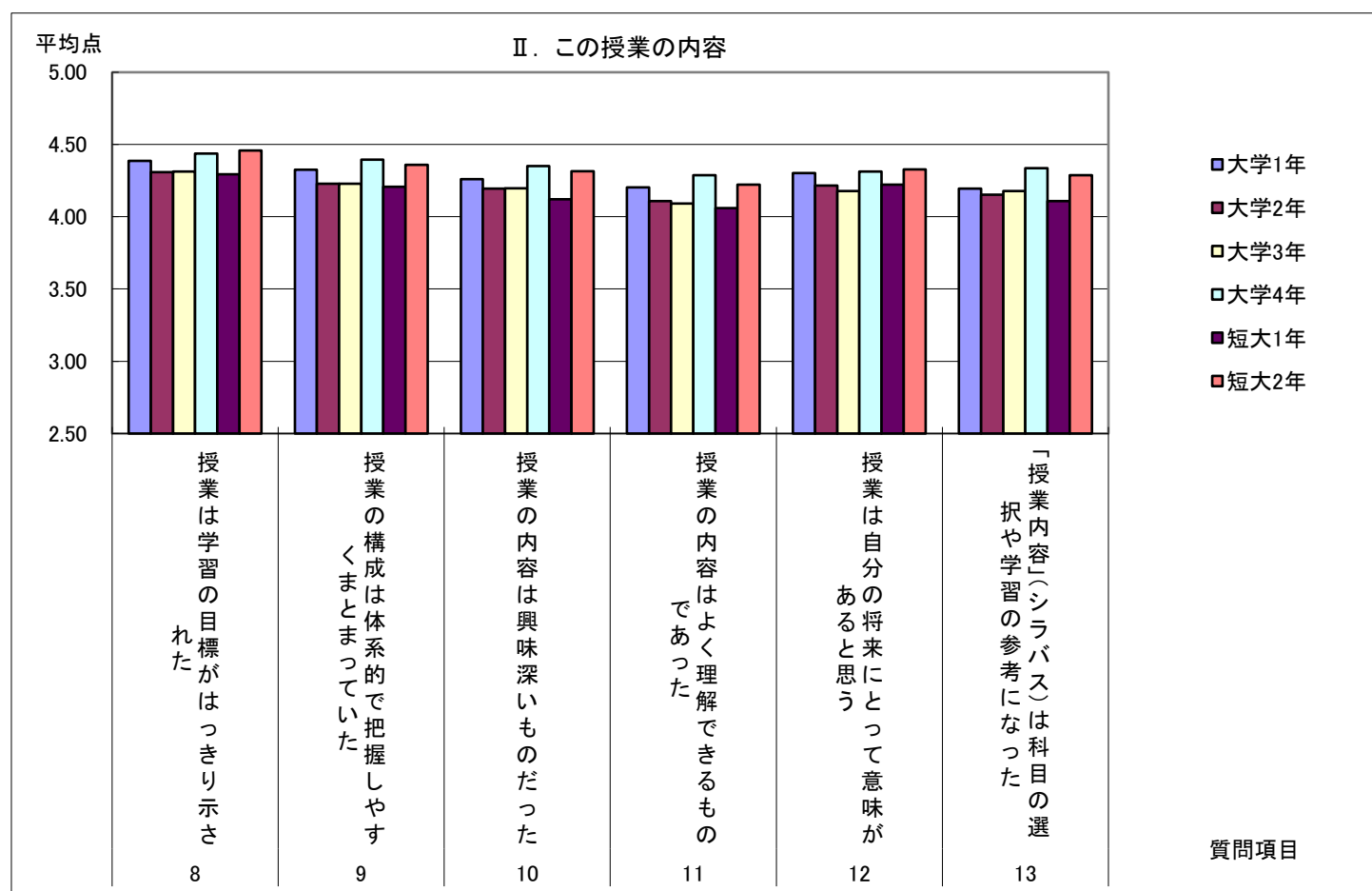
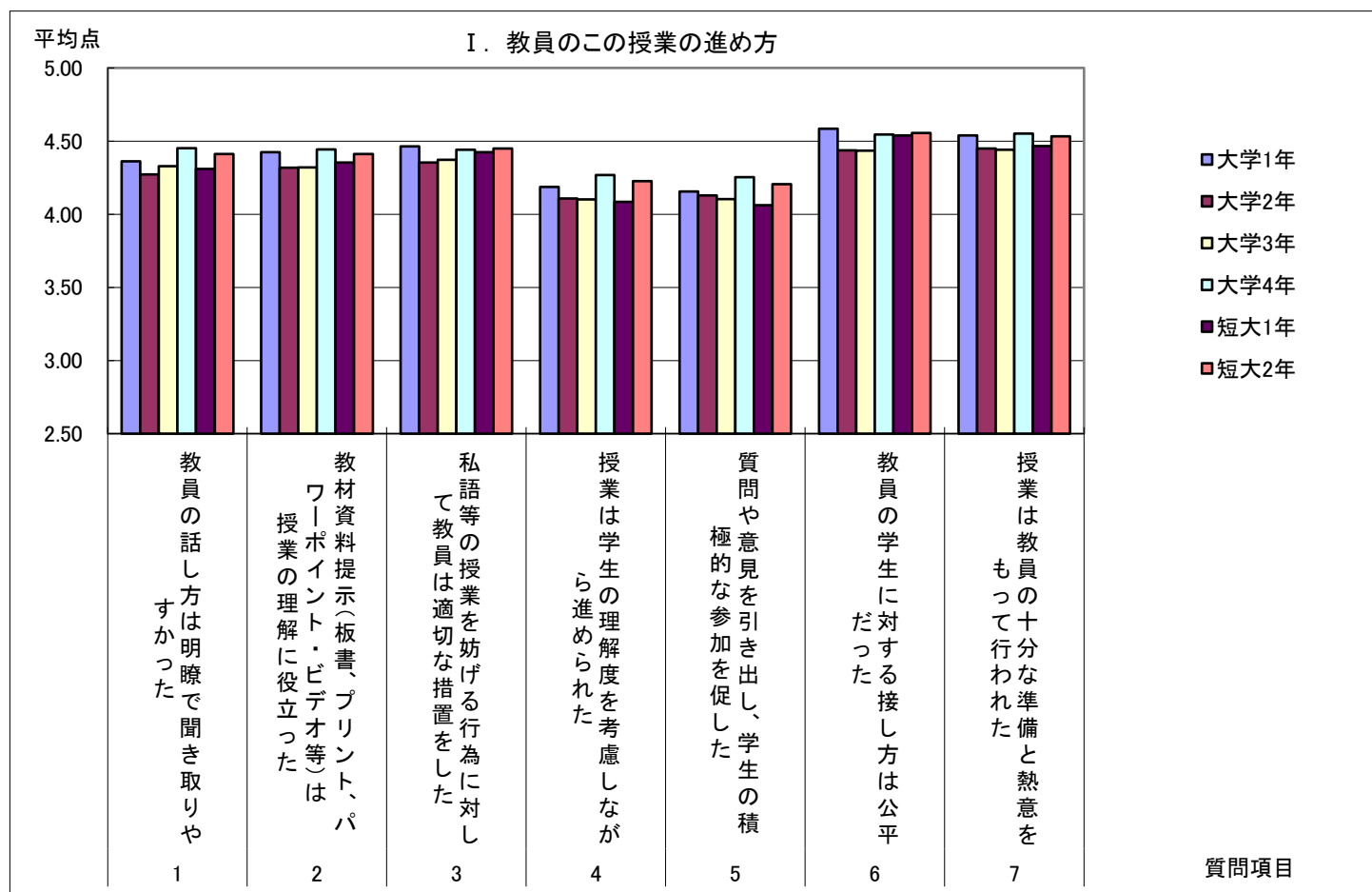
	大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	短大1年	短大2年
8 授業は学習の目標がはっきり示された	4.39	4.31	4.31	4.44	4.29	4.46
9 授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.33	4.23	4.23	4.39	4.21	4.36
10 授業の内容は興味深いものだった	4.26	4.20	4.20	4.35	4.12	4.31
11 授業の内容はよく理解できるものであった	4.20	4.11	4.09	4.29	4.06	4.22
12 授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.30	4.22	4.18	4.31	4.22	4.33
13 「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.19	4.15	4.18	4.34	4.11	4.29

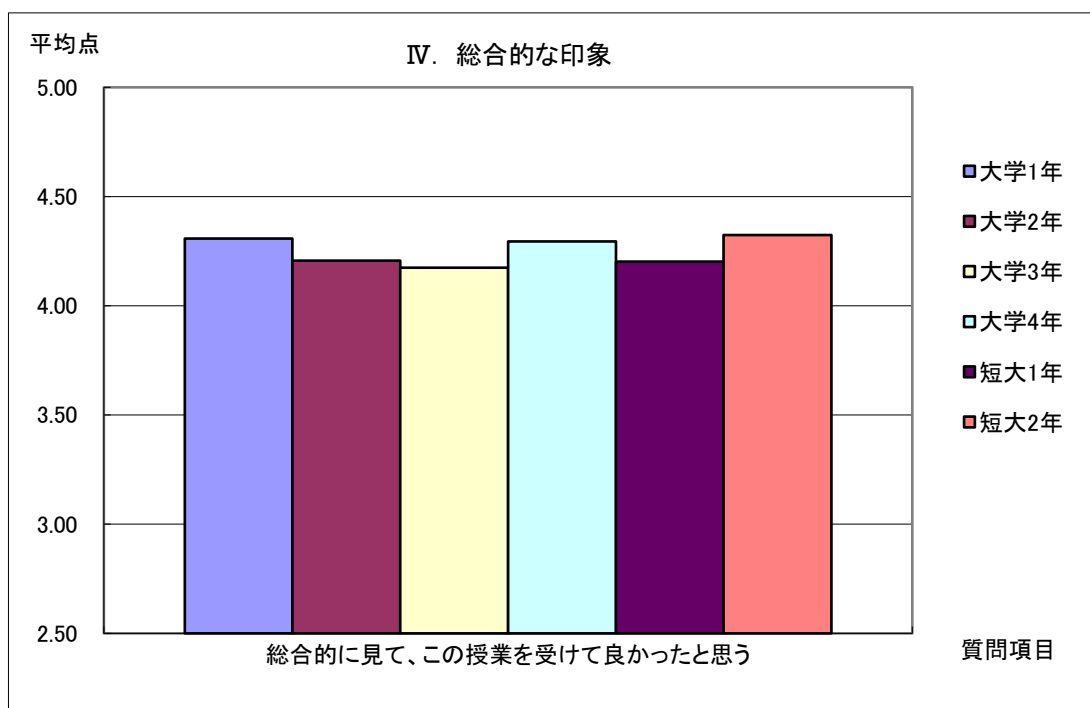
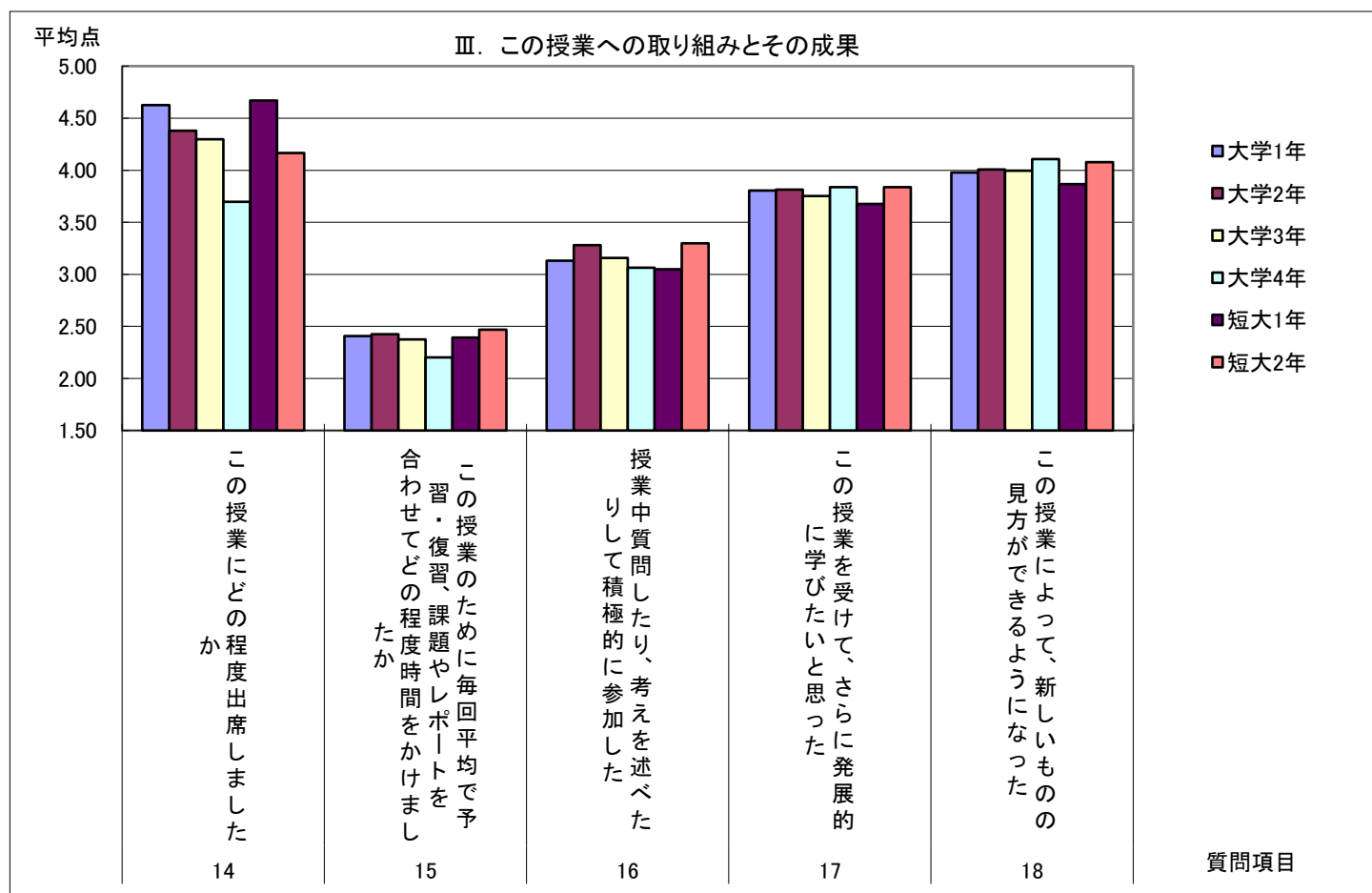
III. この授業への取り組みとその成果について

	大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	短大1年	短大2年
14 この授業にどの程度出席しましたか	4.63	4.38	4.30	3.70	4.67	4.17
15 この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.41	2.42	2.37	2.20	2.39	2.47
16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.13	3.28	3.16	3.06	3.05	3.30
17 この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.80	3.81	3.75	3.84	3.68	3.84
18 この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.98	4.01	4.00	4.11	3.87	4.08

IV. 総合的な印象

	大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	短大1年	短大2年
19 総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.31	4.21	4.17	4.30	4.20	4.32





2019年度後期 授業に関するアンケート集計結果(学年別)

	大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	短大1年	短大2年
回答者数	15,507	15,094	9,025	1,476	2,960	2,205

I. 教員のこの授業の進め方について

	大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	短大1年	短大2年
1 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.39	4.36	4.35	4.55	4.40	4.50
2 教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.43	4.39	4.34	4.50	4.38	4.47
3 私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.48	4.43	4.41	4.52	4.45	4.51
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.21	4.21	4.13	4.35	4.18	4.30
5 質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.21	4.22	4.14	4.29	4.18	4.27
6 教員の学生に対する接し方は公平だった	4.54	4.47	4.44	4.60	4.52	4.57
7 授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.54	4.49	4.45	4.58	4.49	4.56

II. この授業の内容について

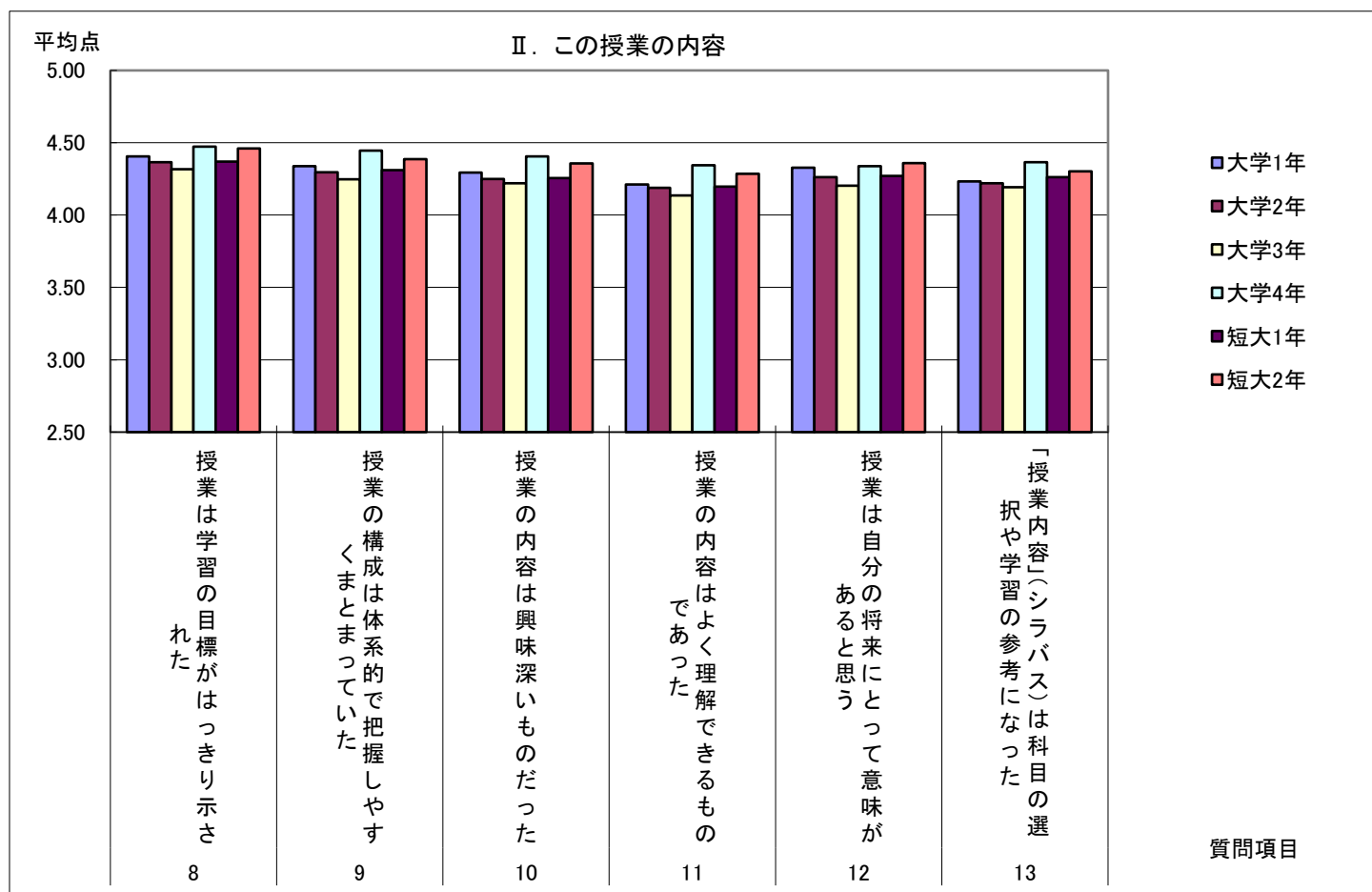
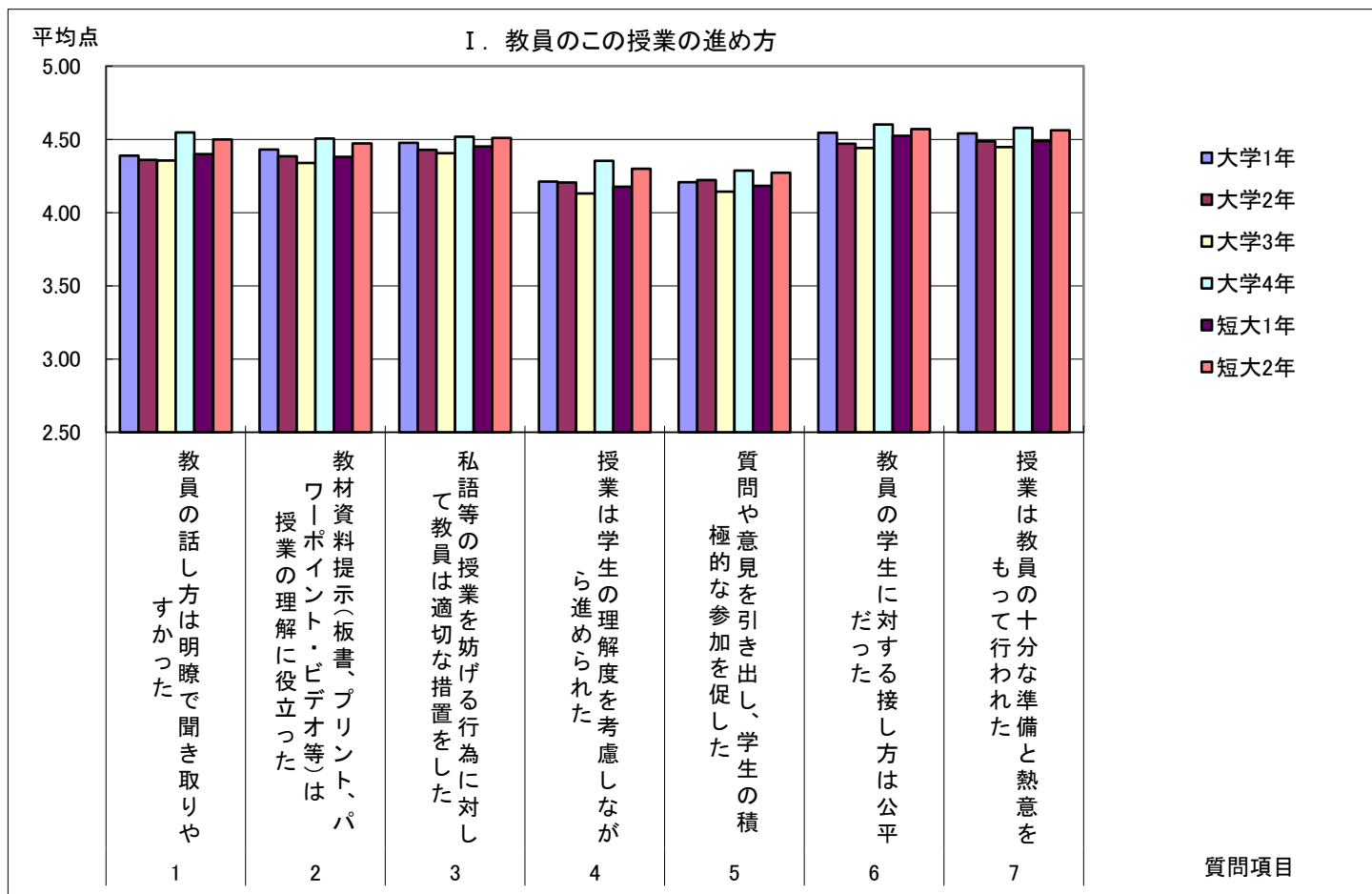
	大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	短大1年	短大2年
8 授業は学習の目標がはっきり示された	4.41	4.37	4.32	4.47	4.37	4.46
9 授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.34	4.30	4.25	4.44	4.31	4.39
10 授業の内容は興味深いものだった	4.29	4.25	4.22	4.41	4.26	4.36
11 授業の内容はよく理解できるものであった	4.21	4.19	4.13	4.34	4.20	4.29
12 授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.33	4.26	4.20	4.34	4.27	4.36
13 「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.23	4.22	4.19	4.36	4.26	4.30

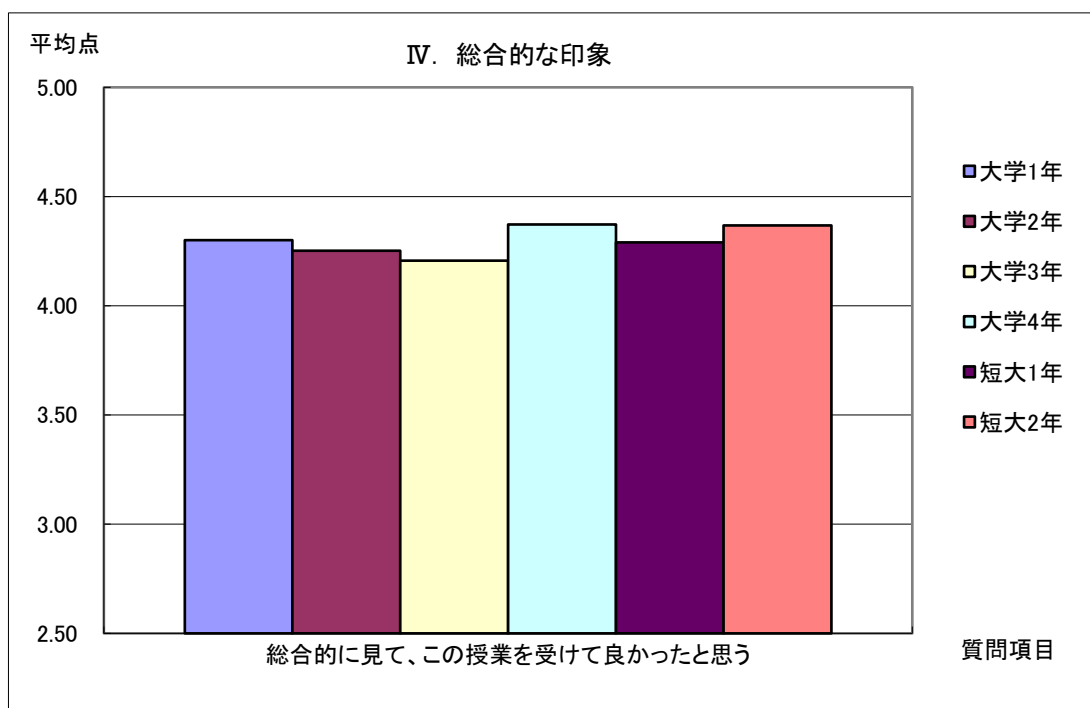
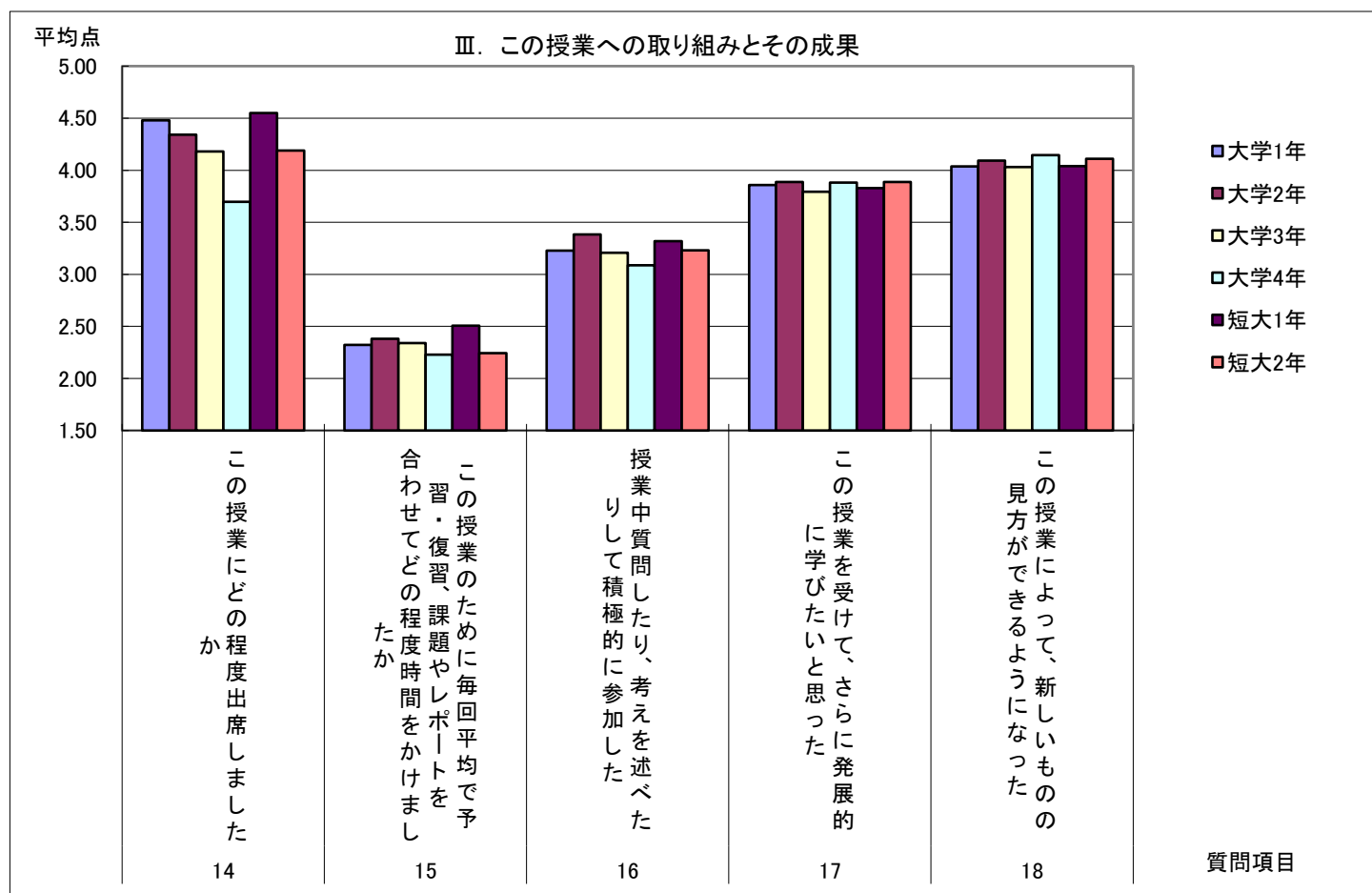
III. この授業への取り組みとその成果について

	大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	短大1年	短大2年
14 この授業にどの程度出席しましたか	4.48	4.34	4.18	3.70	4.55	4.19
15 この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.32	2.38	2.34	2.23	2.51	2.24
16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.23	3.38	3.21	3.09	3.32	3.23
17 この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.86	3.89	3.79	3.88	3.83	3.89
18 この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.04	4.09	4.03	4.15	4.04	4.11

IV. 総合的な印象

	大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	短大1年	短大2年
19 総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.30	4.25	4.21	4.37	4.29	4.37





2019年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)大学

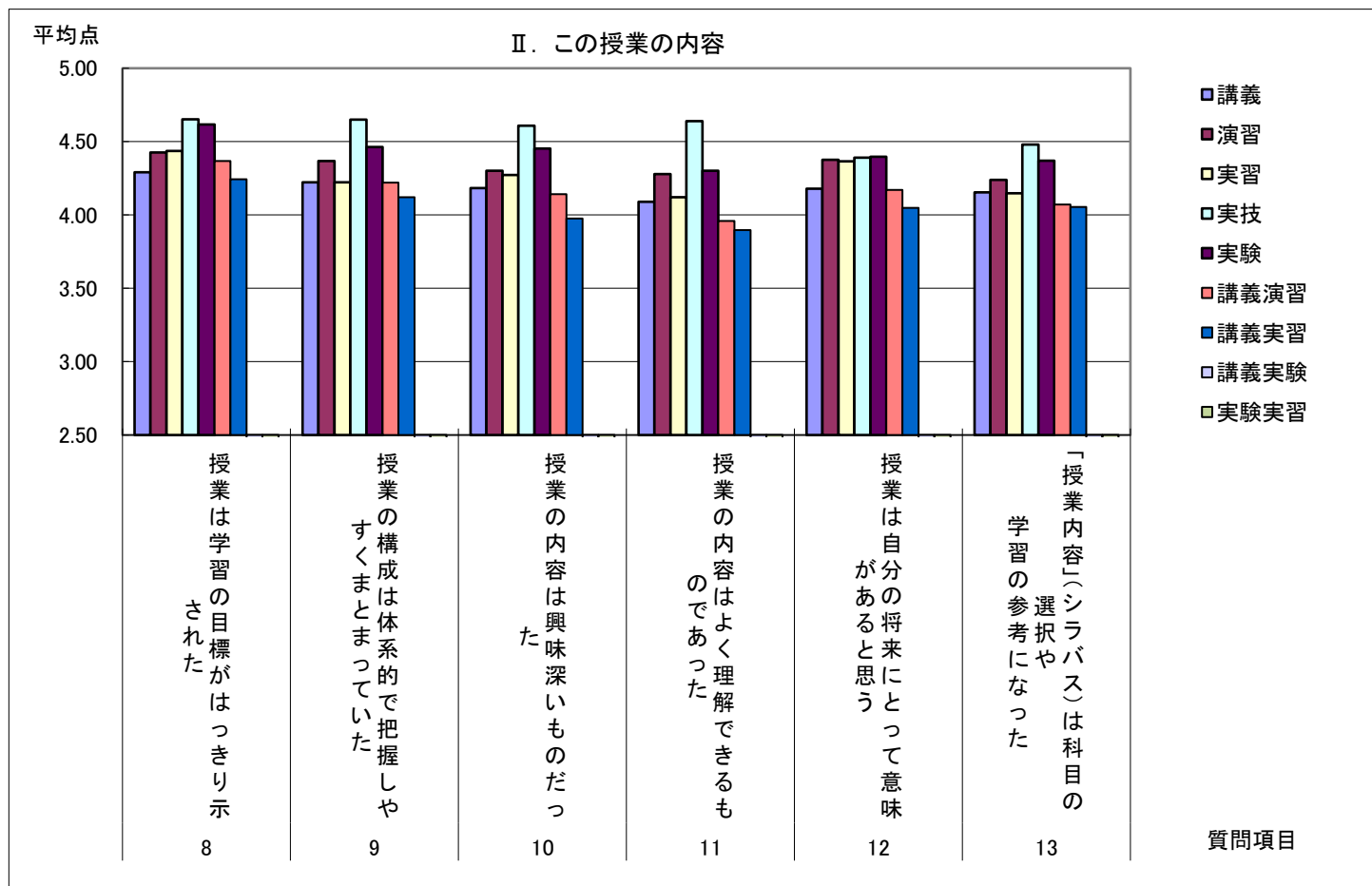
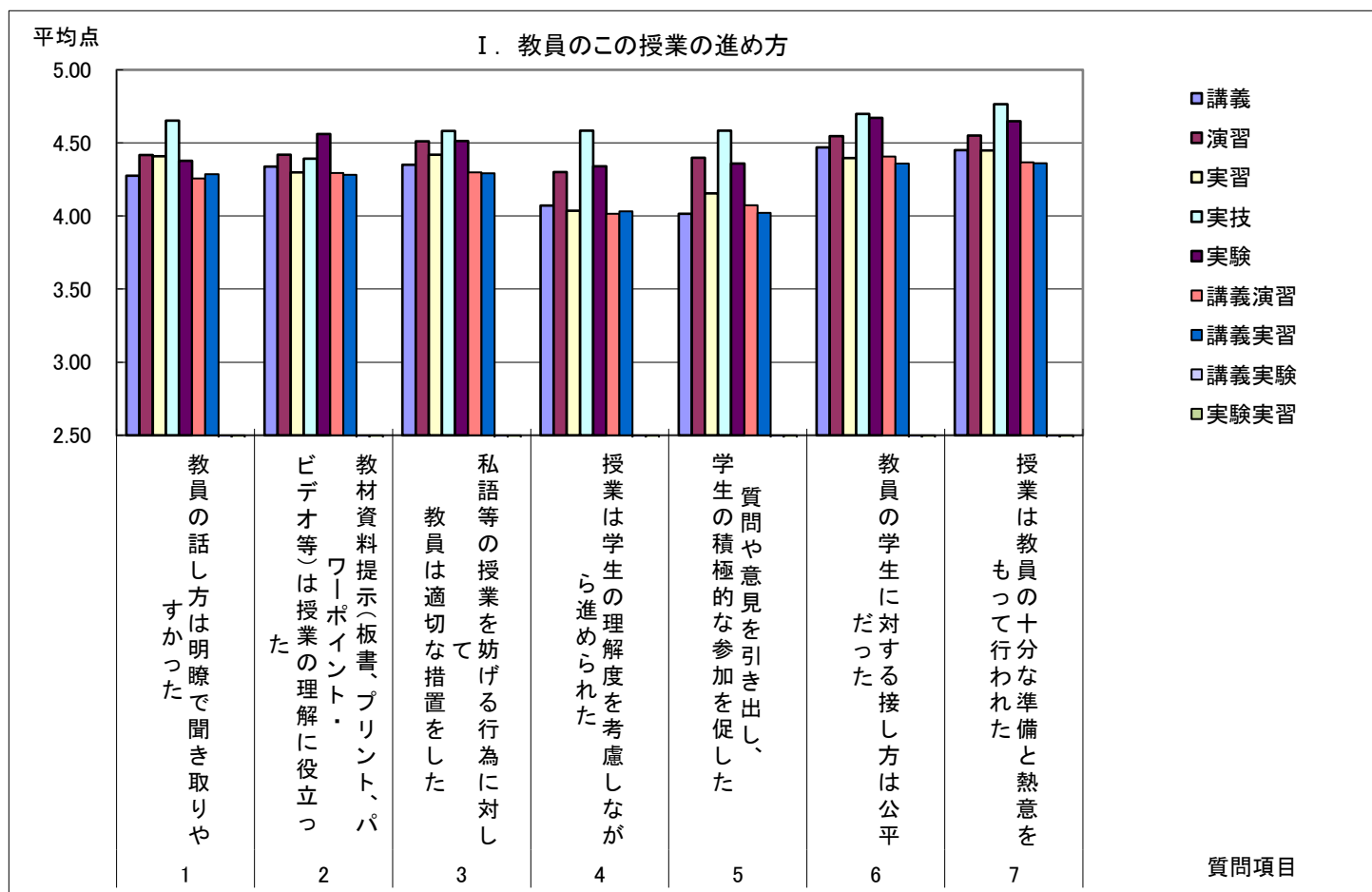
	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
履修者数	38,165	14,964	1,225	791	668	1,642	485	－	－
回答者数	30,009	13,056	1,114	677	617	1,287	341	－	－
回答率(%)	78.63	87.25	90.94	85.59	92.37	78.38	70.31	－	－

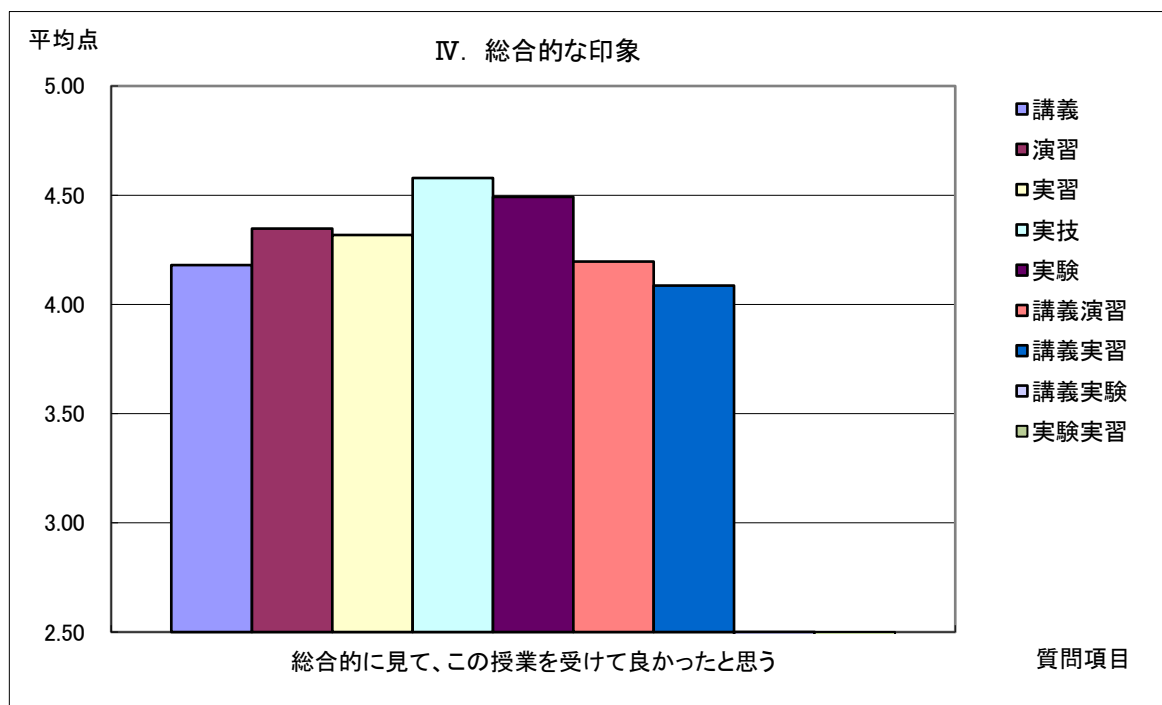
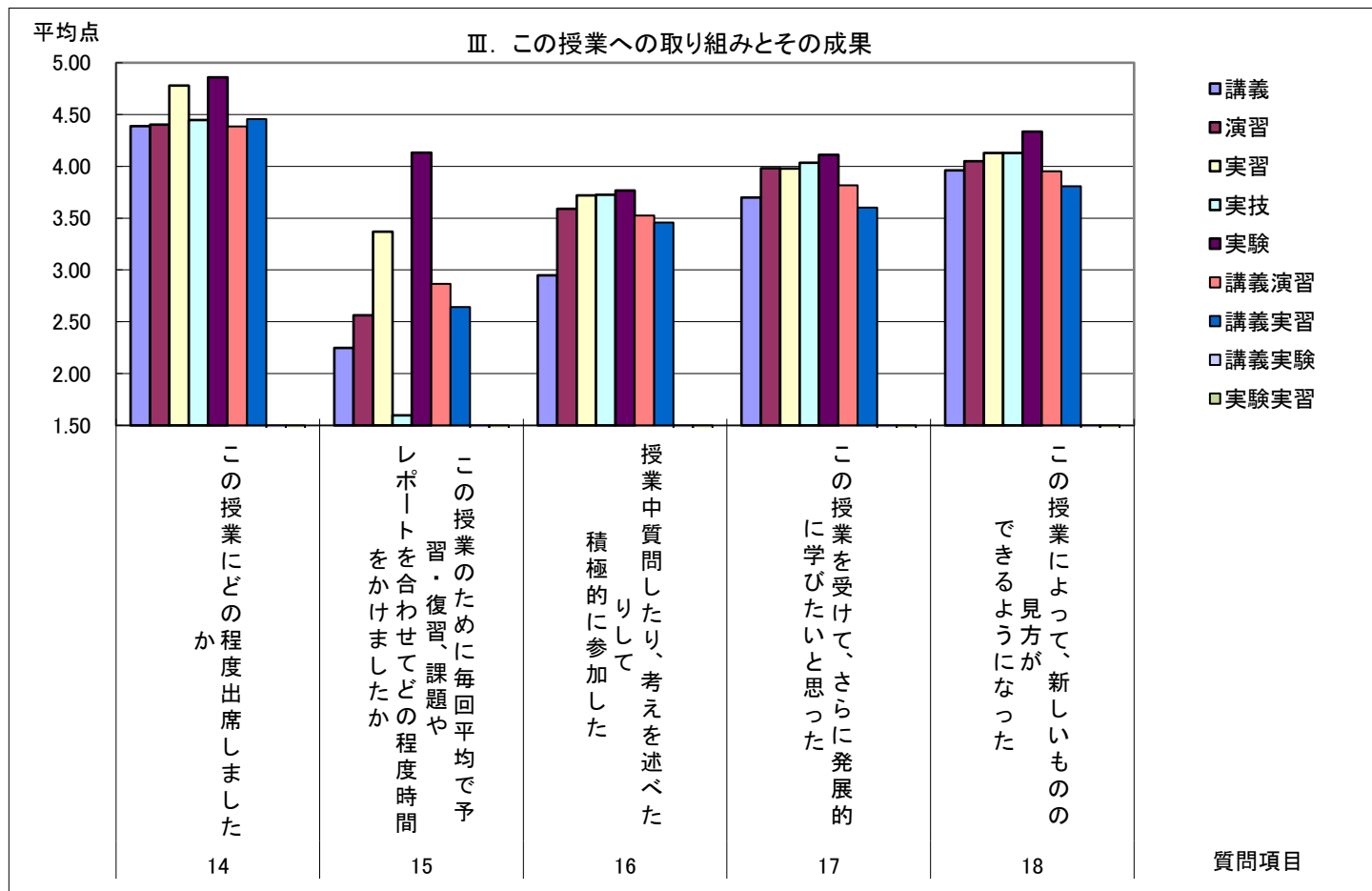
I. 教員のこの授業の進め方について		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.28	4.42	4.41	4.65	4.38	4.26	4.29	－	－
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.34	4.42	4.30	4.39	4.56	4.29	4.28	－	－
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.35	4.51	4.42	4.58	4.51	4.30	4.29	－	－
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.07	4.30	4.04	4.58	4.34	4.02	4.03	－	－
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.01	4.40	4.15	4.58	4.36	4.07	4.02	－	－
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.47	4.55	4.40	4.70	4.67	4.41	4.36	－	－
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.45	4.55	4.45	4.77	4.65	4.37	4.36	－	－

II. この授業の内容について		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.29	4.42	4.44	4.65	4.62	4.37	4.24	－	－
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.22	4.37	4.22	4.65	4.46	4.22	4.12	－	－
10	授業の内容は興味深いものだった	4.18	4.30	4.27	4.61	4.45	4.14	3.98	－	－
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.09	4.28	4.12	4.64	4.30	3.96	3.90	－	－
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.18	4.38	4.37	4.39	4.40	4.17	4.05	－	－
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.15	4.24	4.15	4.48	4.37	4.07	4.05	－	－

III. この授業への取り組みとその成果について		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.39	4.40	4.78	4.45	4.86	4.38	4.46	－	－
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.25	2.56	3.37	1.60	4.13	2.87	2.64	－	－
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.95	3.59	3.72	3.73	3.77	3.53	3.46	－	－
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.70	3.98	3.98	4.04	4.11	3.82	3.60	－	－
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.96	4.05	4.13	4.13	4.34	3.95	3.81	－	－

IV. 総合的な印象		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.18	4.35	4.32	4.58	4.49	4.20	4.09	－	－





2019年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)大学

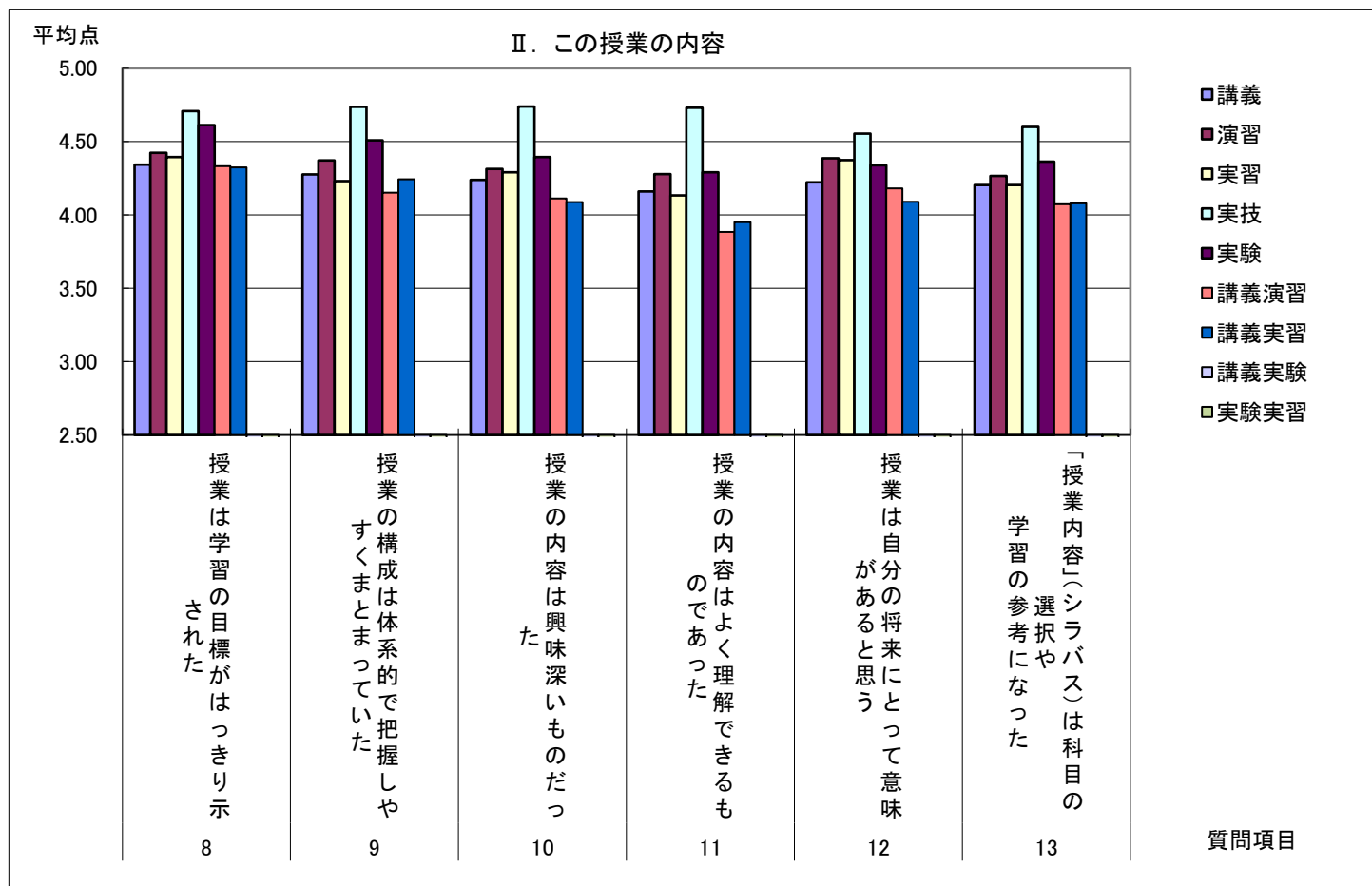
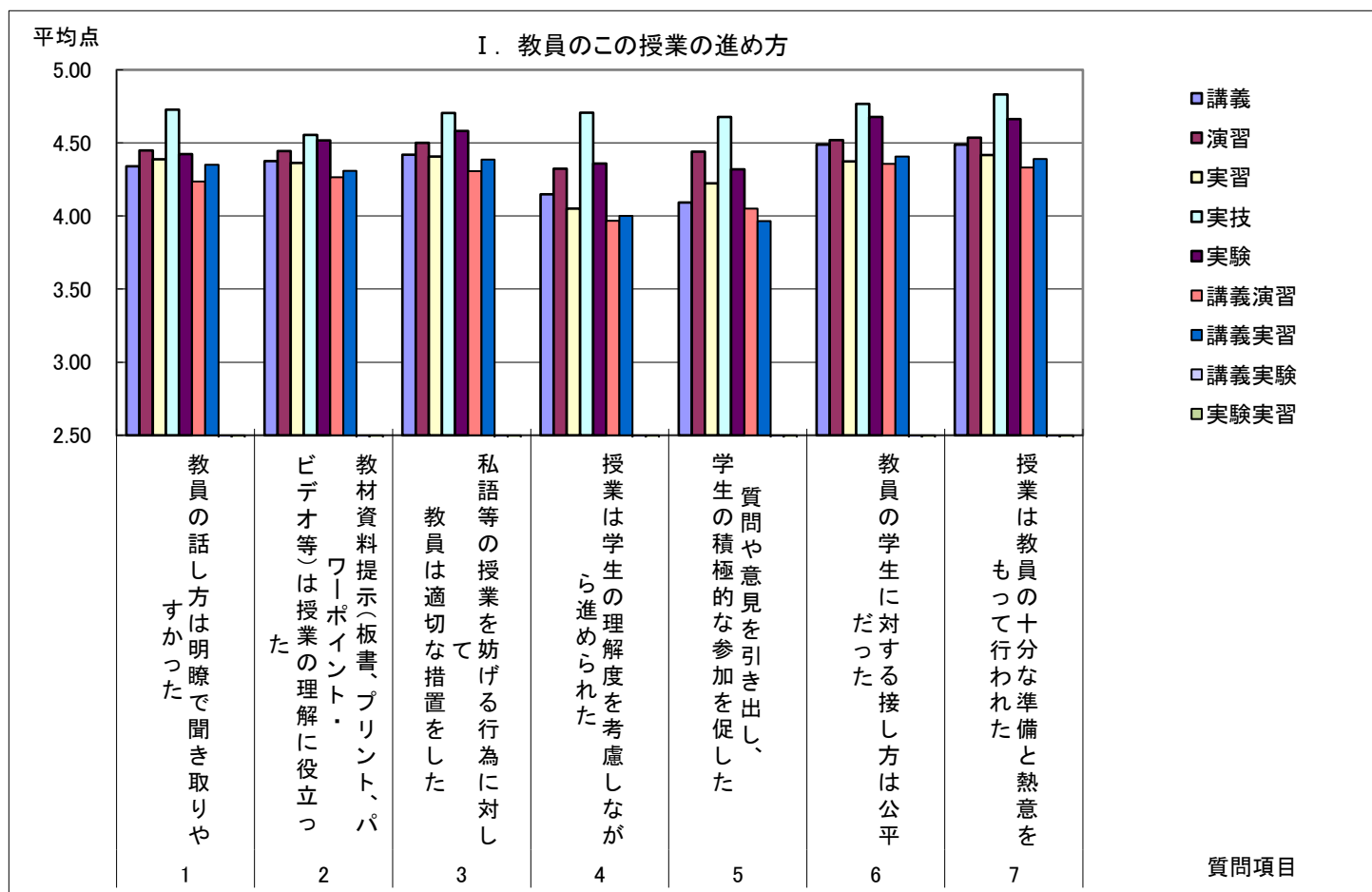
	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
履修者数	36,159	14,291	1,562	633	518	1,799	456	－	－
回答者数	26,357	11,698	1,403	487	469	1,296	327	－	－
回答率(%)	72.89	81.86	89.82	76.94	90.54	72.04	71.71	－	－

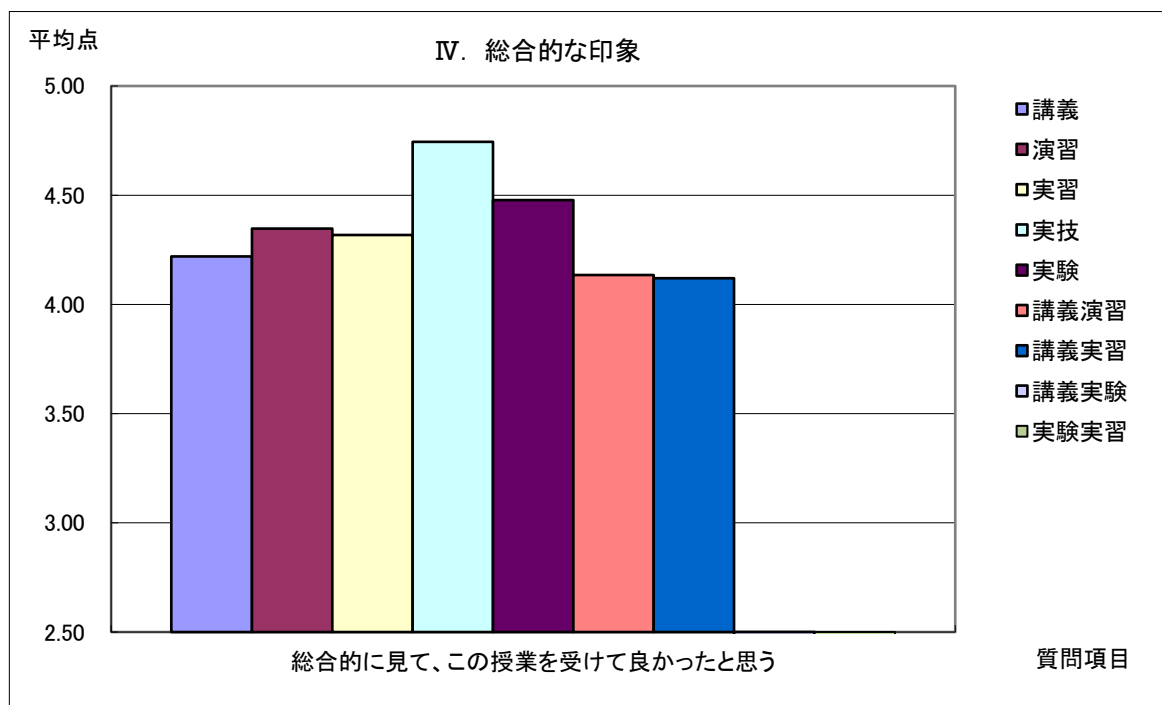
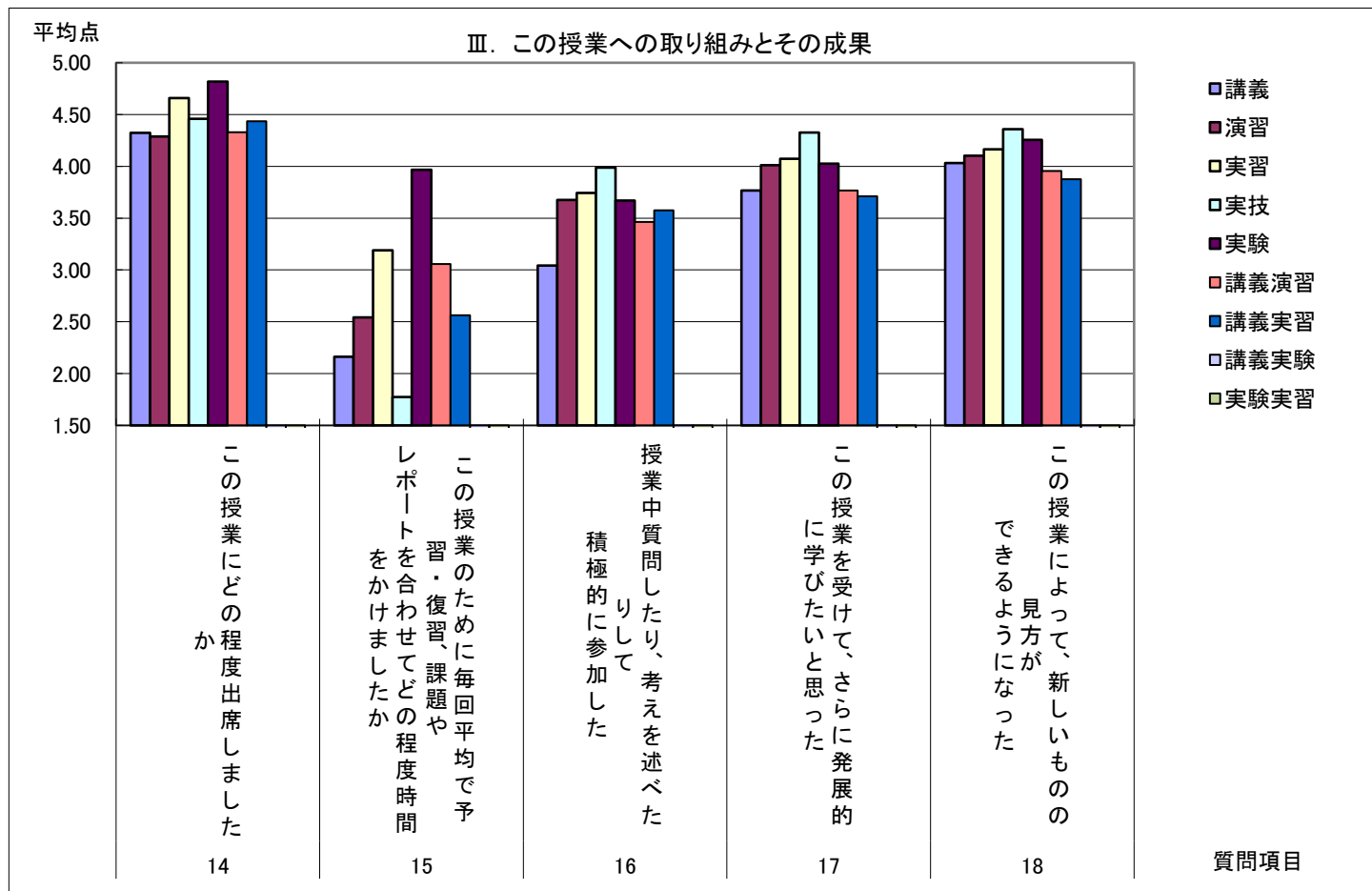
I. 教員のこの授業の進め方について		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.34	4.45	4.39	4.73	4.42	4.24	4.35	－	－
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.38	4.44	4.36	4.55	4.52	4.27	4.31	－	－
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.42	4.50	4.41	4.71	4.58	4.31	4.39	－	－
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.15	4.32	4.05	4.71	4.36	3.97	4.00	－	－
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.09	4.44	4.22	4.68	4.32	4.05	3.97	－	－
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.49	4.52	4.37	4.77	4.68	4.36	4.41	－	－
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.49	4.54	4.42	4.83	4.66	4.33	4.39	－	－

II. この授業の内容について		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.34	4.42	4.39	4.71	4.61	4.33	4.33	－	－
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.28	4.37	4.23	4.74	4.51	4.15	4.24	－	－
10	授業の内容は興味深いものだった	4.24	4.31	4.29	4.74	4.40	4.11	4.09	－	－
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.16	4.28	4.13	4.73	4.29	3.88	3.95	－	－
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.22	4.39	4.37	4.55	4.34	4.18	4.09	－	－
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.20	4.27	4.20	4.60	4.36	4.07	4.08	－	－

III. この授業への取り組みとその成果について		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.32	4.29	4.66	4.46	4.82	4.33	4.44	－	－
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.16	2.54	3.19	1.77	3.97	3.06	2.56	－	－
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.04	3.68	3.74	3.99	3.67	3.46	3.58	－	－
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.77	4.01	4.07	4.33	4.03	3.77	3.71	－	－
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.03	4.10	4.16	4.36	4.26	3.96	3.88	－	－

IV. 総合的な印象		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.22	4.35	4.32	4.74	4.48	4.14	4.12	－	－





2019年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)短大

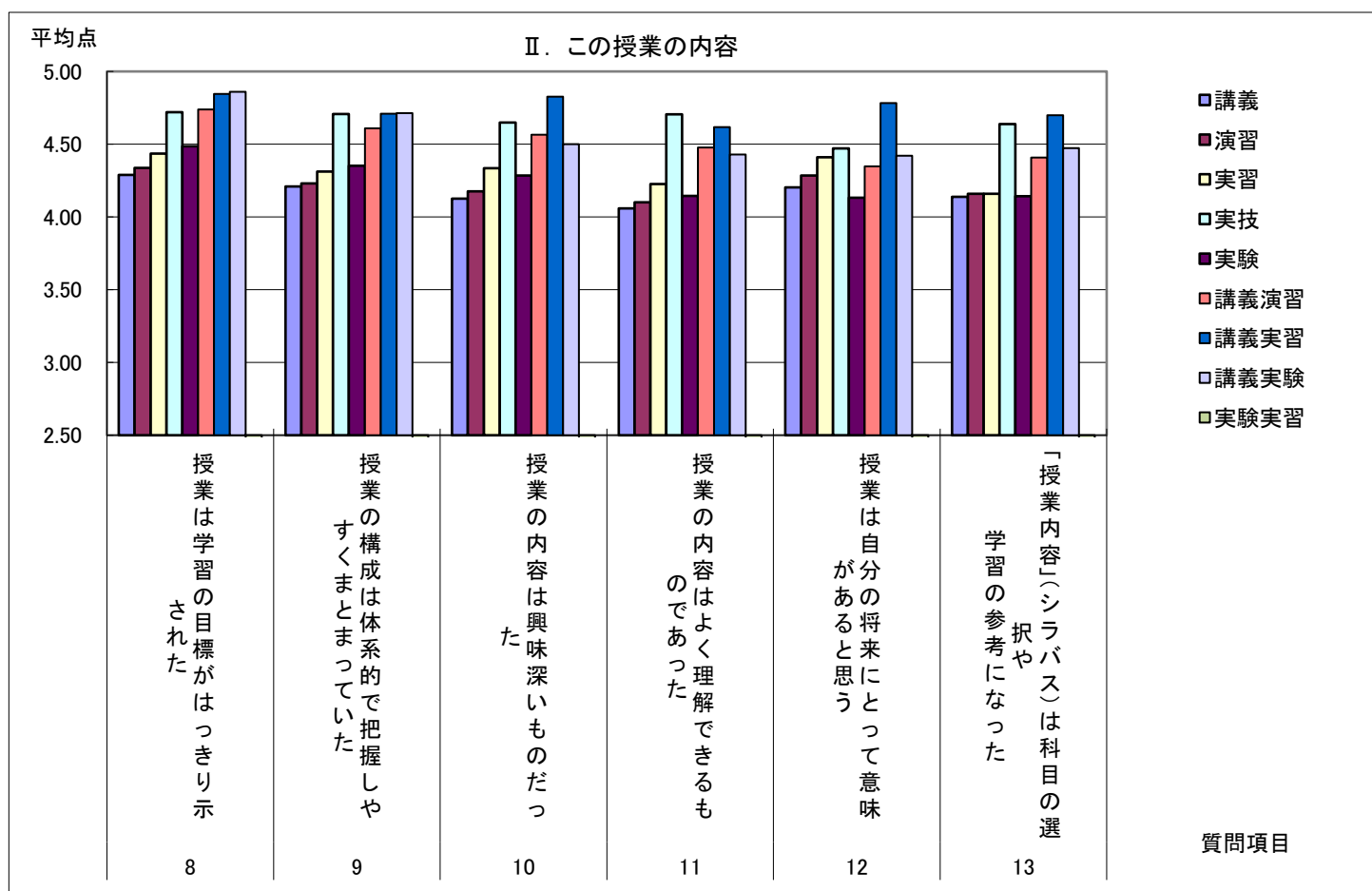
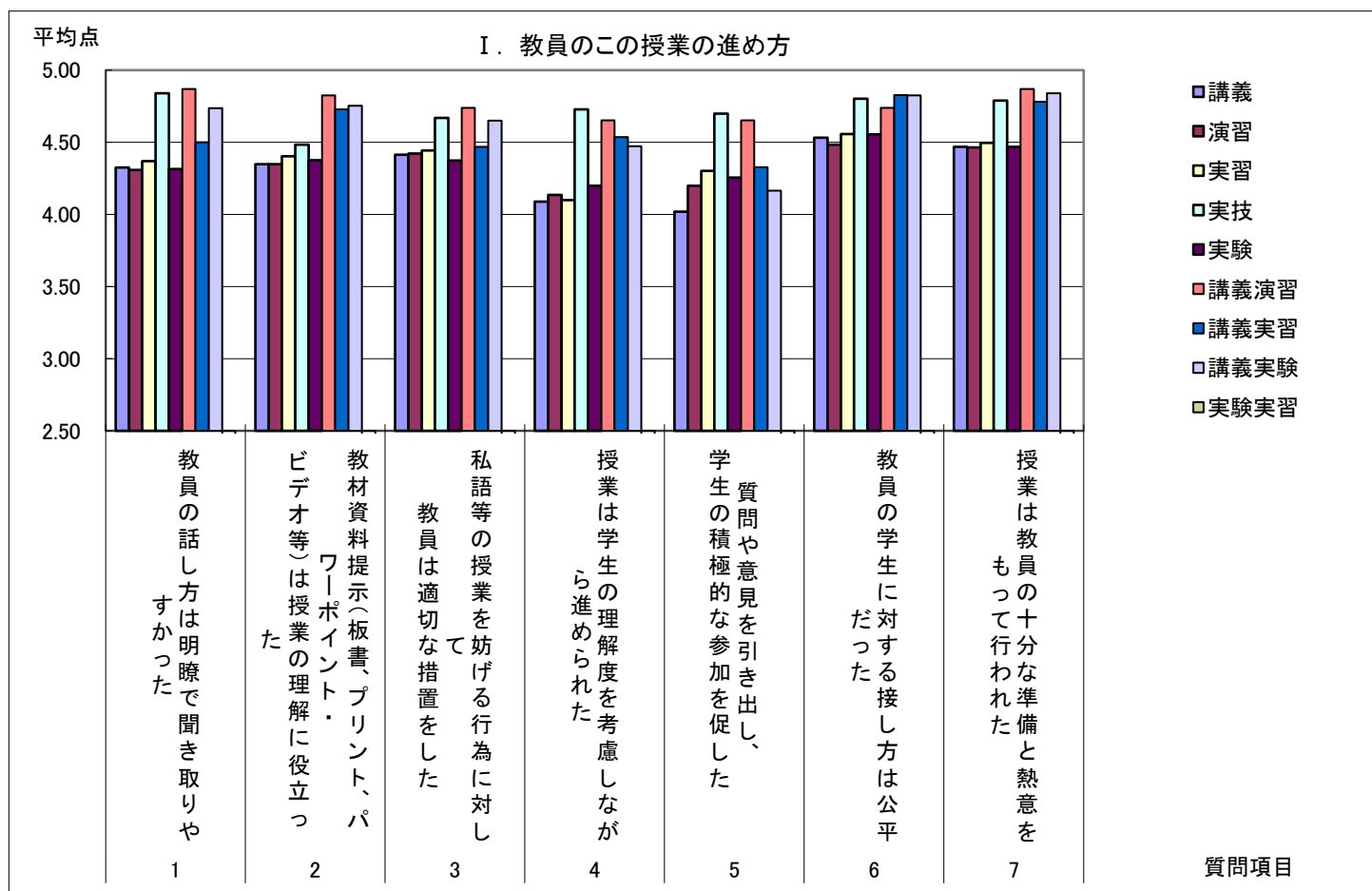
	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
履修者数	3,905	2,188	373	168	279	25	132	61	－
回答者数	3,256	1,883	347	137	264	23	110	57	－
回答率(%)	83.38	86.06	93.03	81.55	94.62	92.00	83.33	93.44	－

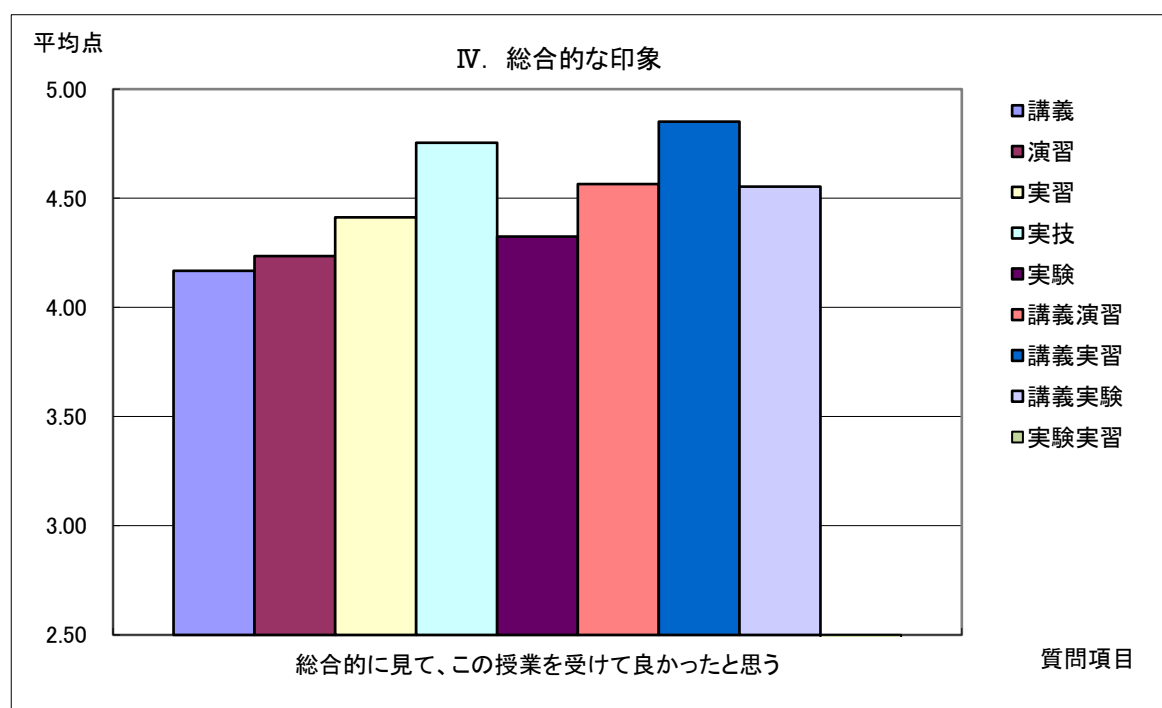
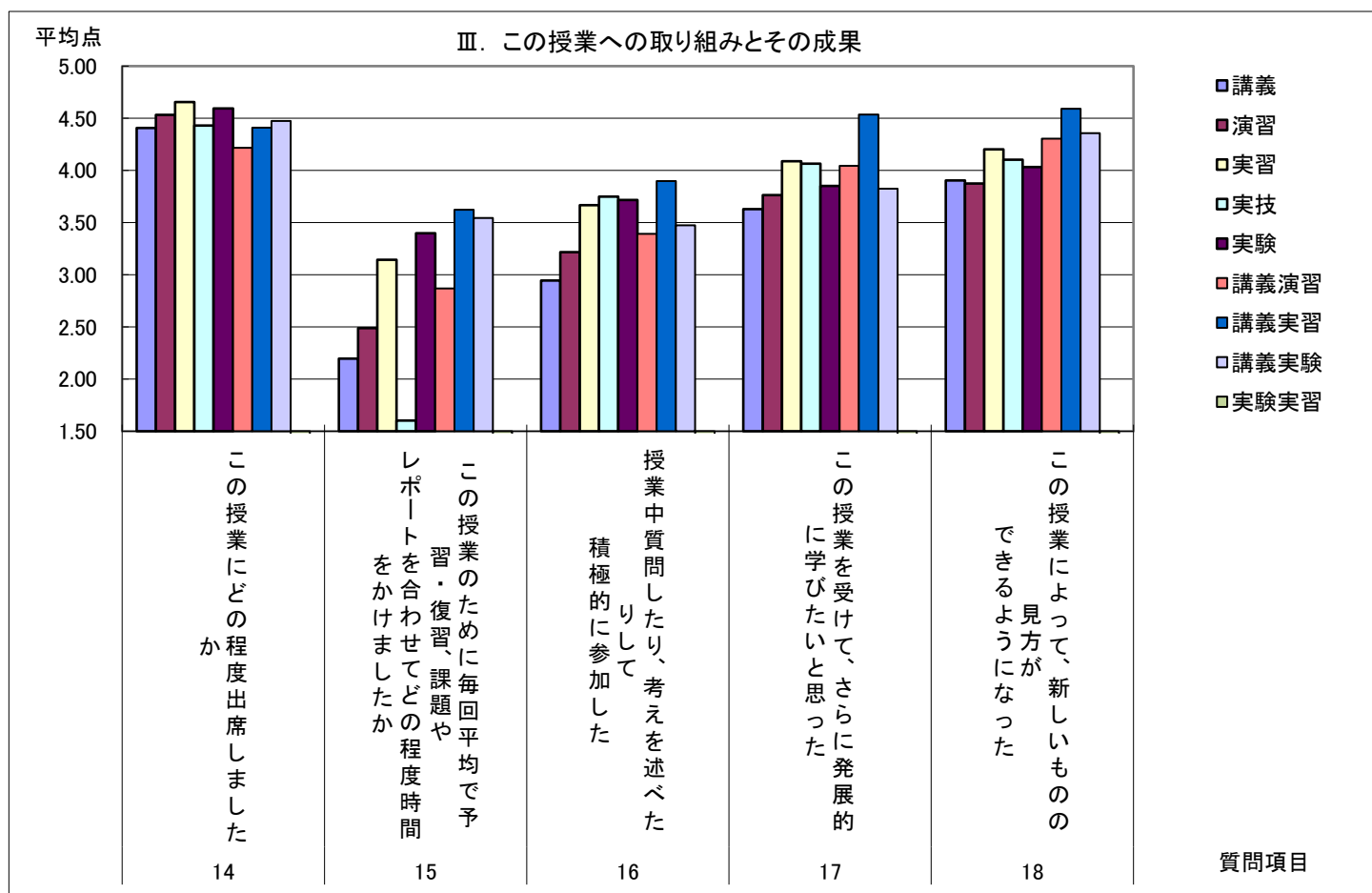
I. 教員のこの授業の進め方について		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.33	4.31	4.37	4.84	4.31	4.87	4.50	4.74	－
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.35	4.35	4.40	4.48	4.38	4.83	4.73	4.75	－
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.41	4.42	4.44	4.67	4.37	4.74	4.47	4.65	－
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.09	4.14	4.10	4.73	4.20	4.65	4.54	4.47	－
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.02	4.20	4.30	4.70	4.26	4.65	4.33	4.16	－
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.53	4.48	4.56	4.80	4.56	4.74	4.83	4.82	－
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.47	4.47	4.50	4.79	4.47	4.87	4.78	4.84	－

II. この授業の内容について		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.29	4.34	4.44	4.72	4.48	4.74	4.85	4.86	－
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.21	4.23	4.31	4.71	4.35	4.61	4.71	4.71	－
10	授業の内容は興味深いものだった	4.13	4.18	4.34	4.65	4.28	4.57	4.83	4.50	－
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.06	4.10	4.23	4.71	4.15	4.48	4.62	4.43	－
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.20	4.28	4.41	4.47	4.13	4.35	4.78	4.42	－
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.14	4.16	4.16	4.64	4.14	4.41	4.70	4.47	－

III. この授業への取り組みとその成果について		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.41	4.53	4.66	4.43	4.59	4.22	4.41	4.47	－
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.20	2.49	3.14	1.60	3.40	2.87	3.62	3.54	－
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.95	3.22	3.67	3.75	3.72	3.39	3.90	3.47	－
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.63	3.76	4.09	4.07	3.85	4.04	4.54	3.82	－
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.90	3.87	4.20	4.10	4.03	4.30	4.59	4.36	－

IV. 総合的な印象		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.17	4.23	4.41	4.75	4.32	4.57	4.85	4.55	－





2019年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)短大

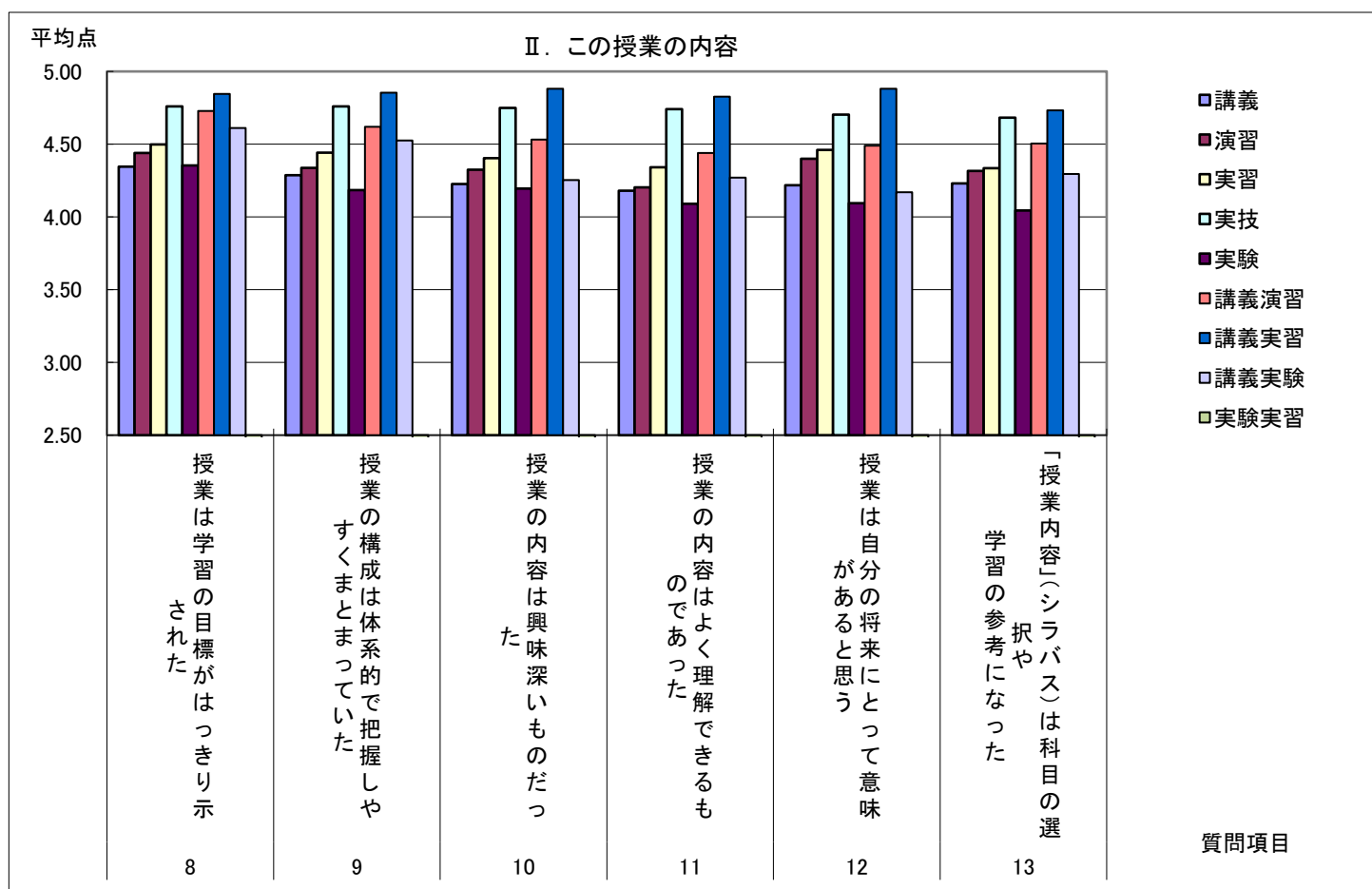
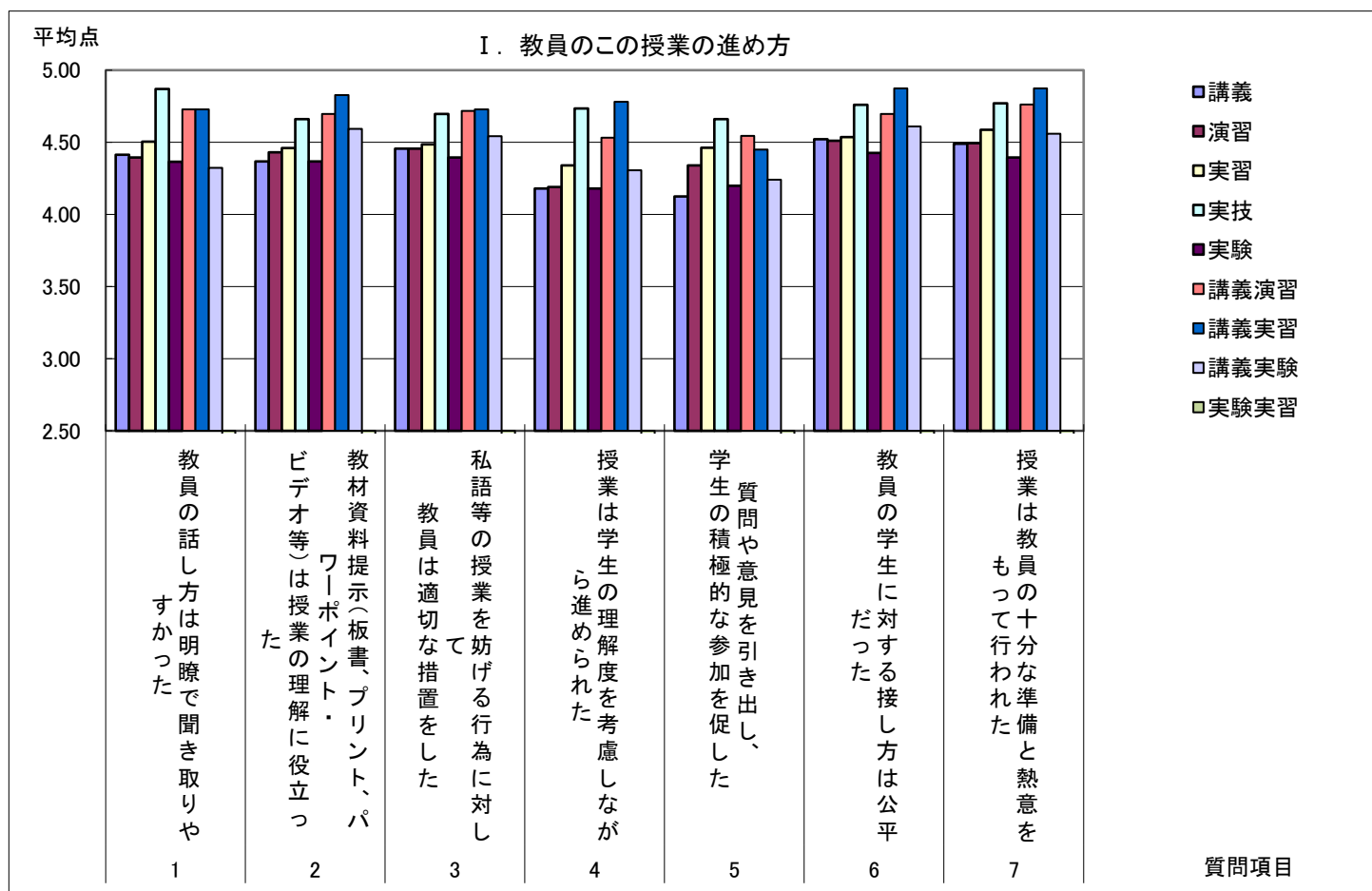
	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
履修者数	4,375	1,483	314	149	270	113	122	65	－
回答者数	3,463	1,209	291	109	256	92	110	60	－
回答率(%)	79.15	81.52	92.68	73.15	94.81	81.42	90.16	92.31	－

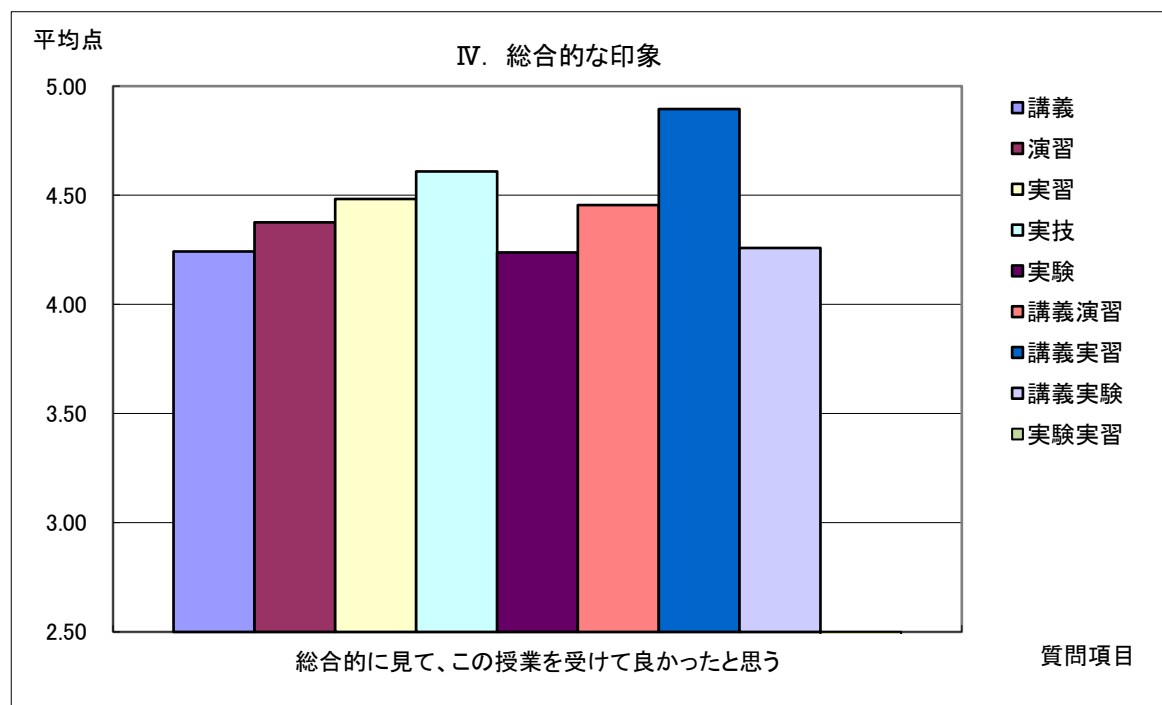
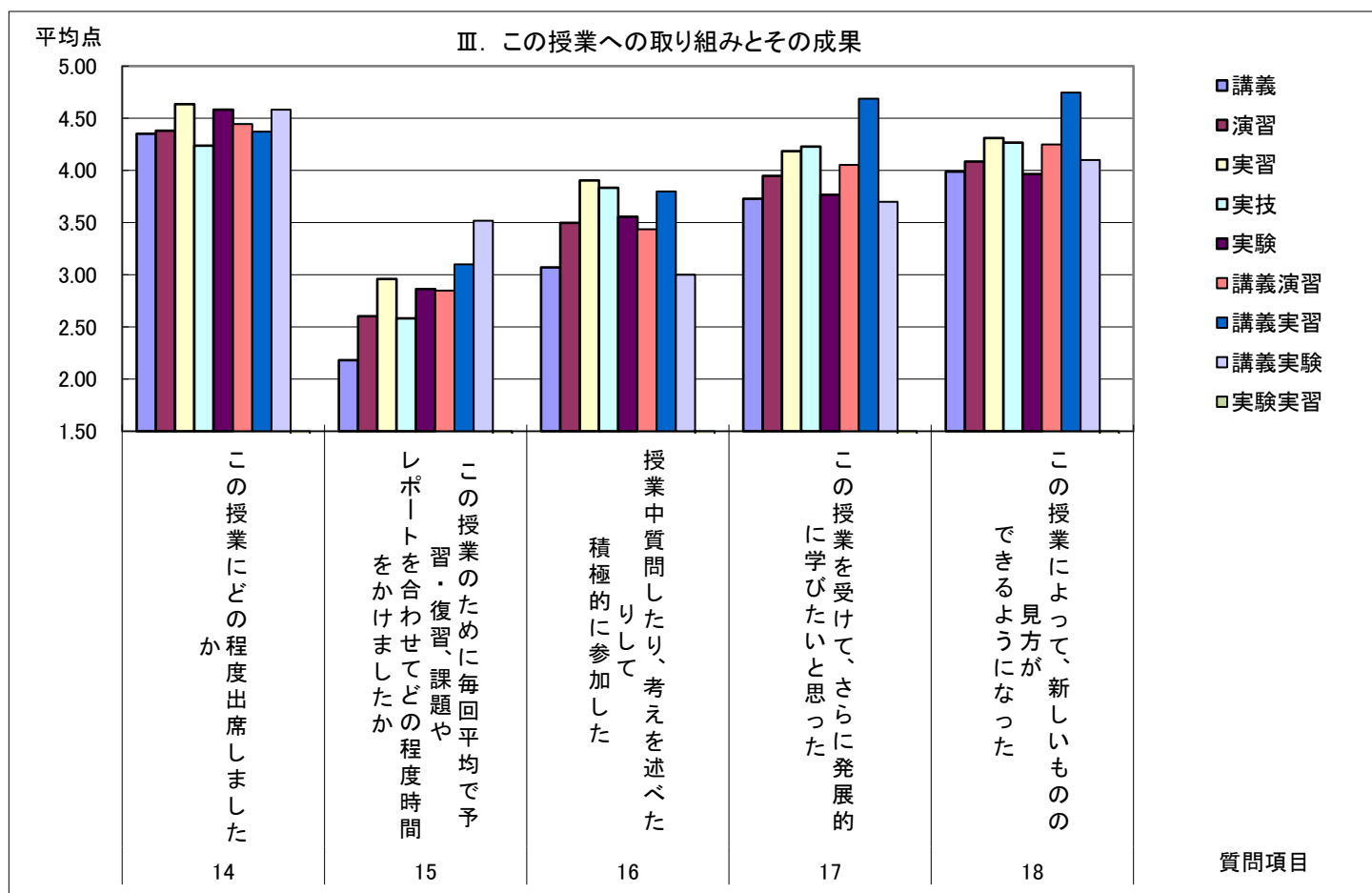
I. 教員のこの授業の進め方について		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.41	4.39	4.51	4.87	4.36	4.73	4.73	4.32	－
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.37	4.43	4.46	4.66	4.37	4.70	4.83	4.59	－
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.46	4.46	4.48	4.70	4.39	4.72	4.73	4.54	－
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.18	4.19	4.34	4.73	4.18	4.53	4.78	4.31	－
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.12	4.34	4.46	4.66	4.20	4.54	4.45	4.24	－
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.52	4.51	4.54	4.76	4.43	4.70	4.87	4.61	－
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.49	4.49	4.59	4.77	4.39	4.76	4.87	4.56	－

II. この授業の内容について		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.35	4.44	4.50	4.76	4.35	4.73	4.85	4.61	－
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.29	4.34	4.44	4.76	4.18	4.62	4.85	4.53	－
10	授業の内容は興味深いものだった	4.23	4.32	4.40	4.75	4.20	4.53	4.88	4.25	－
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.18	4.20	4.34	4.74	4.09	4.44	4.83	4.27	－
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.22	4.40	4.46	4.70	4.09	4.49	4.88	4.17	－
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.23	4.32	4.33	4.68	4.04	4.51	4.73	4.30	－

III. この授業への取り組みとその成果について		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.35	4.38	4.64	4.24	4.58	4.45	4.37	4.58	－
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.18	2.60	2.96	2.58	2.86	2.85	3.10	3.52	－
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.07	3.50	3.90	3.83	3.56	3.43	3.80	3.00	－
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.73	3.95	4.19	4.23	3.77	4.05	4.69	3.70	－
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.99	4.08	4.31	4.27	3.96	4.25	4.75	4.10	－

IV. 総合的な印象		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.24	4.38	4.48	4.61	4.24	4.46	4.90	4.26	－





2019年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)大学・短大合計

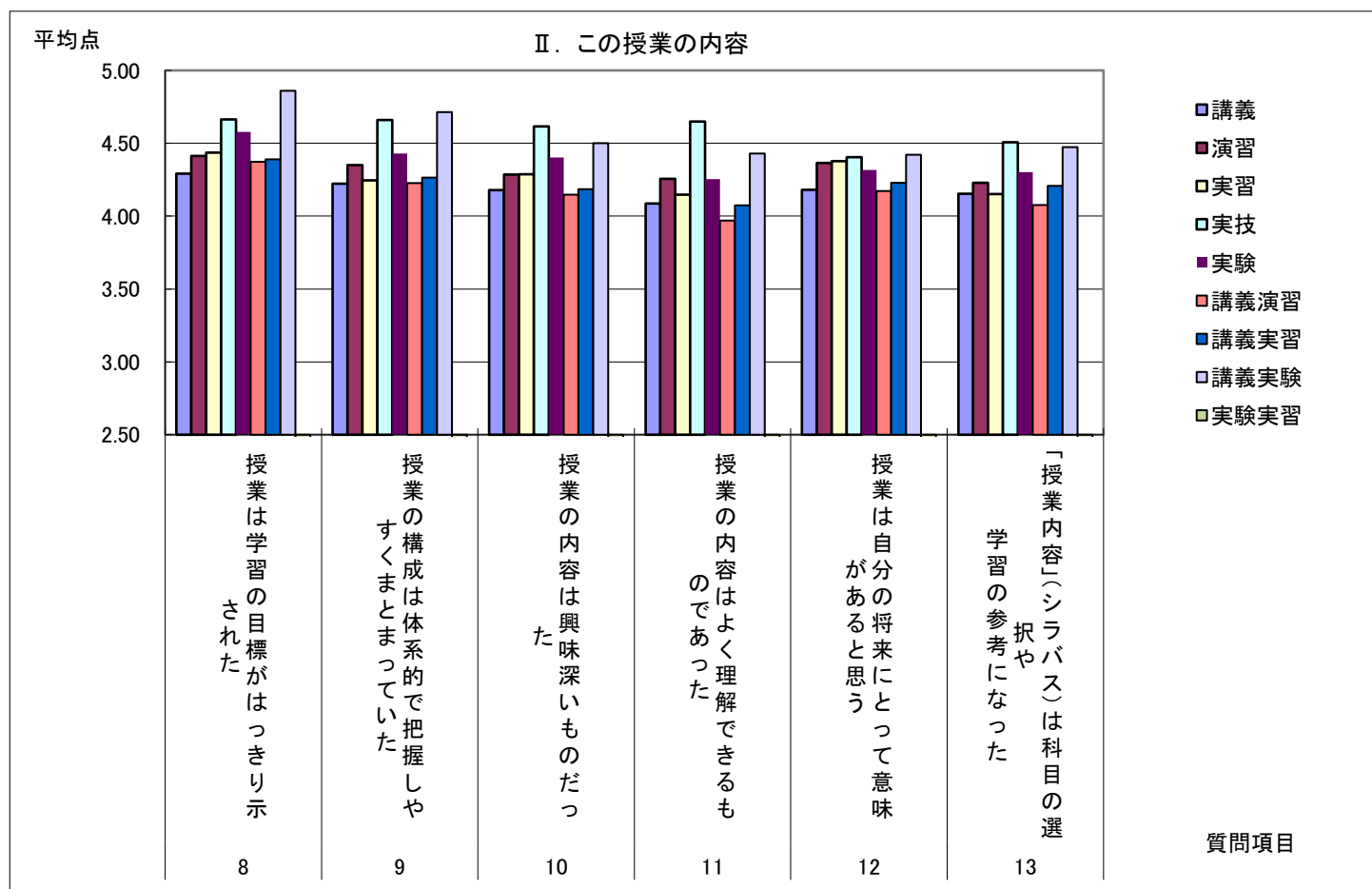
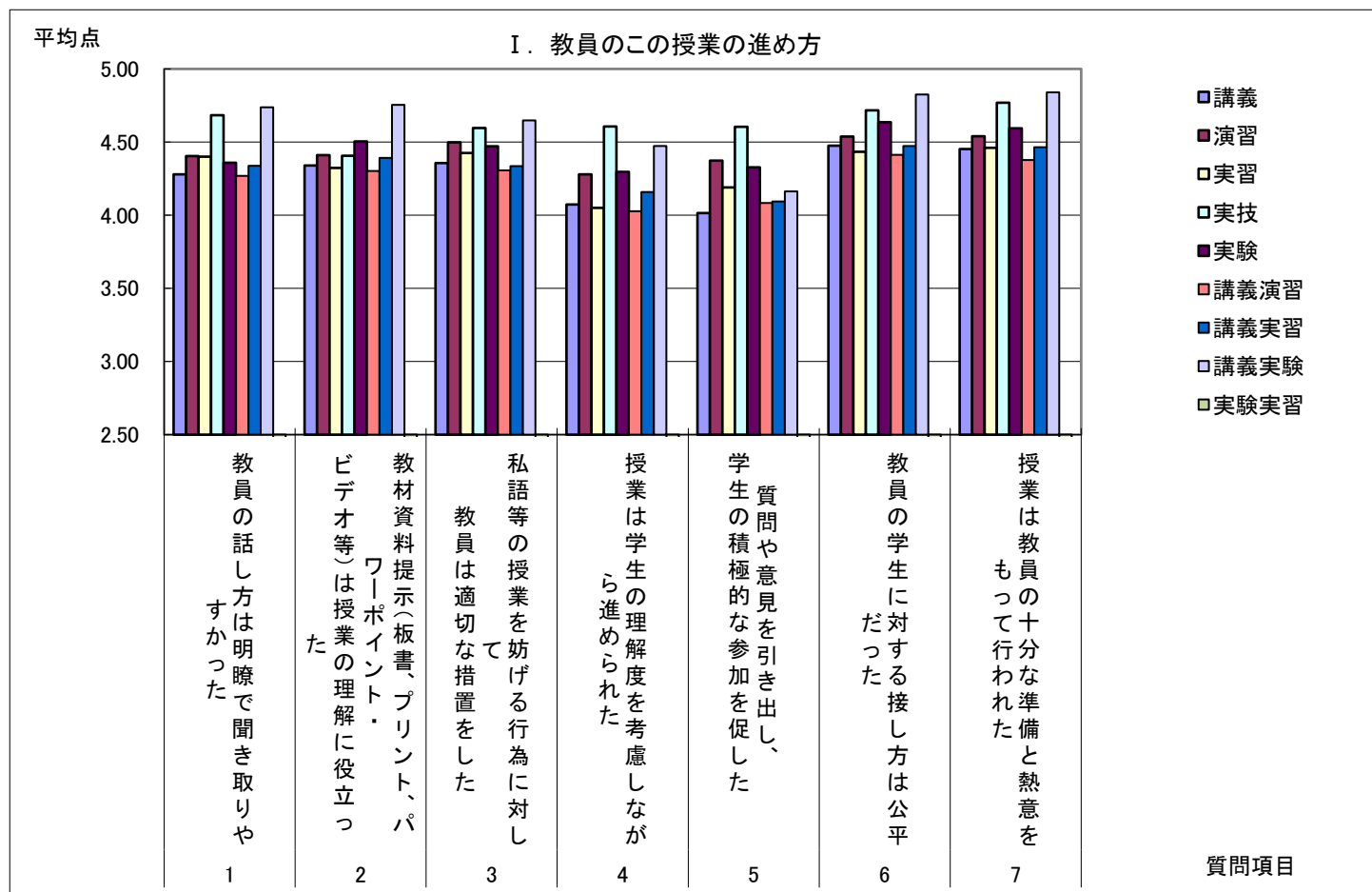
	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
履修者数	42,070	17,152	1,598	959	947	1,667	617	61	－
回答者数	33,265	14,939	1,461	814	881	1,310	451	57	－
回答率(%)	79.07	87.10	91.43	84.88	93.03	78.58	73.10	93.44	－

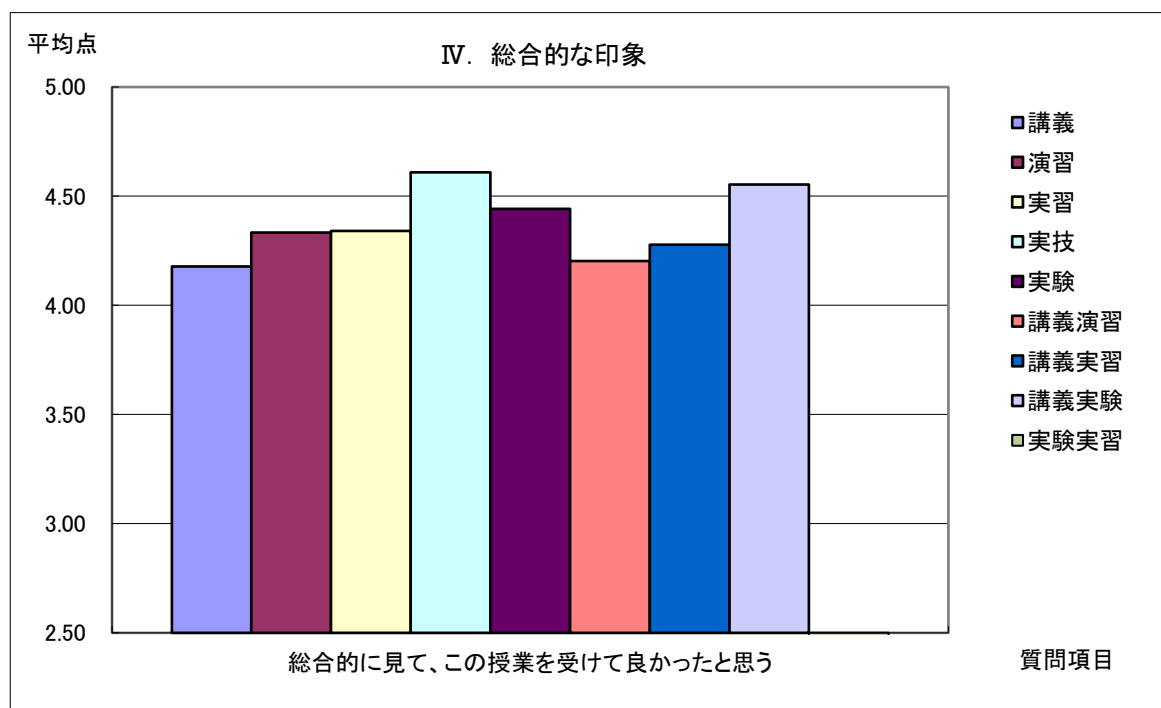
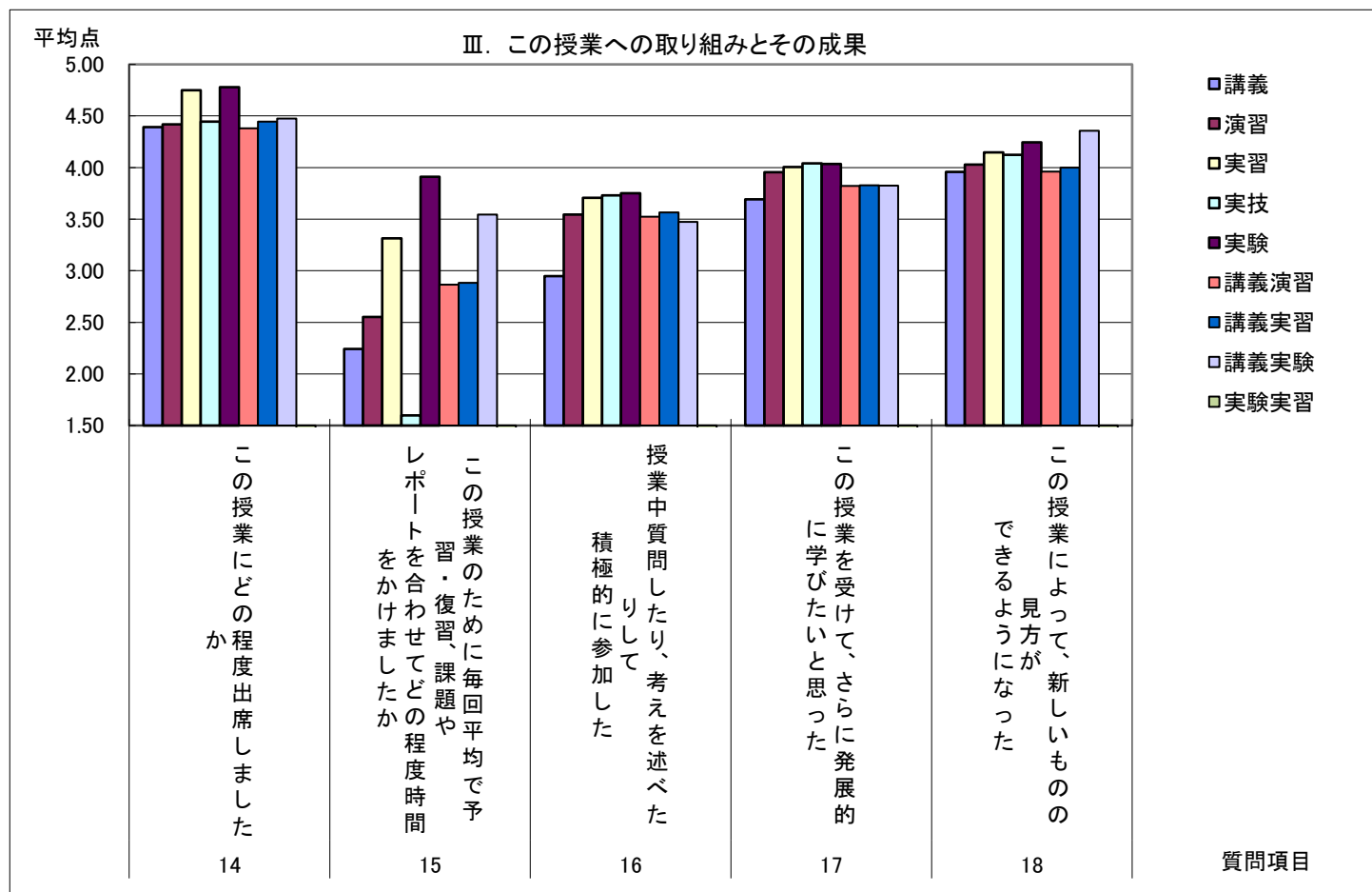
I. 教員のこの授業の進め方について		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.28	4.40	4.40	4.68	4.36	4.27	4.34	4.74	－
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.34	4.41	4.32	4.41	4.51	4.30	4.39	4.75	－
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.36	4.50	4.42	4.60	4.47	4.31	4.33	4.65	－
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.07	4.28	4.05	4.61	4.30	4.03	4.16	4.47	－
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.01	4.37	4.19	4.60	4.33	4.08	4.10	4.16	－
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.48	4.54	4.43	4.72	4.64	4.41	4.47	4.82	－
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.45	4.54	4.46	4.77	4.59	4.38	4.46	4.84	－

II. この授業の内容について		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.29	4.41	4.44	4.66	4.58	4.37	4.39	4.86	－
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.22	4.35	4.24	4.66	4.43	4.23	4.27	4.71	－
10	授業の内容は興味深いものだった	4.18	4.29	4.29	4.62	4.40	4.15	4.18	4.50	－
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.09	4.26	4.15	4.65	4.25	3.97	4.07	4.43	－
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.18	4.36	4.38	4.40	4.32	4.17	4.23	4.42	－
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.15	4.23	4.15	4.51	4.30	4.08	4.21	4.47	－

III. この授業への取り組みとその成果について		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.39	4.42	4.75	4.44	4.78	4.38	4.45	4.47	－
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.24	2.55	3.32	1.60	3.91	2.87	2.88	3.54	－
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.95	3.54	3.71	3.73	3.75	3.52	3.57	3.47	－
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.69	3.95	4.01	4.04	4.03	3.82	3.83	3.82	－
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.96	4.03	4.15	4.12	4.24	3.96	4.00	4.36	－

IV. 総合的な印象		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.18	4.33	4.34	4.61	4.44	4.20	4.28	4.55	－





2019年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)大学・短大合計

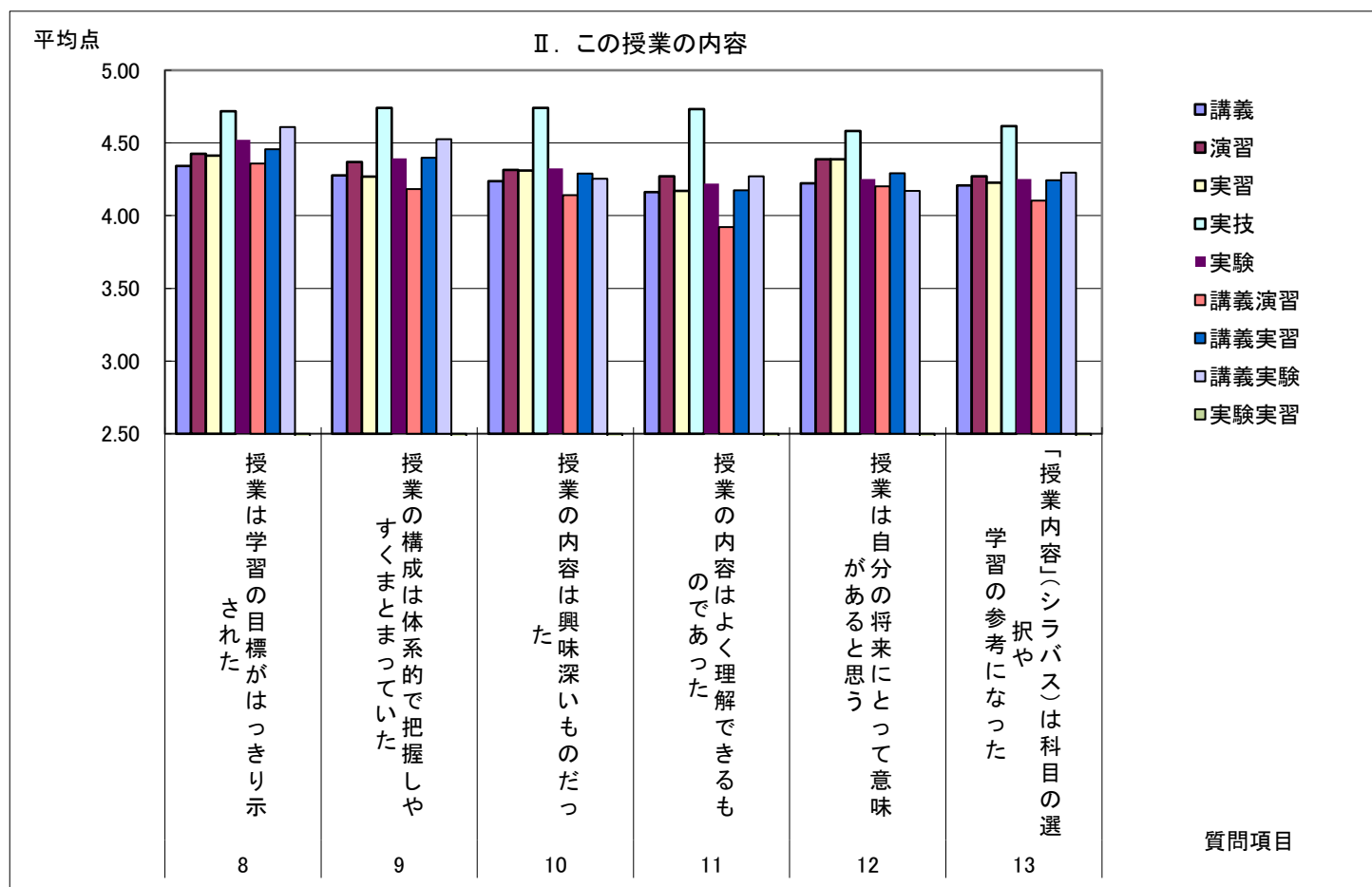
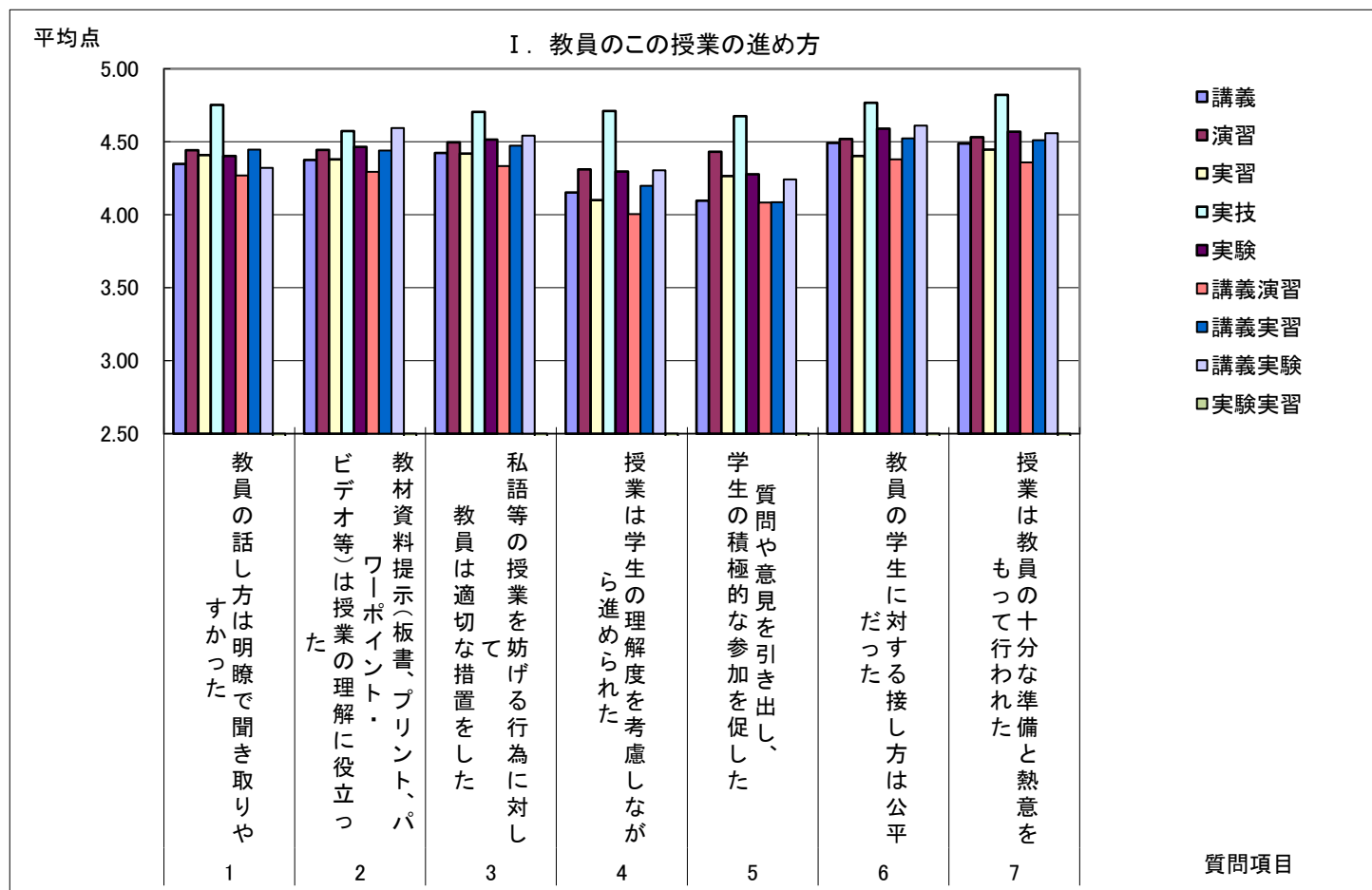
	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
履修者数	40,534	15,774	1,876	782	788	1,912	578	65	－
回答者数	29,820	12,907	1,694	596	725	1,388	437	60	－
回答率(%)	73.57	81.82	90.30	76.21	92.01	72.59	75.61	92.31	－

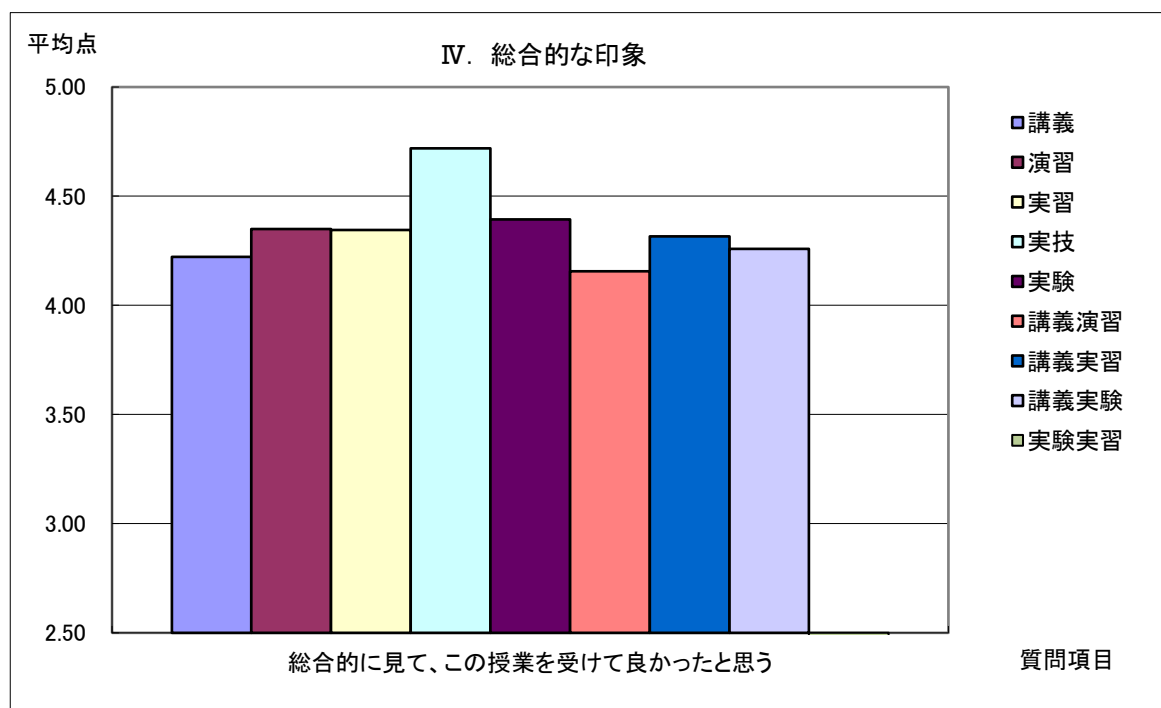
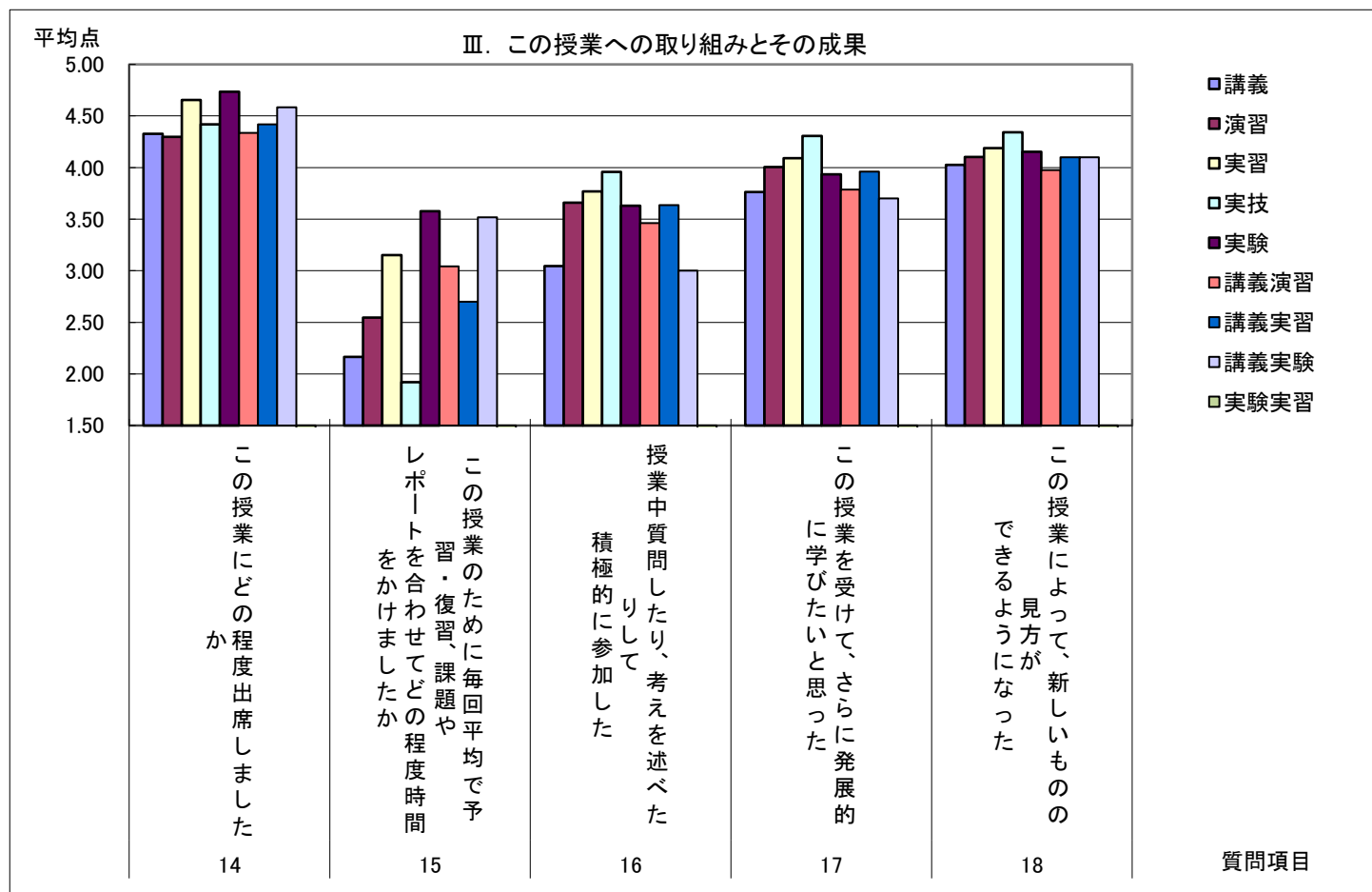
I. 教員のこの授業の進め方について		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.35	4.44	4.41	4.75	4.40	4.27	4.45	4.32	－
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.37	4.44	4.38	4.57	4.46	4.29	4.44	4.59	－
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.42	4.50	4.42	4.70	4.52	4.33	4.47	4.54	－
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.15	4.31	4.10	4.71	4.30	4.00	4.20	4.31	－
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.10	4.43	4.27	4.68	4.28	4.08	4.09	4.24	－
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.49	4.52	4.40	4.77	4.59	4.38	4.52	4.61	－
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.49	4.53	4.45	4.82	4.57	4.36	4.51	4.56	－

II. この授業の内容について		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.34	4.43	4.41	4.72	4.52	4.36	4.46	4.61	－
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.28	4.37	4.27	4.74	4.39	4.18	4.40	4.53	－
10	授業の内容は興味深いものだった	4.24	4.32	4.31	4.74	4.32	4.14	4.29	4.25	－
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.16	4.27	4.17	4.73	4.22	3.92	4.17	4.27	－
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.22	4.39	4.39	4.58	4.25	4.20	4.29	4.17	－
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.21	4.27	4.23	4.62	4.25	4.10	4.24	4.30	－

III. この授業への取り組みとその成果について		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.33	4.30	4.65	4.42	4.74	4.34	4.42	4.58	－
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.16	2.55	3.15	1.92	3.58	3.04	2.70	3.52	－
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.05	3.66	3.77	3.96	3.63	3.46	3.64	3.00	－
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.76	4.00	4.09	4.31	3.93	3.79	3.96	3.70	－
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.03	4.10	4.19	4.34	4.15	3.98	4.10	4.10	－

IV. 総合的な印象		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.22	4.35	4.35	4.72	4.39	4.16	4.32	4.26	－





2019年度前期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)大学

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
履修者数	1,891	20,057	21,825	14,167
回答者数	1,622	17,170	17,534	10,775
回答率(%)	85.77	85.61	80.34	76.06

I. 教員のこの授業の進め方について

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
1 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.58	4.44	4.25	4.22
2 教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.53	4.44	4.31	4.30
3 私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.63	4.52	4.34	4.28
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.49	4.30	4.04	4.00
5 質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.60	4.36	4.02	3.92
6 教員の学生に対する接し方は公平だった	4.65	4.57	4.44	4.43
7 授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.66	4.57	4.42	4.41

II. この授業の内容について

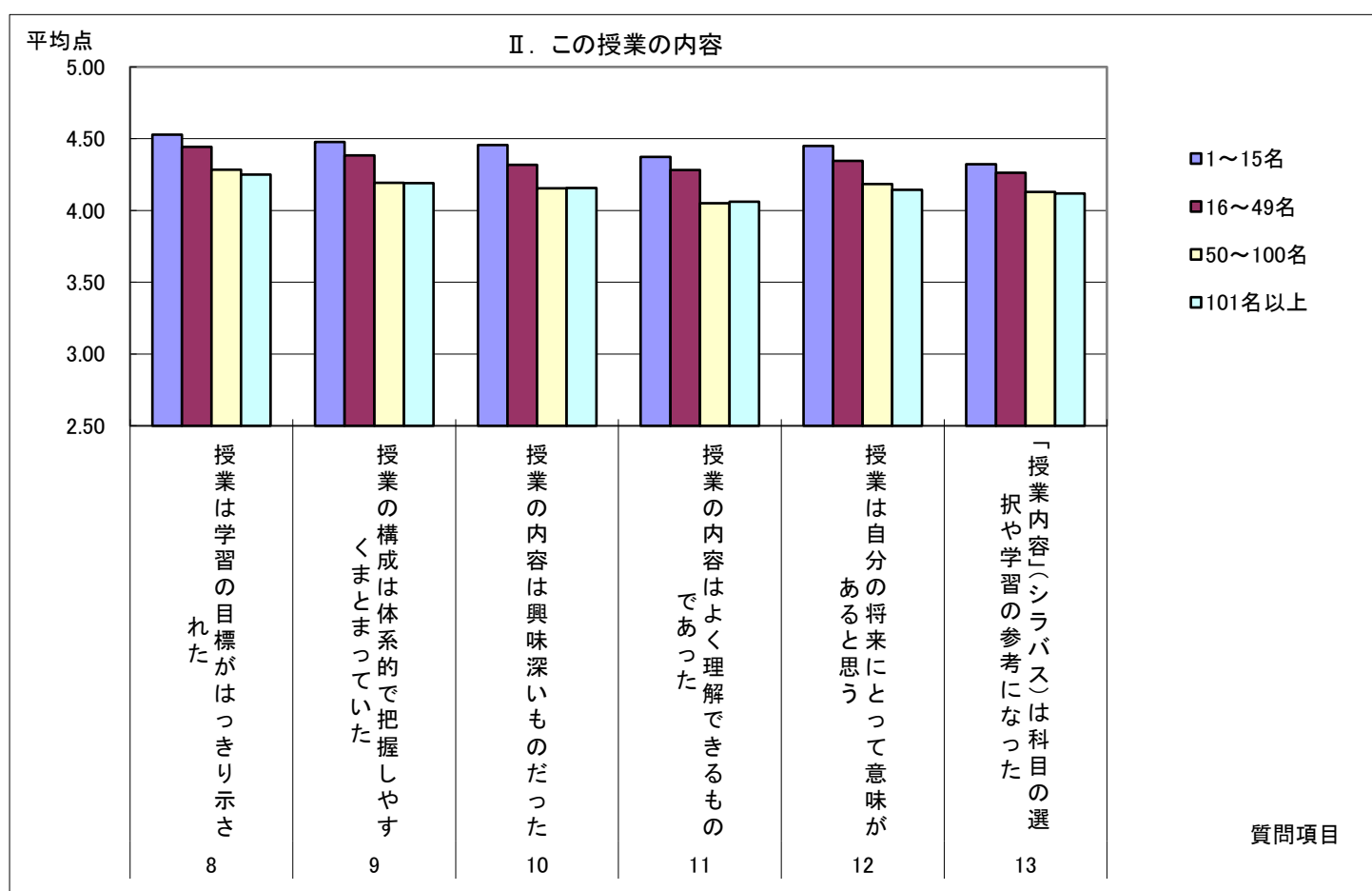
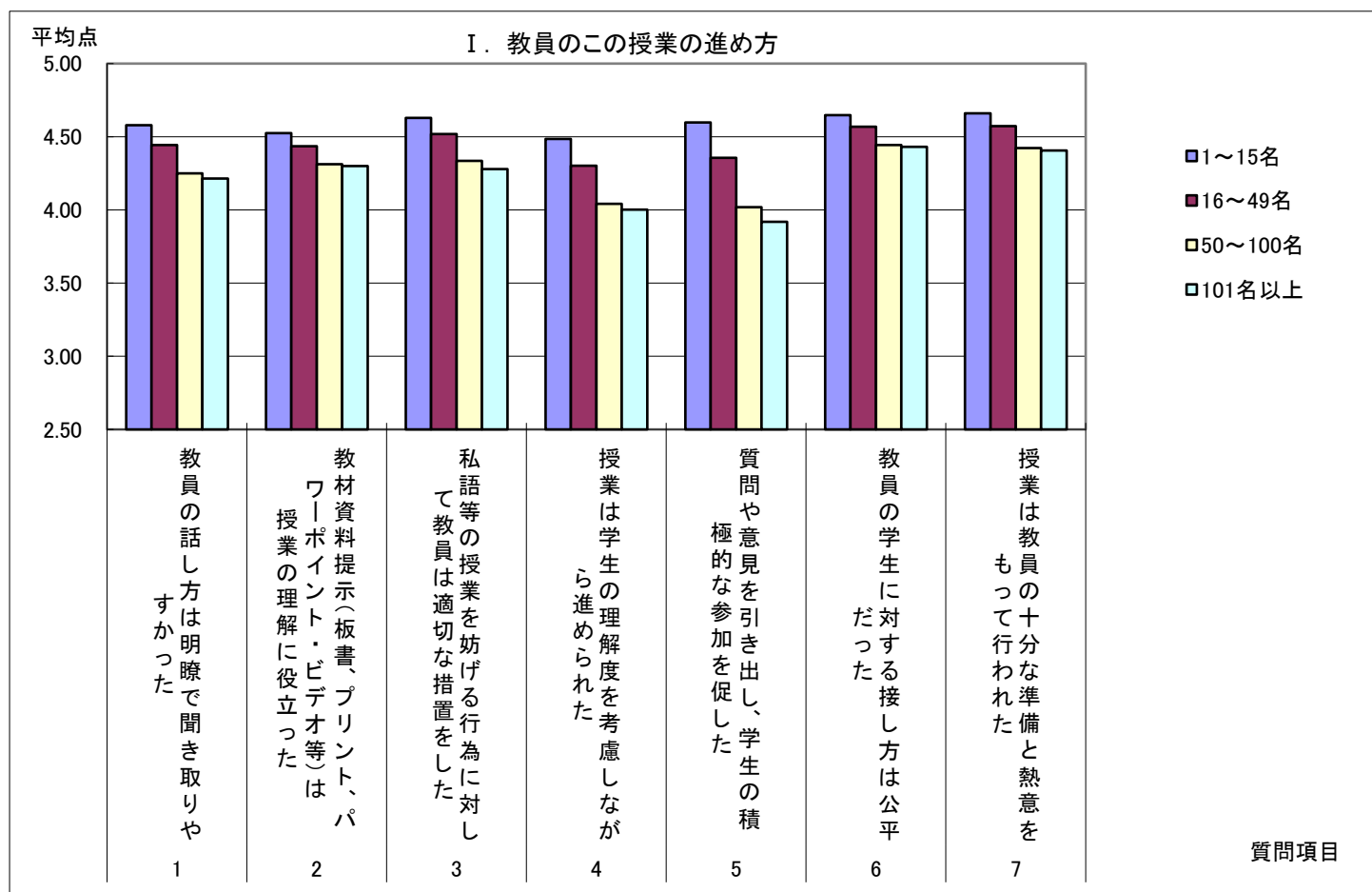
	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
8 授業は学習の目標がはっきり示された	4.53	4.44	4.28	4.25
9 授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.48	4.38	4.19	4.19
10 授業の内容は興味深いものだった	4.46	4.32	4.16	4.16
11 授業の内容はよく理解できるものであった	4.37	4.28	4.05	4.06
12 授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.45	4.34	4.18	4.14
13 「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.32	4.26	4.13	4.12

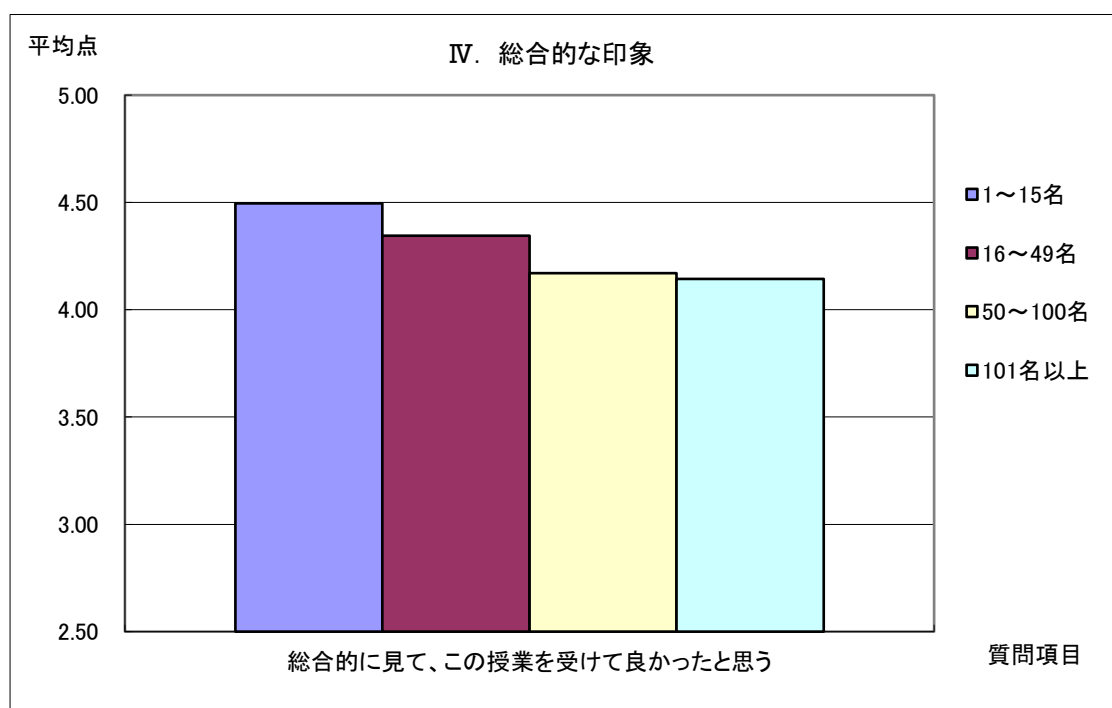
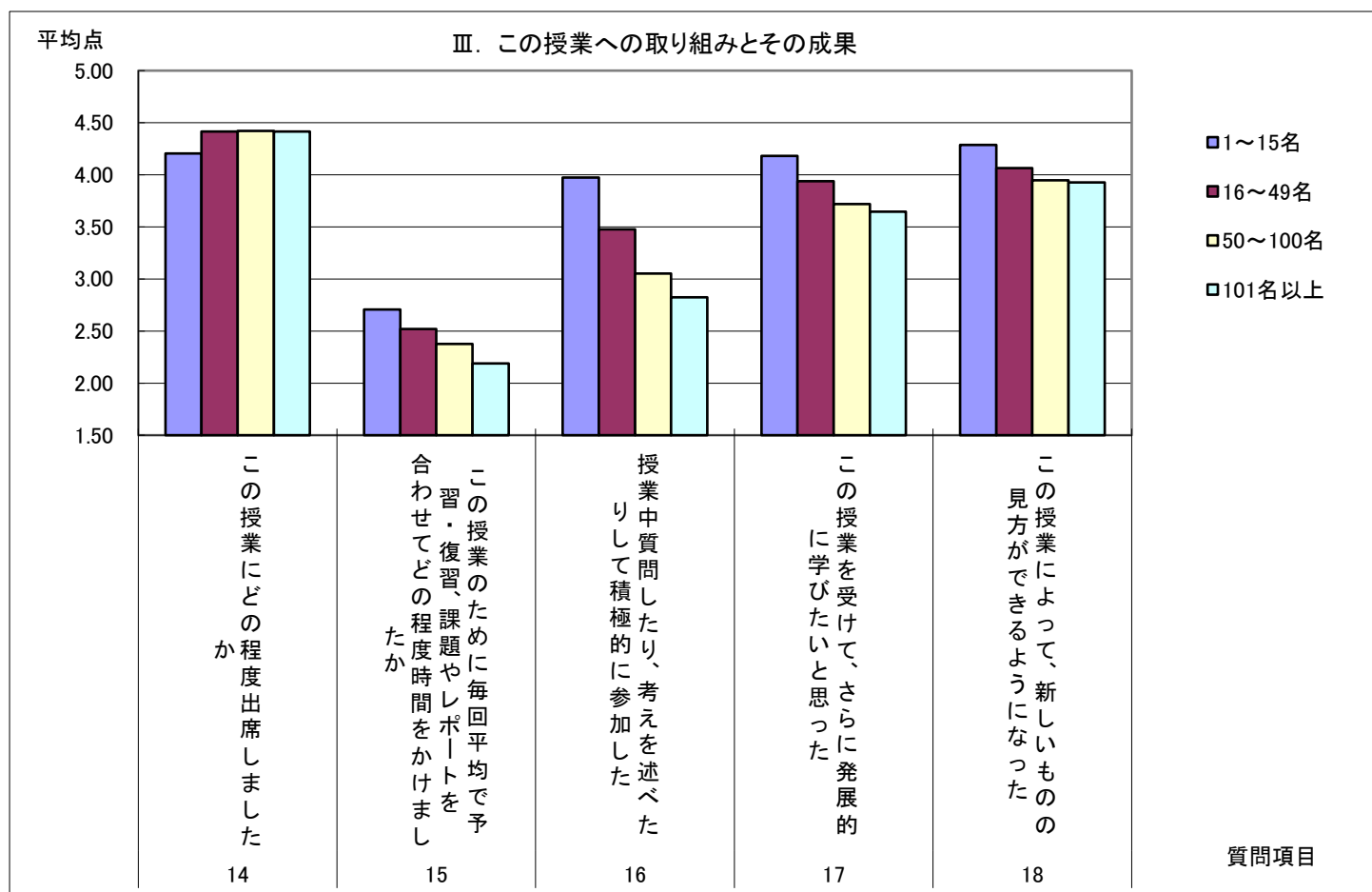
III. この授業への取り組みとその成果について

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
14 この授業にどの程度出席しましたか	4.21	4.41	4.42	4.42
15 この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.71	2.52	2.38	2.19
16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.97	3.48	3.05	2.82
17 この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.18	3.94	3.72	3.64
18 この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.29	4.06	3.95	3.93

IV. 総合的な印象

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
19 総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.50	4.35	4.17	4.14





2019年度後期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)大学

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
履修者数	1,893	20,169	23,124	10,232
回答者数	1,519	16,097	16,988	7,433
回答率(%)	80.24	79.81	73.46	72.64

I. 教員のこの授業の進め方について

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
1 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.61	4.42	4.35	4.28
2 教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.59	4.41	4.37	4.37
3 私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.67	4.50	4.40	4.37
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.51	4.27	4.14	4.09
5 質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.60	4.35	4.12	3.98
6 教員の学生に対する接し方は公平だった	4.66	4.51	4.48	4.46
7 授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.68	4.52	4.48	4.47

II. この授業の内容について

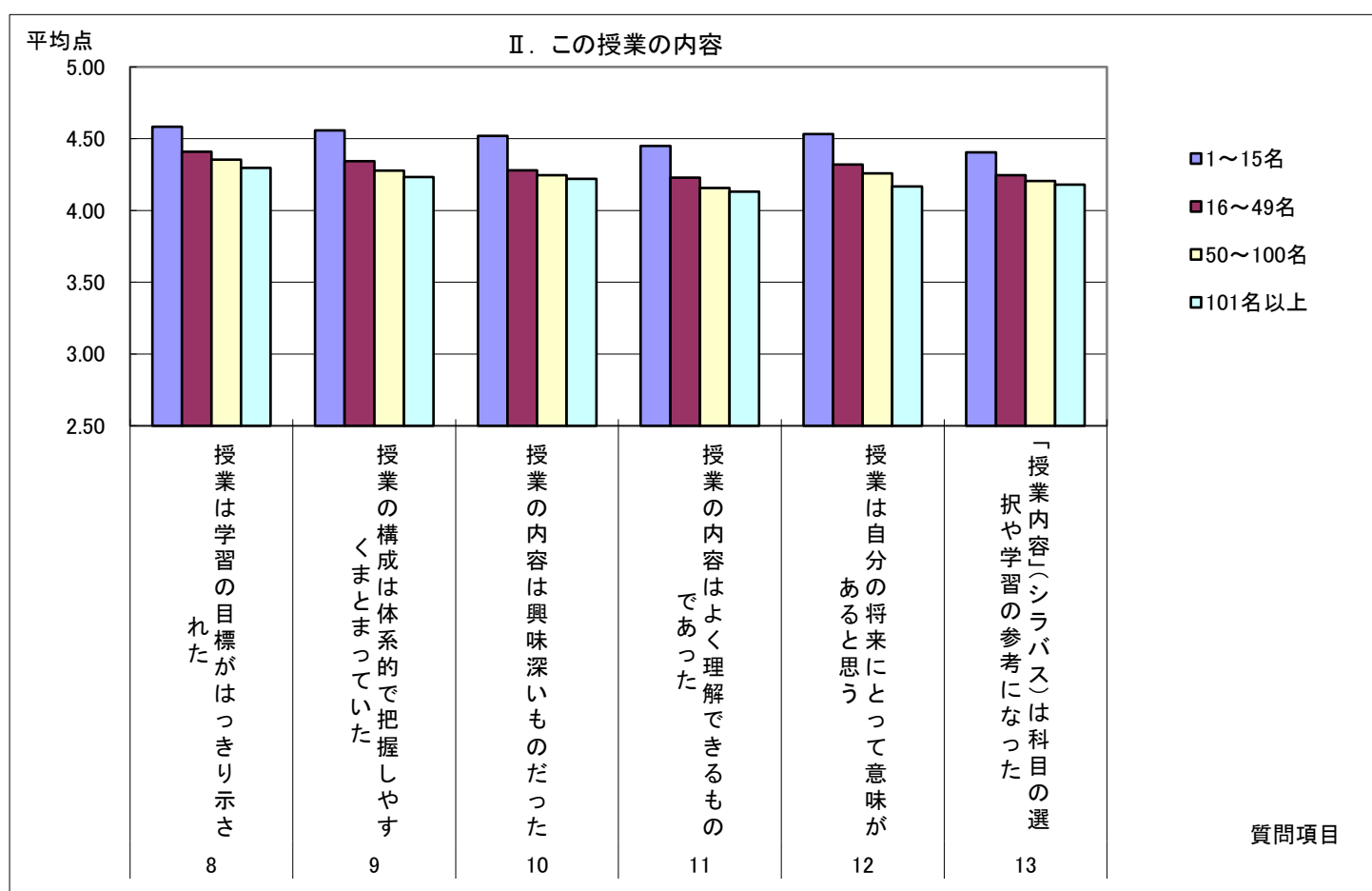
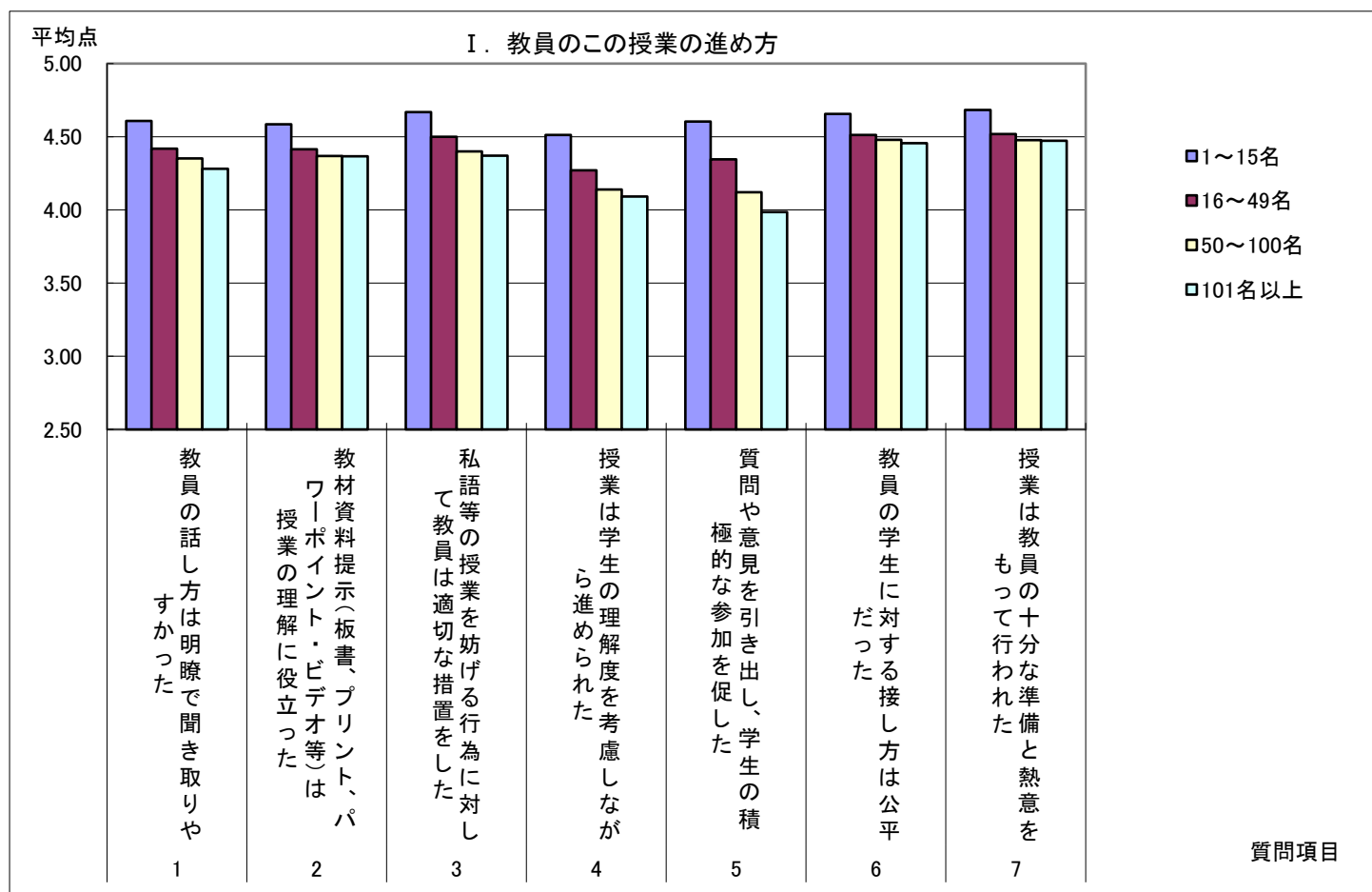
	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
8 授業は学習の目標がはっきり示された	4.58	4.41	4.35	4.30
9 授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.56	4.34	4.28	4.23
10 授業の内容は興味深いものだった	4.52	4.28	4.25	4.22
11 授業の内容はよく理解できるものであった	4.45	4.23	4.16	4.13
12 授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.53	4.32	4.26	4.17
13 「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.40	4.25	4.20	4.18

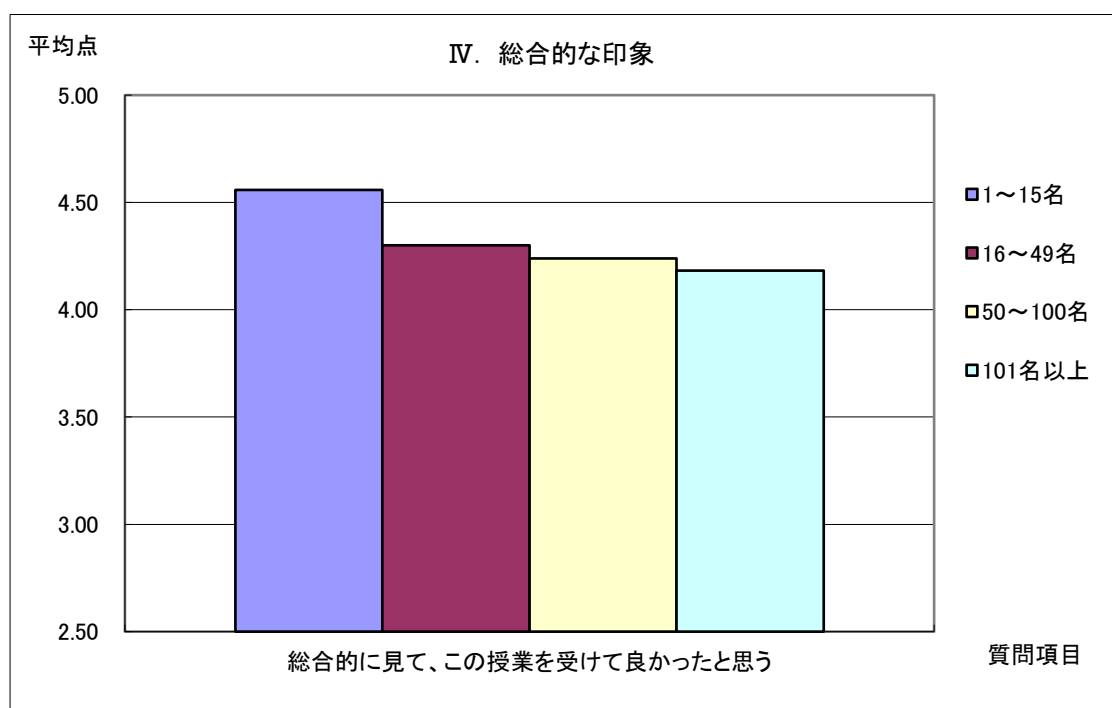
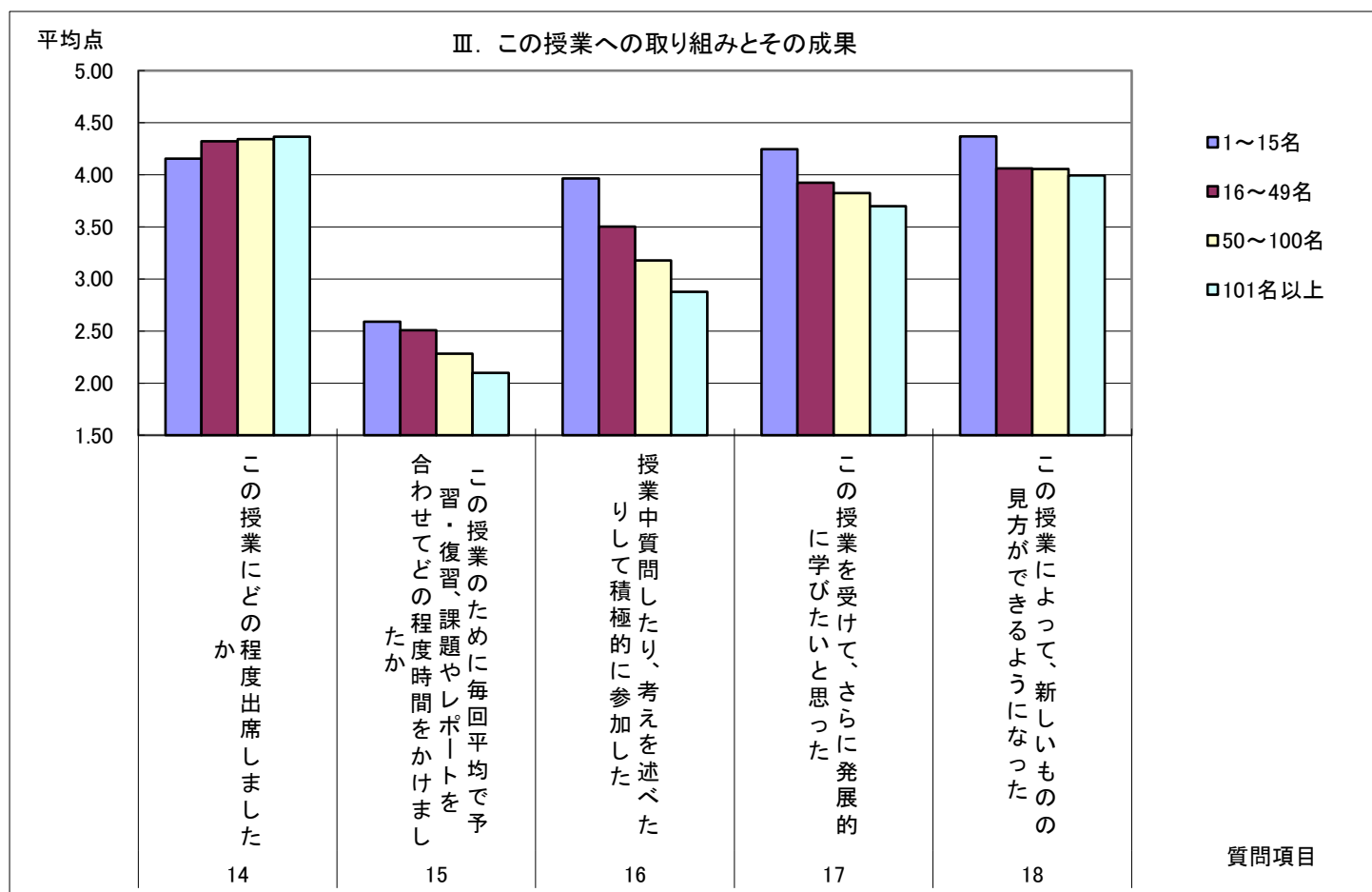
III. この授業への取り組みとその成果について

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
14 この授業にどの程度出席しましたか	4.15	4.32	4.34	4.37
15 この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.59	2.51	2.28	2.10
16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.96	3.50	3.18	2.88
17 この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.25	3.92	3.82	3.70
18 この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.37	4.06	4.05	3.99

IV. 総合的な印象

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
19 総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.56	4.30	4.24	4.18





2019年度前期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)短大

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
履修者数	78	4,972	1,396	685
回答者数	67	4,360	1,186	464
回答率(%)	85.90	87.69	84.96	67.74

I. 教員のこの授業の進め方について

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
1 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.70	4.34	4.36	4.32
2 教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.70	4.36	4.36	4.41
3 私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.87	4.45	4.40	4.21
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.75	4.15	4.08	4.05
5 質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.64	4.21	3.86	3.95
6 教員の学生に対する接し方は公平だった	4.75	4.54	4.54	4.44
7 授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.81	4.49	4.45	4.50

II. この授業の内容について

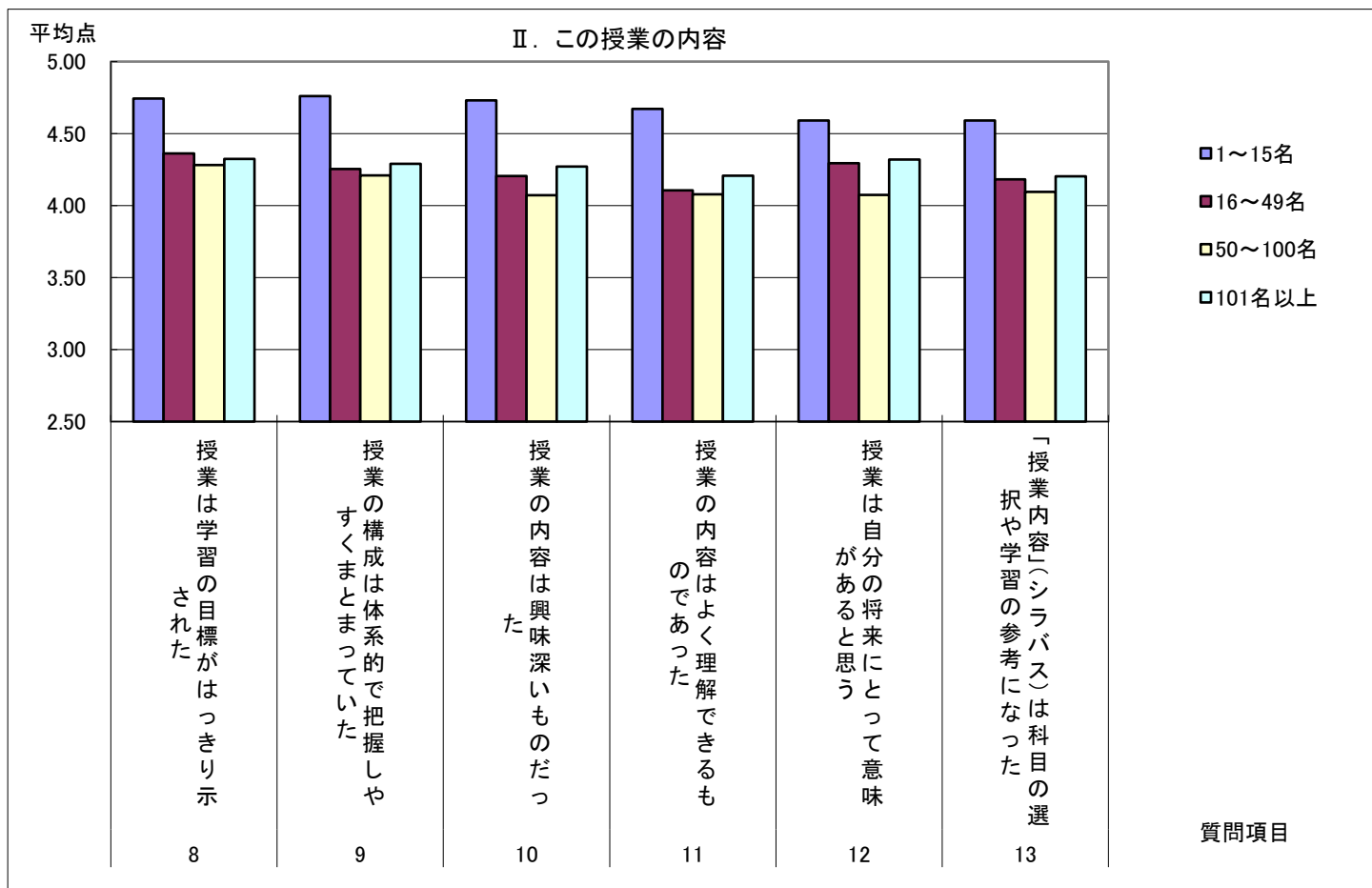
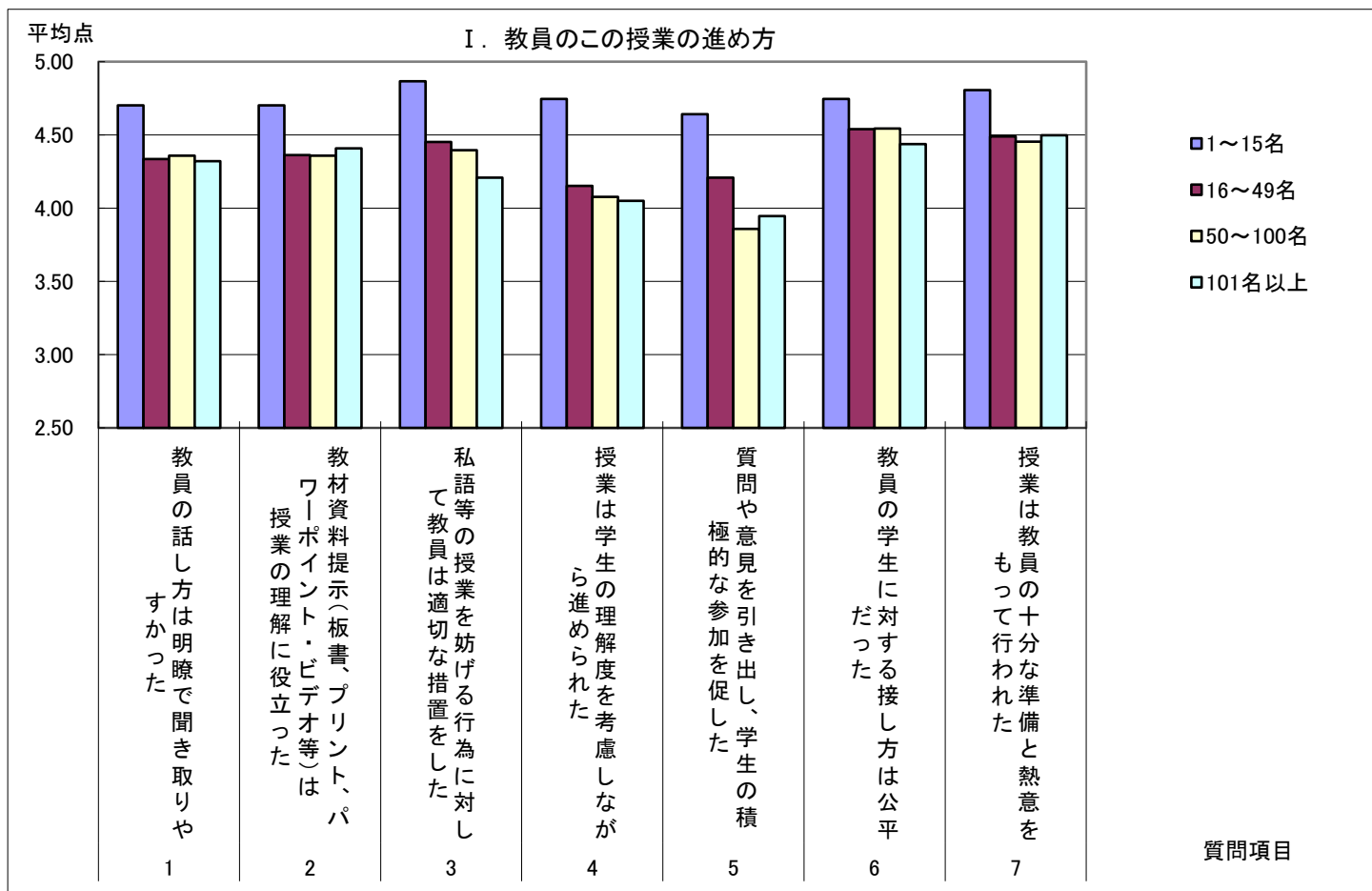
	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
8 授業は学習の目標がはっきり示された	4.74	4.36	4.28	4.32
9 授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.76	4.25	4.21	4.29
10 授業の内容は興味深いものだった	4.73	4.21	4.07	4.27
11 授業の内容はよく理解できるものであった	4.67	4.11	4.08	4.21
12 授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.59	4.29	4.07	4.32
13 「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.59	4.18	4.09	4.20

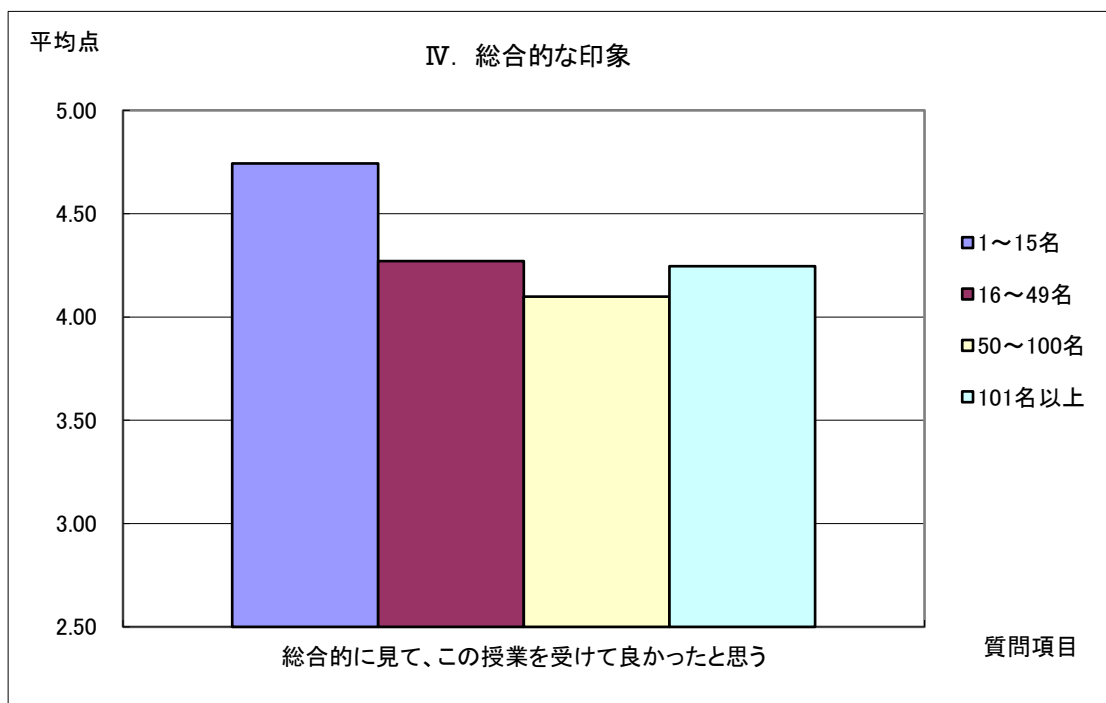
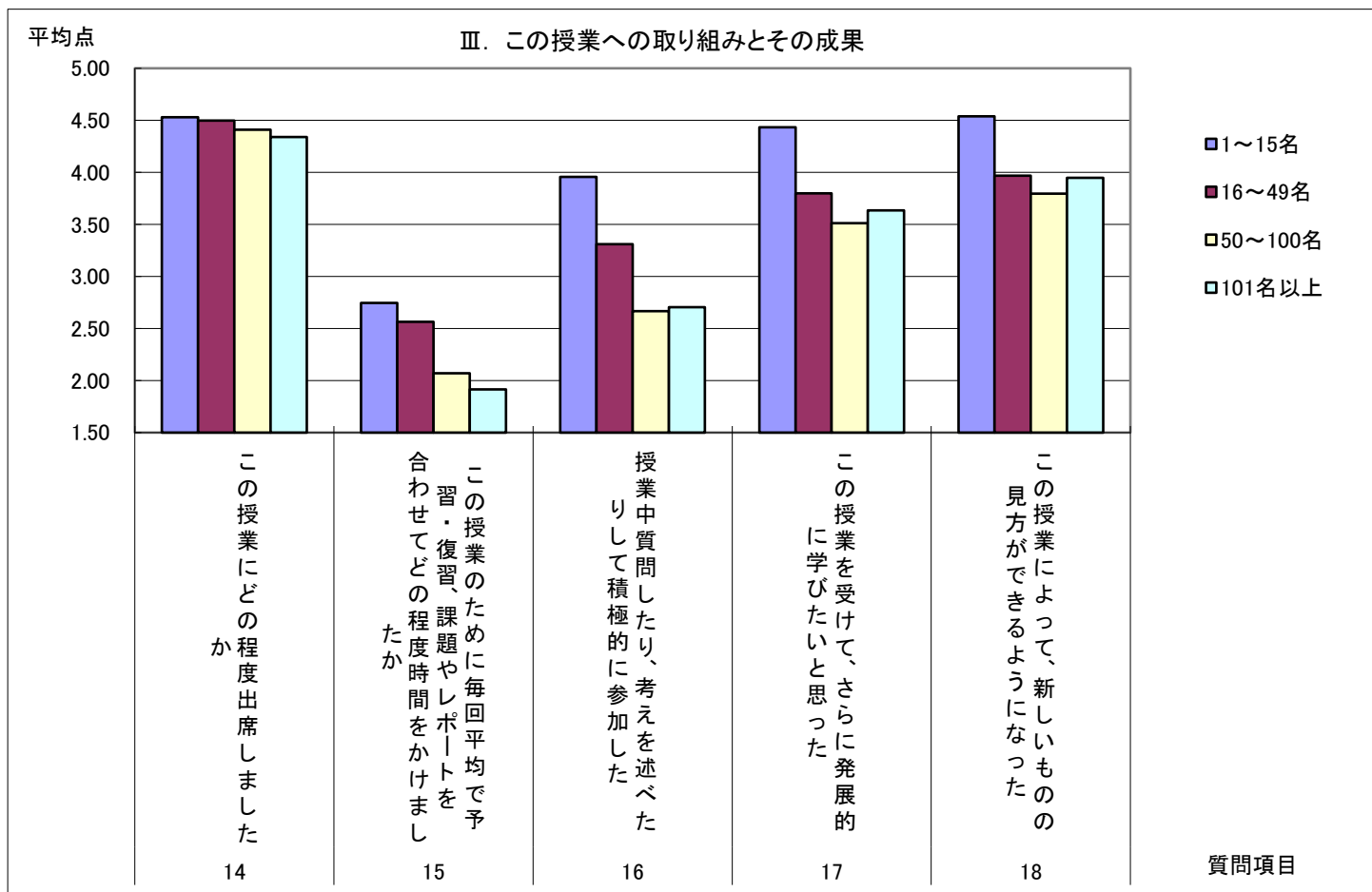
III. この授業への取り組みとその成果について

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
14 この授業にどの程度出席しましたか	4.53	4.50	4.41	4.34
15 この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.75	2.57	2.07	1.92
16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.96	3.31	2.67	2.70
17 この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.43	3.80	3.51	3.63
18 この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.54	3.97	3.80	3.95

IV. 総合的な印象

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
19 総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.74	4.27	4.10	4.25





2019年度後期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)短大

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
履修者数	159	4,791	1,468	473
回答者数	118	4,010	1,156	306
回答率(%)	74.21	83.70	78.75	64.69

I. 教員のこの授業の進め方について

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
1 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.70	4.46	4.44	3.94
2 教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.69	4.43	4.43	3.88
3 私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.82	4.48	4.47	4.26
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.56	4.26	4.17	3.70
5 質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.61	4.30	4.05	3.56
6 教員の学生に対する接し方は公平だった	4.72	4.54	4.55	4.26
7 授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.76	4.53	4.52	4.10

II. この授業の内容について

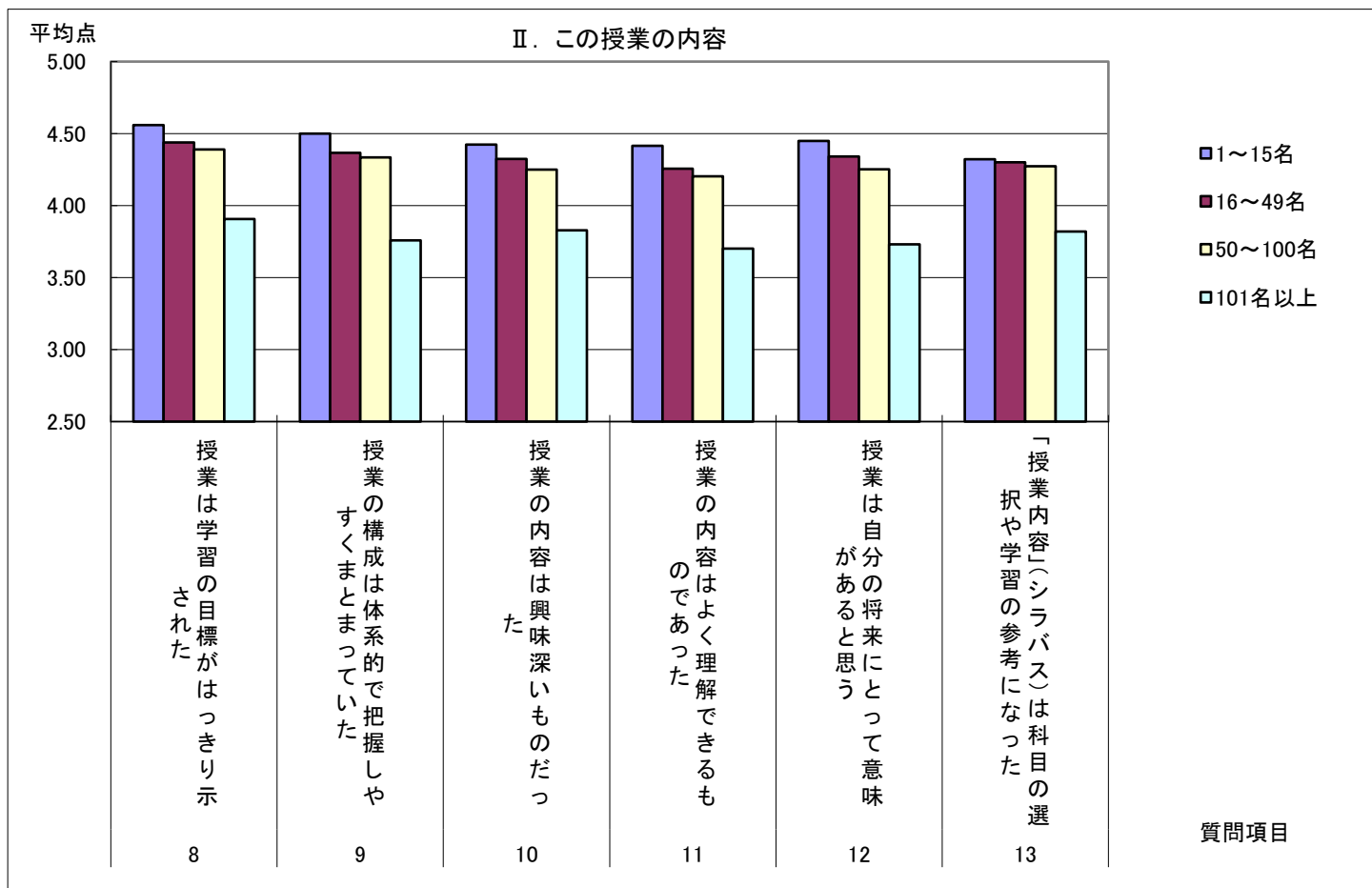
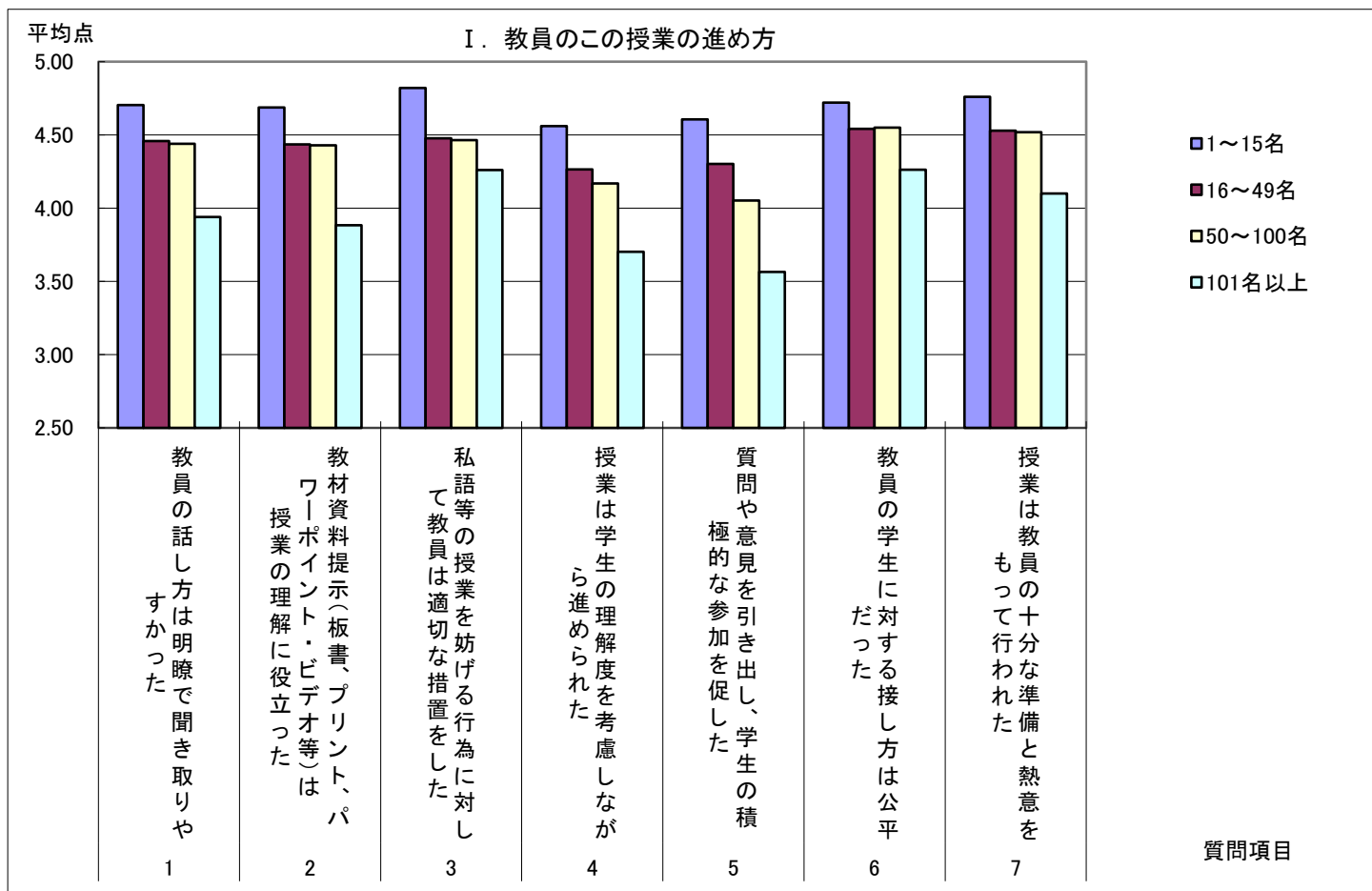
	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
8 授業は学習の目標がはっきり示された	4.56	4.44	4.39	3.91
9 授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.50	4.37	4.33	3.76
10 授業の内容は興味深いものだった	4.42	4.32	4.25	3.83
11 授業の内容はよく理解できるものであった	4.42	4.26	4.20	3.70
12 授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.45	4.34	4.25	3.73
13 「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.32	4.30	4.27	3.82

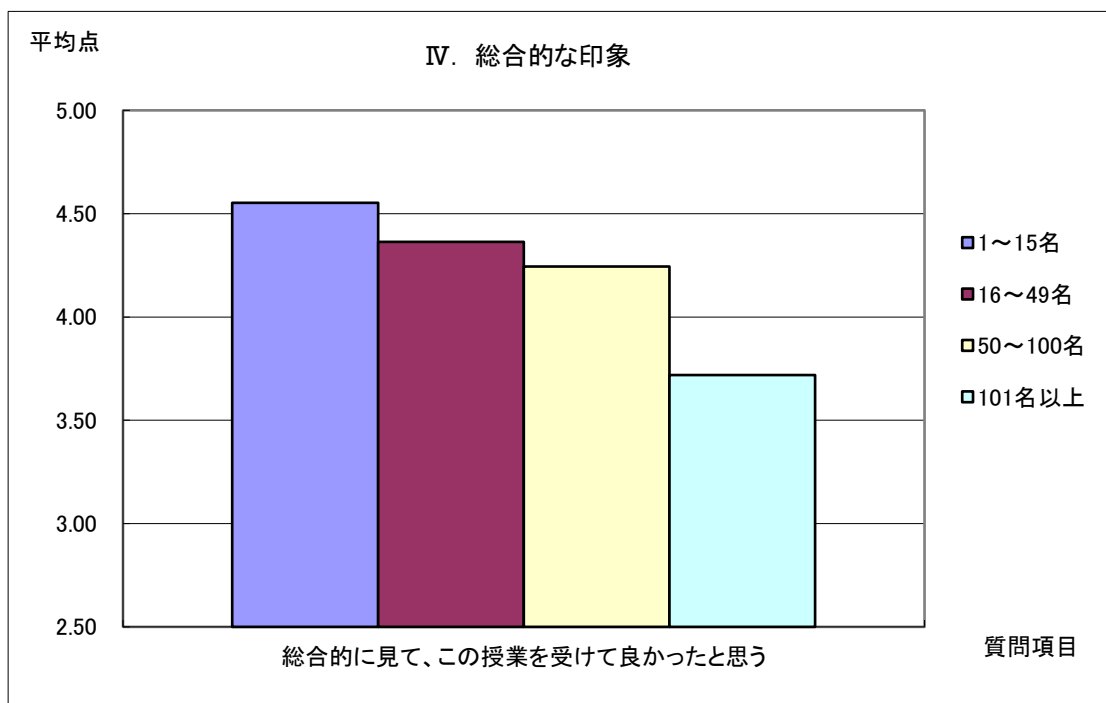
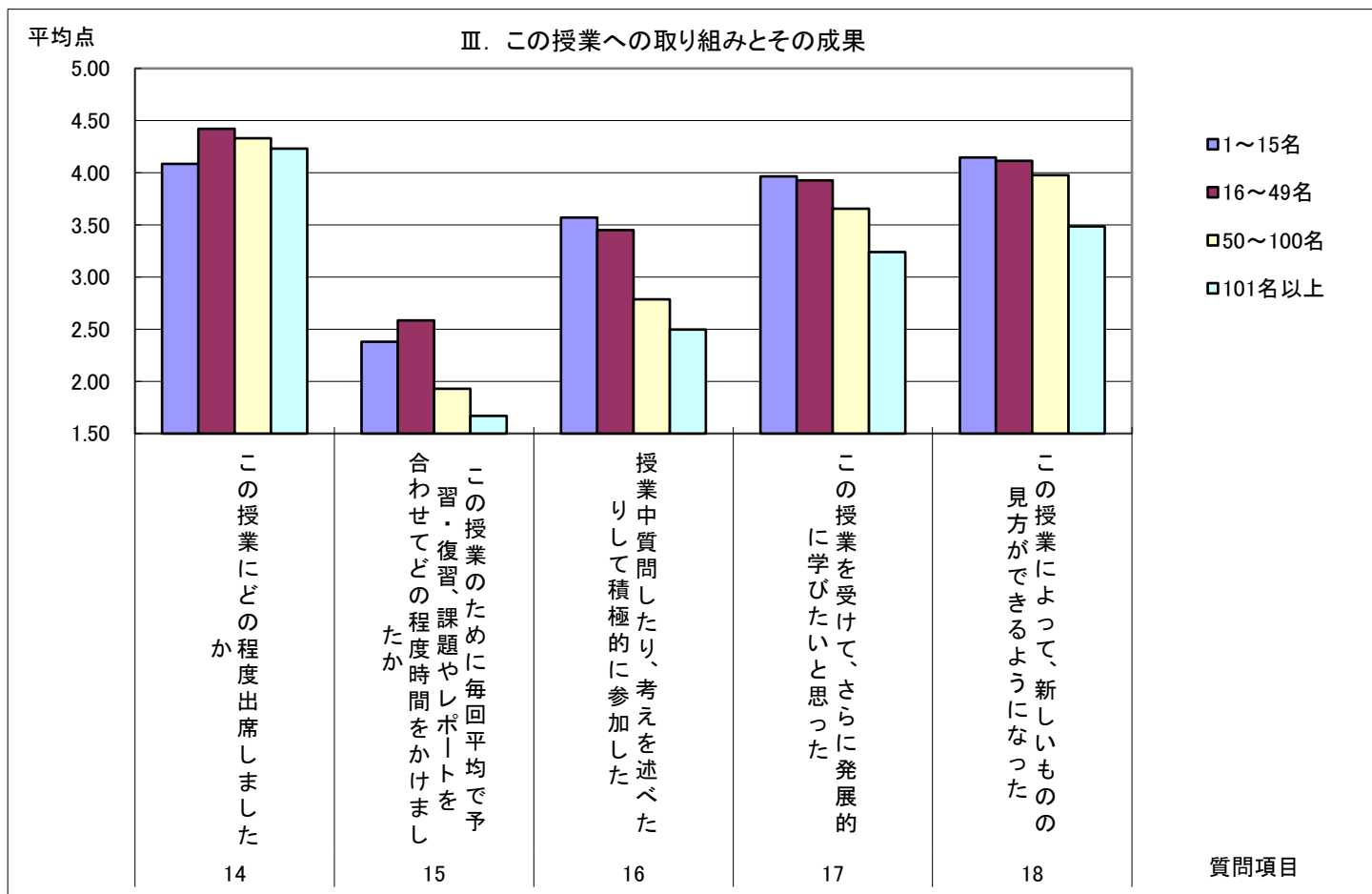
III. この授業への取り組みとその成果について

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
14 この授業にどの程度出席しましたか	4.09	4.42	4.33	4.23
15 この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.38	2.59	1.93	1.67
16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.57	3.45	2.79	2.50
17 この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.97	3.93	3.66	3.24
18 この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.15	4.11	3.98	3.49

IV. 総合的な印象

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
19 総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.55	4.36	4.24	3.72





2019年度前期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)大学・短大合計

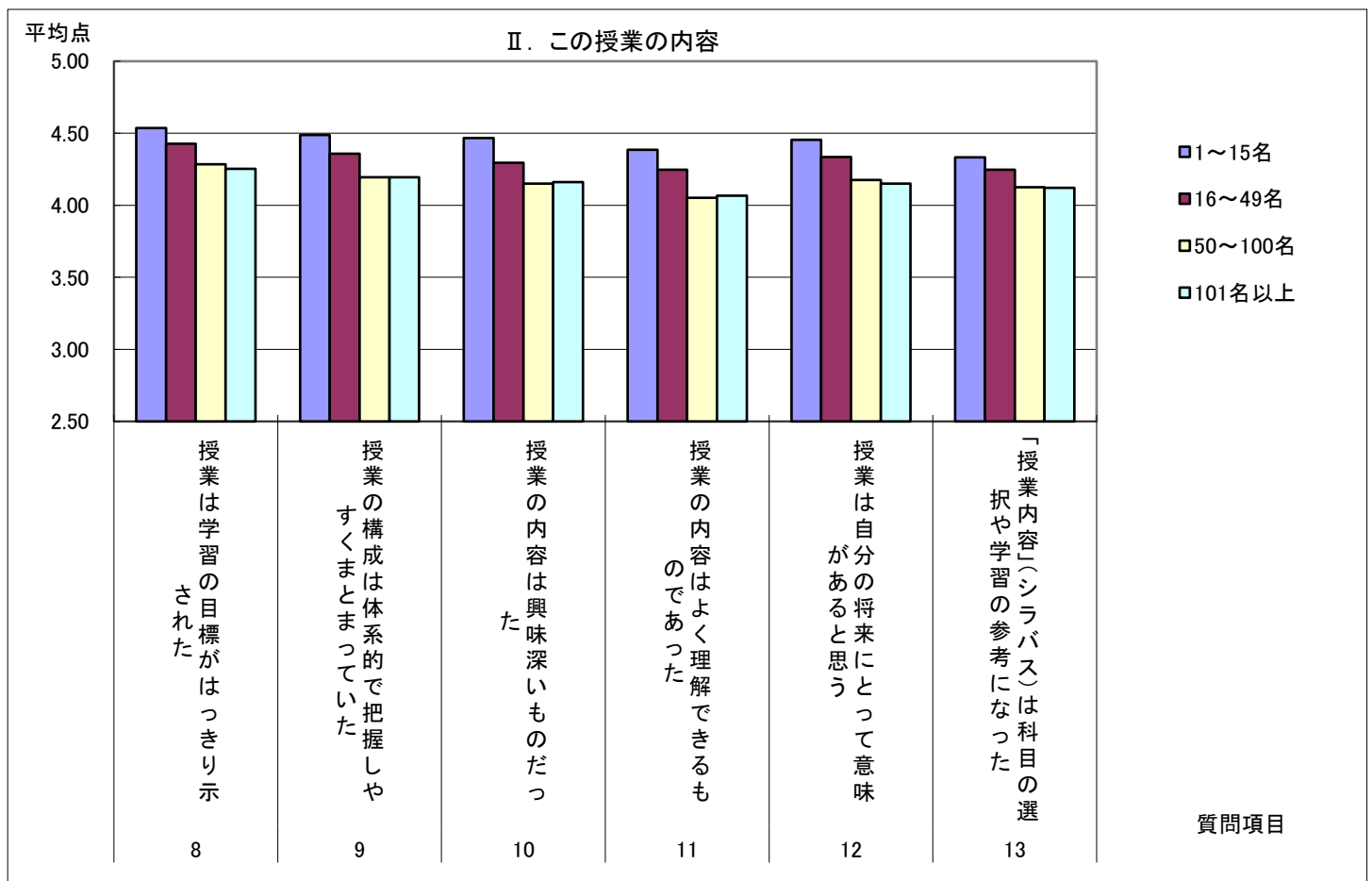
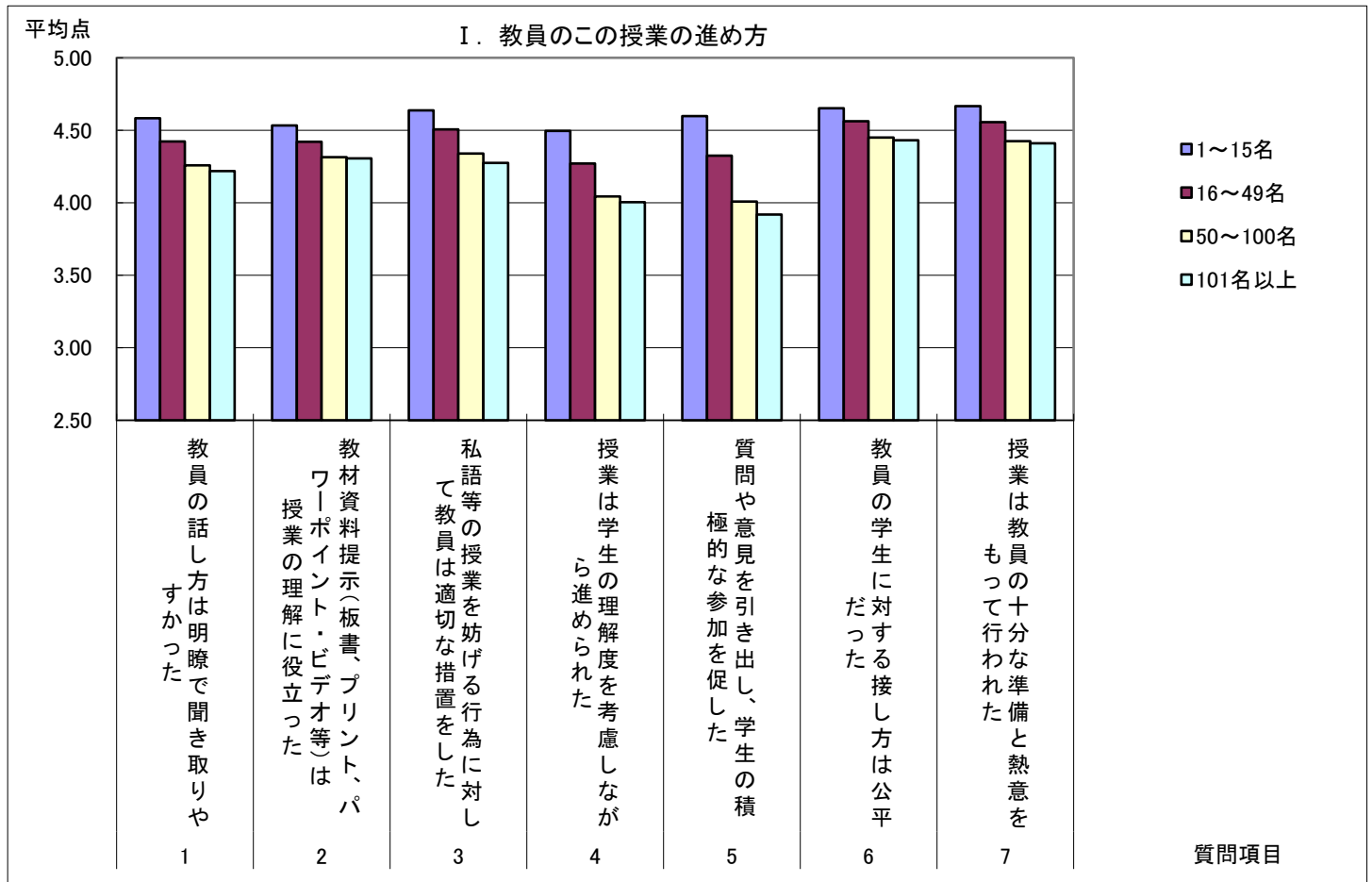
	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
履修者数	1,969	25,029	23,221	14,852
回答者数	1,689	21,530	18,720	11,239
回答率(%)	85.78	86.02	80.62	75.67

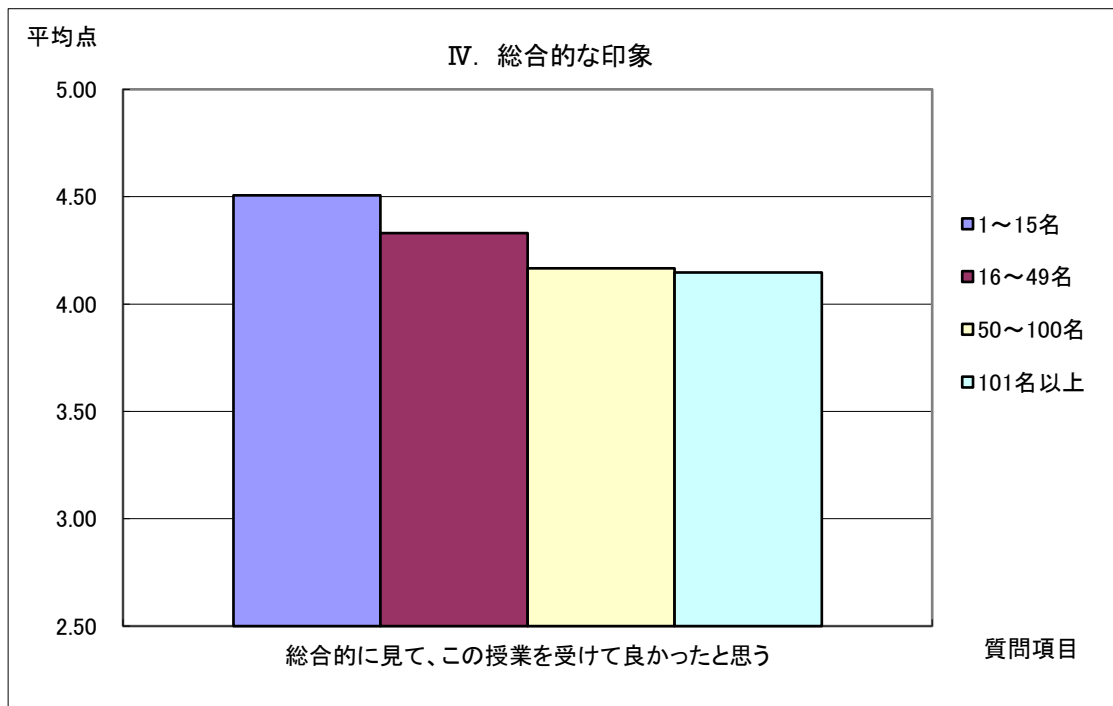
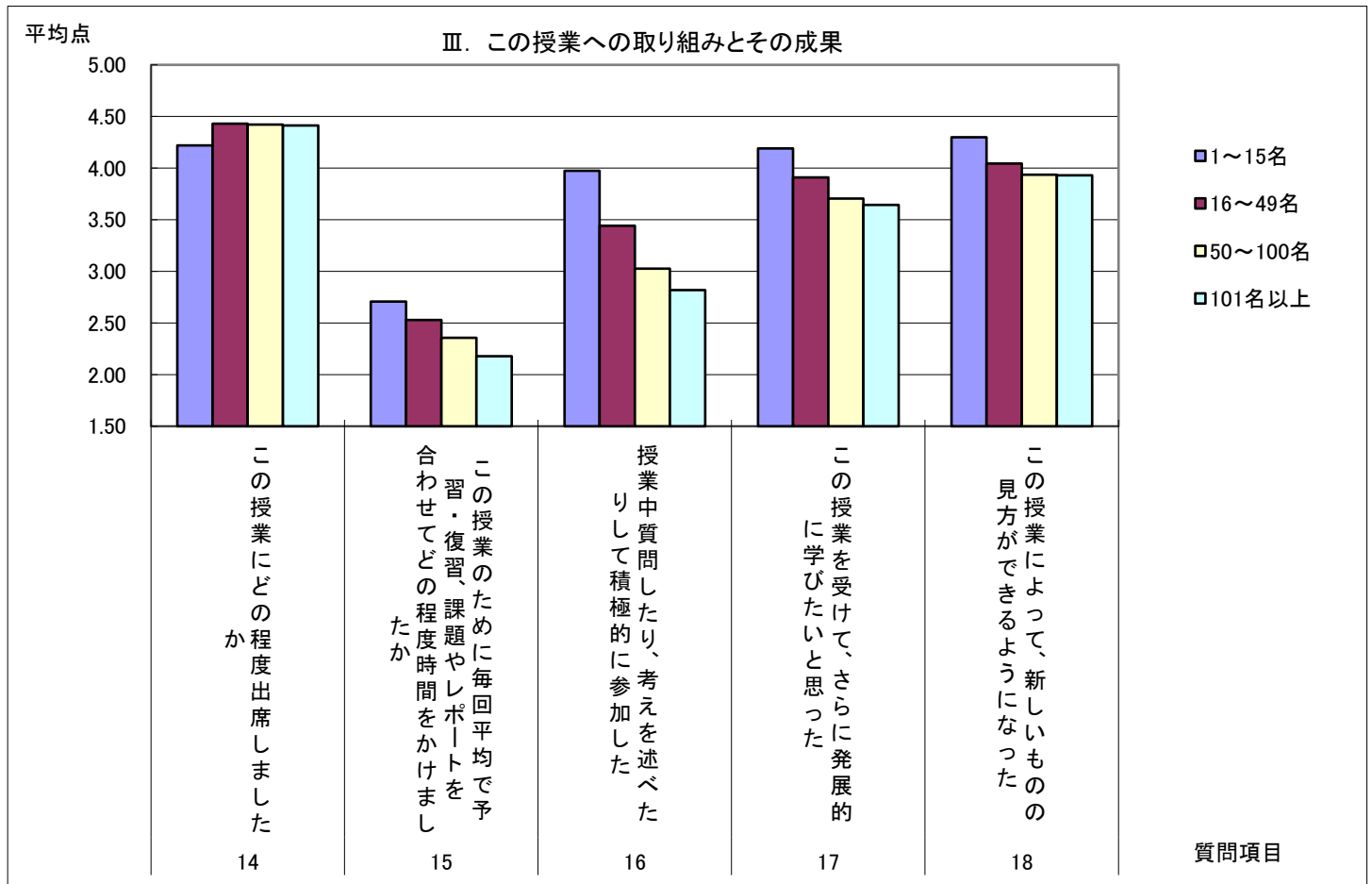
I. 教員のこの授業の進め方について		1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.58	4.42	4.26	4.22
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.53	4.42	4.32	4.31
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.64	4.51	4.34	4.28
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.50	4.27	4.04	4.00
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.60	4.33	4.01	3.92
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.65	4.56	4.45	4.43
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.67	4.56	4.42	4.41

II. この授業の内容について		1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.54	4.43	4.28	4.25
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.49	4.36	4.19	4.19
10	授業の内容は興味深いものだった	4.47	4.30	4.15	4.16
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.39	4.25	4.05	4.07
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.45	4.33	4.18	4.15
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.33	4.25	4.13	4.12

III. この授業への取り組みとその成果について		1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.22	4.43	4.42	4.41
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.71	2.53	2.36	2.18
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.97	3.44	3.03	2.82
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.19	3.91	3.70	3.64
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.30	4.04	3.94	3.93

IV. 総合的な印象		1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.51	4.33	4.17	4.15





2019年度後期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)大学・短大合計

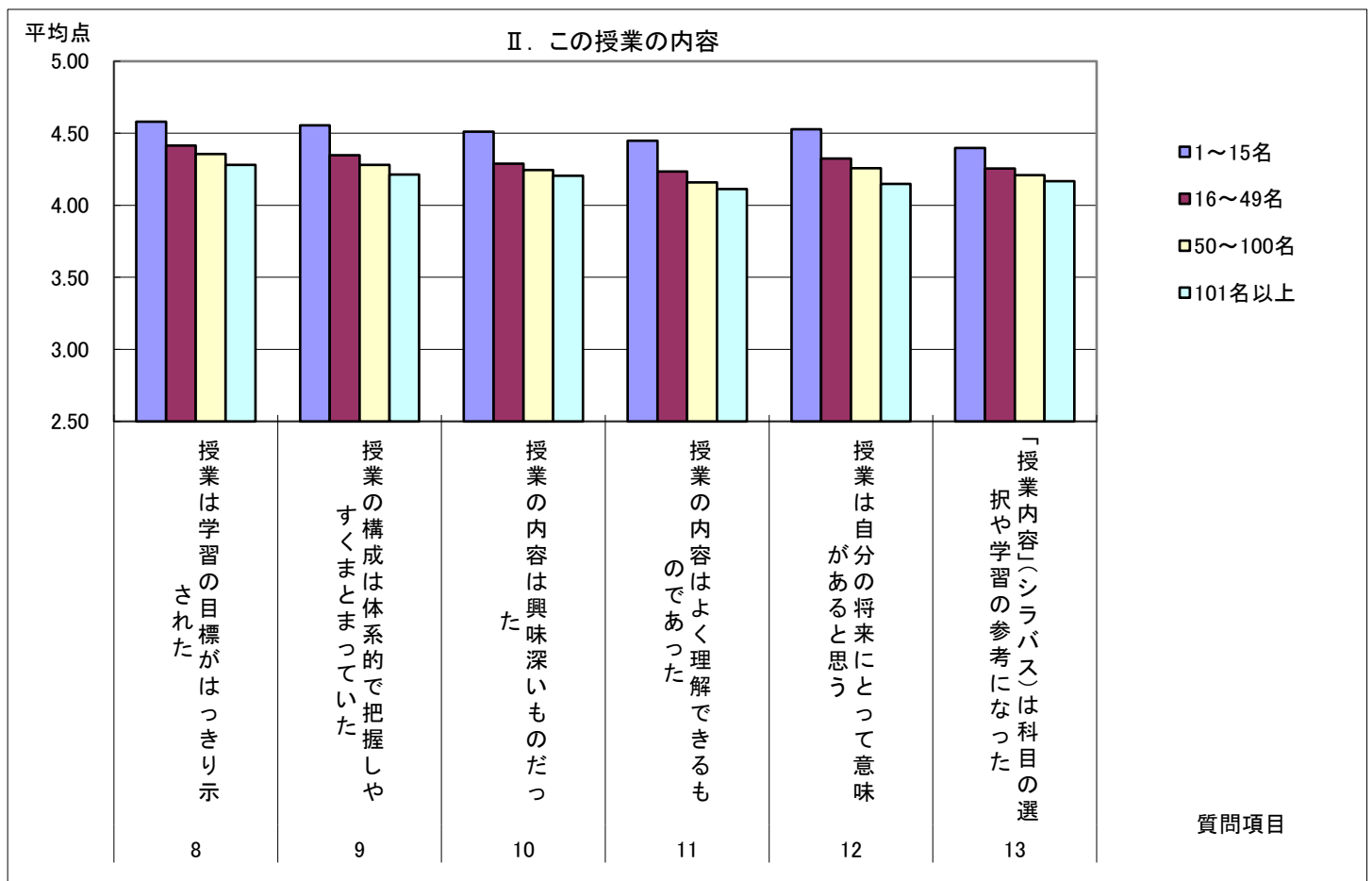
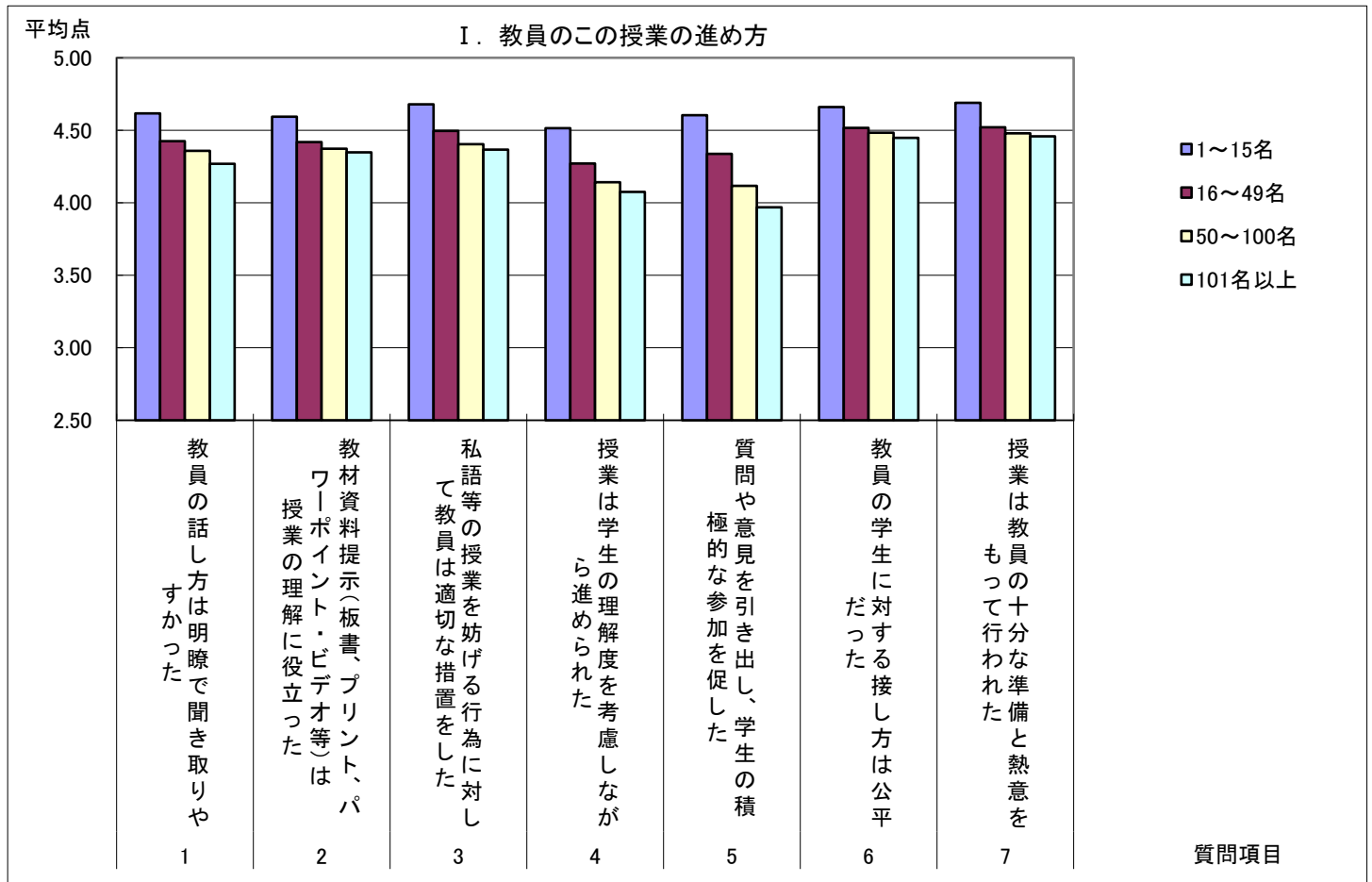
	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
履修者数	2,052	24,960	24,592	10,705
回答者数	1,637	20,107	18,144	7,739
回答率(%)	79.78	80.56	73.78	72.29

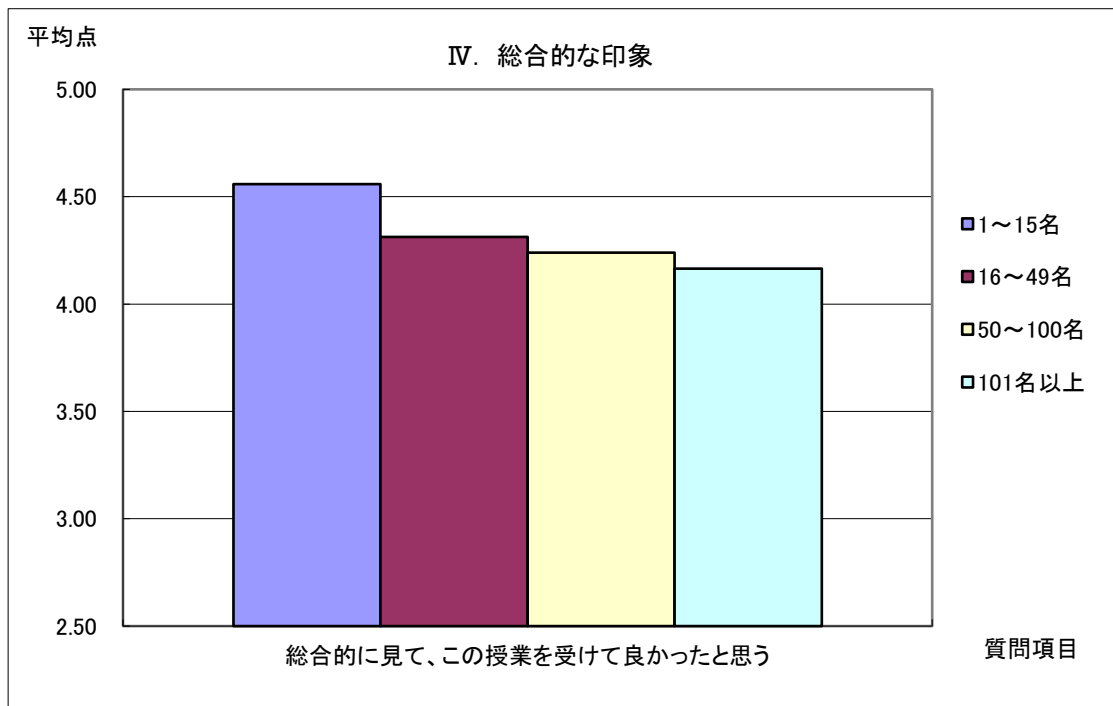
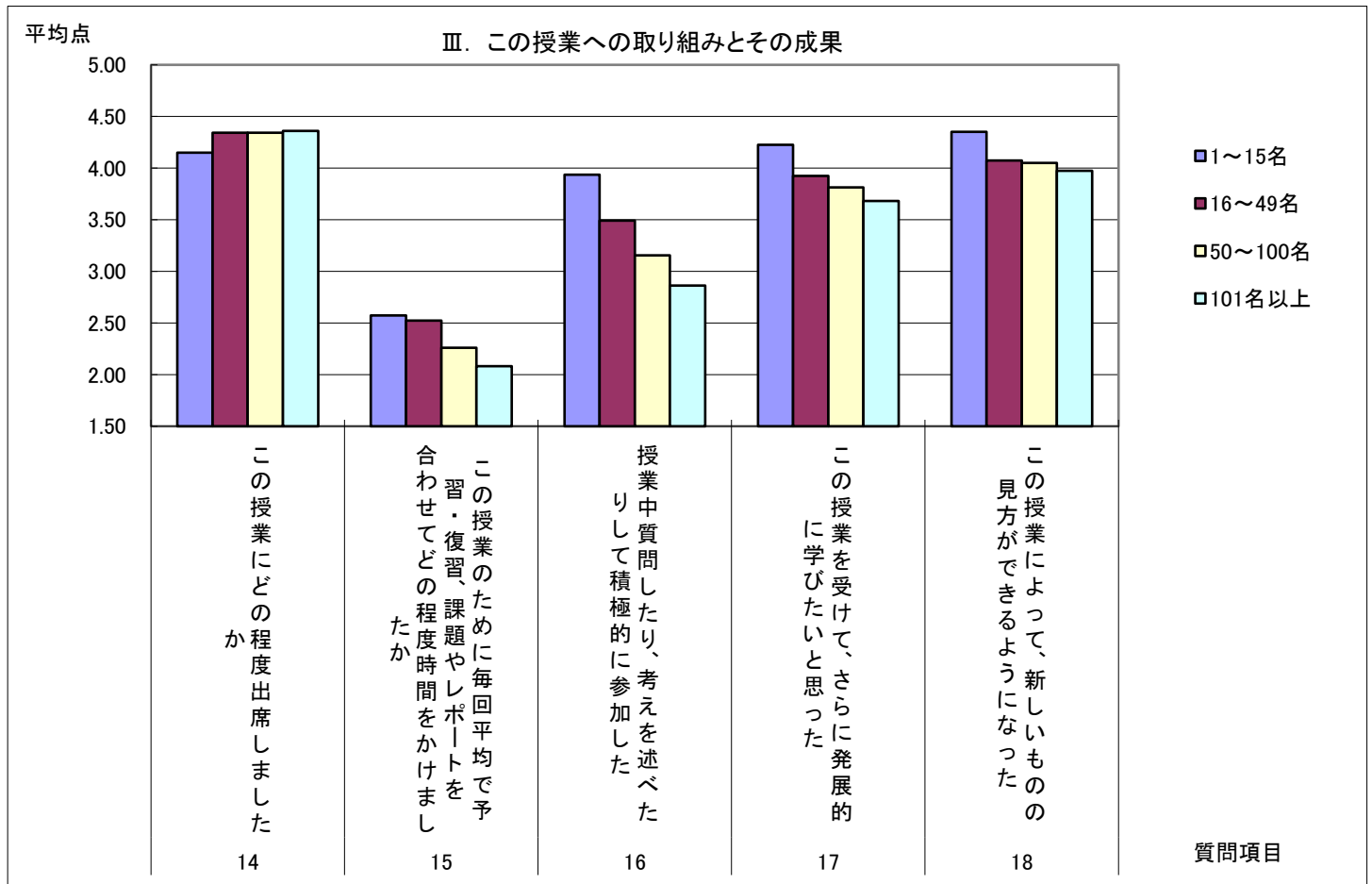
I. 教員のこの授業の進め方について		1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.62	4.43	4.36	4.27
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.59	4.42	4.37	4.35
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.68	4.50	4.40	4.37
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.52	4.27	4.14	4.08
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.60	4.34	4.12	3.97
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.66	4.52	4.48	4.45
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.69	4.52	4.48	4.46

II. この授業の内容について		1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.58	4.41	4.36	4.28
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.55	4.35	4.28	4.21
10	授業の内容は興味深いものだった	4.51	4.29	4.25	4.21
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.45	4.23	4.16	4.11
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.53	4.32	4.26	4.15
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.40	4.26	4.21	4.17

III. この授業への取り組みとその成果について		1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.15	4.34	4.34	4.36
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.57	2.52	2.26	2.08
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.94	3.49	3.15	2.86
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.23	3.92	3.81	3.68
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.35	4.07	4.05	3.97

IV. 総合的な印象		1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.56	4.31	4.24	4.16





2019年度前期 授業に関するアンケート集計結果(専任・兼任別)

	専任(全体)	兼任(全体)	TEP(全体)	専任(大学)	兼任(大学)	専任(短大)	兼任(短大)
履修者数	35,816	28,645	610	31,645	25,685	4,171	2,960
回答者数	29,528	23,132	518	25,978	20,605	3,550	2,527
回答率(%)	82.44	80.75	84.92	82.09	80.22	85.11	85.37

I. 教員のこの授業の進め方について

	専任(全体)	兼任(全体)	TEP(全体)	専任(大学)	兼任(大学)	専任(短大)	兼任(短大)
1 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.38	4.26	4.46	4.37	4.26	4.39	4.28
2 教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.39	4.33	4.47	4.39	4.32	4.35	4.39
3 私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.42	4.38	4.61	4.41	4.37	4.42	4.43
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.17	4.10	4.41	4.17	4.10	4.16	4.11
5 質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.17	4.09	4.58	4.17	4.09	4.14	4.10
6 教員の学生に対する接し方は公平だった	4.51	4.49	4.63	4.50	4.48	4.55	4.51
7 授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.50	4.46	4.68	4.50	4.45	4.50	4.47

II. この授業の内容について

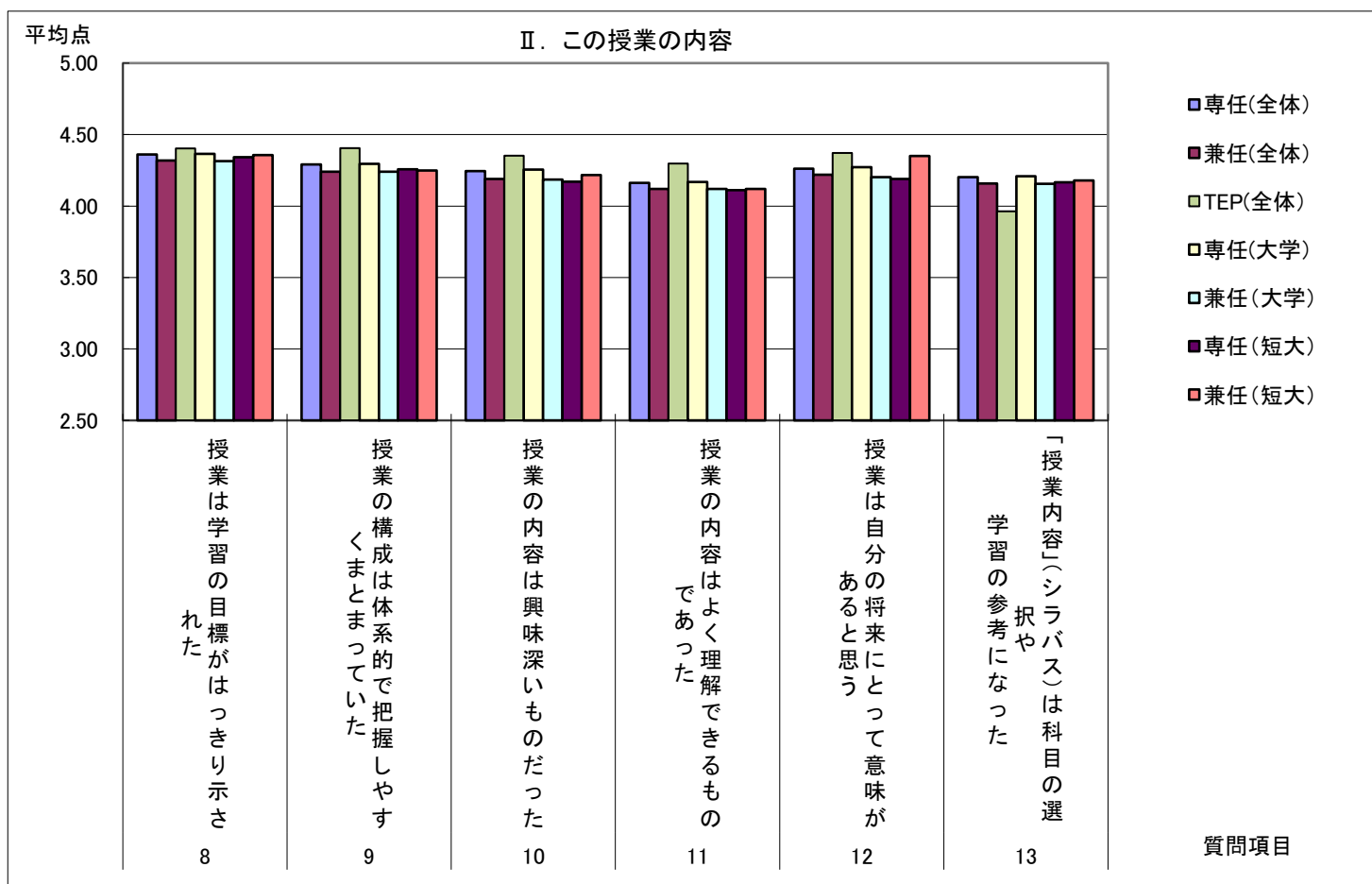
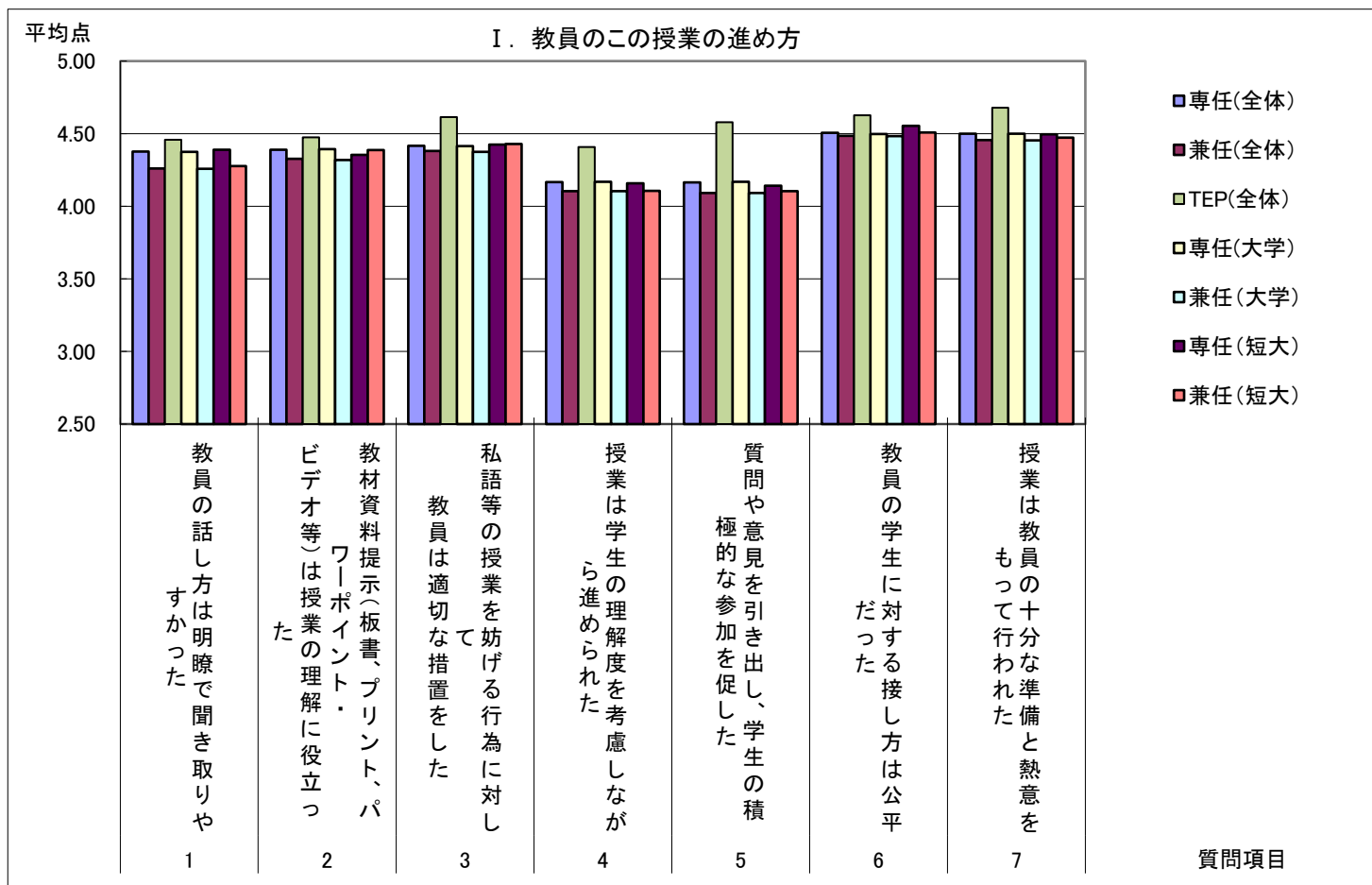
	専任(全体)	兼任(全体)	TEP(全体)	専任(大学)	兼任(大学)	専任(短大)	兼任(短大)
8 授業は学習の目標がはっきり示された	4.36	4.32	4.40	4.36	4.31	4.34	4.36
9 授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.29	4.24	4.41	4.30	4.24	4.26	4.25
10 授業の内容は興味深いものだった	4.24	4.19	4.35	4.26	4.18	4.17	4.22
11 授業の内容はよく理解できるものであった	4.16	4.12	4.30	4.17	4.12	4.11	4.12
12 授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.26	4.22	4.37	4.27	4.20	4.19	4.35
13 「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.20	4.16	3.96	4.21	4.15	4.17	4.18

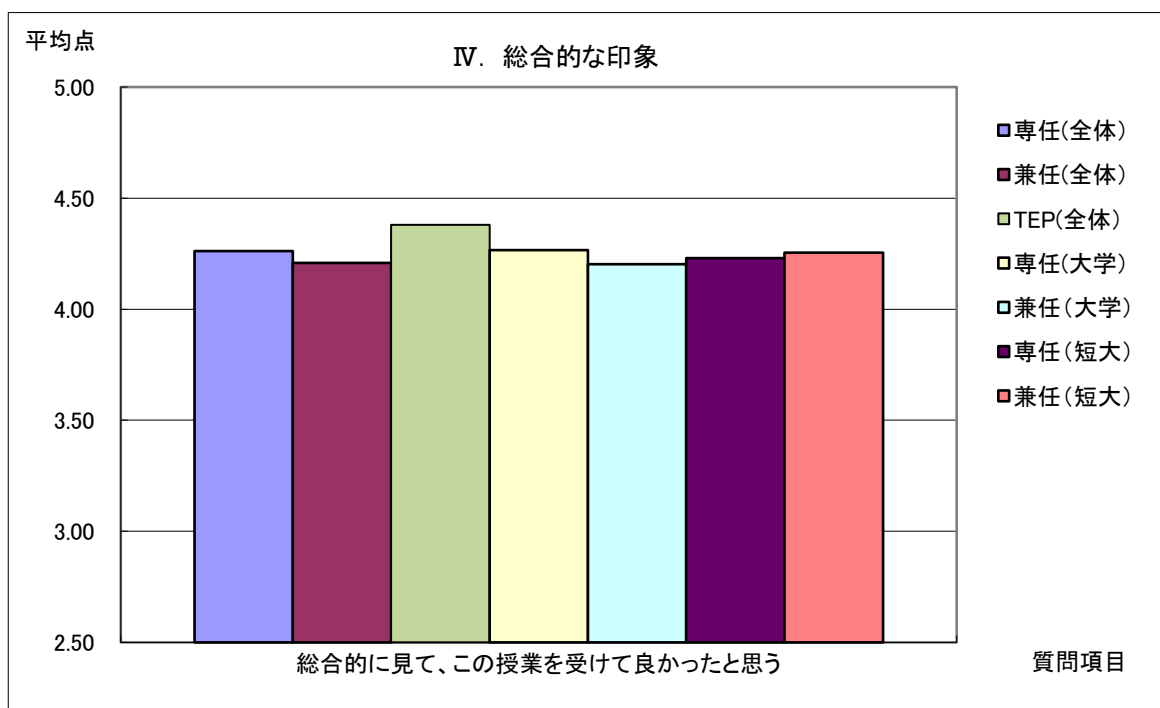
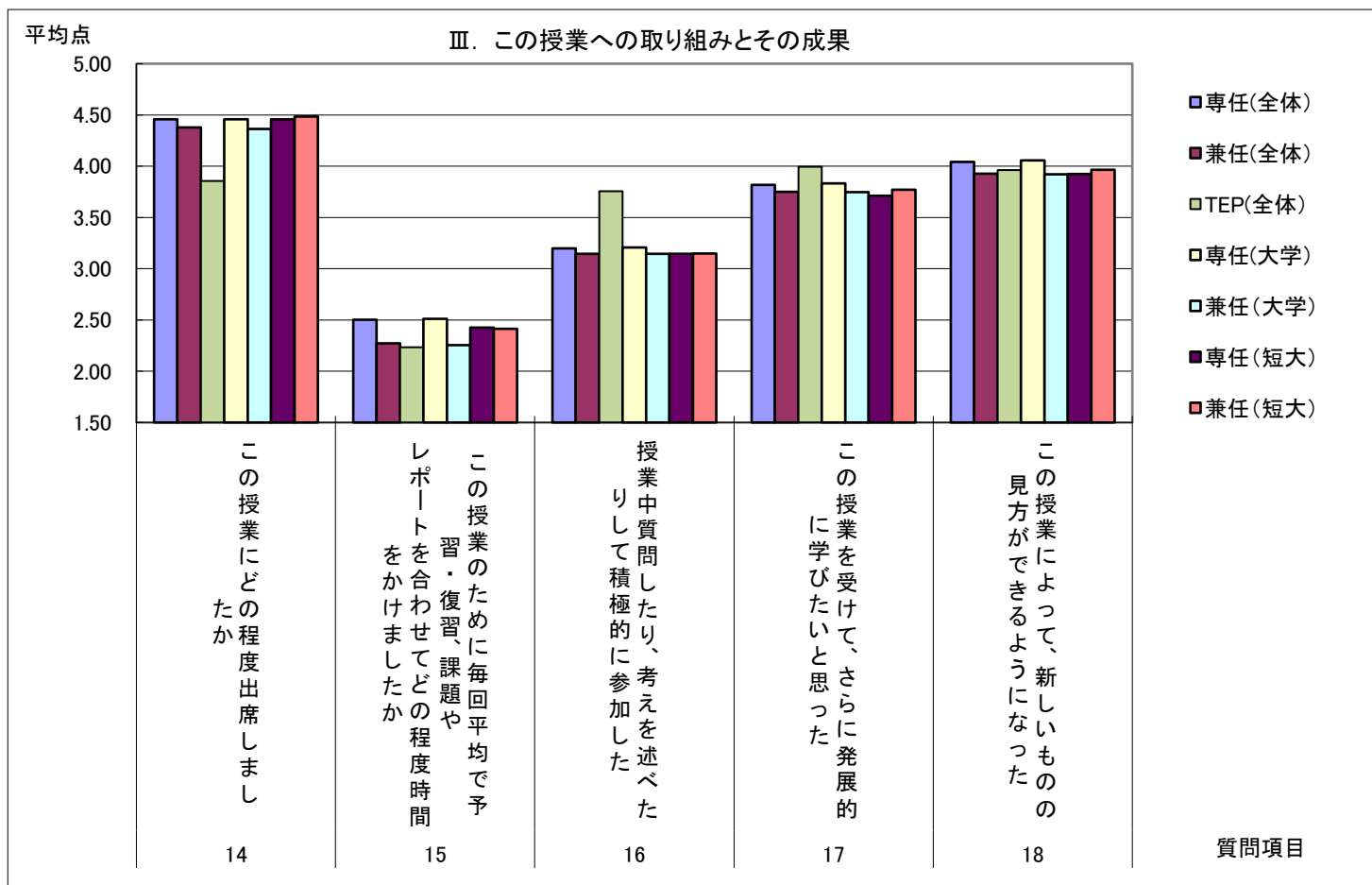
III. この授業への取り組みとその成果について

	専任(全体)	兼任(全体)	TEP(全体)	専任(大学)	兼任(大学)	専任(短大)	兼任(短大)
14 この授業にどの程度出席しましたか	4.46	4.38	3.86	4.46	4.36	4.46	4.48
15 この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.50	2.27	2.23	2.51	2.26	2.43	2.41
16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.20	3.15	3.75	3.21	3.15	3.15	3.15
17 この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.82	3.75	3.99	3.83	3.75	3.71	3.77
18 この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.04	3.93	3.96	4.06	3.92	3.92	3.96

IV. 総合的な印象

	専任(全体)	兼任(全体)	TEP(全体)	専任(大学)	兼任(大学)	専任(短大)	兼任(短大)
19 総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.26	4.21	4.38	4.27	4.20	4.23	4.25





2019年度後期 授業に関するアンケート集計結果(専任・兼任別)

	専任(全体)	兼任(全体)	TEP(全体)	専任(大学)	兼任(大学)	専任(短大)	兼任(短大)
履修者数	33,336	27,128	610	29,428	24,145	3,908	2,983
回答者数	25,469	20,597	496	22,294	18,182	3,175	2,415
回答率(%)	76.40	75.93	81.31	75.76	75.30	81.24	80.96

I. 教員のこの授業の進め方について

	専任(全体)	兼任(全体)	TEP(全体)	専任(大学)	兼任(大学)	専任(短大)	兼任(短大)
1 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.42	4.33	4.61	4.40	4.33	4.50	4.34
2 教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.43	4.36	4.54	4.42	4.36	4.47	4.33
3 私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.46	4.42	4.59	4.45	4.43	4.51	4.41
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.23	4.15	4.45	4.22	4.16	4.31	4.10
5 質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.23	4.15	4.59	4.22	4.16	4.30	4.10
6 教員の学生に対する接し方は公平だった	4.51	4.48	4.47	4.50	4.48	4.58	4.47
7 授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.52	4.47	4.62	4.52	4.48	4.56	4.44

II. この授業の内容について

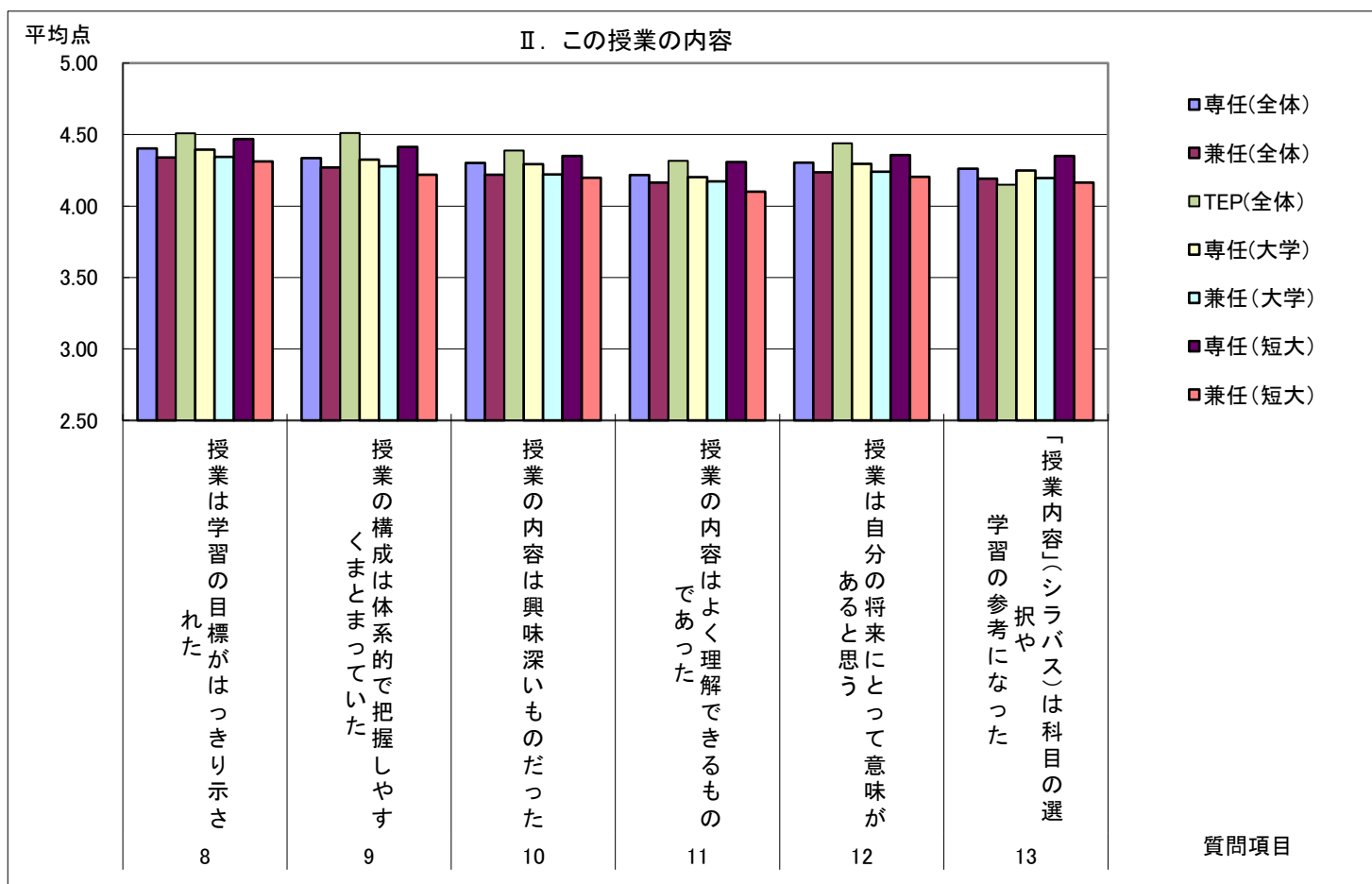
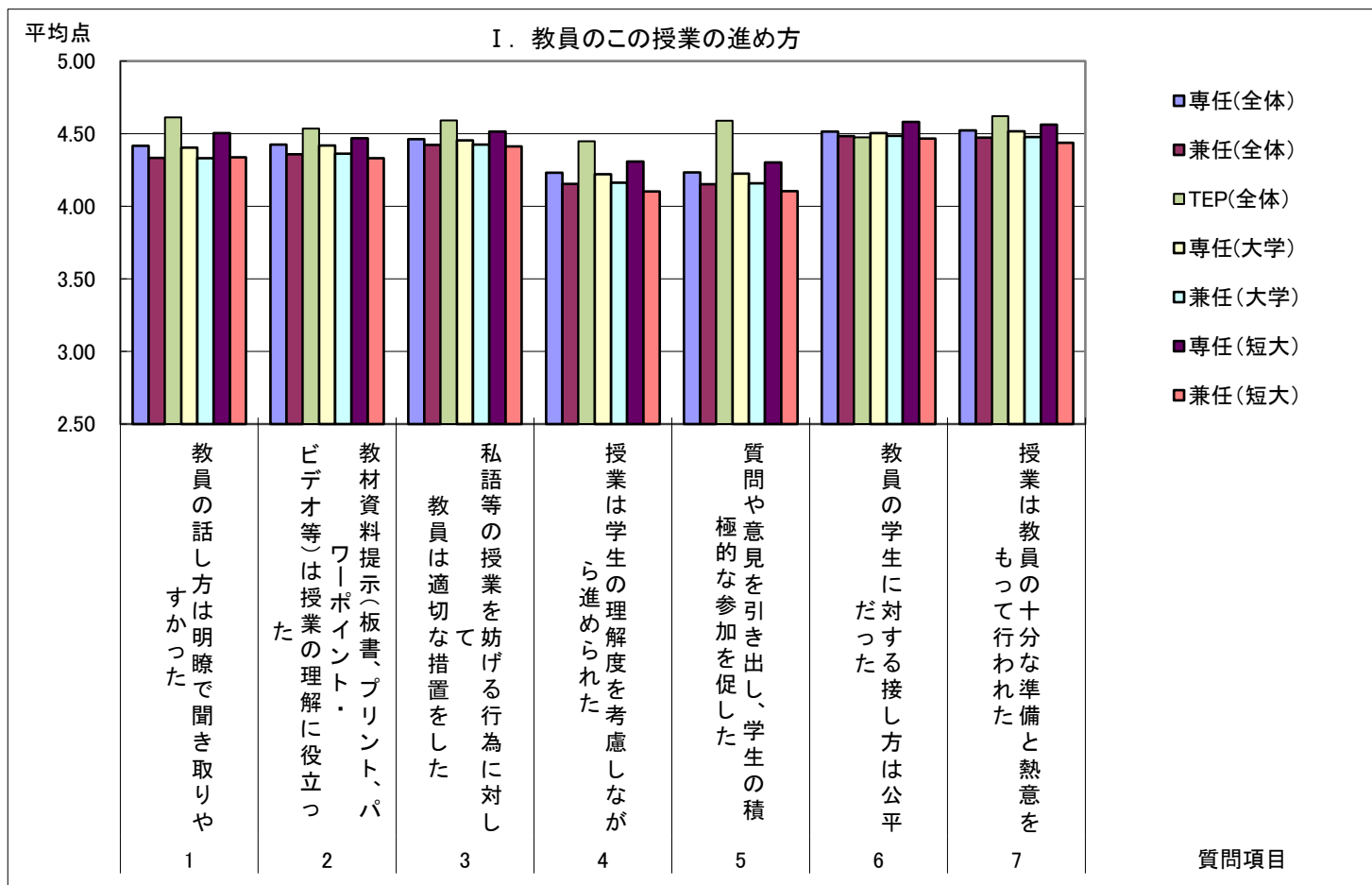
	専任(全体)	兼任(全体)	TEP(全体)	専任(大学)	兼任(大学)	専任(短大)	兼任(短大)
8 授業は学習の目標がはっきり示された	4.40	4.34	4.51	4.39	4.34	4.47	4.31
9 授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.34	4.27	4.51	4.33	4.28	4.41	4.22
10 授業の内容は興味深いものだった	4.30	4.22	4.39	4.29	4.22	4.35	4.20
11 授業の内容はよく理解できるものであった	4.22	4.16	4.32	4.20	4.17	4.31	4.10
12 授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.30	4.24	4.44	4.30	4.24	4.36	4.20
13 「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.26	4.19	4.15	4.25	4.20	4.35	4.16

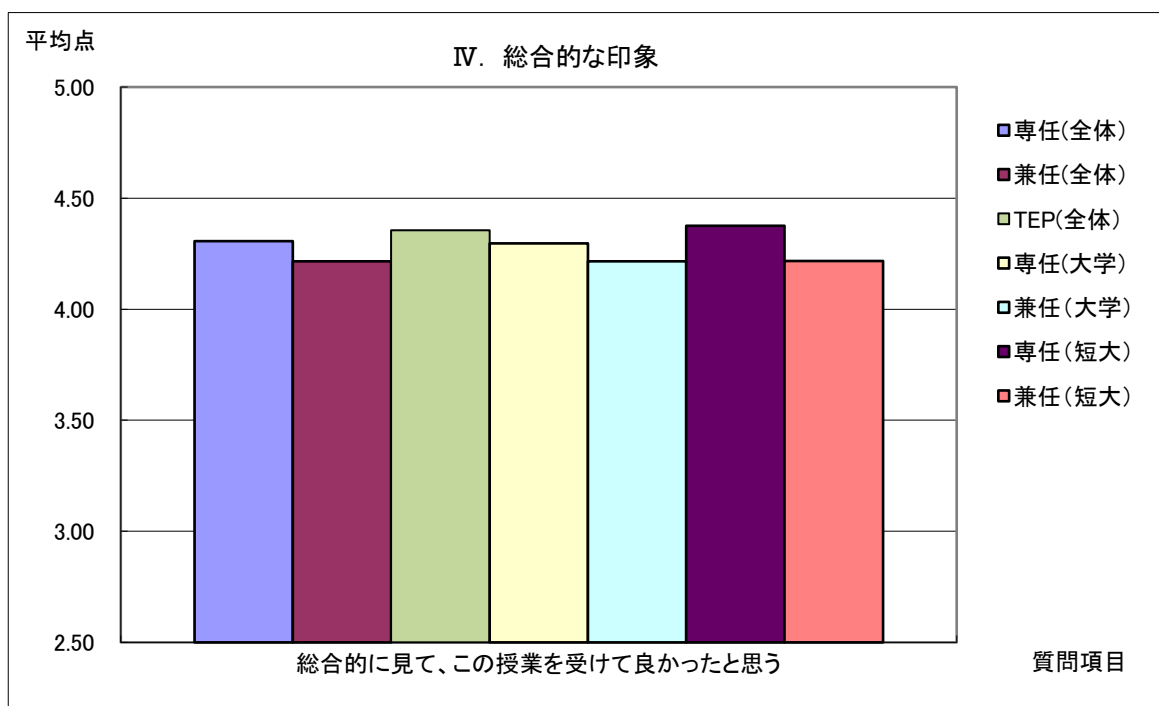
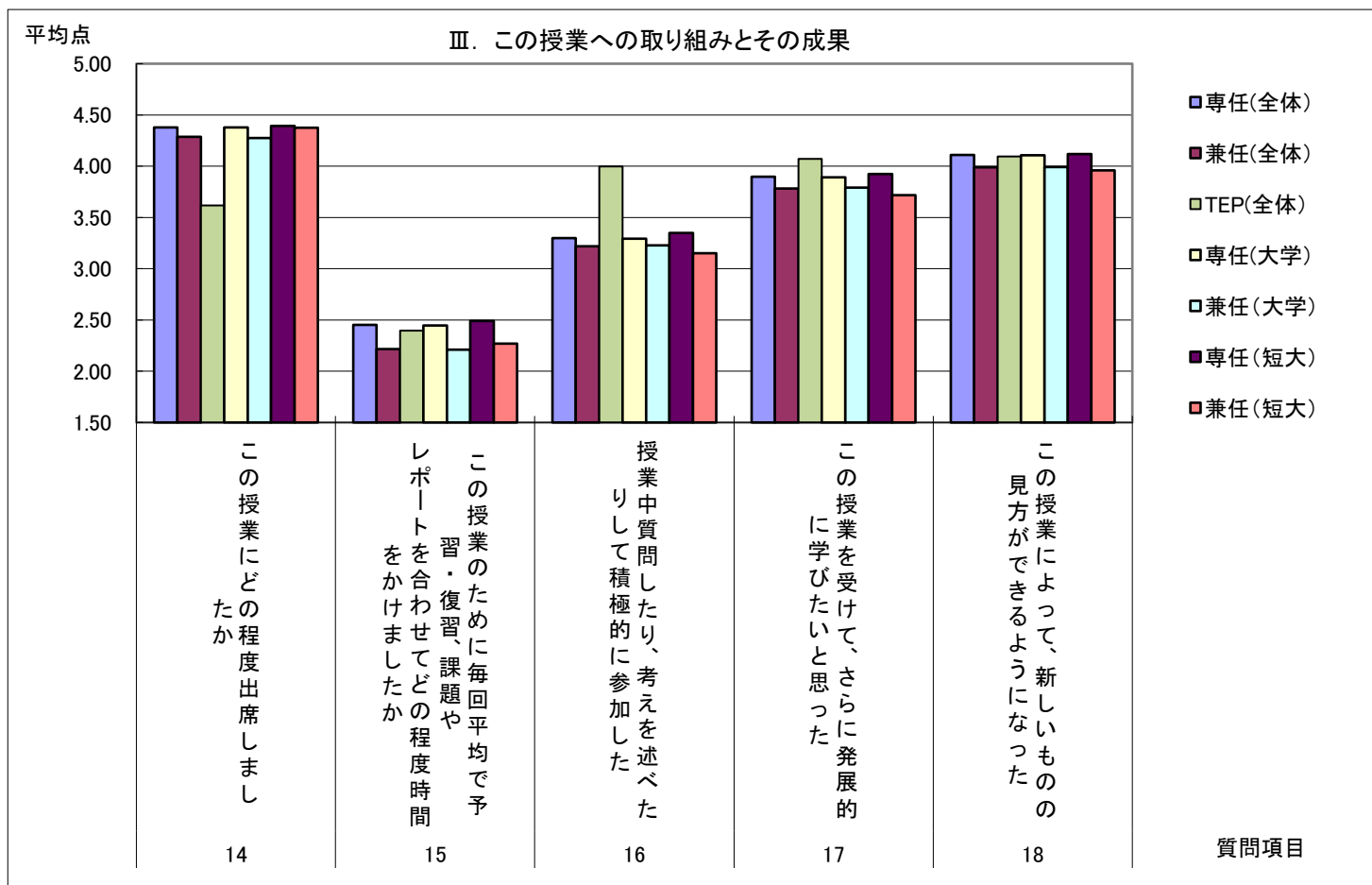
III. この授業への取り組みとその成果について

	専任(全体)	兼任(全体)	TEP(全体)	専任(大学)	兼任(大学)	専任(短大)	兼任(短大)
14 この授業にどの程度出席しましたか	4.38	4.29	3.62	4.38	4.28	4.39	4.37
15 この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.45	2.22	2.40	2.45	2.21	2.49	2.27
16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.30	3.22	4.00	3.29	3.23	3.35	3.15
17 この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.90	3.78	4.07	3.89	3.79	3.92	3.72
18 この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.11	3.99	4.10	4.11	3.99	4.12	3.96

IV. 総合的な印象

	専任(全体)	兼任(全体)	TEP(全体)	専任(大学)	兼任(大学)	専任(短大)	兼任(短大)
19 総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.31	4.22	4.35	4.30	4.22	4.38	4.22





2019年度前期 授業に関するアンケート集計結果(教員の年齢別)大学

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
履修者数	2,657	3,511	6,786	7,845	9,063	9,110	8,973	9,995
回答者数	2,035	2,870	5,563	6,418	7,238	7,535	7,256	8,186
回答率(%)	76.59	81.74	81.98	81.81	79.86	82.71	80.86	81.90

I. 教員のこの授業の進め方について

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
1 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.44	4.42	4.46	4.51	4.29	4.31	4.32	4.07
2 教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.46	4.46	4.46	4.50	4.36	4.34	4.34	4.17
3 私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.43	4.46	4.48	4.48	4.38	4.39	4.36	4.31
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.22	4.23	4.26	4.30	4.12	4.13	4.10	3.96
5 質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.25	4.18	4.21	4.26	4.09	4.18	4.09	4.00
6 教員の学生に対する接し方は公平だった	4.60	4.58	4.54	4.59	4.47	4.47	4.48	4.38
7 授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.60	4.53	4.54	4.60	4.44	4.46	4.48	4.37

II. この授業の内容について

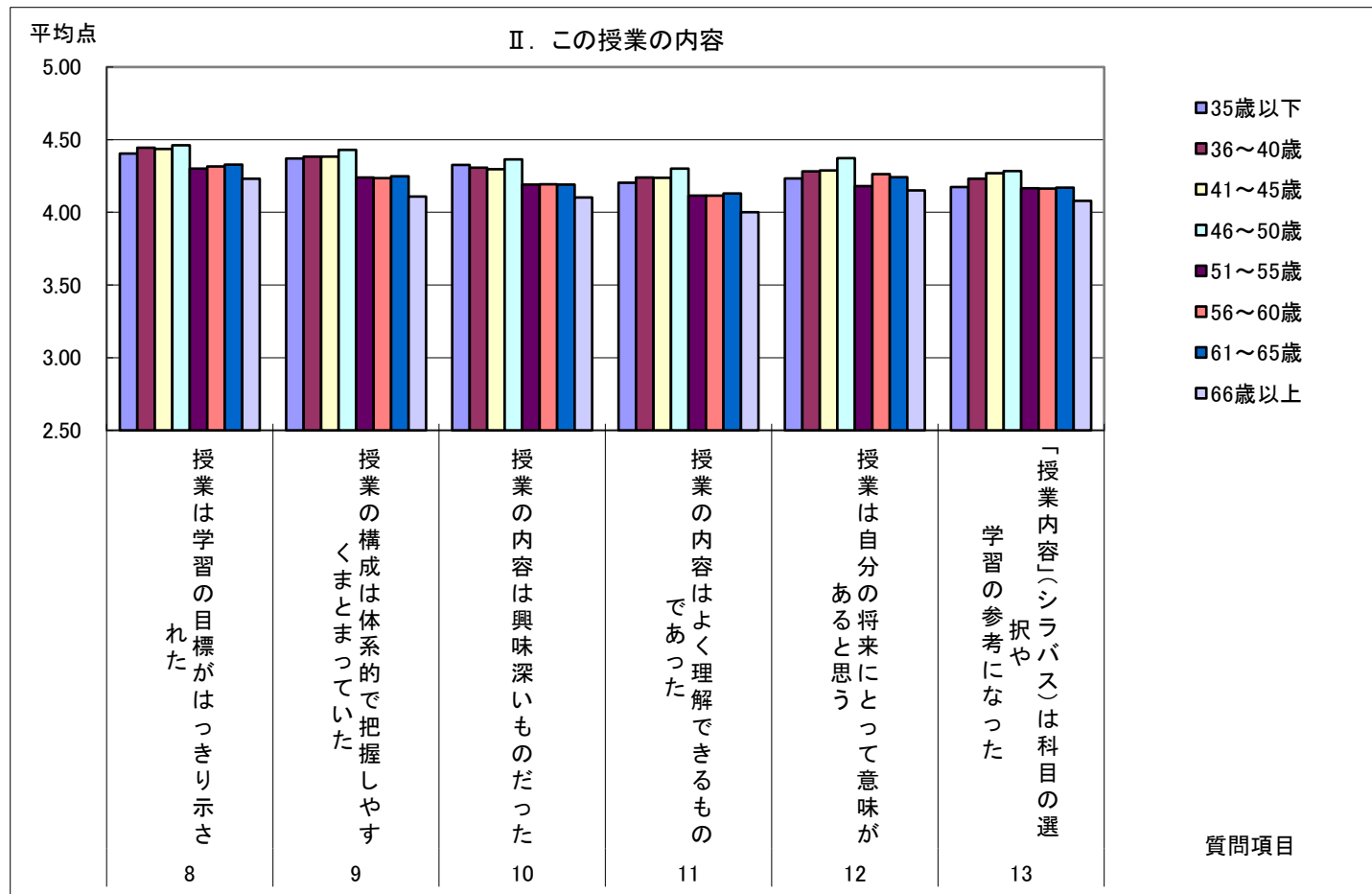
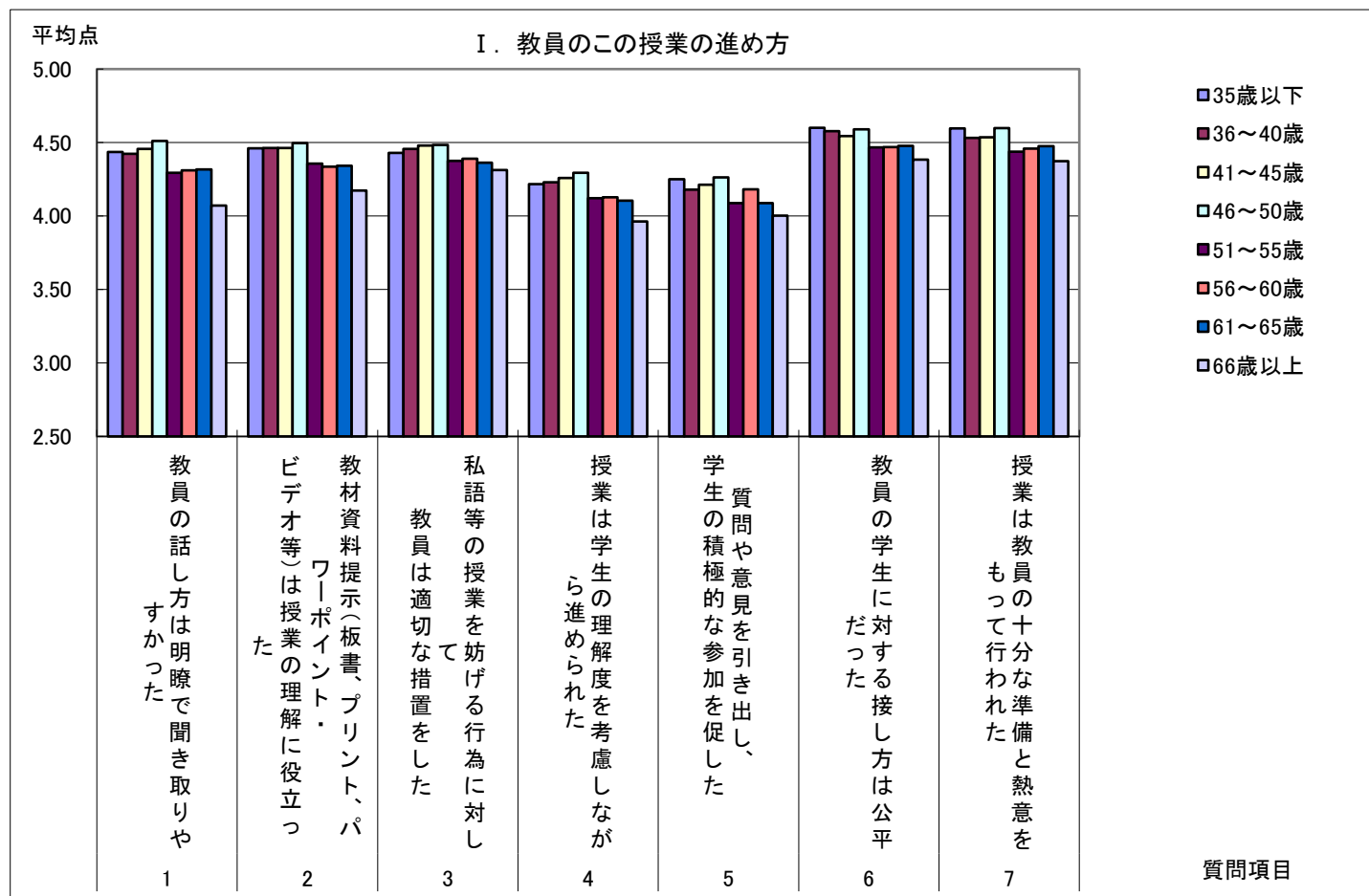
	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
8 授業は学習の目標がはっきり示された	4.40	4.44	4.43	4.46	4.31	4.31	4.34	4.21
9 授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.37	4.38	4.38	4.42	4.25	4.23	4.27	4.08
10 授業の内容は興味深いものだった	4.33	4.31	4.30	4.37	4.20	4.19	4.20	4.08
11 授業の内容はよく理解できるものであった	4.20	4.25	4.24	4.30	4.12	4.12	4.14	3.97
12 授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.23	4.27	4.29	4.39	4.18	4.27	4.24	4.11
13 「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.17	4.23	4.27	4.28	4.17	4.17	4.17	4.05

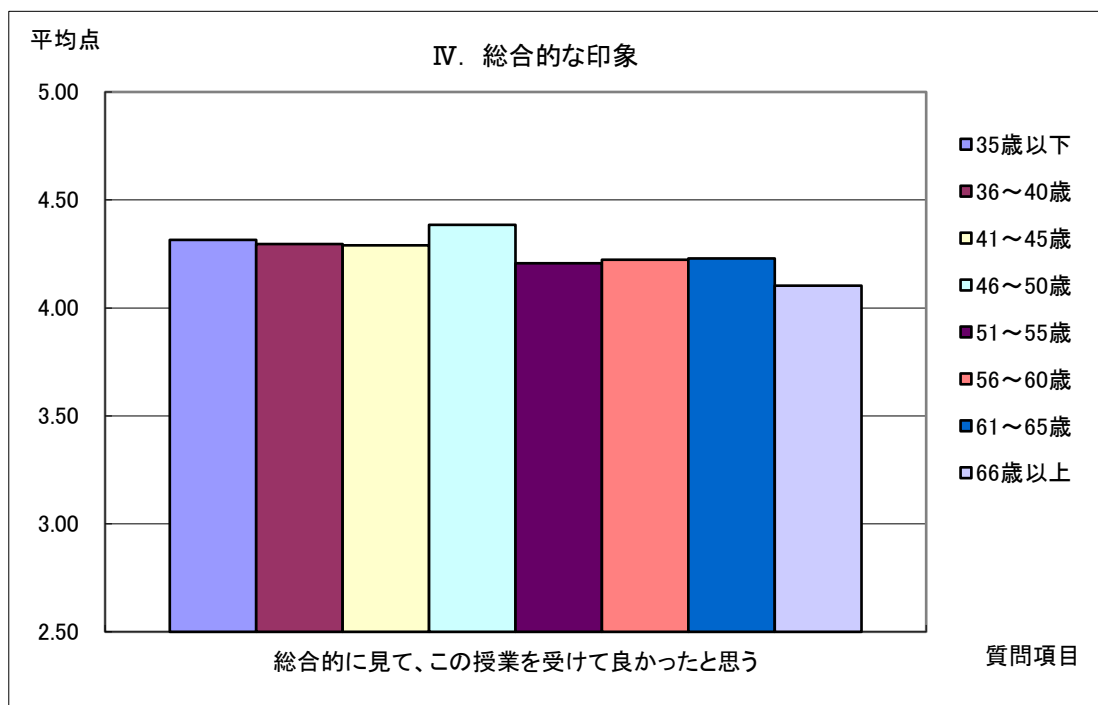
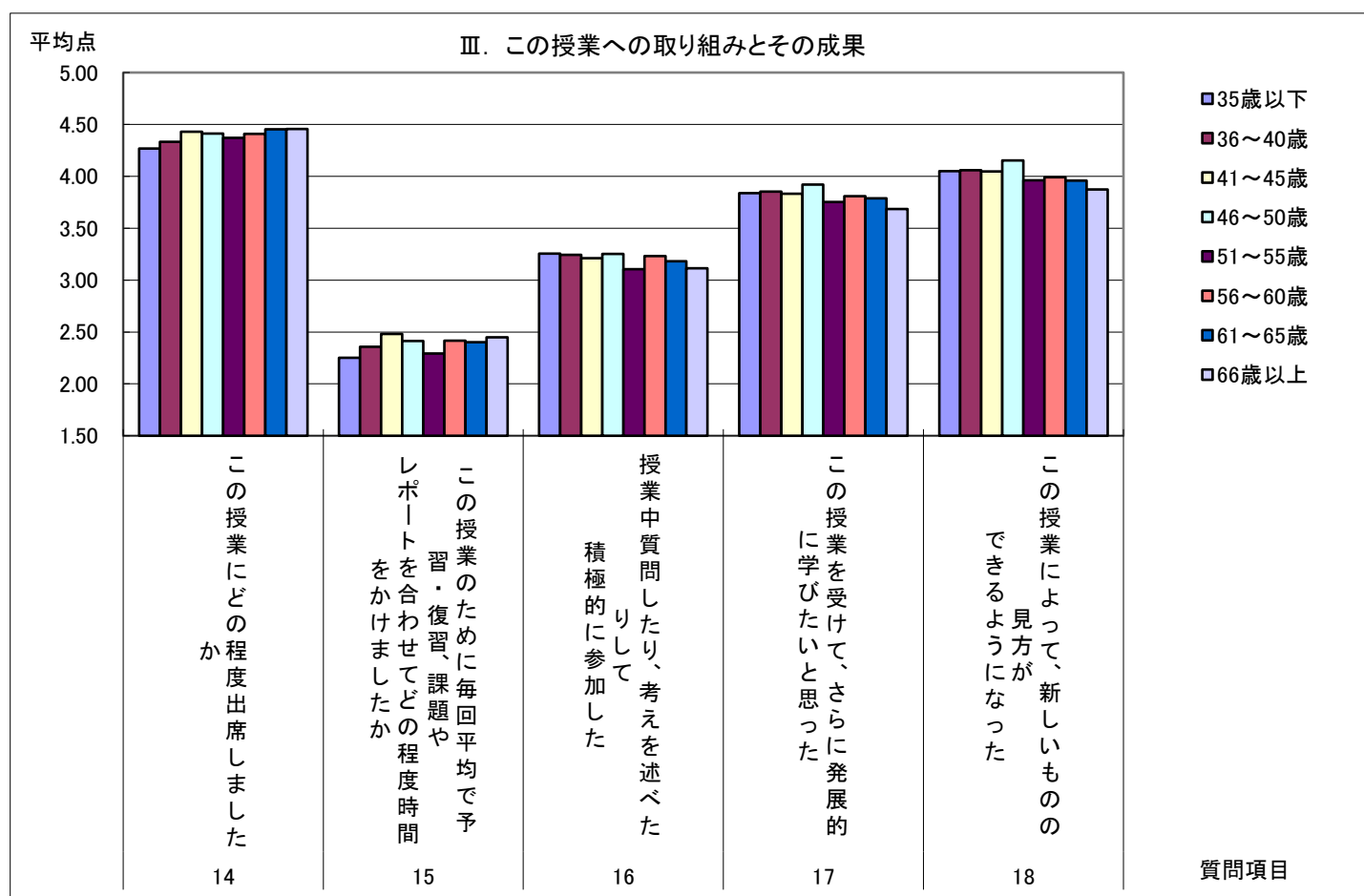
III. この授業への取り組みとその成果について

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
14 この授業にどの程度出席しましたか	4.27	4.33	4.43	4.41	4.37	4.41	4.45	4.46
15 この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.25	2.36	2.48	2.41	2.29	2.42	2.40	2.45
16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.26	3.24	3.21	3.25	3.10	3.23	3.18	3.12
17 この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.84	3.85	3.83	3.92	3.75	3.81	3.79	3.69
18 この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.05	4.06	4.05	4.15	3.96	3.99	3.96	3.87

IV. 総合的な印象

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
19 総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.32	4.30	4.29	4.39	4.21	4.22	4.23	4.10





2019年度後期 授業に関するアンケート集計結果(教員の年齢別)大学

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
履修者数	2,747	4,522	6,557	7,196	8,583	8,501	7,242	8,835
回答者数	2,112	3,261	5,016	5,344	6,518	6,501	5,527	6,693
回答率(%)	76.88	72.11	76.50	74.26	75.94	76.47	76.32	75.76

I. 教員のこの授業の進め方について

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
1 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.55	4.52	4.50	4.43	4.38	4.35	4.33	4.16
2 教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.54	4.49	4.50	4.43	4.39	4.39	4.35	4.24
3 私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.53	4.49	4.50	4.45	4.45	4.44	4.41	4.37
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.36	4.30	4.29	4.24	4.21	4.19	4.14	4.04
5 質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.40	4.23	4.23	4.27	4.20	4.25	4.11	4.06
6 教員の学生に対する接し方は公平だった	4.60	4.60	4.53	4.51	4.49	4.49	4.48	4.40
7 授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.60	4.59	4.54	4.53	4.49	4.50	4.47	4.41

II. この授業の内容について

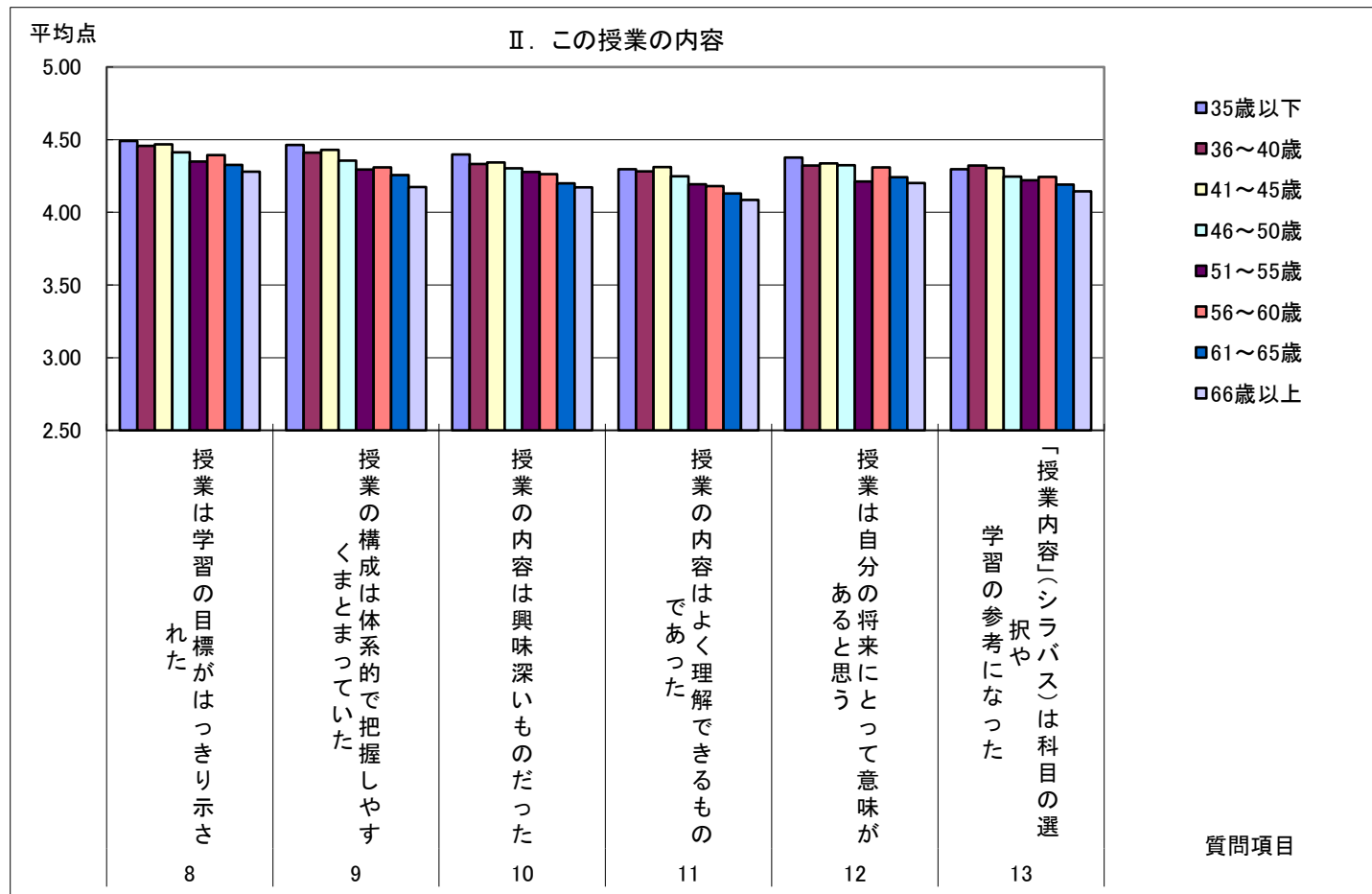
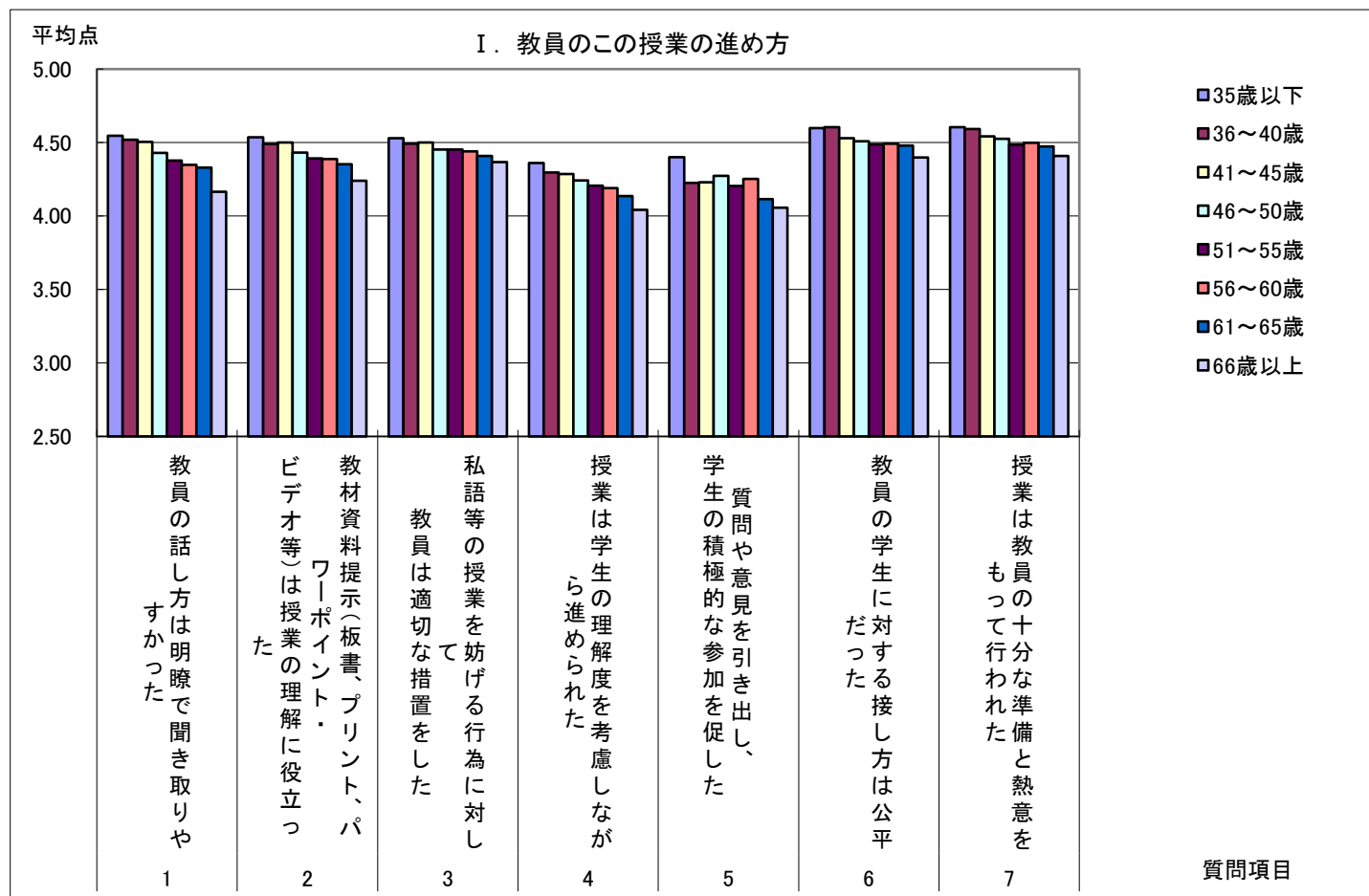
	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
8 授業は学習の目標がはっきり示された	4.49	4.46	4.46	4.40	4.35	4.39	4.34	4.25
9 授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.46	4.41	4.42	4.34	4.30	4.30	4.27	4.14
10 授業の内容は興味深いものだった	4.40	4.34	4.33	4.30	4.28	4.25	4.21	4.13
11 授業の内容はよく理解できるものであった	4.30	4.29	4.30	4.24	4.20	4.17	4.15	4.04
12 授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.38	4.33	4.33	4.33	4.21	4.31	4.26	4.15
13 「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.30	4.32	4.30	4.23	4.22	4.23	4.20	4.10

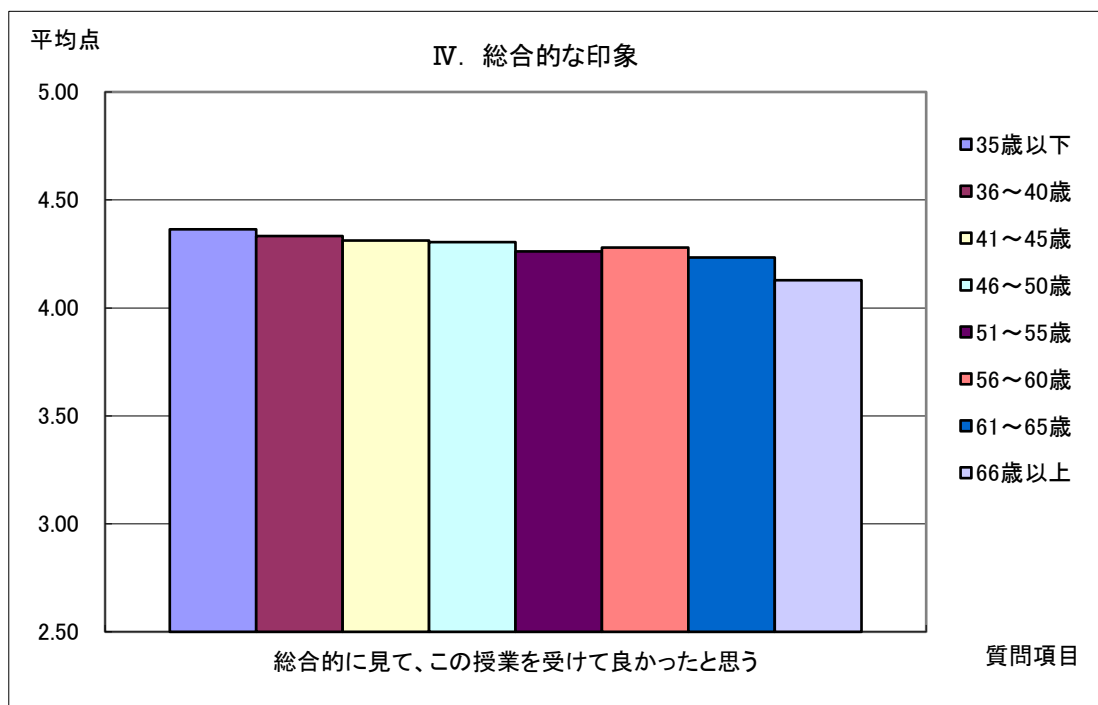
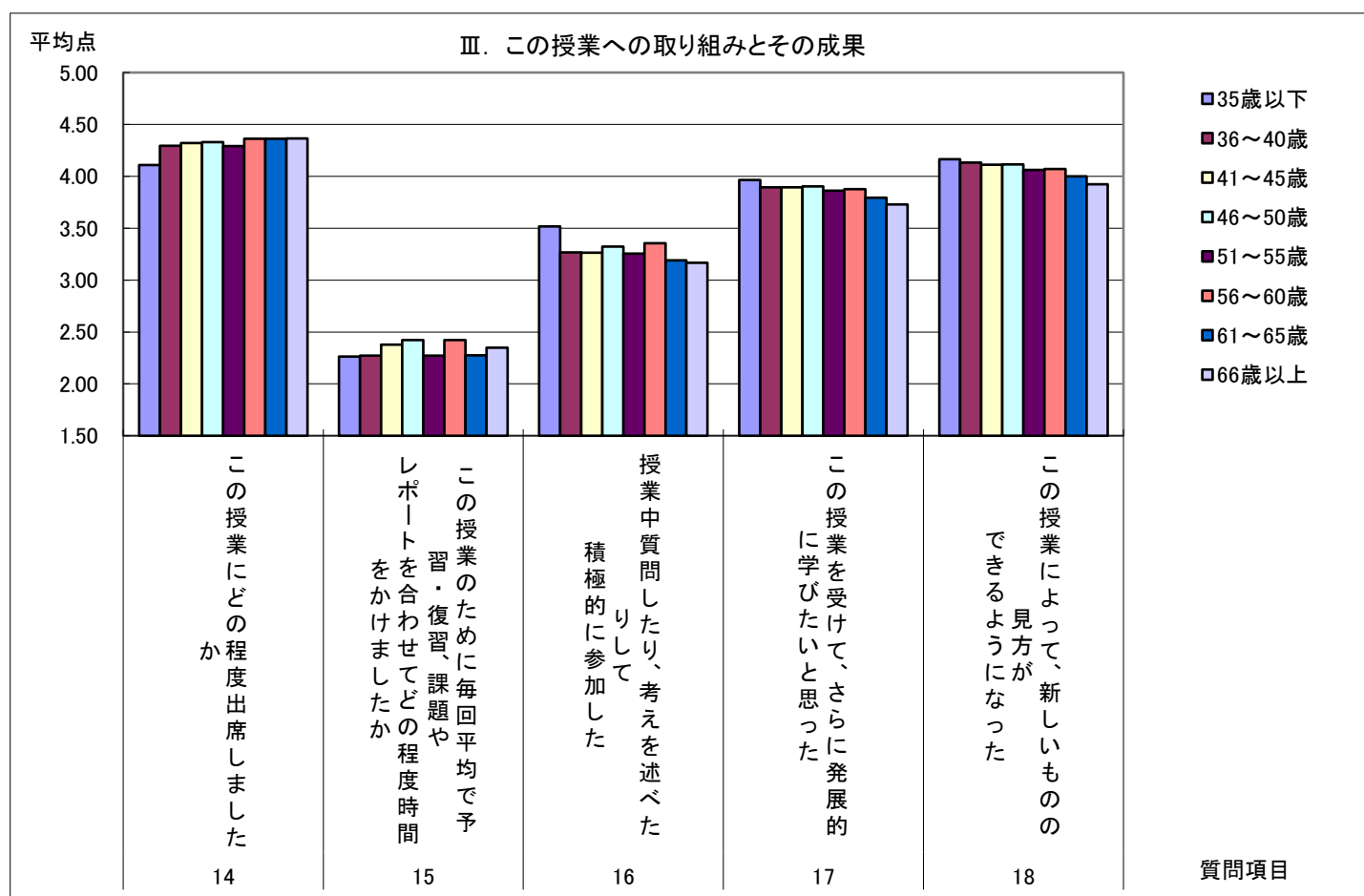
III. この授業への取り組みとその成果について

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
14 この授業にどの程度出席しましたか	4.11	4.29	4.32	4.33	4.29	4.36	4.36	4.36
15 この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.26	2.27	2.38	2.42	2.27	2.42	2.27	2.35
16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.52	3.27	3.26	3.32	3.26	3.36	3.19	3.17
17 この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.96	3.89	3.89	3.90	3.86	3.88	3.79	3.73
18 この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.16	4.13	4.11	4.12	4.06	4.07	4.00	3.92

IV. 総合的な印象

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
19 総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.36	4.33	4.31	4.30	4.26	4.28	4.23	4.13





2019年度前期 授業に関するアンケート集計結果(教員の年齢別)短大

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
履修者数	127	167	161	1,081	392	1,412	1,171	2,620
回答者数	86	152	135	953	285	1,178	999	2,289
回答率(%)	67.72	91.02	83.85	88.16	72.70	83.43	85.31	87.37

I. 教員のこの授業の進め方について

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
1 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.22	4.64	4.43	4.59	4.14	4.41	4.27	4.24
2 教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.41	4.53	4.50	4.57	4.17	4.38	4.30	4.31
3 私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.45	4.41	4.67	4.52	4.17	4.42	4.53	4.36
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.20	4.28	4.04	4.34	3.90	4.12	4.07	4.11
5 質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.06	4.40	4.19	4.08	4.13	4.17	4.01	4.15
6 教員の学生に対する接し方は公平だった	4.40	4.61	4.56	4.68	4.41	4.54	4.48	4.51
7 授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.42	4.63	4.59	4.61	4.18	4.55	4.45	4.44

II. この授業の内容について

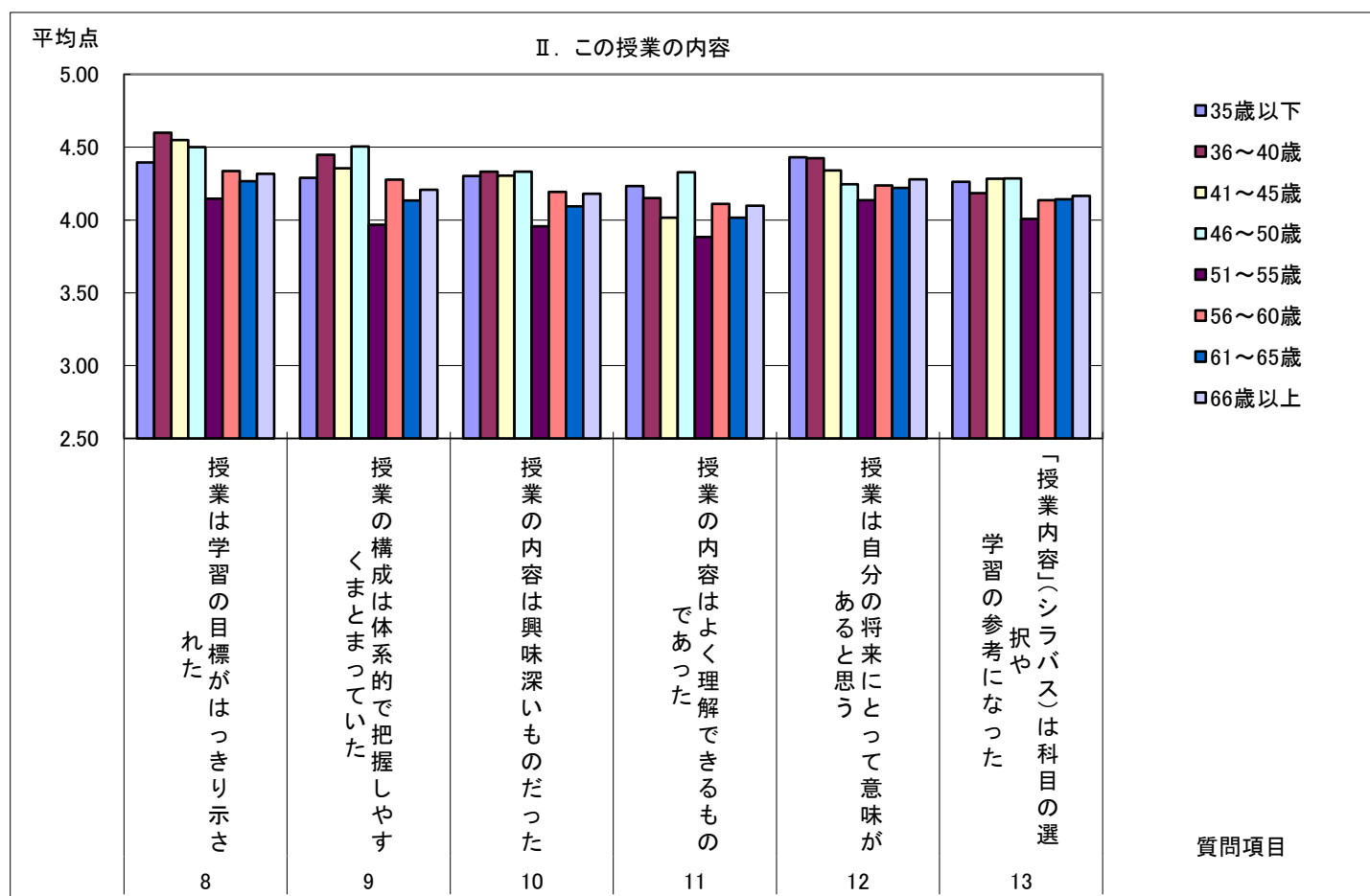
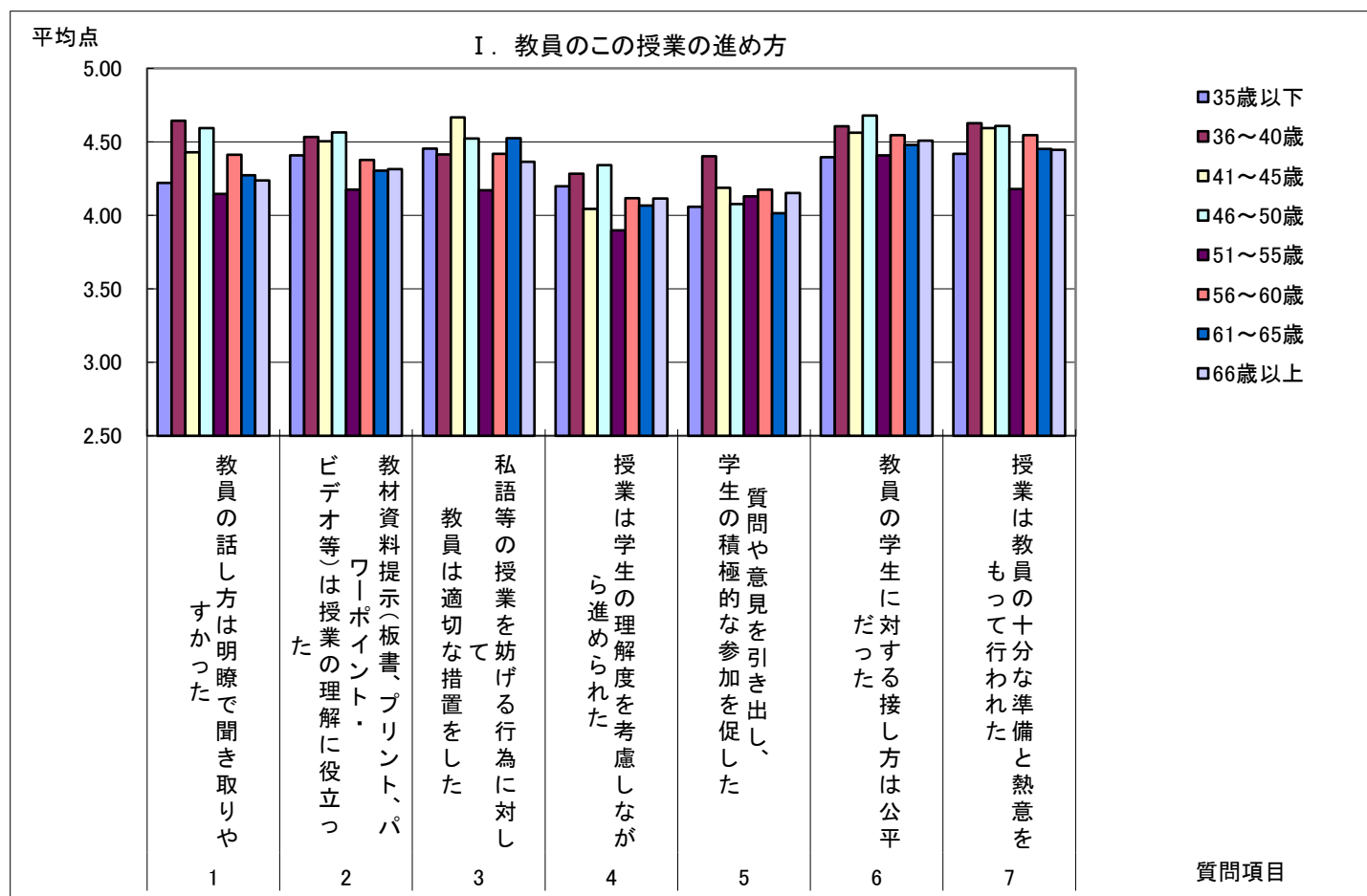
	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
8 授業は学習の目標がはっきり示された	4.40	4.60	4.55	4.50	4.15	4.34	4.27	4.32
9 授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.29	4.45	4.36	4.50	3.97	4.28	4.13	4.21
10 授業の内容は興味深いものだった	4.30	4.33	4.30	4.33	3.96	4.19	4.09	4.18
11 授業の内容はよく理解できるものであった	4.23	4.15	4.01	4.33	3.88	4.11	4.02	4.10
12 授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.43	4.42	4.34	4.24	4.14	4.24	4.22	4.28
13 「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.26	4.18	4.28	4.29	4.01	4.14	4.14	4.16

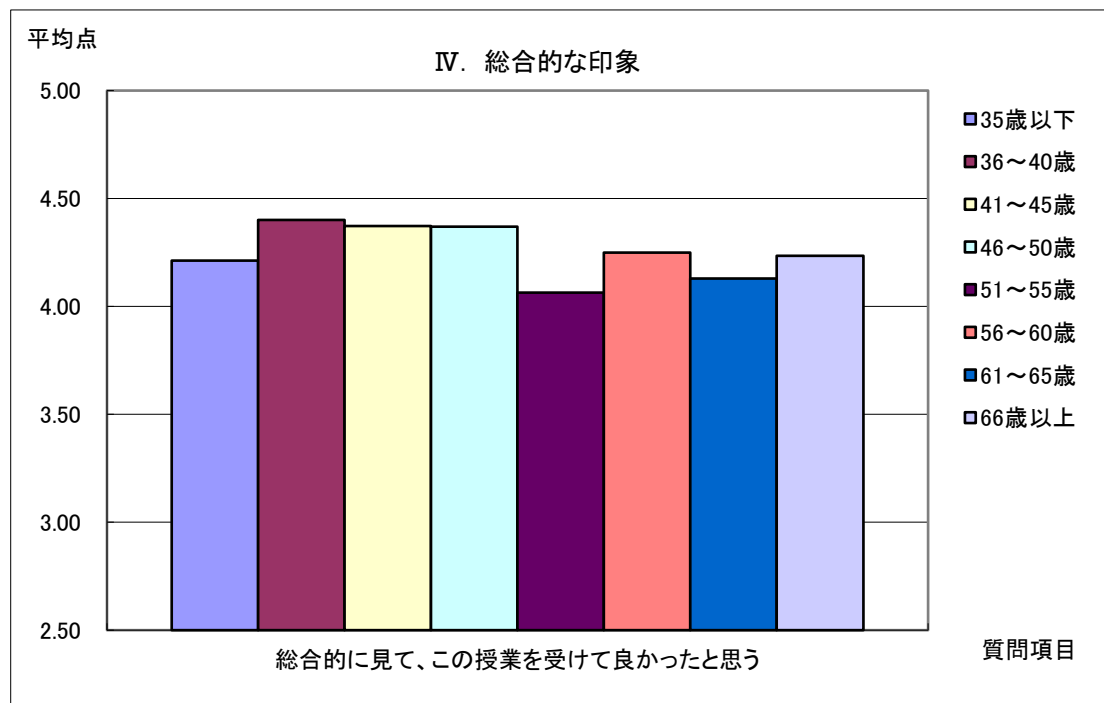
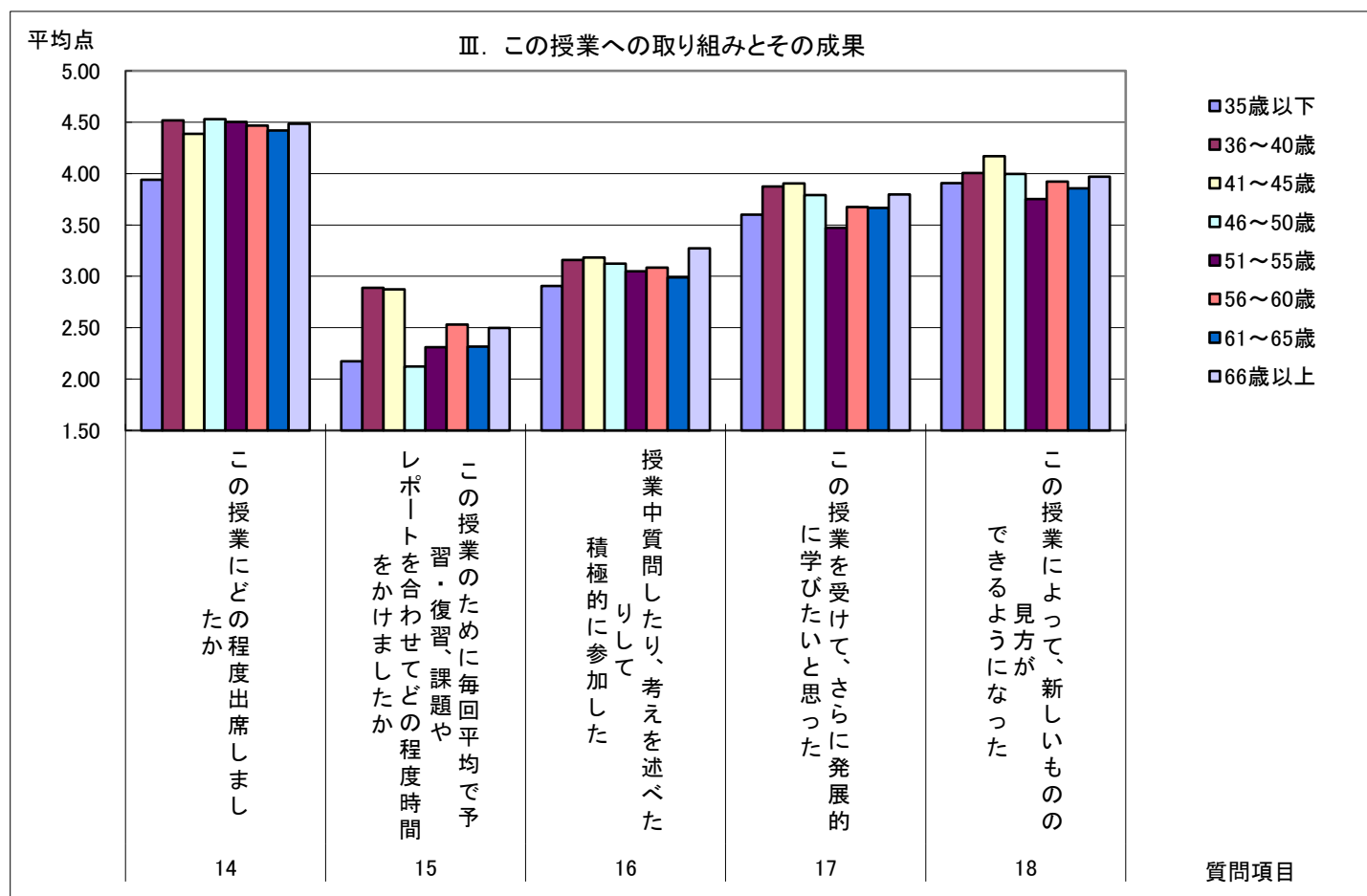
III. この授業への取り組みとその成果について

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
14 この授業にどの程度出席しましたか	3.94	4.52	4.39	4.53	4.50	4.47	4.42	4.49
15 この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.17	2.89	2.87	2.12	2.31	2.53	2.32	2.50
16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.91	3.16	3.18	3.12	3.05	3.09	2.99	3.27
17 この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.60	3.87	3.90	3.79	3.47	3.67	3.67	3.80
18 この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.91	4.01	4.17	4.00	3.75	3.92	3.86	3.97

IV. 総合的な印象

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
19 総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.21	4.40	4.37	4.37	4.06	4.25	4.13	4.23





2019年度後期 授業に関するアンケート集計結果(教員の年齢別)短大

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
履修者数	－	373	203	1,065	320	1,138	1,340	2,452
回答者数	－	310	158	828	226	941	1,040	2,087
回答率(%)	－	83.11	77.83	77.75	70.63	82.69	77.61	85.11

I. 教員のこの授業の進め方について

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
1 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	－	4.47	4.82	4.53	4.38	4.52	4.34	4.37
2 教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	－	4.39	4.76	4.51	4.40	4.42	4.32	4.39
3 私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	－	4.49	4.63	4.48	4.48	4.52	4.52	4.41
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	－	4.17	4.52	4.31	4.13	4.23	4.14	4.21
5 質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	－	4.27	4.60	4.18	4.08	4.26	4.10	4.25
6 教員の学生に対する接し方は公平だった	－	4.36	4.78	4.56	4.51	4.62	4.51	4.50
7 授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	－	4.45	4.83	4.51	4.43	4.59	4.48	4.48

II. この授業の内容について

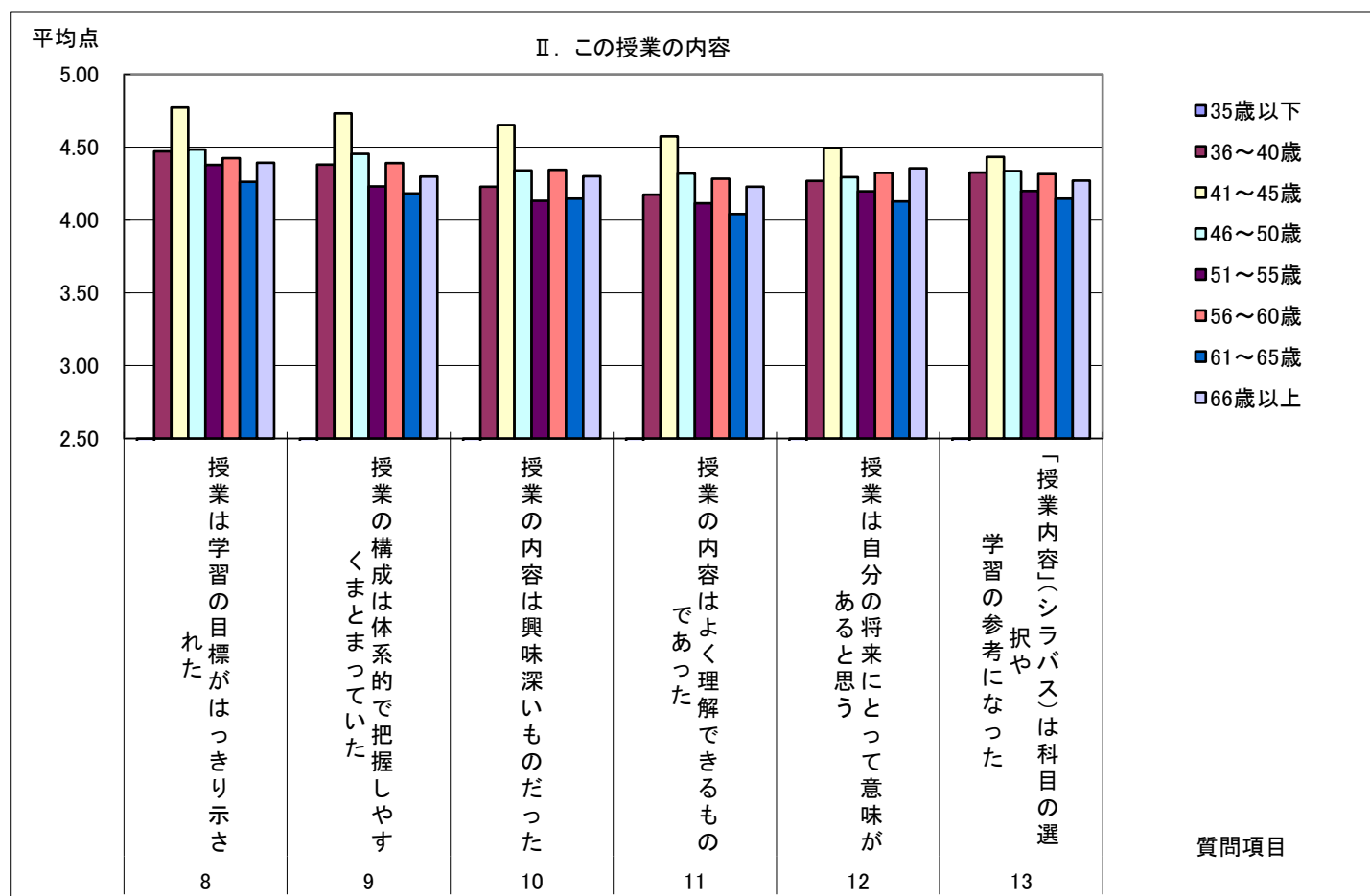
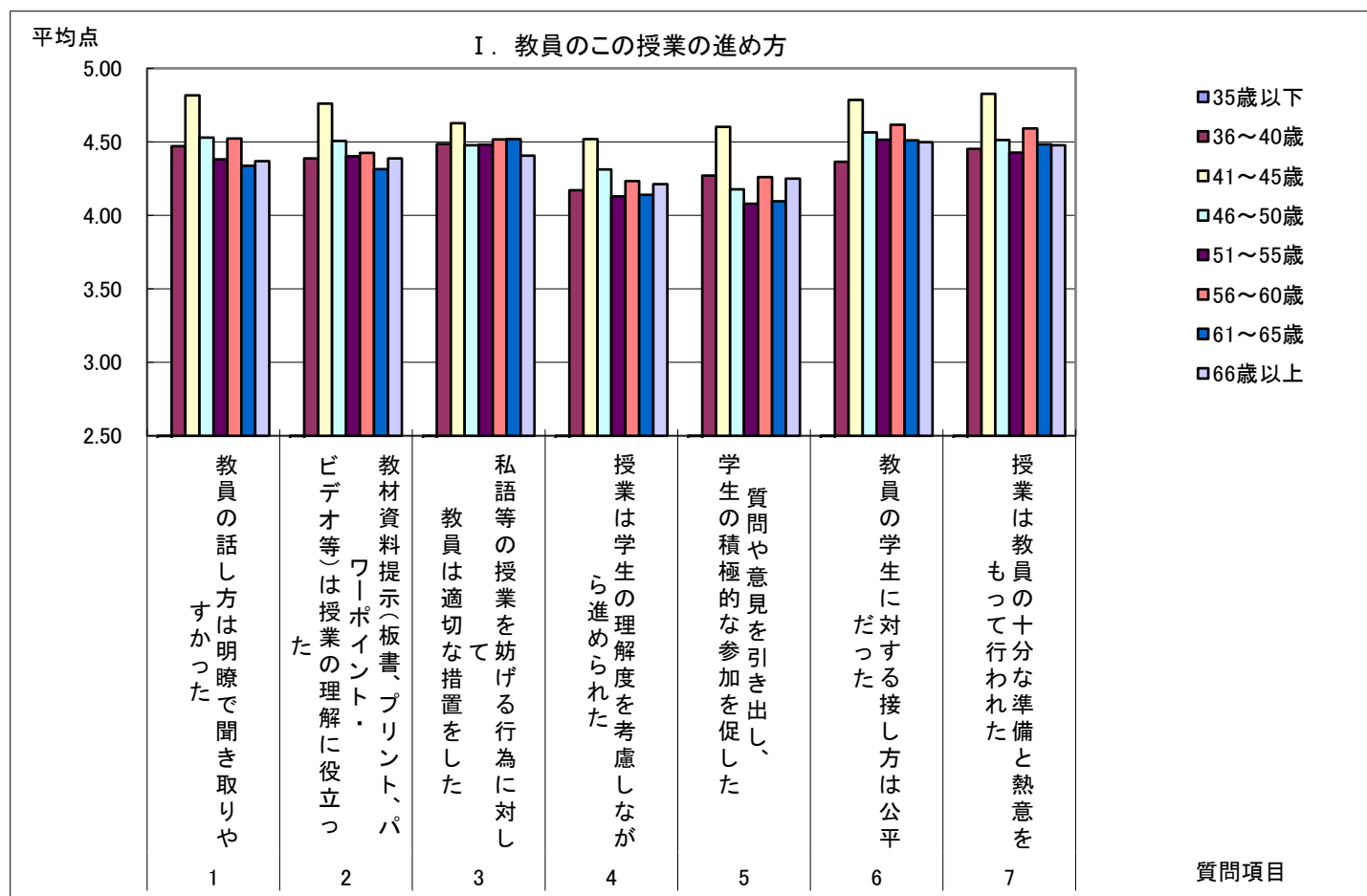
	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
8 授業は学習の目標がはっきり示された	－	4.47	4.77	4.48	4.38	4.43	4.26	4.39
9 授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	－	4.38	4.73	4.45	4.23	4.39	4.18	4.30
10 授業の内容は興味深いものだった	－	4.23	4.65	4.34	4.13	4.35	4.15	4.30
11 授業の内容はよく理解できるものであった	－	4.17	4.57	4.32	4.12	4.28	4.04	4.23
12 授業は自分の将来にとって意味があると思う	－	4.27	4.49	4.29	4.20	4.32	4.13	4.35
13 「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	－	4.33	4.43	4.34	4.20	4.32	4.15	4.27

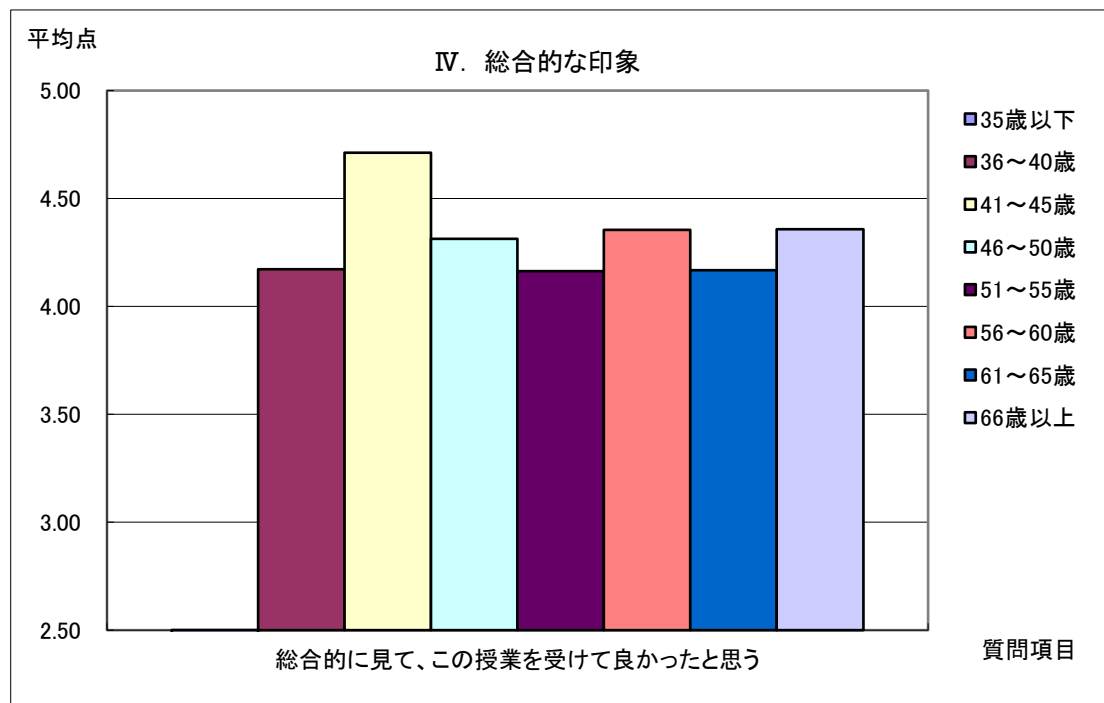
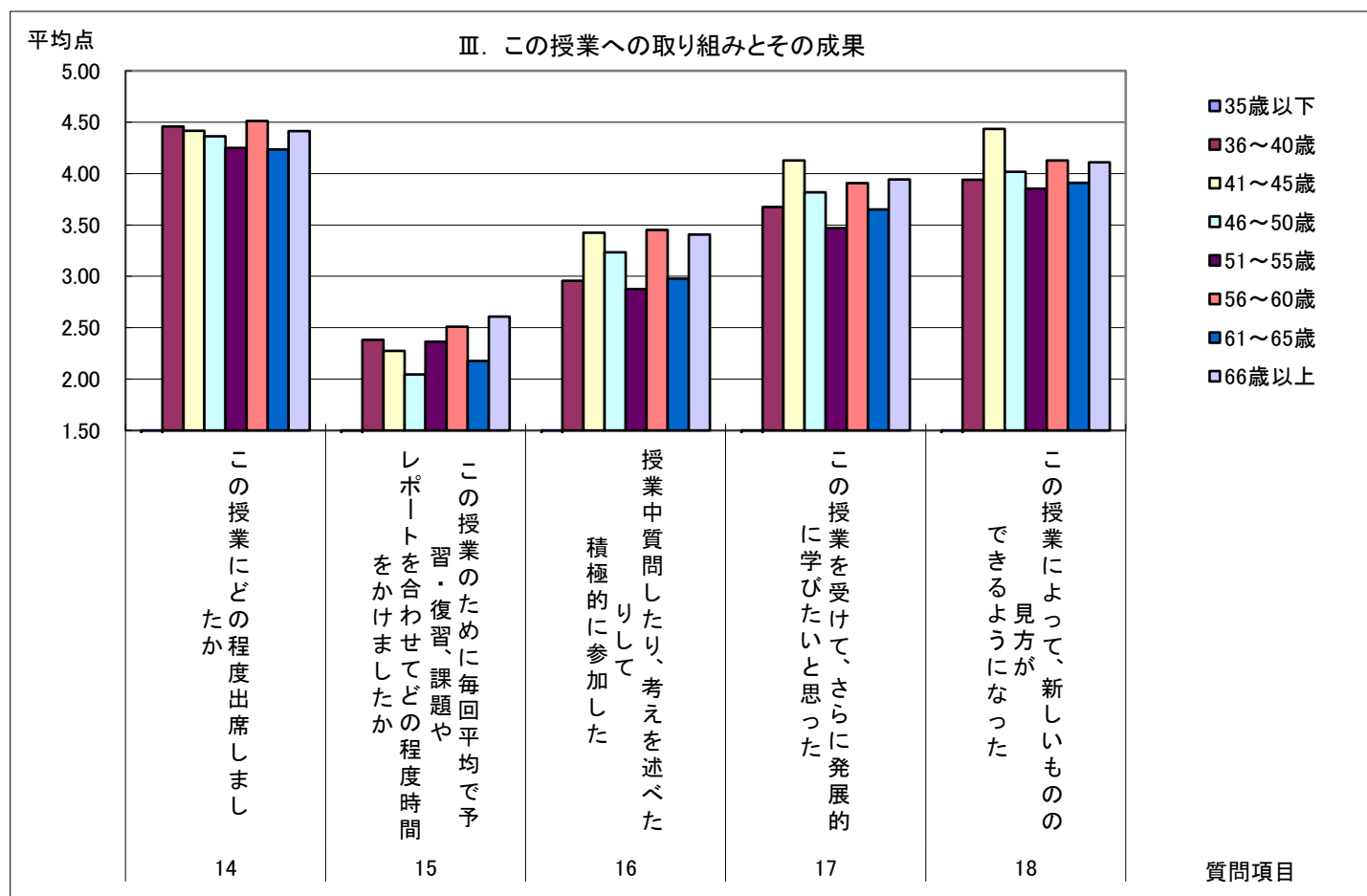
III. この授業への取り組みとその成果について

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
14 この授業にどの程度出席しましたか	－	4.46	4.42	4.36	4.25	4.51	4.23	4.41
15 この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	－	2.38	2.28	2.04	2.36	2.51	2.18	2.61
16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	－	2.96	3.42	3.24	2.88	3.45	2.98	3.41
17 この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	－	3.68	4.13	3.82	3.47	3.91	3.65	3.94
18 この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	－	3.94	4.43	4.02	3.85	4.13	3.91	4.11

IV. 総合的な印象

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
19 総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	－	4.17	4.71	4.31	4.16	4.36	4.17	4.36





2019年度前期 授業に関するアンケート集計結果(教員の年齢別)大学・短大合計

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
履修者数	2,784	3,678	6,947	8,926	9,455	10,522	10,144	12,615
回答者数	2,121	3,022	5,698	7,371	7,523	8,713	8,255	10,475
回答率(%)	76.19	82.16	82.02	82.58	79.57	82.81	81.38	83.04

I. 教員のこの授業の進め方について

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
1 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.43	4.43	4.46	4.52	4.29	4.32	4.31	4.11
2 教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.46	4.47	4.46	4.51	4.35	4.34	4.34	4.20
3 私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.43	4.46	4.48	4.49	4.37	4.39	4.38	4.32
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.22	4.23	4.25	4.30	4.11	4.13	4.10	4.00
5 質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.24	4.19	4.21	4.24	4.09	4.18	4.08	4.03
6 教員の学生に対する接し方は公平だった	4.59	4.58	4.55	4.60	4.47	4.48	4.48	4.41
7 授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.59	4.54	4.54	4.60	4.43	4.47	4.47	4.39

II. この授業の内容について

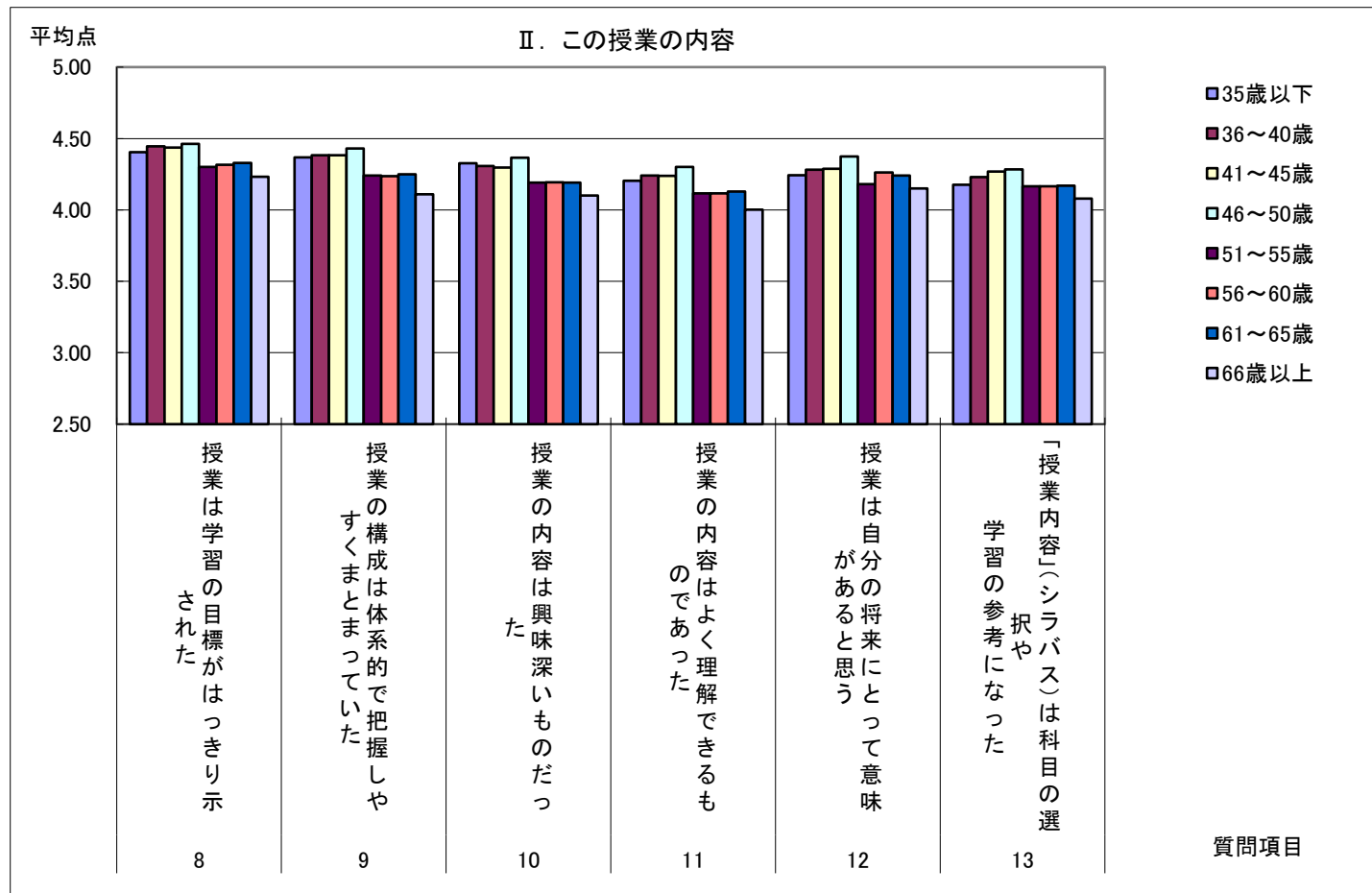
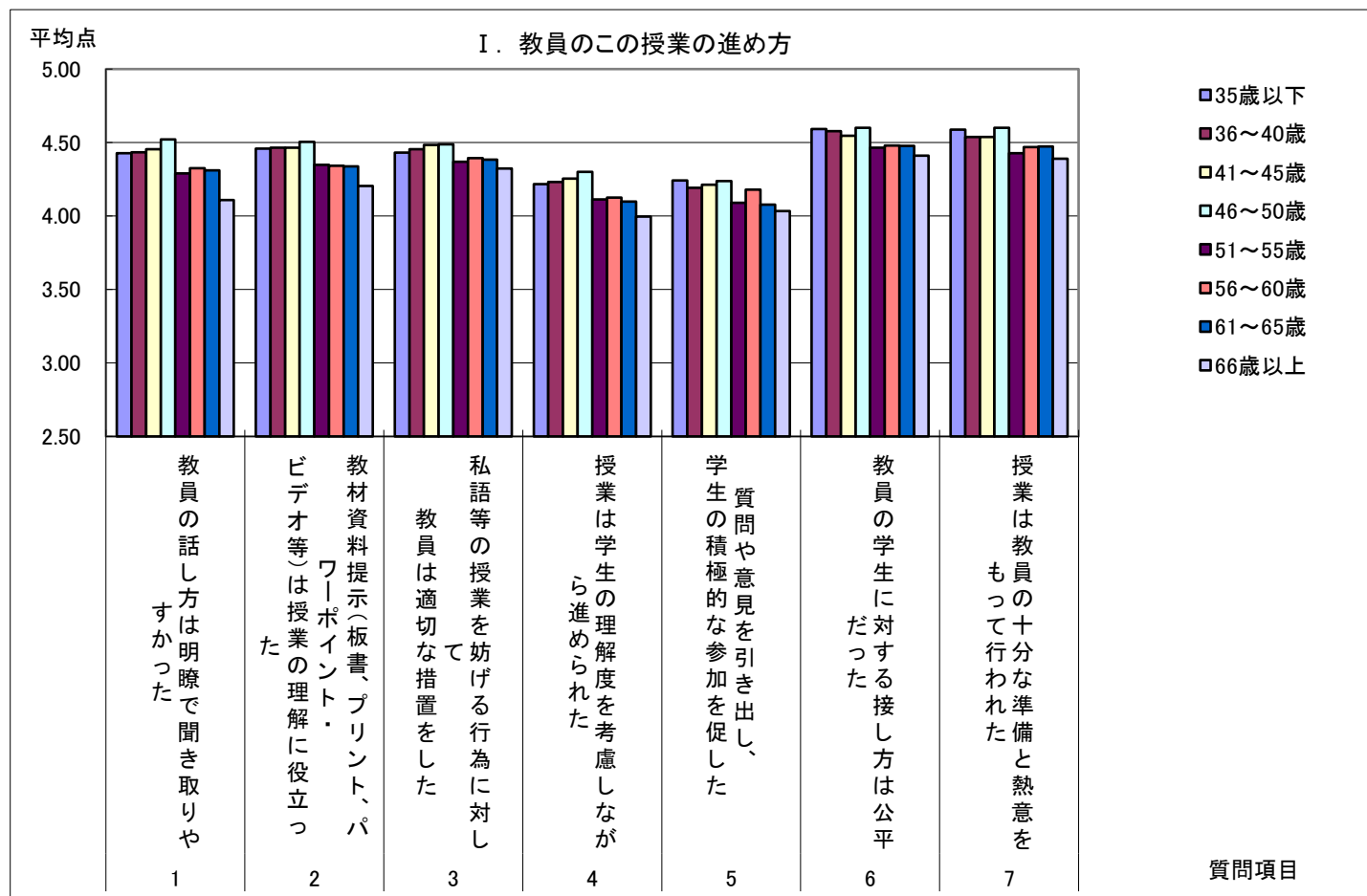
	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
8 授業は学習の目標がはっきり示された	4.40	4.45	4.44	4.46	4.30	4.32	4.33	4.23
9 授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.37	4.38	4.38	4.43	4.24	4.24	4.25	4.11
10 授業の内容は興味深いものだった	4.33	4.31	4.30	4.37	4.19	4.19	4.19	4.10
11 授業の内容はよく理解できるものであった	4.20	4.24	4.24	4.30	4.12	4.12	4.13	4.00
12 授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.24	4.28	4.29	4.37	4.18	4.26	4.24	4.15
13 「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.18	4.23	4.27	4.28	4.17	4.16	4.17	4.08

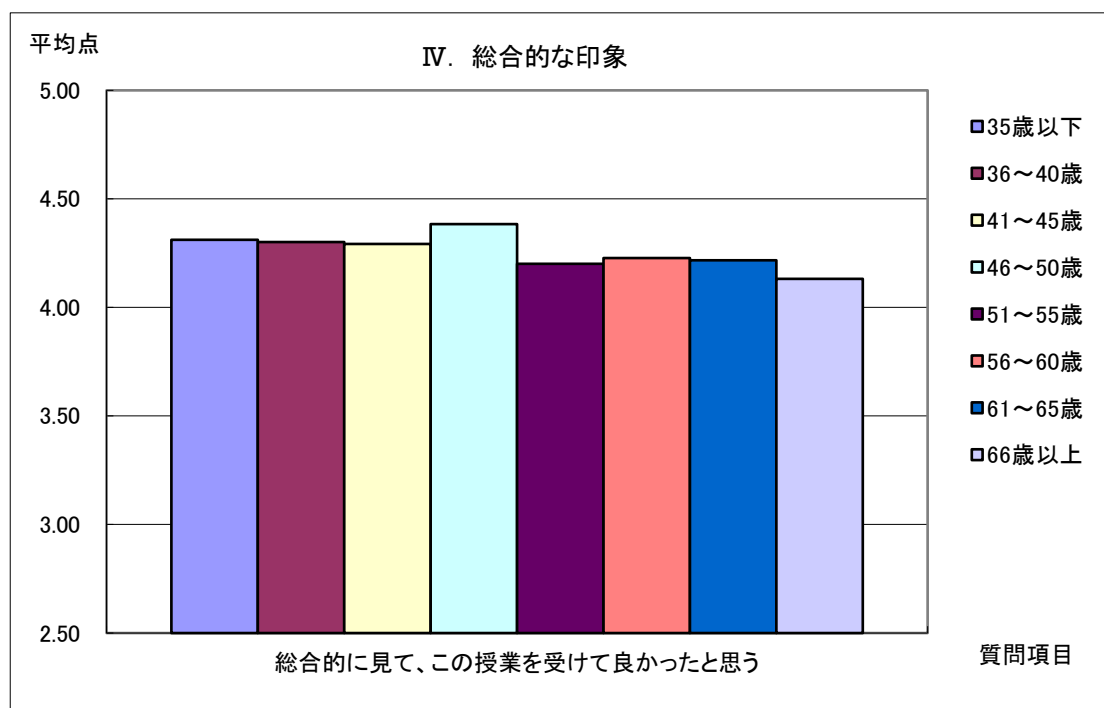
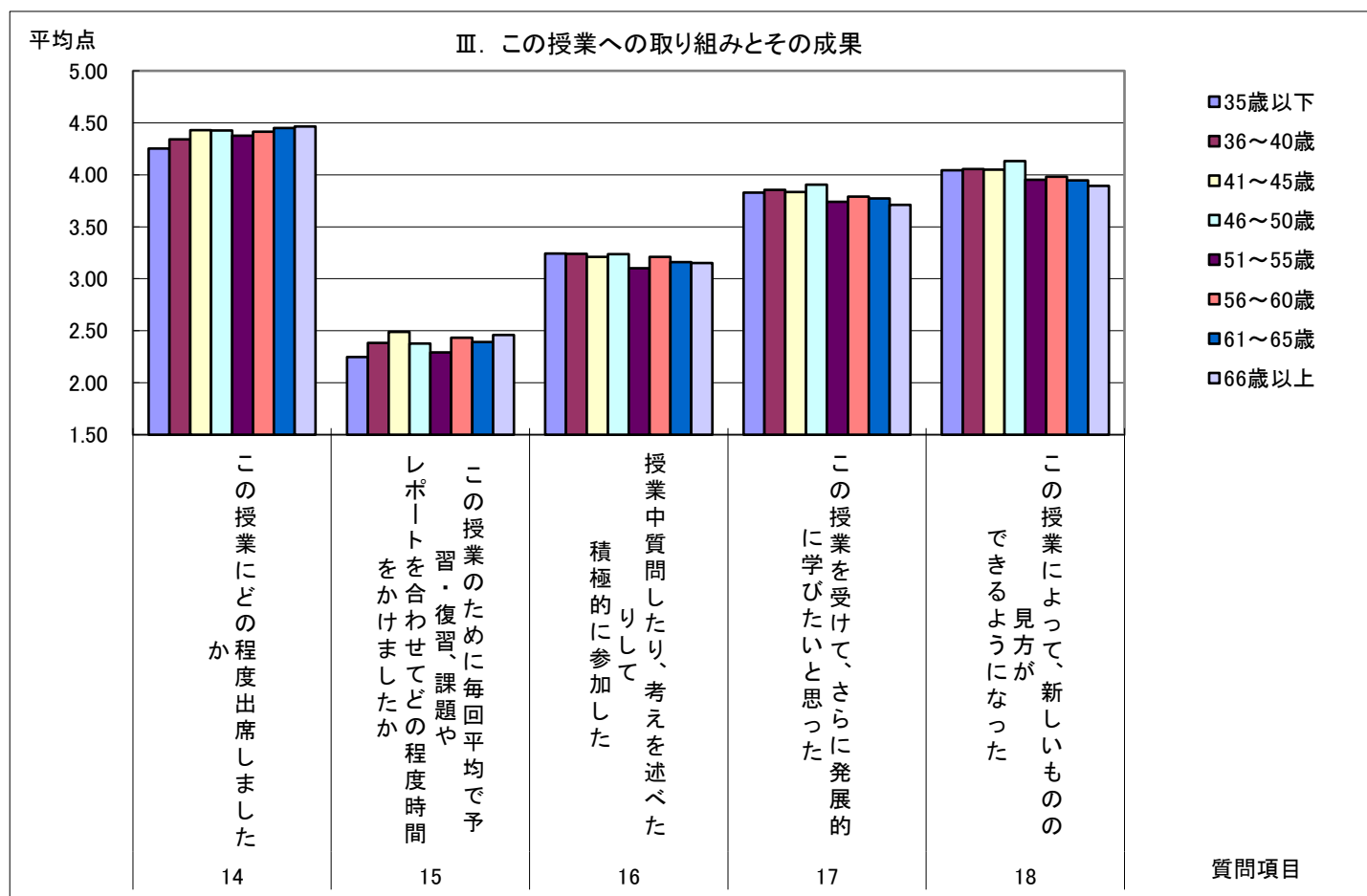
III. この授業への取り組みとその成果について

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
14 この授業にどの程度出席しましたか	4.25	4.34	4.43	4.43	4.38	4.42	4.45	4.46
15 この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.25	2.38	2.49	2.38	2.29	2.43	2.39	2.46
16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.24	3.24	3.21	3.24	3.10	3.21	3.16	3.15
17 この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.83	3.85	3.83	3.90	3.74	3.79	3.77	3.71
18 この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.04	4.06	4.05	4.13	3.95	3.98	3.95	3.89

IV. 総合的な印象

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
19 総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.31	4.30	4.29	4.38	4.20	4.23	4.22	4.13





2019年度後期 授業に関するアンケート集計結果(教員の年齢別)大学・短大合計

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
履修者数	2,747	4,895	6,760	8,261	8,903	9,639	8,582	11,287
回答者数	2,112	3,571	5,174	6,172	6,744	7,442	6,567	8,780
回答率(%)	76.88	72.95	76.54	74.71	75.75	77.21	76.52	77.79

I. 教員のこの授業の進め方について

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
1 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.55	4.51	4.51	4.44	4.38	4.37	4.33	4.21
2 教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.54	4.48	4.51	4.44	4.39	4.39	4.35	4.28
3 私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.53	4.49	4.50	4.46	4.45	4.45	4.43	4.38
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.36	4.29	4.29	4.25	4.20	4.20	4.14	4.08
5 質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.40	4.23	4.24	4.26	4.20	4.25	4.11	4.10
6 教員の学生に対する接し方は公平だった	4.60	4.58	4.54	4.52	4.49	4.51	4.48	4.42
7 授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.60	4.58	4.55	4.52	4.48	4.51	4.47	4.43

II. この授業の内容について

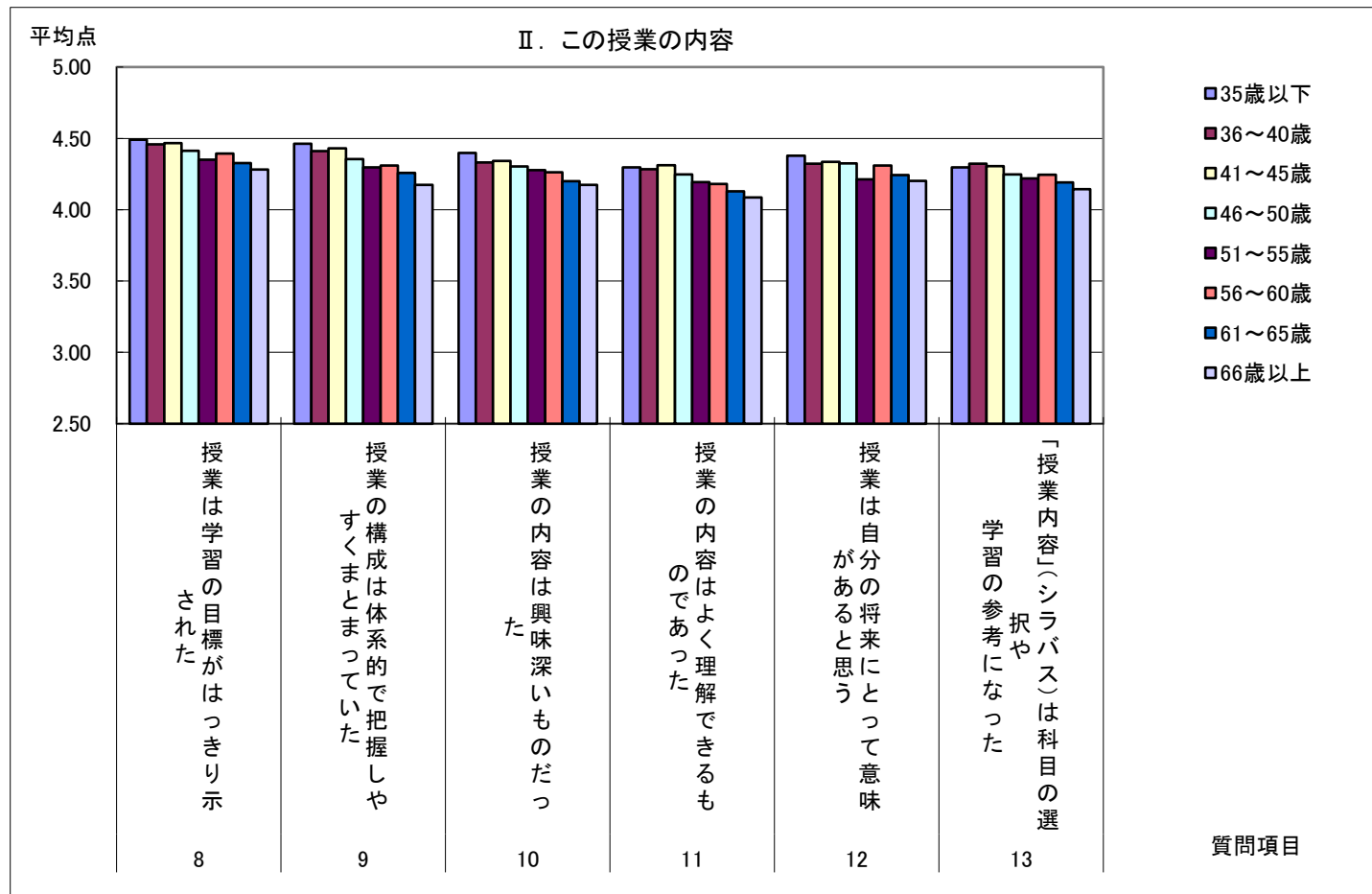
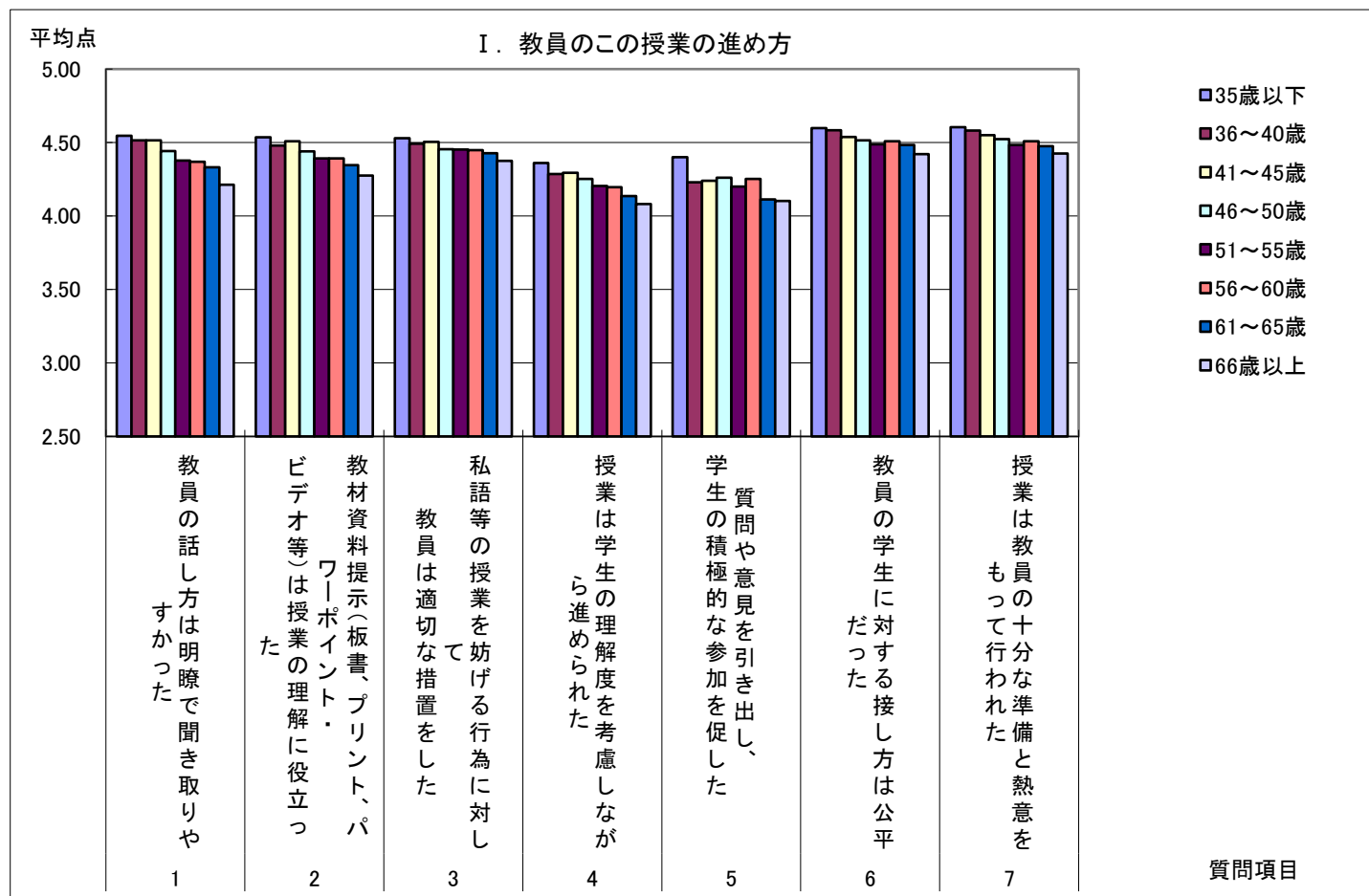
	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
8 授業は学習の目標がはっきり示された	4.49	4.46	4.47	4.41	4.35	4.39	4.33	4.28
9 授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	4.46	4.41	4.43	4.36	4.30	4.31	4.26	4.17
10 授業の内容は興味深いものだった	4.40	4.33	4.34	4.30	4.28	4.26	4.20	4.17
11 授業の内容はよく理解できるものであった	4.30	4.28	4.31	4.25	4.19	4.18	4.13	4.09
12 授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.38	4.32	4.34	4.32	4.21	4.31	4.24	4.20
13 「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.30	4.32	4.30	4.25	4.22	4.24	4.19	4.14

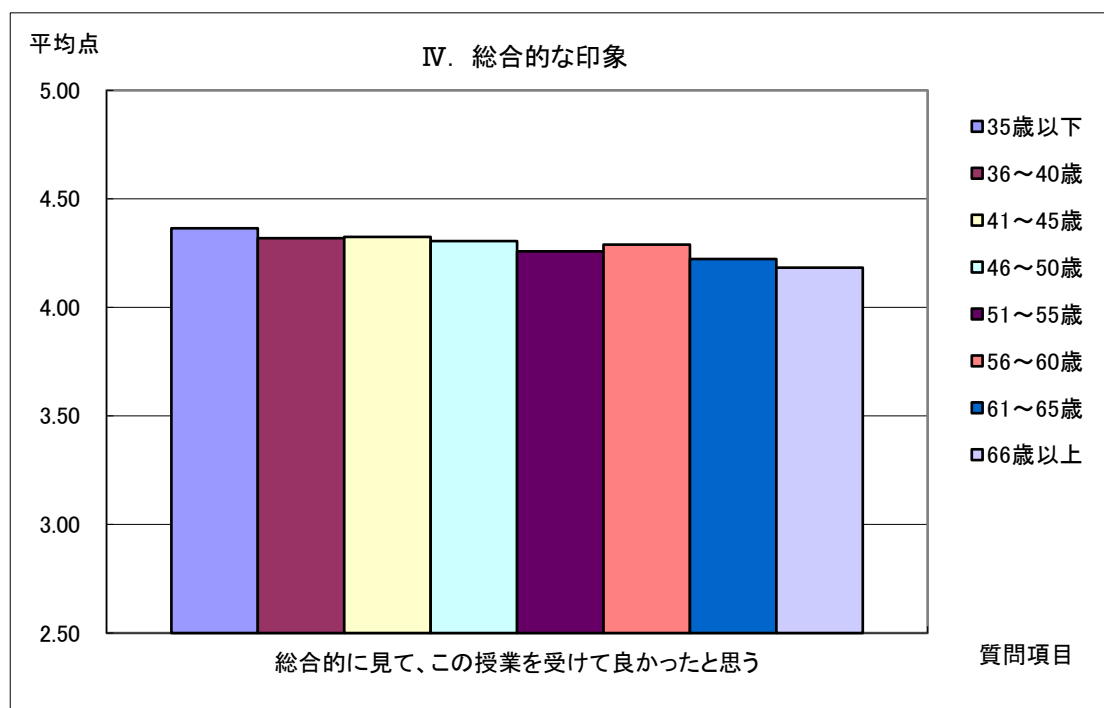
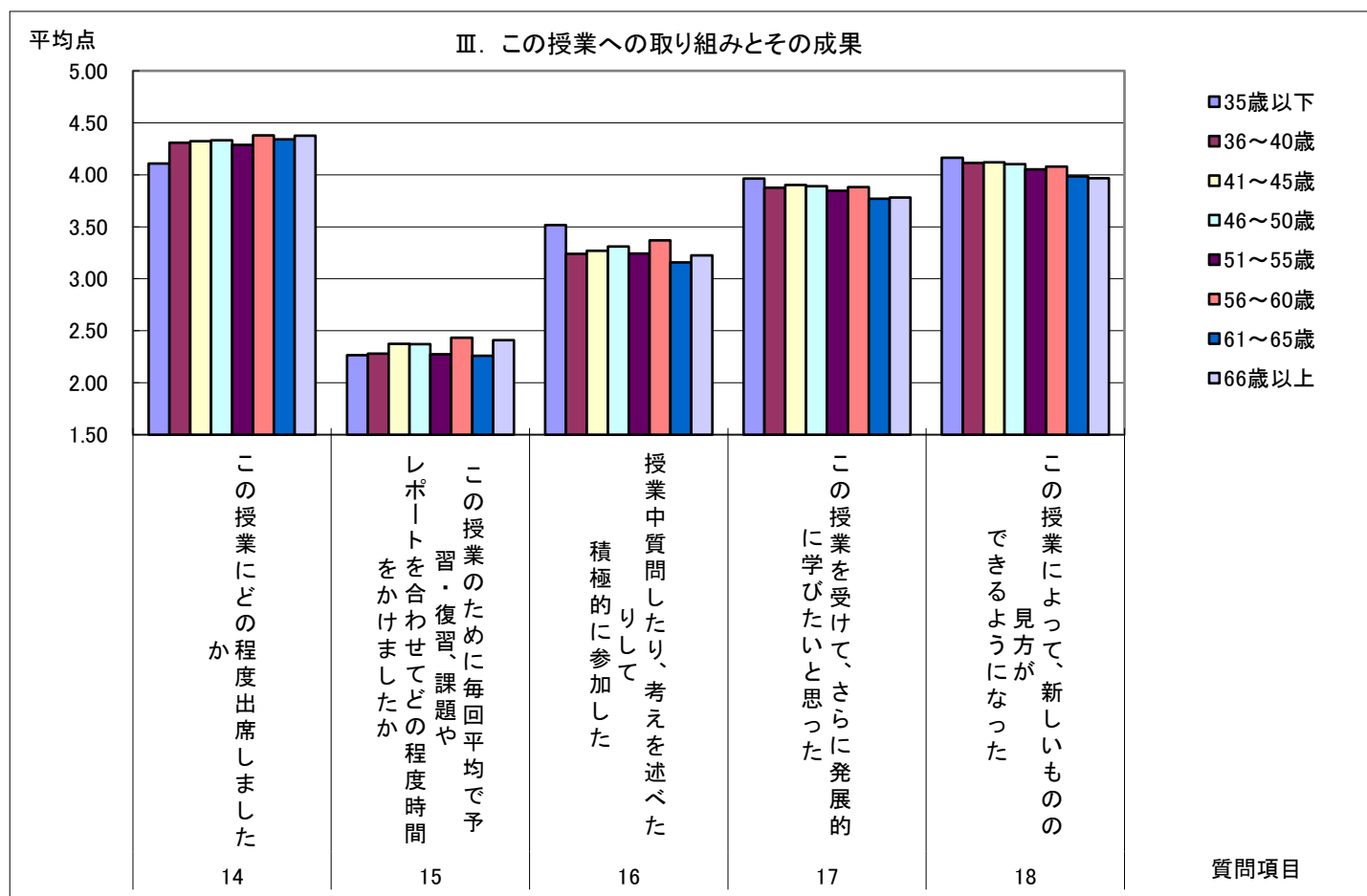
III. この授業への取り組みとその成果について

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
14 この授業にどの程度出席しましたか	4.11	4.31	4.32	4.33	4.29	4.38	4.34	4.38
15 この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.26	2.28	2.37	2.37	2.27	2.43	2.26	2.41
16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.52	3.24	3.27	3.31	3.24	3.37	3.16	3.22
17 この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.96	3.88	3.90	3.89	3.85	3.88	3.77	3.78
18 この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.16	4.12	4.12	4.10	4.05	4.08	3.99	3.97

IV. 総合的な印象

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
19 総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.36	4.32	4.32	4.31	4.26	4.29	4.22	4.18





2 各学部の令和元年度FD活動の概要報告

(1) 家政学部

1. 令和元年度家政学部FD委員会構成

委員長：小林 実夏(食物学科) 委員：大網 美代子(被服学科) 川口 美喜子(食物学科) 林 明子(児童学科)
宮田 安彦 小関 右介(ライフデザイン学科)
大妻女子大学ファカルティディベロップメント委員会：青江 誠一郎(家政学部長)

2. 授業に関するアンケートについて

家政学部 FD 委員会では、過年度と同様に前後期 各1回の「授業に関するアンケート(何れもマークシート両面 1 枚)」を実施した。

昨年度との変更点として、科目によっては回答しづらい設問があるという意見があったため、今年度はアンケートの各設問の回答欄(昨年5段階)に「わからない／判断しづらい」を追加し6段階とすることとなった。

専任教員・非常勤教員ともに原則として全科目を実施対象とした。なお、実施期間は、前期が7月1日(月)から、7月20日(土)まで、後期が11月25日(月)から12月14日(土)までとした。

以下、「授業に関するアンケート」調査の実施とその集計、結果などの概況を記しておく。

① 前後期実施状況

延回答者数／延履修者数前期:175763名／209181名(回答率84.0%) 同後期:15676名／19746名(回答率80.9%)

② 「調査カテゴリーⅠ. 先生のこの授業進め方について(Q1～Q7)」回答結果(5段階評価)の概要

このカテゴリーにおける平均点は、前期 4.36 後期 4.37 となった。前年度は、前期 4.30 後期 4.34 だったので、スコアの上昇を見ることが出来た。また、設問別で見ると、「Q7 授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた」については、平均点が前後期共に4.50以上と高い評価を得ることが出来た。

③ 「調査カテゴリーⅡ. この授業の内容について(Q8～Q13)」回答結果(5段階評価)の概要

このカテゴリーにおける平均点は、前期 4.28 後期 4.28 だった。前年度は、前期 4.21 後期 4.25 だったので、こちらもスコアの上昇を見ることが出来た。上記②同様に設問別で見ると、「Q15 この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか」については、前期2.40 後期2.34で全設問の中で一番低い結果になっている。前年度は、前期2.33 後期2.30であった。

④ 「調査カテゴリーⅢ. この授業への取り組みとその成果について(Q14～Q18)」回答結果(5段階評価)の概要

このカテゴリーの平均点は、前期 3.60 後期 3.60であり、昨年度前期 3.54 後期 3.58だったのでスコアの上昇がみられたものの、全カテゴリーの中では一番低い低スコアとなった。また、設問別で見ると、「Q15 この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか」については、前期2.40 後期2.34で全設問の中で一番低い結果になっている。前年度は、前期2.33 後期2.30であった。

⑤「調査カテゴリー IV. 総合的な印象について(Q19)」回答結果(5 段階評価)の概要

この設問に対する平均点は、前期 4.30 後期 4.28 となり、4.00以上のスコアであるので、高い満足度で推移したことがわかった。また前年度は、前期4. 24 後期4. 26だったので少し上昇していた。

3. 学部内全専任教員の FD 報告

今年度は後期授業アンケート結果が返却された後、以下に記した、A～C の 3 項目について、一人当たりの記述全体が 40 字×20行以内で記名入報告文の作成を依頼した。2月末日までに各教員から、FD 報告文が提出された。

家政学部では現状、解析結果を学部全体で共通のアクションへ繋げるなどを実施していないが、提出された報告文によって普遍的な事例などが意識共有されているものと捉えている。

A.今年度の授業アンケート実施科目(前後期)のうち1科目を選択し、その結果を踏まえた、次年度以降の改善構想について記して下さい。

B. アクティブ・ラーニングを実施した授業について、その効果や問題点を挙げてください。実施を考えたものの実施にはいたらなかった授業については、実施を計画するに当たって感じた障壁・問題点を記してください。

C. ICT(manaba、クリッカー等)を活用した双方向授業を実施した授業について、その効果や問題点を挙げてください。実施を考えたものの実施にはいたらなかった授業については、実施を計画するに当たって感じた障壁・問題点を記してください。

4. 本年度の家政学部 FD 委員会における主な報告・審議事項

第1回家政学部FD委員会(4月11日(木)):2018年度FD委員からの引継ぎ事項である「授業に関するアンケート」の内容検討し、2019年度FD活動計画について審議された。

第2回家政学部FD委員会(6月28日(金)):授業の進め方・内容、学生へのサポート体制、設備について、FD委員と各学科の学生との意見交換を行った。

第3回家政学部FD委員会(1月23日(木)):2019年度FD活動の総括、FD報告文用の質問項目および取りまとめについて、および2020年度家政学部FD活動の実施計画について審議された。

一方、2019年度「授業に関するアンケート」の除外科目、オムニバス科目等の実施についておよび、『大妻女子大学「授業に関するアンケート」取扱内規(案)』についての校正案について電子メールによる意見交換、稟議等を実施した。

以上については、2019年度家政学部FD 活動報告書を参照されたい。

5. その他

授業担当者懇談会開催 5月11日(土)

父母・教員懇談会開催 6月1日(土)

前期 大妻女子大学ファカルティディベロップメント委員会主催FD研修会 6月7日(金)

後期 大妻女子大学ファカルティディベロップメント委員会主催FD研修会 1月30日(木)

学習の到達度を図るため在校生の実力確認テストの実施 4月ガイダンス時(食物学科)

入学時・卒業時アンケートの実施(全学科)

以上

(2) 文学部

令和元年度、文学部では様々なFD活動が実施された。学部としては、本年度は基本的に前年度までの文学部FD活動を継承し、1)「授業に関するアンケート」調査と回答結果分析、2)公開授業、3)『文学部FD活動報告書』の作成を行った。加えて、今年度は新たな取り組みとして、4)「教員と学生による文学部授業改善研修会」を実施した。本報告では、上記4活動に加え最後にその他の活動について順に報告する。

1)「授業に関するアンケート」の実施について

前期は7月1日(月)～7月20日(土)、後期は11月25日(月)～12月14日(土)の期間に全学共通の回答シートを使用した授業アンケートを実施した。今年度より本アンケートは原則全授業が対象となった。(但し、アンケート項目が授業の内容や実施方法に適さないと思われる科目(卒業論文、ゼミ、オムニバス、個別指導の科目等)や、回答者の匿名性を担保するために受講者が10名未満の少人数履修科目はアンケート対象から除外できるものとした。)実施科目数は前期605科目、後期582科目、総科目数1,187科目となり、回答率は専門科目81.5%、教養科目76.6%、諸課程科目86.1%となった(ほぼ例年通りの回答率)。アンケート結果は集計後各教員に配布され、学生による自由記述欄の記載内容は、全文をそのまま担当教員に開示するフィードバックを実施している。

結果として、教員の授業の進め方や授業に対する学生の満足度は三学科を通して例年比較的高い数字を保持しているが、学生自身の各授業への取り組み度を問う項目では、予習・復習にかかる時間が学部全体を通して低い値となり、前年度に引継ぎ学生の主体的な自宅学習への課題が残る結果となった。

詳細な結果データ、分析内容は『令和元年度大妻女子大学文学部FD活動報告書』に掲載されている。

2) 公開授業の実施について

教員を対象とする公開授業を、前期・後期2週間ずつ計4週間を用いて実施した。授業担当者は3学科よりそれぞれ3名ずつ、計9名が選出され授業を公開、任務に当たった。具体的な公開授業名、担当者名は次の通りである。

【日本文学科】

前期：倉住薫	「上代文学概説」	6月24日(月)4時限
須田喜代次	「基礎ゼミⅡ」	6月25日(火)1時限
後期：増野弘幸	「漢文学演習」	11月13日(水)5時限

【英語英文学科】

前期：Ken Ikeda	「Academic English 1」	6月26日(水)3時限
後期：田代尚路	「英文学(近代)」	11月11日(月)4時限
伊東武彦	「異文化コミュニケーション2」	11月13日(水)4時限

【コミュニケーション文化学科】

前期：桶田敦	「放送文化論」	6月28日(金)2時限
後期：関本紀子	「異文化コミュニケーションⅡ」	11月5日(火)1時限
竹部成崇	「社会心理学」	11月14日(木)1時限

3)『文学部FD活動報告書』の作成について

今年度より、これまで印刷冊子による配布を行ってきた『文学部F D活動報告書』をウェブ化し、大学ホームページに掲載する新たな運用を開始した。専任の先生方、事務職員の方々には大学ホームページ上で自由にご覧頂くことが出来、且つ必要箇所のみ閲覧や印刷が可能になることから、本報告書をより身近に利便性高くご利用頂ければ幸いである。

4) 「教員と学生による文学部授業改善研修会」実施について

今年度新たな文学部F D活動として、2019年6月27日(木)に「教員と学生による文学部授業改善研修会」を実施した。この研修会は普段交流や意見交換の場がない文学部3学科の教員と学生が一堂に会し、授業環境や授業の在り方について学科の枠を超えて協議し、文学部全体の教育の質の改善を図った、文学部としては初めての取り組みである。研修会には文学部F D委員会の教員6名と各学科より選出された2名ずつ計6名の学生が参加した。研修会では各学科の代表学生達から積極的な発言が相次いだ。この会により、紙の授業アンケート結果からは見えてきにくい、学生達が抱える問題や要望、彼女達の学問に対する真摯な姿勢、そして大学が抱える課題等が見えてきた。学生達自身が自らの声で語り、そしてそれを教員が直に共有出来たことは、今後の授業運営および学科の在り方、方向性を考える上で非常に有意義であり、初めての企画であったが大変重要な意義を持つ会となった。

尚、本研修会で学生から出された問いや要望に対しては、各関係部署および学科にて対応が協議され、2020年2月末に回答書がまとまった。文学部F D委員会はこの回答書を参加学生達に公開し詳細な説明を行った。

5) その他の活動

上記の他、文学部のF D活動として、各学科において下記活動を実施した。

- ①授業担当者懇談会(2019年5月11日(土))
- ②保証人と教員の懇談会(2019年6月1日(土))
- ③学会活動
- ④その他教育活動

これら活動については、『令和元年度大妻女子大学文学部F D活動報告書』に詳細が報告されているため、そちらをご参照されたい。

以上

(3) 社会情報学部

社会情報学部では学生による授業評価を平成 11 年度より開始し、平成 14 年度からはFD委員会を発足させた。今年度は 18 年目にあたり、昨年度までの活動を継続しつつ、大学を取り巻く新たな環境の変化に対応する課題にも取り組んだ。

1) 授業公開

授業公開は、自由な参観とアンケートの任意提出という従来からの方針に沿って実施した。具体的には、授業公開を実施するにあたって、公開科目の担当者と参観希望教員との個別的な調整に委ねることとした。参観後に提出するアンケート用紙として、参観した授業に対する意見・感想を述べる「ご意見・感想用紙」と、授業公開に参観したか否かを尋ねる「授業公開参観確認アンケート」を用意し、前者の提出は任意、後者の提出は必須とした。全体的な傾向は、授業公開者が期待するほどの参観者数に至っていない。その原因を明らかにするとともに、参観者率を高める改善が今後求められる。

2) FD 活動への取り組み

昨年度までは、「障害のある学生に対する授業での対応について」の情報共有に取り組んでいたが、この種の活動が全学的に制度化されたことに伴い、学部での取り組みを中止した。代わって、Tips 集の編纂と情報の共有を行った。Tips 集とは、講義等における授業改善のためのちょっとしたアイデアを集めたものである。こうした取り組みはいくつかの大学で進められている他、市販本も存在する。しかし、授業は学生の特質や授業形態等により多様である。本学部の実態に即した教員の工夫やアイデアを共有し、日ごろの教授活動の改善・充実を図ることを目的とした。教員から提案されたアイデアを Tips 集としてまとめ、全学部の教員へ配布した。

3) 新入生のプロファイリング調査（PROGテスト）の実施

社会情報学部FD委員会では昨年度に引き続き、新入生のPROG（Progress Report on Generic Skills）テストを実施した。PROGテストはジェネリックスキルを測定するもので、リクルートと河合塾が共同開発したものである。PROGテストにはリテラシー（認知能力：学力）とコンピテンシー（非認知能力：勤勉性・協調性・コミュニケーション能力・精神的安定性等）の2つの測定項目がある。2019 年のPROGテスト実施大学は7女子大学を含め202校（132,281名）で、本学の短大でも実施している。リテラシーは学力との相関が高い指標であるが、今回も昨年度と同様、コンピテンシーの指標のみを評価した。

昨年度はPROG受験を年間計画に組み込んでいなかったため、受験率は3割強にとどまったが、今年度はオリエンテーション期間に実施したため、受験率は99.0%（309人中306人）と高い値となった（昨年度97.3%）。

なお、昨年度のPROGテストの結果については、今年度6月のFD研究会において、担当いただいた情報デザイン専攻の小野茂教授より、分析結果のプレゼンテーションがあった（社会情報学部FD報告書のFD研究会・PROGテストの章を参照されたい）。千代田キャンパスへの移転後、初の新入生のデータということもあり、多くの学部教員が参加し、学生の傾向の変化についての関心を共有した。

4) 入学時の学生生活調査・卒業時の学生生活調査の質問項目の見直し

学部で行ってきた入学時学生生活調査の項目について、大学で実施する入学時調査との整合性を図る改善を行った。

5) 特定枠プロジェクトの公募

特定枠プロジェクトを4月から5月にかけて学部内で公募し、次の研究を助成対象とした。

研究テーマ「入学予定者を対象とした数学基礎教育の検討」

研究代表者：市村 哲 共同研究者：松田 晃一 ・ 小野 茂

6) 私立大学等改革総合支援事業選定に向けた対応策の検討

私立大学等改革総合支援事業の設問において、全専任教員が全学的なFD活動に参加していることが問われているため、FD講演会の内容を記録したDVDを各教員が借りることにより、欠席者も事後フォローできる体制を整えた。このことによりトータルでの参加者数の増加を図った。

また、「学生を交えたFD活動」として、6月12日の放課後に教員と学生がともにFD活動を実施できる場を設け、意見交換を行った。各専攻で参加学生を募り、共通のテーマについてグループによる懇談・意見交換を行った。その後、自由懇談へと移り、グループ懇談の後にグループごとの報告とまとめを行った。

加えて、7月17日の教授会教授会終了後に学部全教員が参加するFD研修会を実施した。平成30年度FD活動報告書や6月12日に行われた学生とFD懇談会からの意見等により課題となった点をFD委員長が報告し、そこから見えてくる学部のFD活動に関する課題の共有化を図った。

以上のとおり、これまでの活動成果（上記1～3）を継承しながら、さらなる課題（上記4～6）に対して具体的な活動を実施し、FD活動の充実をすすめた。

なお、今年度は、文書協議による委員会開催を含め、計9回にわたって定例の委員会を開催した。また、必要に応じて電子メールによる意見交換もおこなった。FD委員会で話し合われた主な報告事項および審議事項については、社会情報学部のFD活動報告書を参照されたい。

（４）人間関係学部

令和元年度においても、昨年度と同じく教育内容の向上のために下記のような取り組みを行った。

１）学部 FD 研修会の実施

「授業をよりよくするための Tipsーその 4ー」という研修を実施した（令和元年 12 月 6 日）。研修会の内容と参加者の意見については、学部 FD 報告書の中で詳しく紹介されている。

２）学生による授業評価

令和元年度においても、前期・後期の年 2 回、学生による授業アンケートを実施した。アンケートの結果に対しては、全教員が改善に向けたコメントを付してその内容を公表している。なお、昨年度より、学生の出席状況を問う項目とのクロス集計を 5 つの項目で実施し、より詳細な分析結果を教員にフィードバックした。

３）授業改善を図る制度的取組としての学生代表者との意見交換

教育の質の更なる向上に向けて、昨年度に引き続き、授業改善について学生代表者との意見交換を行った（令和 2 年 1 月 10 日（金））。意見交換の内容については、学部 FD 報告書の中で詳しく紹介されている。

４）保護者懇談会の実施と参加者のアンケート

令和元年度においても、前期（6 月 1 日：千代田キャンパス）・後期（10 月 19 日：多摩キャンパス）の年 2 回、父母懇談会を実施した。懇談会の実施後には保護者から出された質問、意見、そしてそれに対する大学の改善策を集約して、教員全員が共有できるように工夫しており、またそれらの内容を学部 FD 報告書の中でも公開している。

５）オフィスアワーの実施

学生が事前の予約なしに気軽に教員の研究室を訪ねることができる時間帯という趣旨で、本学部では全ての専任教員がオフィスアワーを設定し、大学のホームページ等でこれを公開している。本報告書の中でも、今年度のオフィスアワーを振り返った各教員の所感と今後の取り組みの内容が掲載されている。

６）各種委員会との連携

学生の教育内容・教育環境の向上のためには FD 委員会による取り組みだけでは不十分であるため、教学面の管理を担当する教務委員会、就学環境全般の改善を目指す学生委員会、健康面をサポートする保健管理委員会等の各種委員会が教授会・学科会議等の場で報告する事項を参考にしながら、FD 活動の一層の充実を図っている。

７）各学科・専攻における FD 活動の内容の共有

教育方法に関する配慮・工夫に関しては、基本的にそれぞれの学科・専攻の専門的な判断にゆだねられるべき領域であるが、同時にある教員・ある専攻が行っている取り組みが、専門性の垣根を超えた普遍性を持つ場合もあり、そのような参考にすべきノウハウについては、学内の様々な機会を利用して全教員が共有できるようにしている。また、本報告書の中でも各学科における FD 活動の内容を具体的に紹介しているが、そこで述

べられた内容を各教員が参考にしながら、今後の教育内容の向上につなげることを期待している。

8) クラス担任制度

本学部においては、ほとんどの専任教員がいずれかのクラス担任として学生の指導にあたっており、このシステムが学生の教育効果を高めるうえにおいても大きな効果を発揮している。本報告書の中でも各教員が1年間のクラス担任としての活動を振り返って、今後の取り組みにつながるような提言や意見交換を行っている。

9) その他

昨年度、授業評価アンケートに対する教員のコメントとして、教室にレーザーポインターを配置してほしいという要望がいくつも寄せられた。FD委員会として授業改善に資する要望であると判断し、今年度複数の教室にレーザーポインターを配置した。今後も教育の質向上に向けて、学生・教員双方の意見を丁寧に取り上げ、対応していければと考えている。

(5) 比較文化学部

本学部では主に、(I) 授業に関するアンケートの実施、(II) 学生代表との FD 懇談会の実施、(III) オフィスアワーの実施、(IV) 授業担当者懇談会、に取り組んだ。ここでは (I) および (II) について詳しく報告する。

(I) 「授業に関するアンケート」の実施について

a) アンケート実施時期と実施方式

前期は 2019 年 7 月 1 日(月)～7 月 20 日(土)の期間に、後期は 2019 年 11 月 25 日(月)～12 月 14 日(土)の期間に、90 分の授業時間のうち約 20 分を使って実施した。原則として、ゼミ(3 年ゼミに相当する比較文化演習ならびに 4 年ゼミに相当する比較文化セミナー)を除く全ての科目でアンケートを実施した。ただし、履修者数が極端に少ないために集計結果から学生が特定されかねない科目については、アンケート実施対象から除外した。実施にあたっては実施要領を担当教員に配布し、アンケートの回収や共同研究室／講師控室への提出にあたって担当教員がアンケートの回答を見ることがないように配慮、工夫した。

b) 実施科目の履修者数と有効回答数

アンケート実施科目の履修者数は、前期は 21,079 名で、うち有効回答者数は 17,124 名(回答率 81.24%)であった。後期のアンケート実施科目の履修者数は 21,165 名で、うち有効回答者数は 16,375 名(回答率 77.37%)であった。

c) 集計

マークシート回答の集計処理は外部の業者に委託した。①各授業別の集計結果と②全授業平均評定平均結果、③「自由記入欄」に書かれた学生のコメント(手書き)を電子テキスト化した。③については、基本的に学生が書いた文章をそのまま電子テキスト化した。さらに、以下に挙げる項目別分析データ、比較文化学部全体のデータ、評定平均度数分布データを得た。

<項目別分析データ>

授業方法別(講義・演習・講義演習)／区分別(外国語・教養・専門)／クラスサイズ

別／言語別／学生のマークによる所属学科別／学生のマークによる学年別／担当教員の所属別／担当教員の年齢別

d) アンケート結果の伝達、教員からのフィードバック

授業ごとの集計結果(上記 c)の①、②、③)は、成績登録期間終了後に授業担当教員本人に届けた(非常勤講師には郵送)。集計結果を届ける際には、集計結果に対する所感、感想の執筆を全担当教員に依頼し、FD 委員会に提出してもらった。

e) 一連のサイクル実施の報告

上記 c)の抜粋、そして d)のフィードバックを取りまとめて、令和元年度(2019 年度)の学部の FD 報告書

作成を進めている。FD 報告書は、web 上での閲覧が可能になるよう、PDF 形式で公開する。

なお、FD 活動は学部教育の発展のための——別言するなら、次に同じ授業を履修する学生がよりよい授業を受けることができるようにするための——活動であることから、教員からのフィードバックにて多く見られた「自身の科目と類似する科目の様子も知りたい」という要望に応じて、作成する FD 報告書には評定平均点度数分布表と専門科目・言語別のアンケート集計結果を掲載し、授業改善の参考になるよう工夫している。

(II) 学生代表との FD 懇談会の実施について

a) 実施要領

授業改善を図る制度的取組として、授業改善（FD）についての学生代表との懇談会を、前期 2019 年 6 月 17 日（月）昼休みに、後期は同年 12 月 16 日（月）昼休みに実施した。

前期は 2、3 年生を対象に、後期には 1 年生を対象にしてクラス委員および有志に参加してもらうことによって、幅広い学年から意見を聞いた。前期、後期いずれの懇談会においても、前学期実施の「授業に関するアンケート」結果を振り返りながら、「予習の効果を（内容理解や成績評価の側面から）実感することができるか」、そして「どの授業がよい授業だったか／それはなぜか（どのような授業に参加した時に、学びを実感することができるのか）」について懇談した。

b) 実施の報告と情報共有、その後の取り組み

学生代表との FD 懇談会は、学部の授業運営に対する学生の受け止めようを把握するには非常によい機会であった。とりわけ、予習や授業運営について、学年にかかわらず同じような意見や要望をもつ傾向があることが分かったことは有意義であった。懇談会で表明された学生からの意見や要望は、後日開催された学科会議における研修を通じて学部教員が共有した。その結果、一部外国語科目において教材統一をはじめとする取り組みが行われるなど、組織的な FD 活動に繋がっている。教員による共有に至るまでの一連の活動は、令和元年度（2019 年度）の学部の FD 報告書に掲載し、今後の FD 活動に活用する。

（６）短期大学部

１．令和元年度短期大学部F D委員会の構成と活動方針

短期大学部F D委員会は、家政科３専攻から各１名、国文科１名、英文科１名の計５名の専任教員によって構成されている。昨年度に引き続き、以下の項目を中心にF D活動を行った。

- (1) 授業に関するアンケート
- (2) オフィス・アワー
- (3) 保証人との懇談会
- (4) ホームページ
- (5) 授業公開
- (6) 学習支援活動
- (7) 短期大学部主催によるF D講演会、F D研修会
- (8) 満足度調査

２．令和元年度のF D活動の概要

活動の詳細は、令和元（2019）年度F D活動報告書第17号に掲載した。ここではその概要を記す。

（１）「授業に関するアンケート」について

今年度も、F D基幹活動として、短期大学部開講科目受講者を母集団とする「授業に関するアンケート」を実施した。アンケート実施対象の授業科目数は、これまでは前・後期各３科目とされていたが、今年度に全学的な方針が改正され、原則として担当授業科目全てで実施した。実施期間は、前期７月１日（月）～７月２０日（土）、後期１１月２５日（月）～１２月１４日（土）、それぞれ３週間であった。

短期大学部全体として、前期は合計２００科目について、履修者総数７,７６１名のうち６,６６８名、後期は合計１９７科目について、履修者総数６,９６３名のうち５,６１７名から回答を得た。全カテゴリーの平均値は前期が４.０９、後期が４.１６（昨年度は前期４.１８・後期４.１３）であり、前期より後期にポイントは上昇し、後期では昨年度と比べても向上が認められた。

（２）オフィス・アワーについて

各学科・専攻の専任教員が各自オフィス・アワーを設定し、４月のガイダンス時に「オフィスアワー一覧表」を学生に配布、またホームページやシラバスにも掲示して周知に努め、学習支援・生活支援・進路指導などに取り組んだ。さらに他の時間帯やEメールも活用して可能な限り対応し、きめ細かな支援を心がけた。

（３）保証人との懇談会について

千鳥会主催の父母教員懇談会は、６月１日（土）午後に開催された。学生に対する学習面・生活面の指導状況、就職事情などを説明した上で、個別の懇談を行った。それ以外にも、各学科・専攻により独自企画での懇談会も開催された。午前中には、就職・キャリア支援グループによる保護者向けの就職ガイダンスが、今年度は全学部を対象に大妻講堂で開催された。

（４）ホームページについて

昨年度から組織された短期大学部広報委員会を中心に、3 学科が共同でホームページの維持と管理を実施した。ホームページは、高校生が進学先を選択する際に重要な情報源となるばかりでなく、短期大学部からの対外発信の主要な手段となるものであるから、今年度もより魅力的なものとするための様々な改善がなされた。新任教員の紹介ページを加え、教員の紹介ページは学科・専攻で統一し、学生や入学希望者が進路を考える際に役に立つ「卒業生の声」に触れることのできるページの充実を図るため、学科・専攻で共通して卒業生のインタビュー記事と写真の追加掲載を行った。

（５）授業公開について

今年度も短期大学部各学科で、11 月～12 月に実施した。家政科では専任教員全員 17 名が授業を公開し、国文科では専任教員の持ち回りで 1 名が、英文科では新任の専任教員 1 名が公開担当した。「授業公開」に関する案内は、学内各所への掲示で周知した。実施後は、公開担当者および参観者にアンケートを実施して、参観者のアンケート結果は授業担当者にフィードバックし、また両者での話し合いの場を設けて意見交換をするなどして、今後の授業の改善に繋げた。

（６）学習支援活動について

学力面や生活面で多様な背景を持つ学生が学ぶ短期大学部では、学生一人ひとりの状況や個性をふまえた、柔軟かつ積極的な支援を行っている。今年度も、それぞれの学科・専攻において工夫を凝らした支援活動が実施された。個別の指導においては、クラス指導主任を中心に、副担任助手のほか、教育支援グループや学生支援グループ、学生相談室カウンセラーと連携して問題解決にあたった。

（７）短期大学部主催による F D 講演会、F D 研修会について

F D 講演会は、「最近の就活事情と学生指導のポイント」と題して、11 月 21 日（木）に千代田キャンパスにて開催された。講師は株式会社エービーシーエデュケーション・チーフコンサルタントの山本みどり氏にお願いした。就職活動はどう変化しているか、インターンシップの種類と活用法を分かりやすく解説いただき、特に最近の就職活動については、親世代と子世代の変化、働き方、採用手法の変化の最新情報を知ることができた。

F D 研修会は、昨年度から学生を参加させ、「授業改善を学生とともに考える」と題してワークショップ形式で実施しており、令和 2 月 14 日（木）に千代田キャンパスにて開催した。参加者は、各学科専攻から 2 名ずつ計 10 名の学生、学部長、学科長、専攻主任ほか計 14 名の教員、事務教員 4 名であった。「授業でよかった点」などについて活発な意見が述べられ、和やかな中で学生の生の声を聴取でき、多くの示唆を得た研修会となった。

（８）満足度調査について

「満足度調査」は、卒業年次生を対象として、平成 18 年度から短大独自で実施しており、教育内容・環境など大学生活全般について、その満足度を 5 段階で調査するものである。調査期間は、令和元年 11 月 15 日（金）～28 日（木）の 2 週間であった。「全体的にみて、満足・やや満足」と答えた者の割合は 76.6%で、昨年度 73.6%よりも高くなり、満足度の上昇が確認できた。貴重なデータを検討し、今度のさらなる改善に努めたい。

3 人間文化研究科の令和元年度FD活動

大妻女子大学大学院人間文化研究科FD委員会は、令和元年度～3年度の3年計画で、大学院におけるFD活動の実施計画を策定した。この実施計画にもとづき、個々の具体的なFD活動を実施してきたので、その実情を以下の通り報告し、今後の活動に繋げたい。

I. 令和元年～3年度大妻女子大学大学院FD実施計画

1. 基本方針

大学院FD委員会の協議のもと、院生の入学から修士課程修了ならびに博士後期課程修了までの全学習・研究過程を視野におさめながら、より質の高い教育ならびに研究指導の実践を目指して、大学院における教育力を高める。よって、大妻女子大学全学の教育力向上に貢献する。

① FD活動の目標

大学院FD活動の目標を次のように定める。

- ① 学部・短大FDと大学院FDの連携のもとで、学部の入学・卒業から大学院入学・修了までを展望したFD活動を実施する。
- ② 教育活動に有益なFDを実施することに努め、教員が協力しやすい状況をつくり、全員の参加を目指す。
- ③ 教員対象のFDにとどまらず、職員や院生の協力・連携を基盤とした、全体的なFDに取り組む。
- ④ 個々のプログラム内容の充実に努め、その成果に関する情報を集積し、関係者の間での共有化を進める。

② FD活動の計画

大学院FD活動の計画は次の通りとする。

- ① 「大学院進学意識に関するアンケート」
- ② 「大学院の研究・教育に関する意見の収集」
- ③ 「大学院修了に際しての意見の収集・アンケート」
令和元年度のアンケートを用いて実施する。回収率の向上を目指す。
- ④ 院生・教員懇談会の実施
開催の時期・方法については、各専攻・専修の協議によるものとする。懇談会の結果、院生からもたらされた意見・要望については、その都度、取りまとめて、FD委員会に報告する。
- ⑤ 学会発表の奨励に関する活動
活動実態については、専攻ごとに取りまとめて、年1回、FD委員会に報告する。
- ⑥ 学内発表会の奨励・支援に関する活動
活動実態については、専攻ごとに取りまとめて、年1回、FD委員会に報告する。
- ⑦ 院生論文集発行の支援に関する活動
「人間生活文化研究:International Journal of Human Culture Studies」を掲載誌とし、編集事務局の援助を受けながら発行していく。
- ⑧ 他大学との各種連携の活性化に関する活動
活動実態については、専攻ごとに取りまとめて、年1回、FD委員会に報告する。
- ⑨ 就職支援に関する活動
活動実態については、専攻ごとに取りまとめて、年1回、FD委員会に報告する。アンケートの希望が多かった大学院生の就職支援体制の充実を図る。
- ⑩ 社会人院生・社会人教育の実質化のための活動
・千代田・多摩キャンパスの連携・充実を具体的にどのように推進していくか検討す

る。

- ⑪ 研究科設置の主旨に沿った教育方針具体化のための活動
 - ・専攻・専修内の授業間の整合性の検証やスリム化を視野に入れた教育・研究体制のあり方について検討する。
 - ・大学院の組織の見直し（特に博士後期課程）を検討する。
- ⑫ その他の活動
 - 大学院生室の有効活用の検討など

Ⅱ. FD 活動の実施状況

以下、3つのアンケート調査を実施した。①と②については、平成28年度からWebを利用して調査している。

① 「大学院進学意識に関するアンケート」

大学院修士課程入学者を対象に、昨年度とほぼ同じ内容で10月に実施した。その結果については、「Ⅲ. 大学院進学意識に関するアンケート（結果の概要）」と題して、本報告書に掲載した。

② 「大学院の研究・教育に関する意見の収集」

全大学院生を対象に、昨年度とほぼ同じ内容で10月に実施した。その結果については、「Ⅳ. 大学院の研究・教育に関する意見の収集（結果の概要）」と題して、本報告書に掲載した。

③ 「大学院修了に際しての意見の収集・アンケート」

平成31年3月修了予定の院生に対しては、大学院における今後の進路指導の課題に鑑み、就職先の実態を把握することを中心とした。その結果は、Ⅷ.「就職支援に関する活動」欄のとおりである。

Ⅲ. 大学院進学意識に関するアンケート（結果の概要）

Ⅲ-1 はじめに

大妻女子大学大学院人間文化研究科は平成22年4月（2010年）に改組して以来、10年目を迎えた。本年度も「大学院FD活動実施計画」に基づき、各種の活動を実施してきたが、これまでの活動との比較を考慮して、前年度とほぼ同様の内容で「大学院進学意識に関するアンケート」と「大学院の研究・教育に関する意見の収集」（Ⅳ.参照）を実施した。前者は修士1年生を対象に、後者は大学院生全員を対象に実施している。以下に両調査の結果の概要を大学院のFD活動を継続的に考察するための資料として提示する。なお、大学院の在学生在が少ないため、専攻、専修や在学年を答えると回答者が特定される懸念があることから、昨年度から修士1年生向けアンケートでは、「専攻、学年」の質問を削除、全大学院生向けのアンケートでは所属する課程のみを聞き、またその回答は必須としないことにしている。

Ⅲ-2 進学意識に関する調査の目的と方法

令和元年度の大学院修士課程1年生は、アンケート実施時には18名であった。新入の修士課程1年生を対象とする「大学院進学意識に関するアンケート」の目的は、大学院進学にあたっての経緯や動機を把握し、いかにして多くの学生が集まる魅力的な大学院をつくるかの参考にすることにある。調査の方法は志望動機、志望決定にあたっての情報入手経路、他大学との併願状況、終了後のキャリア計画、大学院生活への抱負などを聞いた。

Ⅲ-3 調査の対象・時期・回収の状況

「大学院進学意識に関するアンケート」は次の要領に基づいて実施した。

- (ア) 調査の対象：令和元年度人間文化研究科各専攻修士1年生18名を対象とした。回答者は17名だった。
- (イ) 調査の期間：令和元年10月1日～10月31日
- (ウ) 回収の状況：過去9年間と今年度の1年生の回答者数と回収率を表1に示した。今年度の回収率は94.4%であった。例年より実施時期を1カ月早めた。当初予定していた2週間では回答率が低かったため、あらためて注意喚起したうえで月末まで延長したことから、回答率が上がったと考えられる。

表1 大学院進学意識に関するアンケート（新入学者）

対象者	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
新入学者	26	22	19	20	19	22	24	18	18
回答者	18	11	11	13	15	16	19	12	17
回答率(%)	69.2	50.0	57.9	65.0	78.9	72.7	79.2	66.7	94.4

Ⅲ-4 大学院への進学の動機について

「本学大学院への進学を志望するに当たって、その動機に係る1～12項目に対してどの程度重視しましたか」との問いに対する結果を、表2に示した。「非常に重視した」5点、「かなり重視した」4点、「どちらとも言えない」3点、「あまり重視しなかった」2点、「ほとんど重視しなかった」1点、「まったく考えたことがない」0点として平均点を算出した。

表2 大学院進学にあたって重視した動機項目の順位

		平均点数（5～1点評価）						
		H25(n=11)	H26(n=15)	H27(n=14)	H28(n=16)	H29(n=19)	H30(n=12)	R1(n=17)
1	将来、研究職・臨床職に就きたいこと	4.3	2.9	3.3	3.7	3.9	2.9	3.4
2	専門分野の学位が取れること	4.2	3.3	3.5	4.0	4.1	3.9	3.6
3	就職に有利になること	2.9	1.9	2.8	3.5	3.3	2.3	2.5
4	自宅・会社からの通学が便利なこと	3.2	2.1	3.0	2.1	3.2	3.0	2.6
5	指導を受けたい教員がいること	4.3	3.4	3.7	4.4	4.4	3.8	4.0
6	大学のネームバリューがあること	2.2	2.0	2.1	2.3	2.5	2.2	1.8
7	就職を先に延ばせること	1.5	1.8	1.7	2.2	1.7	1.6	1.3
8	希望する就職先がなかったこと	1.1	1.3	1.3	1.5	1.4	1.2	0.6
9	奨学金を受給できること	1.9	1.3	1.9	2.7	2.3	1.6	1.8
10	専門の資格が取れること	3.7	2.4	2.8	4.0	3.8	3.1	2.6
11	研究したいことがあること	4.4	3.1	3.7	4.2	4.3	3.8	4.1
12	在学中の学費の支払いのこと					3.5	3.4	2.9

注1：表中数値は平均値

表2に見られるように、全体的な傾向としては過去6年間とほぼ同様であり、「研究したいことがあること」「指導を受けたい教員がいること」「専門分野の学位が取れること」「将来、研究職・臨床職に就きたいこと」といった項目が上位を占めている。以下に述べる表3「大学院進学にあたって影響源となった項目」においても、重視されている項目が指導教員や学部時代に世話になった教員、あるいは出身大学の教員との相談であることを考えると、大学院進学動機づけに教員が大きく関与していることが分かる。

この質問に関する自由記述は、特になかった。

Ⅲ-5 大学院進学にあたっての影響を与えた情報源について

表 3 大学院進学にあたって影響源となった項目の順位

		平均点数 (5～1 点評価)						
		H25(n=11)	H26(n=15)	H27(n=11)	H28(n=11)	H29(n=19)	H30(n=12)	R1(n=17)
1	本学の先輩の研究成果を見たこと	1.9	1.8	1.6	1.9	2.8	1.7	2.4
2	大学院に行っている友人・知人からの情報	2.5	2.5		2.5	2.9	2.0	2.9
3	両親や兄弟姉妹から勧められたこと	1.1	1.7	1.5	1.1	1.8	2.2	1.9
4	自分の配偶者の意見	0.3	0.5	1.0	0.3	0.6	1.1	0.8
5	大学院紹介の受験雑誌などの記事	1.2	1.9	2.1	1.2	2.1	1.2	1.1
6	本学発行の大学院紹介パンフレット	3.0	2.2	3.1	3.0	2.9	2.6	2.6
7	学内の大学院進学説明会	2.5	3.2	2.5	2.5	3.6	2.9	1.8
8	学外の大学院進学説明会	1.2	0.9	2.2	1.2	1.4	0.8	0.8
9	本学のホームページの記事	2.4	2.2	2.4	2.7	2.6	2.0	2.9
10	指導教員になる教員との相談	4.5	2.9	3.5	4.5	3.9	4.2	4.2
11	学部時代に世話になった教員との相談	2.7	2.6	2.3	2.7	3.0	3.4	3.1
12	出身の大学の先生との相談	2.7	2.7	3.0	2.7	3.0	3.6	2.5
13	出身の高校の先生との相談	0.9	0.5	1.1	0.9	0.8	0.2	0.4
14	教員の業績と研究テーマをみて、将来自分の研究テーマを追及していくうえで最適な場所と考えたから			3.0	3.9	3.8	3.6	3.9
15	他の大学院にはない独創的な文化資源(蔵書、マニユスクリプト、物的資料など)があると考えたから			3.0	1.6	2.1	1.8	1.9

注 1：表中の数値は平均値である

過去 6 年間の傾向を見ると、「指導教員になる教員との相談」がそれぞれの年度において第 1 位となっているが、今年度も最も高い得点となっており、やはり指導教員の影響が大きいことが伺える。また、平成 27 年度から追加された「教員の業績と研究テーマを見て、将来、自分のテーマを追求していくうえで最適な場所と考えたから」が進学に当たっての動機の大きな要因となっており、今年度に関しても同項目の平均点は指導教員の影響に次ぐ高得点となっている。こうしたことを踏まえると、大学院教員の研究力・発信力が、学生が大学院進学を決めるにあたって重要な要素になっていると言える。「本学発行の大学院紹介パンフレット」「本学のホームページの記事」も例年、比較的高い数値を示しており、広報活動のさらなる活発化が望まれる。

この質問に対しては以下の自由記述があった。

- ・ハローワークの職員

Ⅲ-6 他大学の受験状況：

「他の大学院を受験しましたか」との質問では、回答した 17 名のうち 15 名が「いいえ」と答えた。他大学大学院の受験者は 2 名であった（昨年度は 12 名の回答者全員が「いいえ」と答えた）。

Ⅲ-7 大学院修了後の進路及びどの様な大学院生活を送りたいか

「大学院修了後の進路は、どの様に考えていますか」については表 4 に、「あなたはどの様な大学院生活を送りたいですか」については表 5 にまとめた。

表 4 および表 5 に関しては、複数回答であるため回答率で示した。回答者の絶対数は少ないものの、修士課程 1 年生の段階で博士後期課程進学を視野に入れている院生の割合が平成 28 年度以降、比較的高率で推移していることが特徴として指摘できる。さらに「大学教員として就職したい」「臨床心理士として就職したい」といった職業志向と併せ、専門性を重視する傾向が当然ながら強い。

表4 大学院修了後の進路について（複数回答）回答率（%）で表示

	H28	H29	H30	R1
1 博士後期課程に進学したい	22	26	42	35
2 外国に留学したい	22	16	17	6
3 教育職員（専修）（幼稚園・小・中・高校・栄養教諭）として就職したい	28	21	25	12
4 専門社会調査士として就職したい	0	0	17	6
5 臨床心理士として就職したい	22	37	33	24
6 研究機関で研究開発の仕事に就きたい	6	16	8	24
7 民間企業で一般職の業務に就きたい	11	0	17	24
8 民間企業で総合職の業務に就きたい	11	16	17	24
9 公務員として就職したい	11	11	17	12
10 大学教員として就職したい	6	16	8	29
11 まだ具体的に考えていない	28	5	8	18

注1：希望は複数回答のため、合計は100%を超えている。

この質問に対する自由記述欄には次のようなものがあった。

- ・博士課程に進みたいが、今の状況では不安。
- ・教育・研究系の進路で管理栄養士受験資格を取得したいが、どちらかがかなう進路でかわらない。博士課程も視野に入れている
- ・大妻の博士課程に進学したいが、先生が博士課程の教員ではないので他大学も視野に入れなくてはいけないのか心配。

大学院生活への希望を尋ねた結果を表5に示した。

表5 どんな大学院生活を送りたいか（複数回答）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
1 専門分野についての研究中心の生活をしたい	55	33	20	44	63	17	59
2 研究（実験・実習を含む）と自由時間をバランスさせたゆとりある生活をしたい	64	87	82	61	58	50	53
3 たくさん授業科目を履修して社会に出るための教養を深めたい	18	27	27	44	42	25	18
4 就職活動や資格を取るための時間を多くしたい	9	7	27	17	16	8	18
5 就職活動を早めに始めて、まずは就職を決めたい	9	20	13	11	16	8	12
6 狭い専門分野の研究にこだわらずに、幅広い分野の知識を得たい	55	33	53	17	37	25	18
7 アルバイトや遊びはできるだけ控えたい	18	7	0	0	11	17	12
8 アルバイトや遊びも大いにやりたい	9	20	27	11	6	8	12
9 自由な時間をできるだけ楽しみたい	18	27	27	17	16	17	18
10 どうするか、まだはっきり考えていない							9

注1：表中数値は%

どんな大学院生活を送りたいかについて見ると、「専門分野についての研究中心の生活をしたい」「研究（実験・実習を含む）と自由時間をバランスさせたゆとりある生活をしたい」、という希望とともに「たくさん授業科目を履修して社会に出るための教養を深めたい」、「狭い専門分野の研究にこだわらずに、幅広い分野の知識を得たい」といった、自分の専門分野の枠を超えたよ

り広い学問領域への関心が高いことが伺える。こうした学際的な分野への院生の希求に応えることもこれからの課題となろう。

この質問に対する自由記述欄には次のようなものがあつた。託児所問題は院生にとどまらず教職員側の需要もあるはず。全学的に早急に検討すべきだろう。

- ・多くの先生の意見や考えを聞きたい。託児所などが欲しい。
- ・現在のカリキュラムは密すぎて精神的に疲弊している。

III-8 大学院進学に当たって一番考えたこと、悩んだこと

「進学意識調査」の最後に、大学院進学に当たって一番考えたこと、悩んだことについて自由記述欄に記述された意見を以下に掲げる。

- ・落ちたら無職になってしまう。
- ・学費
- ・大学院に行く力があるのかどうか、臨床心理士に向いているのかどうか。
- ・修士後の進路。継続して博士課程に進んだ場合、就職しにくそう。就職する方がよいと思うが、いつどのように博士課程に戻るべきか。
- ・進学が自分に適しているのかどうか。
- ・社会に出るのが遅くなること。学費。就職に不利になるのではないかと考えた。
- ・受験期間を延ばすと家族に精神的・経済的負担がかかるので内部受験した。
- ・学費の捻出。進学は就職に不利になると聞いていること。
- ・みんなが働きお金を稼ぐなかでのあせり。進学してうまくいくのかとの悩み。
- ・学資が払えるか。仕事と研究と家庭の両立ができるか。

IV. 大学院の研究・教育に関する意見の収集（結果の概要）

「大学院の研究・教育に関する意見の収集」は、全大学院生を対象に授業内容、履修環境、事務体制に対して点数による客観的評価と自由記述による意見を集約し、授業方法の改善、カリキュラムの構成、設備の整備など、教育改革に反映させることを目的としている。

平成25年度から回答を、「非常にそう思う；5点」から「まったくそう思わない；1点」までの5段階評価としている。評価点は、平均点と最高点、最低点を算出。専攻別の平均点も算出している。ただし前述したように昨年度から「専攻」は問わないことにしたため、算出した平均点は回答者全員の平均点である。アンケートは進学意識に関する調査と同時に実施した。

(ア) 調査の対象：大学院人間文化研究科に在籍する大学院生 43 名

(イ) 回収の状況：35 名（81.4%）から回答を得た。前年度の回答率 54.7%（在籍者 53 名、回答者 29 名）は大きく上回ったものの、残念ながら所属不明の回答が 4 名あり、集計から除外せざるを得なかった。したがって集計上の回答率は 72.0%である。

結果の概要は以下の通りである。

IV-1 各評価項目

大学院の授業全般についての評価は表6の通りである。各項目ともおおむね5段階評価でほぼ4（3.8～4.2）であり、全体の平均点も4であるので、授業はおおむね適切に行われているという評価であったといえる。

しかしながら、自由記述欄には後に掲げるように個々の授業に関する率直な意見が寄せられており、そうした声にしっかり耳を傾け、引き続き大学院生のニーズに応えられる大学院教育を作り上げるようさらなる努力が必要である。

表6 大学院の授業全般についての評価

課程	回答数	問1	問2	問3	問4	問5
		シラバスに記載された到達目標に示された知識や能力を獲得できた	授業の水準や範囲は大学院の授業として適切であった	授業の内容は専門知識等を習得する上で十分な意義が感じられた	研究指導や論文指導のあり方について適切であった	学外研究・学外実習について希望通り実施することができた
修士課程	26	4.0	4.0	4.3	4.2	3.8
博士後期課程	5	4.0	4.2	4.0	3.8	3.8
全平均	31	3.9	4.2	4.2	4.1	3.8
最高点		5	5	5	5	5
最低点		1	3	3	2	2

注：表中数値は平均値、最高点及び最低点である。

続いて、大学院の履修および研究環境については表7の通りである。

全体としての平均値は3.5から3.6の範囲であり、平均点は3.6であった。したがってこれもおおむね適切、あるいは満足のレベルであると判断できよう。

表7 大学院の履修および研究環境について

課程	回答数	問6	問7	問8	問9
		事務手続きのシステム全般について分かりやすかった	ガイダンスの日程や実施方法について適切であった	図書館他学校の施設設備について満足している	院生自習室の学習環境について満足している
修士課程	23	3.4	3.4	3.5	3.6
博士後期課程	6	4.0	3.8	3.6	3.8
全平均	29	3.5	3.5	3.5	3.6
最高点		5	5	5	5
最低点		2	1	2	2

注：表中数値は平均値、最高点及び最低点である。

教育・研究支援について表8に示す。

表8 教育・研究支援について

課程	回答数	問10	問11
		事務職員の対応は適切であった	大学院の学費・奨学金は適切であった
修士課程	23	3.9	3.5
博士後期課程	6	4.0	3.0
全平均	29	3.9	3.6
最高点		5	5
最低点		1	2

注：表中数値は平均値、最高点及び最低点である。

全体の評価は、3.9および3.6であり、これも全体的には適切であったとの評価結果であるといえよう。

IV-2 大学院の授業全般（問 1～5）、履修・研究環境（問 6～9）、教育・研究支援（問 10～11）に関する自由記述欄への記述状況

自由記述欄に記載された意見については、そのままの意見を箇条書きで以下に記載する。

問1.「大学院の授業ではシラバスに記載された到達目標として示された知識や能力を獲得できた。」

- ・そうでない授業もある。
- ・大学院紹介パンフには子ども・成人で3ケースは担当できると書いてあったが、学内ケースが1ケースしかもらえないまま修了してしまいそうだ。ケース自体がないのではなく、卒業まで先が長い後輩にケースが回っている。

問2.「授業の水準や範囲は大学院の授業として適切であった。」

- ・そうでない授業もある。

問3.「授業の内容は専門知識等を習得する上で、十分な意義が感じられた。」

- ・考えることは楽しいと思えるようになった。

問4.「研究指導や論文指導のあり方について適切であった。」

- ・ゼミの時間が研究指導をしてほしい。
- ・根気強く指導していただき、見通しを持つことができた。

問5.「学外研究・学外実習について希望通り実施することができた。」

- ・数が少ない。
- ・今のところ実際に行うことがないが、希望すれば実施できるだろうと思う。
- ・指導教授のおかげで学外研究の機会を得た。頑張ります。
- ・今現在そのような経験がない。
- ・実習記録の初回提出から教員コメントが返ってくるまでが遅い。教員のアドバイスを求めることができないまま実習先での実習期間が終わってしまった。
- ・使用許可をいただいていたフィールドが使えなくなり困った。

問6.「事務手続きのシステム全般について分かりやすかった。」

- ・いつも親切な対応に感謝している。
- ・今月締め切りの修士論文概要のフォーマットがまだ提示されなくて困っている。
- ・職員の方がいつも柔軟にご対応くださった。

問7.「ガイダンスの日程や実施方法について適切であった。」

- ・無駄な時間が多い。
- ・多摩キャンパス在籍の院生に対しては、多摩キャンパスで行ってほしい。千代田のガイダンスの後、多摩で専攻ガイダンスがあったため、交通費などが余分にかかった。
- ・スマホを持っていない。不安だったが助かった。
- ・多摩生のみ千代田キャンパスから多摩キャンパスに移って再びガイダンスをするのが、時間的・経済的に負担だった。多摩生は多摩で映像を通してガイダンスをするか、千代田で一括して実施してほしい。
- ・同じ日に千代田キャンパスと多摩キャンパスにて時間差でガイダンスを行うのは、多摩キャンパスの学生にとって負担だった。
- ・年度初めのガイダンスを1日にまとめていただけると、社会人としてはとても助かる。

問8.「図書館他の学校の設備について満足している。」

- ・授業で先生が紹介する本は図書館に入れてほしい。
- ・司書の方にはお世話になっている。たくさん教えていただいた。
- ・蔵書が少ない。
- ・多摩キャンパスの心理学が設置されているのに、千代田キャンパスの方が資料が豊富なように感じる。学部に合わせて調整していただけると助かる。
- ・とても快適。
- ・OPAC システムがリニューアルしたが非常に使いにくい。

問9.「大学院生室・大学院生自習室の学習環境について満足している。」

- ・PC が古い。水道がなくて不便。夏場は扇風機が欲しい。
- ・PC 起動後、USB メモリなどを読み取るまでに時間がかかる。
- ・所属研究室の席で十分なのと、院生室を使いたい人のために、あまり使用していない。
- ・アンケートなどを保管するため鍵のかかるスペースが欲しい。追加のロッカーは専攻ごとではなく、個人に貸していただきたい。
- ・とても快適。
- ・PC の起動が遅い。機器のある区域で飲食する人がいる。掃除が不十分である。
- ・PC 起動速度やインターネット通信速度が上がると助かる。
- ・御飯が 2 カ月間放置されるなど、冷蔵庫の衛生状態がひどい。インク切れのまま放置するなど、プリンターの使い方が杜撰。管理者側から今一度注意してほしい。
- ・統計ソフトをインストールした PC の台数を増やしてほしい。夜間や土日は SPSS 搭載機が混んでいる。また、プリンターの機種を変えたほうが汎用性が高くなると思う。
- ・回収したアンケートなどを保管する鍵付きロッカーなどを個人に貸してほしい。夏休み中も工事の人が入るときは事前に教えてほしい。

問 10.「事務職員の対応は適切であった。」

- ・メールで送り主を書けないのはよろしくない。
- ・いつも感謝している。
- ・住所変更のため住民票を持参したが、不要だと言われた。先生の判子が要るとは理解に苦しむ。社会人なのでなかなか先生に会う機会がなく、結局変更できていない。
- ・一度だけぶっきらぼうな対応があった。声をかけた時からだったので、こちらに非はないように思えた。

問 11.「大学院の学費・奨学金制度について」

- ・実習費も学費に含めてほしい。
- ・もう少し院生室の充実にあてられるのではと疑問に思った。
- ・留学や休学をしても費用がかからなければ、もっと自由に、積極的に行動できるようになると思う。

IV-3 ハラスメントについて

ハラスメントについて、今回のアンケート調査では 31 名が回答し、「経験がある」が 5 名、「答えたくない」が 3 名、「経験がない」が 23 名であった。自由記述欄には 2 名が次のような意見を述べている。なお、アンケートを取る際に回答結果は慎重に扱う旨明記しており、以下に示した自由記述については記載内容に若干の配慮をした。

- ・教員が授業内で、理解度の低い院生の発表に「意味不明」などと発言することに疑問を感じた。院生側の問題もあるが、突き放すような発言はどうか。

- ・アルバイトの募集方法の曖昧さ、不透明な部分が多々あるなど、無意識的なハラスメントに思える。

平成 24 年度からアンケート調査項目に「ハラスメントについて」を取り入れた。ハラスメントに関する調査結果の概要（図 1）が示すように、ハラスメントは年々増加傾向にあるといえる。特に今年度は「経験がある」との回答が過去最多の 5 名からあった。他に「答えたくない」が 3 名。内容如何にかかわらず、ハラスメントは本来一件もあってはならないことだ。ハラスメントは一過性の行為ではなく常習的に行われるケースが多い。これは多くの教職員が経験的に知っている。教員は教育・研究指導の面で学生・院生に対して権力を握る立場にあり、その優越的地位を背景とした行為は絶対に許されない。

これまでとってきたハラスメント防止対策を再度、確認しておきたい。

- ① FD アンケートの回答について、修了生も申し出ができる機会を確保する措置を講じる。

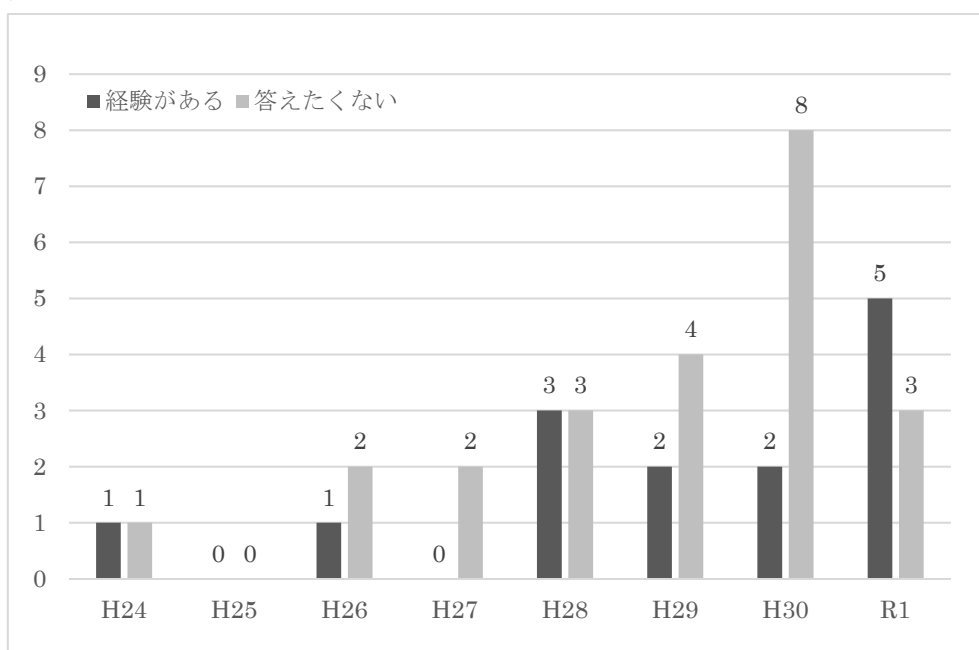
事案には FD 委員、ハラスメント委員、専攻教員が適宜対応する。

- ② ハラスメントに関する回答の FD 報告書への記載は、一部表現について個人を特定しづらい形に修正する。

- ③ 専攻会議等で結果を報告し、注意喚起を行う。

ハラスメント行為に対する警告を繰り返してきたにもかかわらず、事態が改善される様子が見られないのは深刻な事態と受け止めなければならない。

図 1



IV-4 社会人特別選抜の入学者への配慮について

社会人特別選抜の入学者を対象にした「授業の開講時間など適切な配慮がなされ、履修することができた」かの問いでは 12 名から回答を得た。詳細は、「5 非常にそう思う」が 7 名、「4 そう思う」が 4 名、「3 どちらともいえない」が 1 名。全体の平均値は 4.5 であり、社会人学生から一定の評価を受けているといえる。下記自由記述欄の記載からも分かるように、否定的な意見は見られなかった。昨年度の状況からは改善したことがうかがわれる。

社会人入学者の自由記述は 3 件あった。

- ・先生方には開講時間を考慮していただき本当に感謝しています（同内容の意見が 2 件）。
- ・常に柔軟にしてくださり、本当にありがたいと思った。

IV-5 その他意見・希望について

4件寄せられた。

- ・倫理審査委員会の審査が何カ月も通らず、修士論文を作成できるのか不安になった。2年間しかないなかで、倫理審査によって半年近く研究がステイしてしまうのは大きな損失。審査の基準を改めていただきたい。
- ・院という場所は閉鎖的だと強く感じた。博士を志すとしても外部を志望するし、他人には大妻を勧めない。
- ・周りの大学院と比べても本学の修士課程は充実していて、とても満足している。素晴らしい環境をありがとうございます。
- ・学食が営業しているかどうかネットでわかるようにしていただけたら嬉しい。

V. おわりに

平成25年度から3年間のFD実施計画を立て、「大学院進学意識に関するアンケート」と「大学院の研究・教育に関するアンケート」を実施してきた。本年度はその3巡目（令和元年～3年度）の初年度に当たる。評価を点数化し、経年変化をみる集計方法は継承し、自由記述も基本的にはほぼそのままを掲載した。

既述のとおり、回収率は8割を超えたのだが、所属不明で回答欄の記入もまばらな回答者4名分を除外した結果、7割強に下がってしまった。とはいえ、アンケート期間中に何度か注意喚起すれば一定程度の効果は見られると思われる。

統計上の数値の重要性もさることながら、自由記述の内容がとても参考になるとの印象を受けた。PCの機能に関する不満、図書館の蔵書の不備、千代田・多摩両キャンパスにまたがるガイダンスの不便さ。これらは速やかに対処できる問題だ。院生の声に日常的に耳を傾ける必要を痛感する。不明を恥じるばかりだ。ハラスメントのようないわば膏肓に入った病は根治が難しい。まずはできることから解決していくべきだろう。

以 上

VI. 院生・教員懇談会の実施

開催の時期・方法については、各専攻・専修の協議によるものとした。今年度の実施状況は以下の通りであった。

専攻	実施内容
人間生活科学専攻D	令和2年2月15日(土)に、博士後期課程に所属する院生、健康栄養科学専修の修士課程の院生、指導教員とで懇談会を開催した。当日は修士論文発表会でもあったので、卒業生、大学院進学を希望する学部生なども交えて論文作成の苦労話や研究の進捗状況や進路について情報交換ができた。
人間生活科学専攻M (健康・栄養科学専修)	
(生活環境学専修)	2019年7月31日 18:00 から、修士1年生1名、修士2年生1名と、主指導教員1名および専修代議員参加のもとで、院生・教員懇談会を開催した。研究遂行上の問題点や進路について活発な意見交換ができた。院生間はもちろん、教員との親睦も深まり、今後の研究生活上においても有意義な懇談会となった。
(保育・教育学専修)	令和元年11月14日(木)に、保育・教育学専修の修士課程の大学院生と教員による中間発表会を開催し、修士論文の進捗状況についての報告と共に研究上の共通の課題に関して活発な意見交換を行った。その後、食事会を開き、同じ研究領域の先輩と後輩の有意義な懇親の場となった。

言語文化学専攻 (日本文学専修)	言語文化学専攻日本文学専修では、令和1年7月4日および12月12日(木)に行われた「日本文学専修院生研究発表会」の後に、日本文学専修の院生及び教員の懇談会を催した。研究発表会直後でもあり、話題は研究内容と研究生活に関することでしめられた。また、令和2年3月5日(木)に修士修了生を送る会の開催を予定していたが、コロナ風邪蔓延のため中止となった。
(英語文学・英語教育専修)	英語文学・英語教育専修では2月6日(木)13:30から大学院・公開口頭試問を行い、その後、修士課程を修了する1名の院生の「院生・教員懇談会」を実施した。場所は英文大会議室。ケイタリングで取り寄せた料理を囲み、院生と教員が修士論文の内容についてなごやかに語り合う親睦の会となった。
(国際文化専修)	今年度は、6月25日(火)昼休み、英語文学・英語教育専修の院生・指導教員と共に、国際文化専修の院生・指導教員が昼食をとりながら懇談会を行い、有意義なひと時を過ごせた。
現代社会研究専攻	専攻全体としては実施せず、例年どおり指導教員が個別に対応した。2019年7月26日(金)及び2020年1月25日(土)に実施され、学部のOG研究生も参加した。また、仕事上の都合で休学する院生のために今後の研究の進め方などについて話し合った。
臨床心理学専攻	2019年7月18日(木)17:00から17:30;多摩キャンパスにおいて、修士2年生を対象とした専攻内修論中間発表会後に、事前に提出された修論指導等に関する報告書(修士1,2年生が7月16,17日に行った話し合いの結果)に基づいて、全体で話し合いを持った。 2020年2月22日(土)16:00から18:00;千代田キャンパスにおいて、本専攻非常勤授業担当者懇談会があり、実習教育についての意見交換を行い、情報を共有し問題点とその対応について話し合った。 2020年2月22日(土)18:30から20:30;スーパーヴァイザーとの顔合わせと交流を目的とした懇談・懇親会を行った。 2020年3月5日(木)11:00~13:00;千代田キャンパスにおいて、修士1年生対象の専攻内修論論文構想発表会を行い、その後に修論に関する意見交換を行った。その際、2月22日に行ったスーパーヴァイザーの集いの報告を行い、質疑応答をした。

VII. 学会発表の奨励に関する活動

学会発表に備えて、院生の各種学会への参加を奨励してきた結果、今年度の状況は次表の通りであった。活動類型のうち、「学会参加」のカテゴリーには「各種シンポジウム」「全国フォーラム」等への参加も含むが、学会での「口頭発表」は含まないものとし、別途、項目⑦に記載する。

研究科	専攻	活動類型	件数	内容
人間文化	人間生活科学専攻博士後期課程	学会参加	1件	【生活計画学専修】 第25回日本摂食嚥下リハビリテーション学会 (朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター)
	言語文化学専攻博士後期課程	学会参加	11件	【日本文学専修】 中古文学会春季大会(共立女子大学)、中世文学会秋季大会(東北大学)、花袋研究学会第59回定期大会(東洋大学白山校舎)、国文学 言語と文芸の会(明治大学駿河台キャンパス)、文京区立森鷗外記念館主催・鎌倉文学散歩(鎌倉文学館)、花袋研究学会102回例会(すみだ女性センター)、日本近代文学会 春季大会(専

				修大学)、日本近代文学会 6 月例会(実践女子大学)、日本近代文学会 秋季大会(新潟大学)、日本近代文学会・昭和文学会・日本社会文学会合同国際研究集会(明治大学 共立女子大学 二松学舎大学)、大妻女子大学国文学会(大妻女子大学)
人間文化	人間生活科学専攻修士課程	学会参加	37 件	【健康・栄養科学専修】 日本摂食嚥下リハビリテーション学会(朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター)、全国栄養士大会(神戸国際会議場)、糖尿病学会(仙台国際会議場)、Hind gut club Japan(専修大学 神田キャンパス)、Asian Congress of Nutrition 2019(Bali International Convention Centre(インドネシア・バリ島))、日本食品化学工学会(藤女子大学)、うまみ研究会(東京大学)、タマゴ科学研究会(東京大学)、日本家政学会 食品組織部会(日立ハイサイエンスセミナールーム)、日本食品化学工学会 フレッシュマンセミナー(東京農業大学)、日本栄養・食糧学会(静岡県立大学)、東京都栄養士会(駒沢女子大学)、腸内細菌学会(タワーホール船堀)、腸内フローラシンポジウム(ヤクルトホール)、日本食品免疫学会(タワーホール船堀)、日本栄養・食糧学会(静岡県立大学)、The 6th International Symposium on Bioimaging, 第 28 回日本バイオイメーjing学会学術集会(帝京大学)、日本薬学会 第 140 年会(国立京都国際会館)、東京都栄養士会 第 9 回東京都栄養士大会(駒沢女子大学)、第 73 回 日本栄養・食料学会(静岡県立大学)、日本食生活学会第 30 回総会・第 58 回大会(東京農業大学 世田谷キャンパス)、第 66 回日本栄養改善学会 学術総会(富山県民会館 富山国際会議場)、第 10 回東京都栄養士会大会(東京農業大学)、東京都栄養士会 研究教育事業部 報告会および研修会(大妻女子大学)、質的心理学会(武蔵野美術大学)、東京都社会福祉協議会保育部会給食研究会(研究社英語ビル)、歯科と栄養 二足のワラジの会(横浜歯科臨床座談会ホール) 【生活環境学専修】 共立女子大学修士課程中間報告会(共立女子大学)、日本デザイン学会 研究会(大妻女子大学) 【保育・教育学専修】 日本保育学会第 72 回大会(大妻女子大学)、日本保育者養成教育学会第 4 回大会(福山市立大学)、日本発達心理学会第 31 回大会(大

				阪国際会議場 グランキューブ大阪)、第 25 回 日本保育保健学会(神戸国際会議場)、第 14 回 日本安全教育研究会(秋田大学)、第 29 回 日本乳幼児教育学会(東北文教大学短期大学 部)、第 4 回 日本保育者養成教育学会(福山 市立大学)
	言語文化学専攻修士課程	学会参加	12 件	【日本文学専修】 中古文学会(共立女子大学)、和歌文学会(日 大文理学部)、平安文学の会(大東文化会館)、 説話文学会(大妻女子大学)、平安文学の会 (大正大学)、平安文学の会(十文字学園大 学)、異文化間教育学会 第 40 回大会(明治大 学 中野キャンパス)、和歌文学会 5 月例会(学 習院大学)、2019 年度 中世文学会春季大会 (駒澤大学 駒沢キャンパス)、2019 年度 第 5 回 ラーニングコモンズ・イベント(大妻女子大 学)、日本文学専修 院生発表会(大妻女子大 学)、第 101 回 国文学会例会(大妻女子大学)
	臨床心理学専攻	学会参加	4 件	日本学生相談学会 37 回大会(大妻女子大 学)、日本心理臨床学会第 38 回大会(パシフィ コ横浜国際ホール)、日本心理学会第 83 回大 会(立命館大学大阪いばらきキャンパス)、日本 周産期メンタルヘルス学会(千葉大学亥鼻キャンパス)

Ⅷ. 学内発表会の奨励・支援に関する活動

学内での論文発表会については、「平成 31 年度大学院要覧」140 頁に、「修士論文審査等に関する日程」のうち、第 8 番目の項目に「論文発表会の開催」として記載されている。その修士論文発表会を、令和 2 年 2 月 22 日に実施した。総勢 14 名の院生が発表した。当日のプログラムを以下に掲載しておく。

修士論文発表会について

日時 令和2年2月22日(土) 9時～ (13:50終了予定)

場所 千代田校本館E棟055講義室

開会の挨拶 堀江正一人間文化研究科長

総合司会 西河正行教務委員長

発表プログラム

時間	発表順	発表者		発表者氏名
9:00		堀江研究科長あいさつ		
9:10	1	臨床心理学 1		桃崎 沙耶
9:25	2	臨床心理学 2		江部 優奈
9:40	3	臨床心理学 3		須藤 優希
9:55	4	臨床心理学 4		樋田 琴乃
休憩 10 分(10:10～10:20)				
10:20	5	人間生活科学 1	健康・栄養科学専修 1	関根 京子
10:35	6	言語文化学 1	日本文学専修 1	白鳥 快枝
10:50	7	人間生活科学 2	健康・栄養科学専修 2	福田 沙織
11:05	8	言語文化学 2	日本文学専修 2	武富理沙子
休憩 60 分(11:20～12:20)				
12:20	9	人間生活科学 3	健康・栄養科学専修 3	松下 小夏
12:35	10	現代社会研究 1	臨床社会学専修 1	栗田 みどり
12:50	11	人間生活科学 4	健康・栄養科学専修 4	三尾 建斗
13:05	12	言語文化学 3	英語文学・英語教育専修 1	山田 真衣
13:20	13	人間生活科学 5	健康・栄養科学専修 5	毛利英美子
13:35	14	人間生活科学 6	保育・教育学専修 1	星野 優芽

発表者の持ち時間:口頭発表 15 分(発表 12 分+質疑応答 3 分)

Ⅸ. 院生論文集発行の奨励・支援に関する活動

新研究科の設置の趣旨に適合した院生論文集として、「人間生活文化研究:International Journal of Human Culture Studies」に掲載することとした。令和元年度の修士論文概要は、オンラインジャーナルの”No.30 2020”に掲載された。各専攻での研究教育活動の状況は以下の通りであった。研究教育活動の内容を「論文発表」「口頭発表」「ポスター発表」に分けて以下に示す。

専攻	氏名	発表形式	題目
人間生活科学専攻博士後期課程	伊藤 陽子	論文発表	歯科医師と栄養士との協働意識に対する実態調査 ー摂食嚥下障害者に対する連携の充実を目指してー
		口頭発表	歯科医院外来受診患者における栄養関連ニーズ調査
言語文化学専攻博士後期課程	飯田さやか	口頭発表	富士山縁起の竹取説話
	谷松 満子	口頭発表	田山花袋「第二軍從征日記」の中の〈軍神〉橘周太
	坂上 幸	論文発表	戦後に語られた「道徳革命」 ー太宰治「斜陽」と太田静子「斜陽日記」を比較して

人間生活科学専攻修士課程	松下 小夏	口頭発表	妊娠可能な若い世代に対するプレコンセプションケア (妊娠前管理)の意識調査
	三尾 建斗	口頭発表	高β-グルカン含有大麦を摂取した マウスの回腸および 肝臓の遺伝子発現解析
		口頭発表	大麦β-グルカンが食餌性肥満マウスの血圧調節に及ぼす 影響
	毛利英美子	口頭発表	特定保健指導における分野別習得度について -保健師と管理栄養士の比較-
		口頭発表	On the mastery degree of specialist personnel in Specific Health Guidance of each field in Japan - Comparison between Health Nurses and Administered Dieticians -
	星野 優芽	ポスター 発表	保育所 0 歳児クラスにおける 保育者と 0 歳児のやりとりの実態
	阿相 優香	口頭発表	植物性ミルクがカスタードプディングの物性に及ぼす影響
	鈴木真理子	ポスター 発表	Visualization of mitochondrial Ca ²⁺ flux in pancreatic INS-1 cells cultured by the medium with high concentration of fatty acids.
		ポスター 発表	高脂肪酸環境が膵臓β細胞株 INS-1 細胞の細胞内脂肪酸 輸送に与える影響 (予定)
	土井 玲奈	ポスター 発表	食物摂取頻度調査票から抽出した食事パターンによる妊娠 初期のビタミン・ミネラル摂取評価
		口頭発表	妊娠中期女性の栄養素摂取状況について
	並河香代子	論文発表	保育所栄養士への教育的支援の検討 —新任栄養士の仕事上の悩みに着目して—
	松家麻記子	ポスター 発表	保育者養成課程におけるパネルシアターの制作および演習が 学生のコミュニケーション力に及ぼす影響について
論文発表		パネルシアターに関する研究動向 —2019 年までの文献をもとに—	
論文発表		小学校音楽科鑑賞における「対話的な学習」の 充実に関する研究	
言語文化専攻修士課程	山田 真衣	口頭発表	後置修飾構造の定着度と教科書における配列
	川野祐理子	口頭発表	私小説の両義性 ——水村美苗『私小説 from left to right』を読む
		論文発表	水村美苗「私小説 from left to right」の複数性

	鈴木茉莉子	口頭発表	星に縋る歌、その心の内 —『建礼門院右京大夫集』七夕歌群より—
臨床心理学専攻修士課程	樋田 琴乃	口頭発表	若手健康心理学者からみる健康心理学における社会連携の可能性「月経随伴症状に対する連携支援の現状と課題」

X. 他大学との各種連携の活性化に関する活動

現在、現代社会研究専攻では、相互の交流と発展を目指して、社会学分野ならびにその関連分野の授業科目に関して、特別聴講学生の単位互換制度を設けている。詳しくは、「平成 31 年度大学院要覧」69 頁を参照されたい。

XI. 就職支援に関する活動

今後、キャリア教育の充実の観点から就職支援を強化していくための具体的な方策を検討していく。

専攻	主な進学先・就職先	
人間生活科学	進学	・大学院進学
	就職	・内閣府 ・学校法人山梨学院 ・葛飾区役所 ・公益財団法人東京都保健医療公社 ・株式会社はくばく ・Cook Japan 株式会社
言語文化学	留学	・Kaplan International Languages
	就職	・千葉県教育委員会
現代社会研究	就職	・株式会社サーベイリサーチセンター
臨床心理学	進学	・他大学院進学
	就職	・横浜市民市民病院 ・医療法人三交会三交病院

XII. 社会人院生・社会人教育の実質化のための活動

社会人特別選抜の入学者に授業の開講時間など適切な配慮がなされたかについては、アンケートをとったところ、全体の評価は良く、社会人学生から一定の評価を受けているといえる。例年のネガティブな意見も少なからずあるが、今回は1つもなかった。

次年度も引き続き、千代田・多摩キャンパスの連携・充実を具体的にどのように推進していくか検討する。

XIII. 研究科設置の主旨に沿った教育方針具体化のための活動

新研究科の設置の主旨のひとつである「学部横断的（専攻・専修横断的）な教育・研究体制

のあり方」、ならびに、「学位取得に至るまでの組織的指導体制の具体化・実質化」を推進して行くために、平成 23 年度入学生より、「研究計画発表会」を研究科全体で実施することとし、「修士論文審査等に関する日程」のプログラムの中に位置付けることを決めた。

XIV. その他の活動

「その他の活動」として、院生によるティーチング・アシスタントの実施状況一覧を次に掲載しておく。

ティーチング・アシスタント等について

ティーチング・アシスタント等に 任用される大学院生・研究生		担当授業科目						任期
所属・学年等	氏名	開講学科等	授業科目名	授業担当 教員名	開講 時期	開講曜日 ・時限	開講 校地	
人間生活科学 専攻(修士課程) 2 年	星野 優芽	家政学部 児童学科 児童学専攻	保育福祉施設演習Ⅱ	池田 りな 加藤 悦雄 久保田 美沙子 高橋 ゆう子 田代 和美 林 明子	前期	水曜 4 限	千代田 校	R1.4.17～ R1.7.31
		家政学部 児童学科 児童学専攻	発達心理学Ⅱ	宮本 桃英	前期	火曜 1 限	千代田 校	R1.4.16～ R1.7.30
人間生活科学 専攻(修士課程) 2 年	星野 優芽	家政学部 児童学科 児童学専攻	保育内容総論	久富 陽子	前期	火曜 4 限	千代田 校	R1.4.16～ R1.7.30
		家政学部 児童学科 児童学専攻	幼児体育	川之上 豊	前期	木曜 3 限	千代田 校	R1.4.11～ R1.7.25
		家政学部 児童学科 児童学専攻	保育内容研究Ⅳ(幼児とことば)	小川 清美	後期	火曜 4 限	千代田 校	R1.9.17～ R2.1.14
		家政学部 児童学科 児童学専攻	造形表現Ⅰ	金田 卓也	後期	水曜 1 限	千代田 校	R1.9.18～ R2.1.15
人間生活科学 専攻(修士課程) 1 年	阿相 優香	家政学部 食物学科 管理栄養士専攻	基礎調理学実習Ⅰ	松本 美鈴	前期	水曜 1、2 限	千代田 校	R1.4.17～ R1.7.31

		家政学部 食物学科 管理栄養士専攻	基礎調理学実習Ⅱ	玉木 有子	後期	月曜 3、4 限	千代田 校	R1.9.16～ R2.1.20
	大竹 那実	家政学部 食物学科 管理栄養士専攻	人体構造機能論実験	明渡 陽子 高波 嘉一	前期	金曜 3、4 限	千代田 校	R1.4.12～ R1.7.26
	鈴木真理子	家政学部 食物学科 管理栄養士専攻	生活環境実験	田中 直子	前期	木曜 3、4 限	千代田 校	R.4.11～ R1.7.25
		家政学部 食物学科 管理栄養士専攻	食品学実験	渡辺 雄二	後期	金曜 3 限	千代田 校	R1.9.20～ R2.1.17
	並河香代子	家政学部 児童学科 児童学専攻	子どもの食と栄養	上杉 宰世	前期	水曜 2 限	千代田 校	R1.4.17～ R1.7.31
	板東愛理香	家政学部 児童学科 児童学専攻	保育者養成基礎演習 Ⅰ	池田 りな 加藤 悦雄 久保田 美沙子 田代 和美 久富 陽子 坂田 哲人 岡 健	後期	木曜1限	千代田 校	R1.9.19～ R2.1.16
人間生活科学 専攻(修士課程) 1 年	板東愛理香	家政学部 児童学科 児童学専攻	保育者養成基礎演習 Ⅰ	池田 りな 加藤 悦雄 久保田 美沙子 田代 和美 久富 陽子 坂田 哲人 岡 健	後期	木曜 2 限	千代田 校	R1.9.19～ R2.1.16
		家政学部 児童学科 児童学専攻	保育内容研究Ⅲ(幼 児と環境)	市川 舞	後期	火曜 3 限	千代田 校	R1.9.17～ R2.1.14
		家政学部 児童学科 児童学専攻	乳児保育	池田 りな	後期	水曜 3 限	千代田 校	R1.9.18～ R2.1.15
		家政学部 児童学科 児童学専攻	造形表現Ⅱ	金田 卓也	後期	木曜 3 限	千代田 校	R1.9.19～ R2.1.16
		家政学部 児童学科 児童学専攻	保育内容研究Ⅰ(幼 児と健康)	井狩 芳子	後期	金曜 4 限	千代田 校	R1.9.20～ R2.1.17

現代社会研究 専攻(修士課 程)2年	栗田みどり	社会情報学部 社会情報学科 社会生活情報 学専攻	量的調査演習	池田 緑	後期	水曜 4 限	千代田 校	R1.9.18～ R2.1.15
		人間関係学部 社会・臨床心理 学専攻	コンピュータ基礎A	加藤 浩治	前期	木曜 2 限	多摩校	R.4.11～ R1.7.25
		人間関係学部 社会・臨床心理 学専攻	コンピュータ基礎B	加藤 浩治	後期	木曜 2 限	多摩校	R1.9.19～ R2.1.16
		人間関係学部 人間関係学科, 人間福祉学科	コンピュータ応用	加藤 浩治	後期	木曜 3 限	多摩校	R1.9.19～ R2.1.16
臨床心理学専 攻(修士課程) 2年	江部 優奈	人間関係学部 社会・臨床心理 学専攻	基礎統計学 I	杉田 尚枝	前期	火曜 3 限	多摩校	R1.4.16～ R1.7.30
		人間関係学部 社会・臨床心理 学専攻	社会・臨床心理学基 礎セミナー	古田 雅明	前期	火曜 4 限	多摩校	R1.4.16～ R1.7.30
	須藤 優希	人間関係学部 社会・臨床心理 学専攻	心理学研究法	大久保暢俊 八城 薫 本田 周二 山蔦 圭輔 西河 正行 堀 洋元 古田 雅明 高畠 靖菜	前期	木曜 1、2 限	多摩校	R.4.11～ R1.7.25
臨床心理学専 攻(修士課程) 2年	樋田 琴乃	人間関係学部 社会・臨床心理 学専攻	コンピュータ基礎A	小幡 正子	前期	水曜 2 限	多摩校	R1.4.17～ R1.7.31
		人間関係学部 人間関係学科, 人間福祉学科	コンピュータ応用	小幡 正子	前期	水曜 3 限	多摩校	R1.4.17～ R1.7.31
		人間関係学部 社会・臨床心理 学専攻	心理学基礎実験	田中 優	後期	火曜 4 限	多摩校	R1.9.17～ R2.1.14
	桃崎 沙耶	人間関係学部 社会・臨床心理 学専攻	心理学基礎実験	堀 洋元	後期	火曜 4 限	多摩校	R1.9.17～ R2.1.14
臨床心理学専 攻(修士課程) 1年	加藤 彩夏	人間関係学部 社会・臨床心理 学専攻	社会・臨床心理学基 礎セミナー	高田知恵子	前期	火曜 4 限	多摩校	R1.4.16～ R1.7.30
	佐藤 知香	人間関係学部 社会・臨床心理 学専攻	心理検査学	馬淵 聖二	前期	月曜 4 限	多摩校	R1.4.15～ R1.7.29

	宗 杏佳音	人間関係学部 社会・臨床心理 学専攻	社会・臨床心理学基 礎セミナー	八城 薫	前期	火曜 4 限	多摩校	R1.4.16～ R1.7.30
		人間関係学部 社会・臨床心理 学専攻	心理学基礎実験	杉田 尚枝	後期	火曜 4 限	多摩校	R1.9.17～ R2.1.14
	増田有紀子	人間関係学部 社会・臨床心理 学専攻	心理学統計法	堀 洋元	後期	水曜 5 限	多摩校	R1.9.18～ R2.1.15

Ⅱ 全学FD研修

1 研修会の内容及びアンケート結果

(1) FD 研修会

① 「成績評価についてのFD」

立命館大学 教育開発推進機構 教育・学修支援センター 副センター長 沖 裕貴 氏

実施日時：令和元年6月7日（金）16:30～18:00

場 所：千代田キャンパス 大学校舎E棟地下1階055講義室

多摩キャンパス 7号館1階7114講義室（映像・音声配信による視聴）



2019年度

FD研修会

「成績評価についてのFD」

現在、本学ではアセスメントポリシー及びアセスメントプランを策定しております。今回のFD研修会では、これらが求められるようになった背景や、これらを実行する上で前提となる成績評価の厳格化について、理解を深めることを目的としております。なお、当日は先行的に策定された家政学部の場合、既に活用されている他大学の事例なども紹介し、実際の活用や検証方法の可能性についてお話いただきます。

日時 2019年6月7日（金）16:30 - 18:00

会場 千代田キャンパス 大学校舎E棟地下1階055講義室
同時中継 多摩キャンパス 7号館1階7114講義室

講師	立命館大学 教育開発推進機構 教育・学修支援センター副センター長 沖 裕貴 氏
略歴	名古屋大学理学部数学科卒業。京都教育大学大学院教育学研究科修了。京都経済短期大学経営情報学科助手、専任講師、助教授を経て、2002年4月、山口大学大学教育センターに助教授として赴任。2003年4月より教授。 2006年4月、立命館大学に異動し、現在、教育開発推進機構、教育・学修支援センター教授。 専門は高等教育学、教育工学。 所属学会は、日本教育情報学会（理事）、大学教育学会（理事）、日本教育工学会、日本高等教育学会。 私大連FD推進会議運営委員会委員（2008～）、私大連FD推進会議運営委員会委員長（2018～）
著書	「大学事典」（児玉善仁編集委員代表、赤羽良一、岡山茂、川島啓二、木戸裕、斉藤泰雄、館昭、立川明編。 「大学教員準備プログラム」「カリキュラムマップ」について執筆、平凡社、2018.6）



主催

大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会

FD 研修会アンケート集計結果

- ＜ 実施日時 ＞ 令和元年6月7日（金） 16：30～18：00
- ＜ 場 所 ＞ 千代田キャンパス 本館E棟地下1階055講義室
多摩キャンパス 7号館1階7114講義室（映像・音声配信による視聴）
- ＜ テ ー マ ＞ 「成績評価についてのFD」
- ＜ 講 師 ＞ 立命館大学 教育開発推進機構 教育・学修支援センター副センター長
沖 裕貴 氏

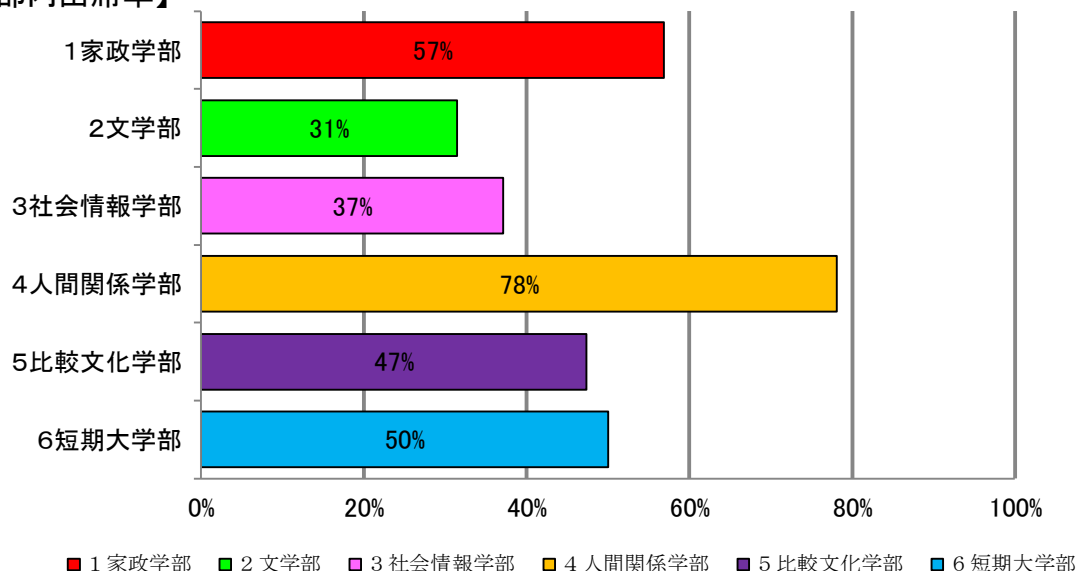
◎参加人数・アンケート回収数等

キャンパス	研修会出席者数	アンケート提出者数（回収率）
千代田校	96人	86人(90%)
多摩校	37人	35人(95%)
合 計	133人	121人(91%)

【出席者・アンケート提出者の所属】

所 属	出 席 者			アンケート 提出者	所属教員数
	千代田	多摩	合計		
1 家政学部	32人	1人	33人	31人	58人
2 文学部	11人	0人	11人	11人	35人
3 社会情報学部	12人	1人	13人	13人	35人
4 人間関係学部	1人	24人	25人	25人	32人
5 比較文化学部	6人	3人	9人	8人	19人
6 短期大学部	12人	1人	13人	13人	26人
7 非常勤講師・附属施設	6人	0人	6人	6人	
8 助手	1人	1人	2人	0人	
9 事務職員	15人	6人	21人	13人	
未回答				1人	

【学部内出席率】

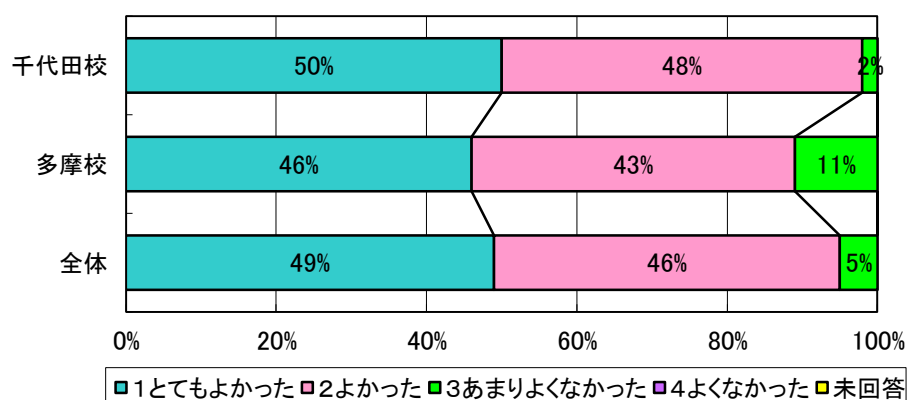


以下、提出されたアンケートの集計結果（アンケート回収総数 121 人分を対象）

問 1 この講演会の内容・運営等についてのご意見をお聞かせください。

【講師は】

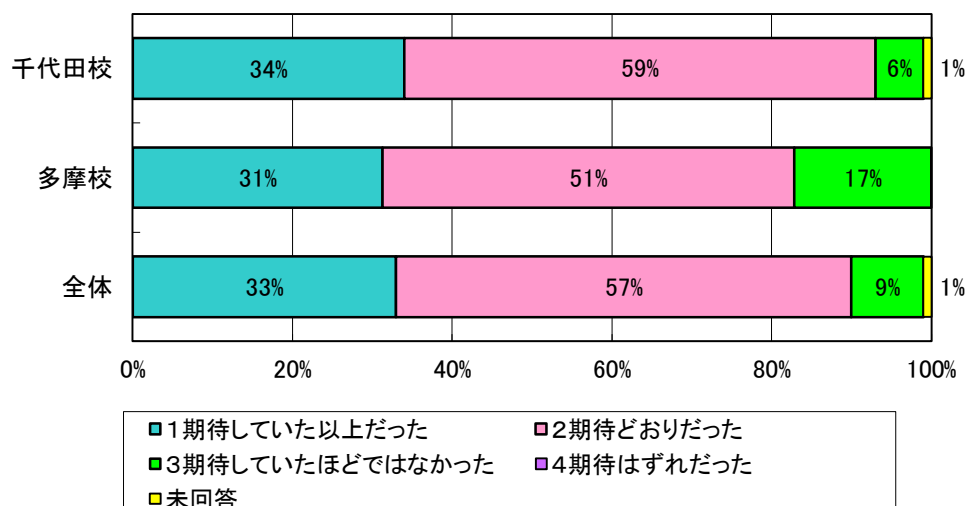
選択肢	千代田校	多摩校	全体
1 とてもよかった	43 (50%)	16 (46%)	59 (49%)
2 よかった	41 (48%)	15 (43%)	56 (46%)
3 あまりよくなかった	2 (2%)	4 (11%)	6 (5%)
4 よくなかった	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
未回答	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)



【内容は】

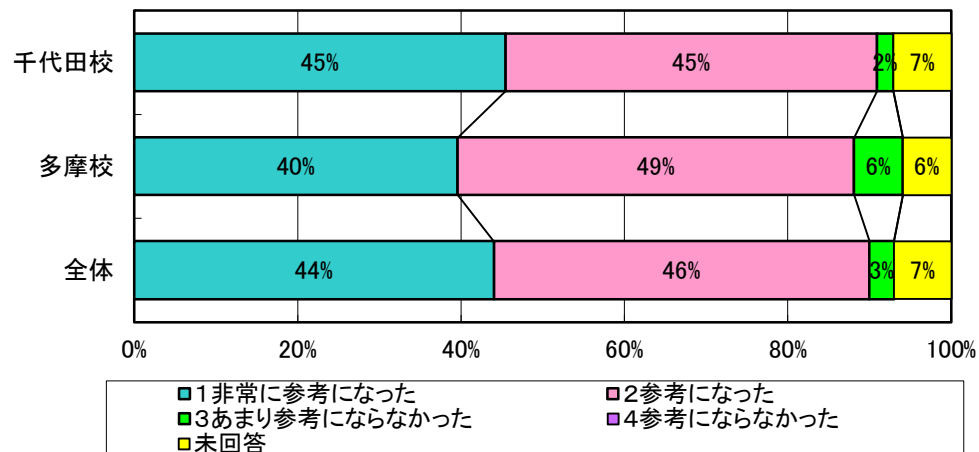
①期待どおりでしたか

選択肢	千代田校	多摩校	全体
1 期待していた以上だった	29 (34%)	11 (31%)	40 (33%)
2 期待どおりだった	51 (59%)	18 (51%)	69 (57%)
3 期待していたほどではなかった	5 (6%)	6 (17%)	11 (9%)
4 期待はずれだった	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
未回答	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)



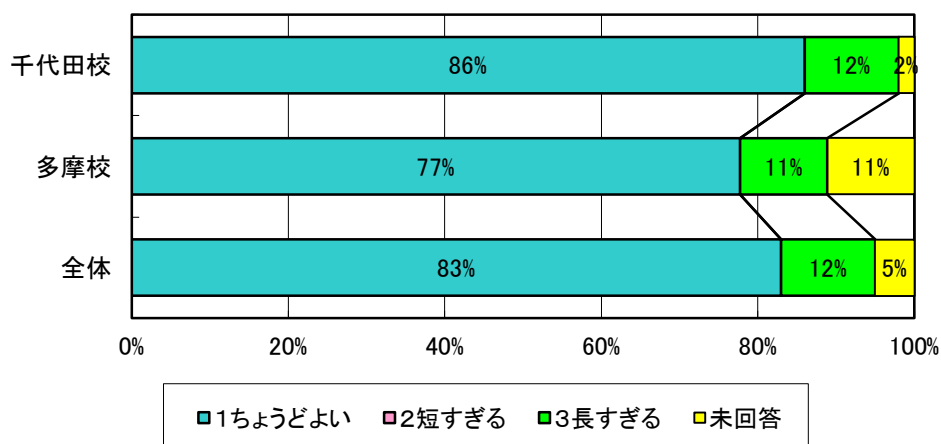
②今後のFD活動の参考になりましたか

選択肢	千代田校	多摩校	全体
1 非常に参考になった	39 (45%)	14 (40%)	53 (44%)
2 参考になった	39 (45%)	17 (49%)	56 (46%)
3 あまり参考にならなかった	2 (2%)	2 (6%)	4 (3%)
4 参考にならなかった	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
未回答	6 (7%)	2 (6%)	8 (7%)



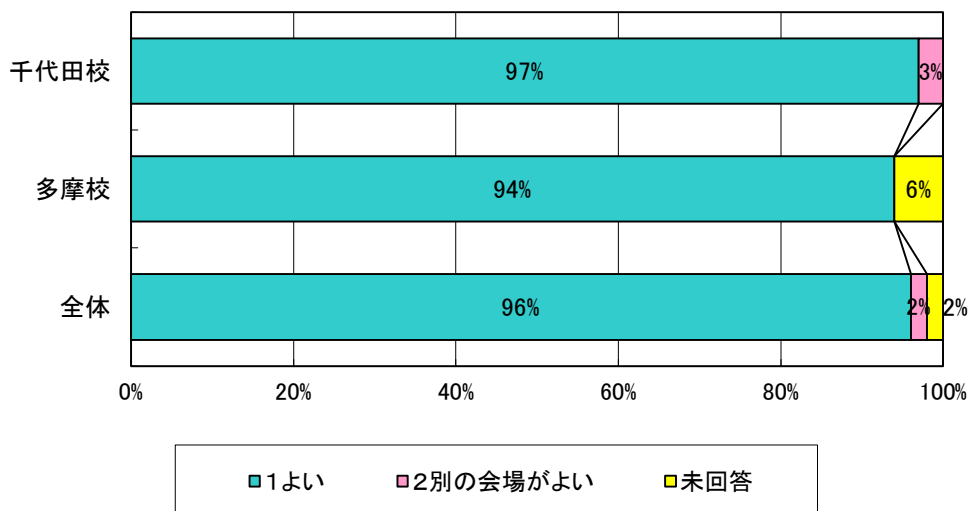
【時間は】

選択肢	千代田校	多摩校	全体
1 ちょうどよい	74 (86%)	27 (77%)	101 (83%)
2 短すぎる	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
3 長すぎる	10 (12%)	4 (11%)	14 (12%)
未回答	2 (2%)	4 (11%)	6 (5%)



【会場は】

選択肢	千代田校	多摩校	全体
1 よい	83 (97%)	33 (94%)	116 (96%)
2 別の会場がよい	3 (3%)	0 (0%)	3 (2%)
未回答	0 (0%)	2 (6%)	2 (2%)



問2 今回の研修会で、お気づきの点、記憶に残った点、ご意見などございましたらお書きください。

- ・ルーブリックの活用として、教員側からではなく、学生の学修に効果があることはとても納得できた。形を作るのに力をつかいはたすのでは、実行しなければ意味がない。(企業のCSO認証なども同じ問題をかかえている)
- ・大人数の学生に対して、毎回フィードバックするのもむずかしく、どのように学びの質を高めるべきか悩んでいた所でしたので、ルーブリックの事前通知は非常に有効だと感じました。
- ・先生が授業でご苦労されていた点など、同じようなところがあり、私だけではなかったという安心感に繋がりました。
- ・ルーブリックの技術的な(運用)作成にあたってのヒントがありました。"
- ・DPとCPの図などとても分かりやすかったです。また、ルーブリックの作成や活用についても事例があり、分かりやすかったです。
- ・DPやルーブリック、ツリーの有益性が初めて分かった。「初めて」と言うのは、これまで「他大がやっている」からそれに習って大妻もやっているような印象があり、目的が曖昧だった。が、今日のFD研修会を聴き有益性が見えたので、本来流れは「まず作ろう」ではなく「なぜ作るべきか」を教員が知り理解した上で行えば、本質的に良い仕事になると思った。
- ・ルーブリックの具体的な活用法など、実用的な部分での説明が多く、とても参考になりました。また講師の方の話し方もとてもわかりやすく説得力がありました。(2)
- ・目を開かれる思いでした。ルーブリックの作り方のワークショップなどをやっていただけたらいいのかなとも思いました。
- ・いっぺんに理想的な形にはいけないと思うのですが、少しずつやれたらいいのかなと思います。現実的にどういうことができるか、を考えるべきだと思います。
- ・説明の中に、具体的な例示がいろいろもりこまれ、(関西弁のせいもあるかもしれませんが)かたくなるしにくい、親近感のあるお話のしかたで、全体としてわかりやすいお話でした。特にルーブリックについては、これまでどういうことかもあまりよくわからなかったのですが、内容や意義などがわかりました。自分の授業でも暗黙のうちにやってはいたことですが、ルーブリックとして学生に明示することの効果、大切さがわかりました。
- ・成績評価について、ルーブリックを用いることの有効性が理解できました。実際に担当科目について作成し学生に示したいと思います。充実した資料、大変良くわかりました。(2)

- ・シラバス点検、成績評価の件、ルーブリックを使って細目まで標準化しようと思いました。(2)
- ・DP、CP、APについては体系的に説明されており理解できたが、成績評価、ルーブリック、DP、CP、APとの関連について明らかにしてほしかった。通常の企業における業績評価（コンピテンシー）につながる評価方法を知りたかった。
- ・上位レベルで提示される理念をルーブリックに落とすときに、姿勢や態度が能力に還元できるような考え方が前提にされているのでは、と気になりました。
- ・学生にルーブリックを見せることで学習パフォーマンスが向上するということはとても説得力がありました。学生は自分が何ができたのか、できなかったのかを明確にすることで次の課題に対しての取り組み方が変わり、評価されることで自分の力がすいていることがわかると、学習意欲が増すんだろうなと感じました。
- ・評価方法をルーブリックによって明確に学生に伝えることが、学習効果の向上につながるという点は、非常に納得できた。(2)
- ・最初に評価基準（ルーブリック）を提示することの効果を実感することができました。また、ルーブリックの種類も学ぶことができました。すぐに実行していきたいと思います。
- ・客観的な成績基準の作成と学生への提示について、今後の自身の各授業で採用してみたい。
- ・複数名で担当する科目があり、ある程度の決まりの中で評価を行っているが、ルーブリックを作る必要があると感じた。後期ぜひやってみようと思う。
- ・ルーブリックで毎年評価を実施することにより、学生の変化を可視化できるということがわかった。
- ・自分が担当する科目すべてについてルーブリックを作成し、それに基づいて毎回の授業に評価を行い、毎回、学生にその結果をフィードバックしなければならないとしたら負担が過大となってしまうので、負担の軽減（担当授業のコマ数を減らすこと）が必要である。
- ・様々なルーブリックを見られて参考になりました。
- ・DPの達成度の自己調査などが参考になった。Rubricsは大変参考になった。教員側にも学生側にも非常に効果的なものであることがよくわかった。
- ・すばらしい（ルーブリックが）
- ・ルーブリックについて理解（一部分）を深めることができた。
- ・成績評価（特に Report）におけるルーブリックの必要性、重要性が良く分かった。(3)
- ・ルーブリックの効果・意義についてとてもわかりやすかった。実践してみようと思う。(2)
- ・ルーブリックの（対学生）効果について、よく理解が出来ました。
- ・ルーブリックを学生に事前に周知しておくことが勉強になりました。
- ・資料 No.18 のイギリスの大学の成績評価は参考になった。
- ・アメリカの批判的思考のルーブリックはおもしろいと思った。
- ・日本国内だけでなく、アメリカ、イギリス等の状況もわかり良かった。
- ・ハーバード大学のコアカリキュラムがシンプルで良いと思った。
- ・目標と評価手段・比率をシラバスに反映する方法は実践してみようと思った。
- ・学生との関係の質にも影響すると思いました。
- ・少しずつでもできたら、指導の質がかわるのではないかと思います。
- ・客観点かつ厳格な成績評価の重要性がよくわかりました。可能性としては、受講生全員がこれに適った履修をした場合は、全員が高評価を得ることもあり得るならとてもいいと思いました。
- ・DPの考え方は個人レベル、学科レベルできていると感じたが、それを文字に起こすことが難しいのだなと思った。もしかしたらシラバスを書く際で頭の中で考えていることを文字にすることが要求されているのかもと思った。
- ・学生を我々の学生時代のレベルと違い、すべてを説明しないと理解できないと認識していかなければならないのだ、と、成績評価の例 4、5 をみて考えさせられた。
- ・テストとの連携の必要性についても認識でき、分かりやすいシラバスの書き方が明確になり、学生にとっても学習上の有用な指針となることが明確に理解できました。
- ・評価を厳正公平にすることは重要。
- ・文科省との関わりもよく理解できた。
- ・アセスメント・ポリシーの位置づけが良く判った。
- ・明確な指示・評価基準が、学習の方向性を明確にし、学生に方向性を示せる。
- ・成績評価をすると、どのような意義効果があるのかわかった。
- ・他大学の事例などを始め、重要(有益)な情報を短時間で吸収でき、大変有難い研修会でした。
- ・何も考えずにシラバスを書いているなあ、と反省させられました。

- ・客観的に評価すること、あらためて考えさせられた。
- ・とても有名で評判の良い先生でしたので、聞き取りやすく、わかりやすかったです。(2)
- ・評価をわかりやすく、PDCA からの利点もよくわかりました。
- ・カリキュラムマップやカリキュラムツリーを作る時に悩んだので、今回の研修会で理解することができた。
- ・(授業の) 到達目標の適切な記述方法について、よく理解が出来ました。
- ・適切なパフォーマンス評価手順について、よく理解が出来ました。
- ・非常に具体的な内容で、今後のポリシーを考えるのにとても参考になりました。
- ・私はもともと大学教員ではなかったので、今回の成績評価に対する考えは参考になった。
- ・目からウロコの部分もありましたし、よく理解できました。
- ・いただいた資料を参考にしながらやってみたいと思いました。
- ・事例を多く示しながらの説明だったので、わかりやすかった。(3)
- ・自らの経験に基づき構成されていることで、非常に参考になった。
- ・タイムリーな内容でした。
- ・お話もとてもわかりやすく、大変勉強になりました。(3)
- ・CD をお借りしたいです。
- ・授業の質を向上することと、教員の研究成果の向上とは関係ないのか？→研究に究する時間が減ると授業の質が下がらないのか？
- ・妊婦が出産する際、戦前は産婆が対処した。しかし、GHQ はそれが時代遅れだとし、病院での出産を奨励した。今回の話を聞いて、教育の領域における文化の侵略だと思った。江戸時代の寺子屋塾では学習者が、指導者の名声にあこがれ、全国からその指導を求め参集した。指導者は己の信念に従い、情熱をもって意欲のある学習者に指導した。そのような個性的教育とは両極にある均一的方法論の導入だと思った。Oxford のやり方が唯一の教育方法論なのか？学習者の教育に対する信頼と卓越した教育者の技能があれば FD は不要であろう。
- ・ワークショップ的なものがもう少しほしかった。
- ・アセスメント・ポリシーにももう少し時間を割いていただけたらよかったかな、と。
- ・今までの研修である程度の知識をもっていたので、心に響くような内容はなかった。
- ・所属学科の事例が掲載されていたので、少々不安でしたが、概ね評価していただいたので安心しました。今後も細かく見直し等、継続していきたいと思いました。
- ・本学の実態を調査され、他大の資料と組み合わせで語られているので、実践的である。
- ・学部、学科内の共有方法が具体的なイメージで理解できた。
- ・学科や、課程として、DP、アセスメント、ルーブリック等作成中であるが、見直す機会となった。ただし、評価だけを気にする学生にとって、学びの本質を伝えられる基準(表現)を明確に示したいと思った。抽象的では伝わらず(不安にさせ)、具体的すぎると(100m)意図が伝わらない、気がつきました。
- ・お話はそれなりにわかるのだが、これを自分の学生を相手に実施できるかが問題。なによりも受講生の数。前期 400 人、後期 600 人をこえる学生に対してルーブリックにもとづく成績評価を実施するというのは至難。
- ・ポリシーを立案する上での必要な要素(体型性や整合性など)を知ることができ、とても参考になりました。教員個人だけでなく、組織として共通理解を深める、確認する機会も必要だと思いました。(例えばシラバス作成時など)
- ・非常に興味深い内容でした。まず科目レベルでの見直しを行ってみようと思います。
- ・前半(DP、CP の箇所)：学科でつくる前にお話を伺いたかったです。
- ・本学が現在やっているやり方で良いということか？何が本学の課題なのか分からない。
- ・卒業論文の評価については、すでに大妻に着任時(20 年前)から、具体的な評価項目を設定し成績をつけてきたが、それを事前に学生に開示してはこなかった。はたして、そうすることでどの程度、卒論の完成度があがるのか、試してみようと思った。ただし全ての科目にうまく評価項目を設定できるか、特に実学的でない科目については、もう少し検討が必要だと感じた。参考例をさらに知る必要があると思う。
- ・遠慮しないで本学の課題を指摘してほしい。
- ・内容、テーマ、開催の時期ともに良かった。
- ・自分自身の取り組みについて、自己点検できた。
- ・講師がポインターでどこを示しているのかが、多摩では分からない。映像スクリーンは講師の顔ではなく、パワーポイント資料のどこをポインターで示しているのかが分かるようにしていただきたい。
- ・講師の先生の言葉の語尾が聞き取りにくいところがたびたびあった。良いお話をされていたと思うので残念だった。

- ・講師の方の都合もおりかと推察しますが、もう少し早くに日程を周知していただきたいです。この時期学会（大会）も多く、調整が大変です。

問3 今後の講演会で希望されるテーマ・内容（実施方法でも可）をお書きください。

- ・事例の紹介
- ・ルーブリックのワークショップを行ってみたい。
- ・グループワークや個人ワークなど、実践的な研修会はどうでしょうか。（実際にその場で DP、CP についてディスカッションする、シラバスを作成してみる、など）
- ・PDCA サイクルの実践例について
- ・沖先生のお話がわかりやすかったので、また別の内容で聞きたい。
- ・学生に知的関心をよびおこすための授業のテーマ、方法などを経験をもとに語ってくれるようなタイプの研修会
- ・一般的な科目（例えば教養科目）の具体的な（評価の高い）講義を見たい。
- ・各授業の見学
- ・全学的に共通理解を必要とするような FD のトピックを紹介していただければと思います。
- ・教えかたについても多用の角度からの分析を聞きたい。
- ・学生の学修（習）時間を増やすには？
- ・授業における PowerPoint など視覚資料の効果的使用法や問題性
- ・SD について

② 「ループリックの作成と活用・改善方法について」

立命館大学 教育開発推進機構 教育・学修支援センター 副センター長 沖 裕貴 氏

実施日時：令和2年1月30日（木）16：00～18：00

場 所：千代田キャンパス 大学校舎A棟1階155講義室

多摩キャンパス 7号館1階7114講義室（映像・音声配信による視聴）

ループリックの作成と 活用・改善方法について

令和元年度 FD研修会

後期

日時 令和2年1月30日（木）16:00～18:00

場所 千代田キャンパス 大学校舎A棟1階155講義室
同時中継 多摩キャンパス 7号館1階7127講義室

概要：大学教育におけるパフォーマンス評価についての理解を深めるために、まずは、パフォーマンス評価についての説明を事例を交えながら行います。その後、グループに分かれてそれぞれの授業に対応した採点用ループリックを実際に作成するワークショップ形式の研修会です。

講師

立命館大学 教育開発推進機構 教育・学修支援センター副センター長
沖 裕貴 氏



略歴

名古屋大学理学部数学科卒業。京都教育大学大学院教育学研究科修了。京都経済短期大学、山口大学を経て、2006年度より立命館大学教育開発推進機構教授。専門は高等教育論、教育工学。教育・学修支援センター長（～2015）、副センター長（2019～）日本高等教育開発協会・理事・会長、大学教育学会・代議員・理事、日本教育情報学会・理事、日本私立大学連盟教育研究委員会委員、同FD推進ワークショップ運営委員会委員長、中央教育審議会教学マネジメント特別委員会委員等を歴任。

著書・論文

『大学事典』（児玉善仁編集委員代表、平凡社、2018.6）。『大学のFD Q&A』（佐藤浩章・中井俊樹他編、玉川出版、2016.6）。『授業評価アンケート結果から見るFD研修の効果－中部大学における授業評価アンケート結果とFD研修の種類、効果の測定時期との関係－』（大学教育学会誌、第40巻第2号、2019.1）

大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会

FD 研修会アンケート集計結果

- ＜ 実施日時 ＞ 令和2年1月30日（木）16：00～18：00
- ＜ 場 所 ＞ 千代田キャンパス 大学校舎A棟1階155講義室
多摩キャンパス 7号館1階7127講義室（映像・音声配信による視聴）
- ＜ テ ー マ ＞ 「ループリックの作成と活用・改善方法について」
- ＜ 講 師 ＞ 立命館大学 教育開発推進機構 教育・学修支援センター副センター長
沖 裕貴 氏

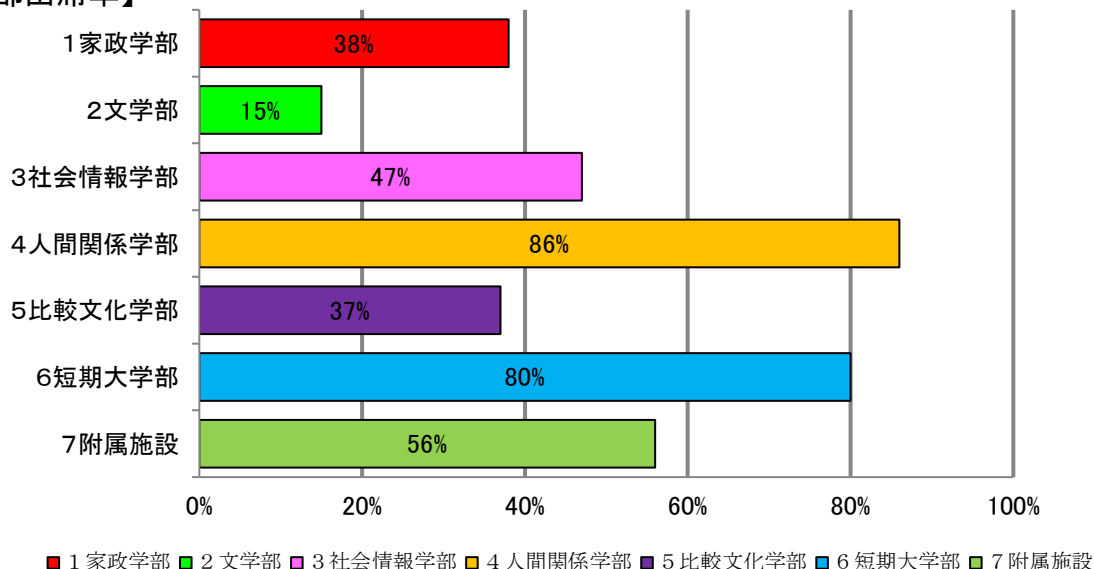
◎参加人数・アンケート回収数等

キャンパス	研修会出席者数	アンケート提出者数（回収率）
千代田校	88人	73人(83%)
多摩校	35人	27人(77%)
合 計	123人	100人(81%)

【出席者・アンケート提出者の所属】

所 属	出 席 者			アンケート提出者	所属教員数
	千代田	多摩	合計		
1 家政学部	23人	0人	23人	20人	60人
2 文学部	5人	0人	5人	3人	34人
3 社会情報学部	16人	1人	17人	14人	36人
4 人間関係学部	1人	23人	24人	23人	28人
5 比較文化学部	6人	1人	7人	7人	19人
6 短期大学部	20人	0人	20人	19人	25人
7 附属施設	9人	1人	10人	7人	18人
8 非常勤講師	0人	0人	0人	0人	
9 助手	0人	2人	2人	1人	
10 事務職員	8人	7人	15人	1人	
未回答				5人	

【学部出席率】

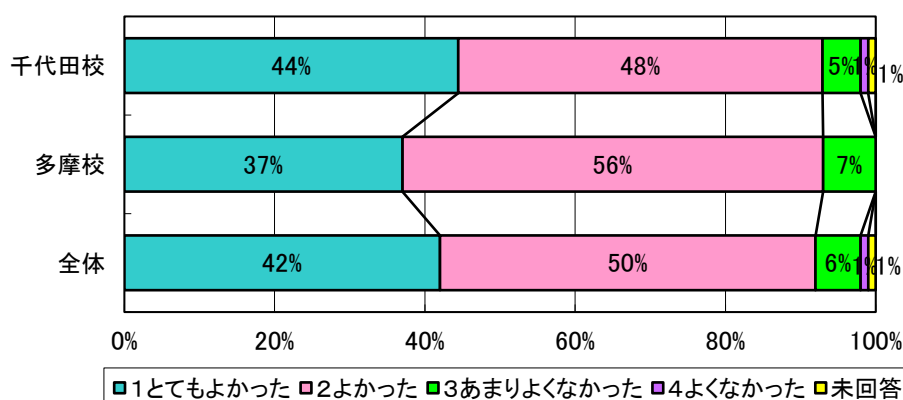


以下、提出されたアンケートの集計結果（アンケート回収総数 100 人分を対象）

問 1 この研修会の内容・運営等についてのご意見をお聞かせください。

【講師は】

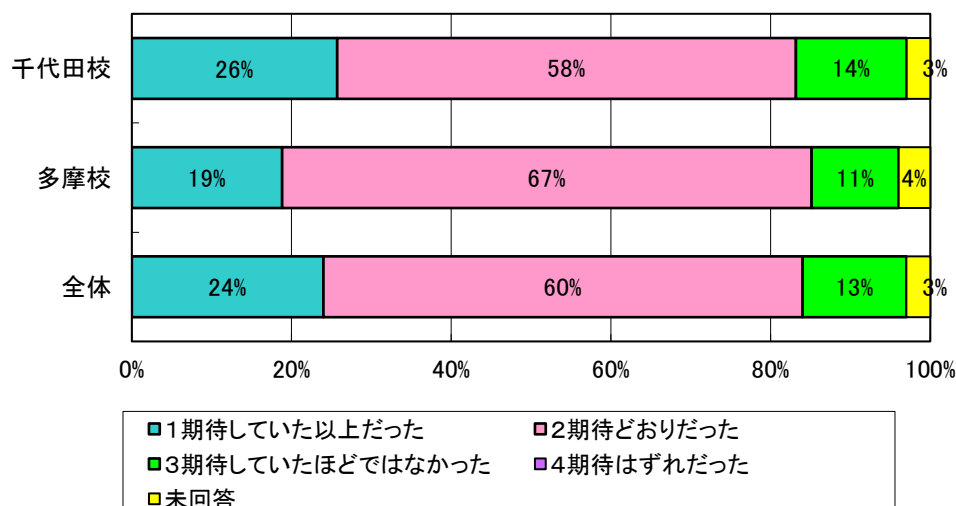
選択肢	千代田校	多摩校	全体
1 とてもよかった	32 (44%)	10 (37%)	42 (42%)
2 よかった	35 (48%)	15 (56%)	50 (50%)
3 あまりよくなかった	4 (5%)	2 (7%)	6 (6%)
4 よくなかった	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)
未回答	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)



【内容は】

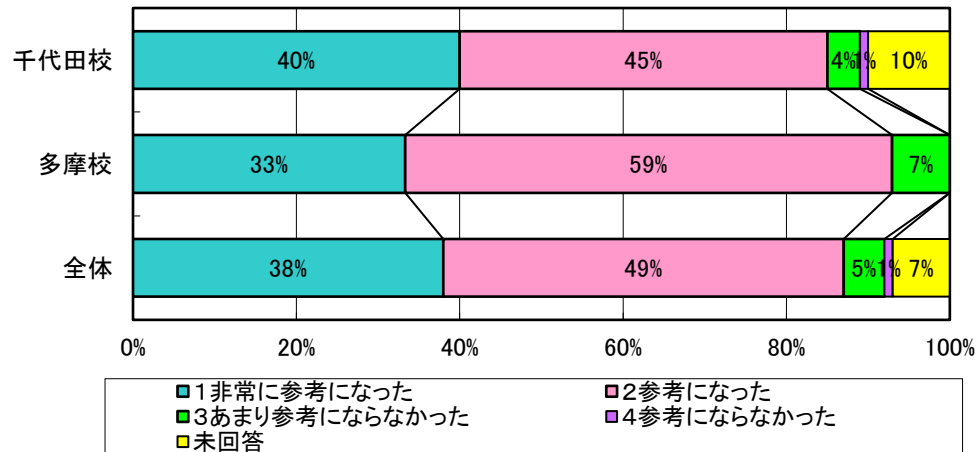
①期待どおりでしたか

選択肢	千代田校	多摩校	全体
1 期待していた以上だった	19 (26%)	5 (19%)	24 (24%)
2 期待どおりだった	42 (58%)	18 (67%)	60 (60%)
3 期待していたほどではなかった	10 (14%)	3 (11%)	13 (13%)
4 期待はずれだった	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
未回答	2 (3%)	1 (4%)	3 (3%)



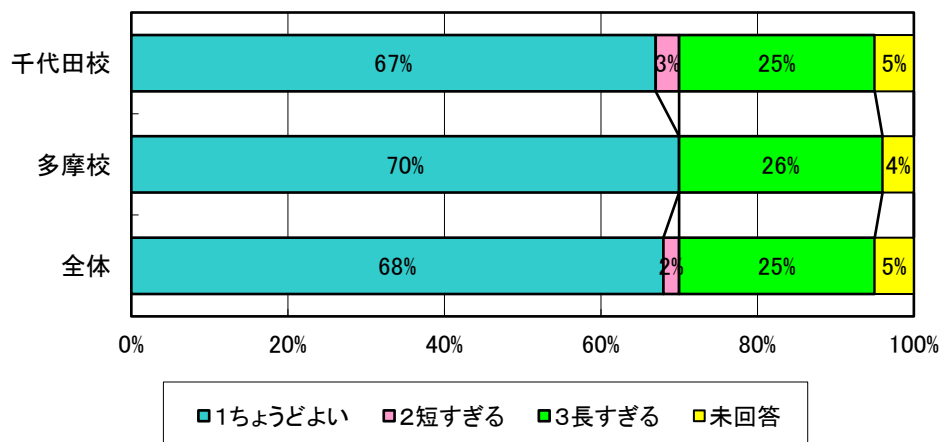
②今後のFD活動の参考になりましたか

選択肢	千代田校	多摩校	全体
1 非常に参考になった	29 (40%)	9 (33%)	38 (38%)
2 参考になった	33 (45%)	16 (59%)	49 (49%)
3 あまり参考にならなかった	3 (4%)	2 (7%)	5 (5%)
4 参考にならなかった	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)
未回答	7 (10%)	0 (0%)	7 (7%)



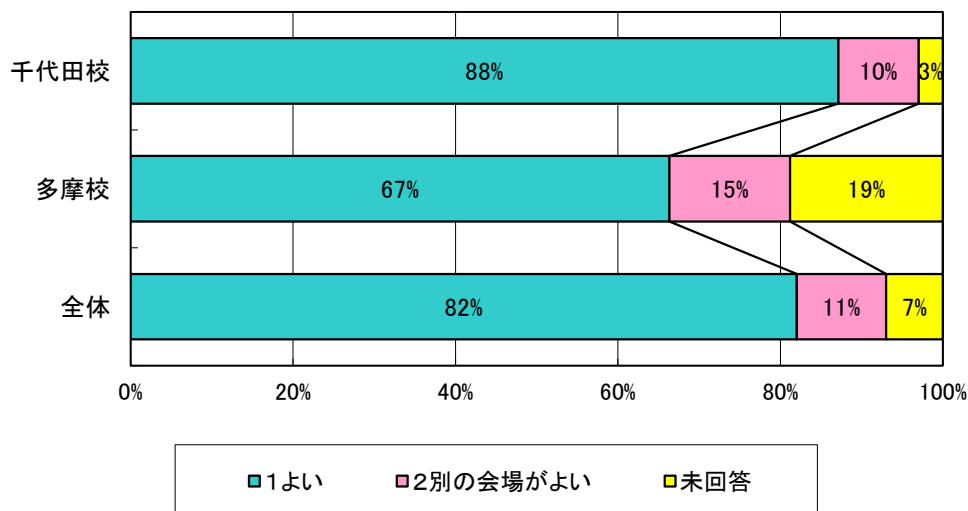
【時間は】

選択肢	千代田校	多摩校	全体
1 ちょうどよい	49 (67%)	19 (70%)	68 (68%)
2 短すぎる	2 (3%)	0 (0%)	2 (2%)
3 長すぎる	18 (25%)	7 (26%)	25 (25%)
未回答	4 (5%)	1 (4%)	5 (5%)



【会場は】

選択肢	千代田校	多摩校	全体
1 よい	64 (88%)	18 (67%)	82 (82%)
2 別の会場がよい	7 (10%)	4 (15%)	11 (11%)
未回答	2 (3%)	5 (19%)	7 (7%)



問2 今回の研修会で、お気づきの点、記憶に残った点、ご意見などございましたらお書きください。

研修内容について

- ・ 沖先生の話が分かりやすかった。指標提示は良いと思う。授業に活かしたい。
- ・ 今日の内容は、本学の授業改善にとっても有意義に思えた。国公立や偏差値の高い大学の取り組みをそのまま本学でやろうというのは無理。「本学で何をやるべきか」を考える「高等教育開発・推進センター」などを作って、ゆったりと検討すべき。
- ・ 学習者へのフィードバックという主目的には賛同します。が、例示されたルーブリックの多くの部分は卒論を書くもの、レポートをかくものにとって当たり前の礼儀（体裁）的なものが多く、個々の授業レベルで実施するにはあいまいすぎる。かといって細かくすると、受講生へのルーブリックの事前通知は学び（採点）のポイントを予め知らせることになり、レベルの高い入学の学生だと、レポートやテストの"ヤマ"をはれる。もう少しリアルに実施した経験則にもとづいたノウハウを知りたかった。
- ・ 2009年～2010年ごろ、一橋大では、自分でルーブリックをつくって採点できるツールがあり、それを使ってましたが、マナバに変わってルーブリックはなくなりました。なんででしょう…？と考えると、ちがったことが見える気がする。
- ・ 具体的なルーブリック作成のワークを実際に入れた点は良かった。
- ・ 多摩キャンパスから作成したルーブリックの発表があったが、たいへん参考になった。(4)
- ・ ルーブリックはめんどうなものという印象がなくなった。教員はとっても意味のあるものと認識した。
- ・ ルーブリックは埋めなければならないものと思っていました。空白欄があっても良い、というのはとても参考になりました。資料にありましたルーブリック例も参考になります。(2)
- ・ ルーブリックの意義が理解できた。(2)
- ・ ルーブリックを事前に公開すると、気をつけてもらうことができるということはとても良いと思いました。
- ・ ルーブリックの添削があるとよい。
- ・ ルーブリックを作成することが自己目的となる可能性があることにより、ルーブリックの適用の限界もわかった。
- ・ ルーブリック作成の時間が短く、十分にできなかったが、大体の考え方、作り方などが理解できたように思う。
- ・ 作業をさせるというのは先進的な取り組みだと思う。今回は卒論を対象に作業しました。厳密にルーブリックを組み立てると、修士論文以上の水準を求めることになってしまうので、不出来の学生でも自己評価

できるしくみを考えたい。

- ・少人数の演習科目における学生のレベルの底上げに、自分たちが求められている学習の基準を示したルーブリックを事前に示すことが効果的であると思った。その一方で、発展的な学習を求める際には、学生が型にはまらないよう誘導する必要性があると思った。
- ・初回の授業で評価の基準を学生に説明し周知・理解させるための具体的なルーブリックの作り方と内容について知ることができた。
- ・所属の異なる先生方のルーブリックの指標についてお伺いでき、大変新鮮でした。
- ・講義形式のみでなく、知識を修めたあとで、問題意識を共有する先生方とディスカッションでき、ワークショップ形式を取り入れたことで、「ルーブリック」についての理解がとても進みました。又、前回の研修会で「ルーブリック」について既に紹介はしていただいていたので、導入部がすでに設けられていたので、前半の講義も理解できたのかなと思います。シリーズ（複数日）の効果だと思います。
- ・レポート試験採点用ルーブリックはすぐに使用させていただきます。
- ・ルーブリックを作ることによって、採点が可視化できて公平な評価ができると思った。
- ・今までやっていた採点方法をルーブリックに入れ込むやり方が理解できた。
- ・すでにルーブリックを導入していたので、あまり学ぶ所はなかった。半年前の研修会と内容が似ていたこともあるが。
- ・可動機の教室ではなくてもアクティブラーニングはできる。今日の研修会は、まさにAL。
- ・八城先生のルーブリックのように、本学のグッドルーブリックを教員間で共有できると、さらにルーブリックの活用が進むのでは。
- ・ルーブリックについて、独学でやっていたため、しっかりと学ぶことができてよかった。
- ・ルーブリックの活用について学びになりました。
- ・ルーブリックにはいくつもの特徴があり、それぞれの使い方などがあることがわかった。手順の説明がわかりにくかったので、説明を受けてとても理解できた。
- ・実習（実技）、テキスト準備学習の評価ルーブリックの違いについて勉強になりました。
- ・卒論についてのルーブリックの参考になりました。
- ・授業の参加度を評価するルーブリックは、ゼミで発言しない学生に対してとても有効に使えると思った。
- ・ルーブリックの作成が指定の時間内にまとまらなかったのが、事前に用意した方が良かったと思いました。
- ・ルーブリックについては活用するのに知識が必要であると感じた。だが、指標の考え方（項目立て）について、もう少しフォローがあってもいいのでは？
- ・あらかじめ事前に配布されたテンプレートと簡単な説明に従って受講者にルーブリックを作成してもらった上で、講演を聞いた後で加筆修正し、5人位の人数のグループで発表し、情報を共有した上で各グループから1つの事例について発表してもらって、全体で意見交換を行い、最後に講師の先生に公表をいただくという進んでワークショップを行うと良いと思います。
- ・多摩の先生のルーブリックは具体的で参考になった。他は特に目新しいものはなかった。
- ・グループワーク、もう少し時間をかけてほしいです。(2)
- ・もう少し個人の時間を取る事ができると、直接授業で試す資料がつくれると思いました。せめて1科目分。せっかく先生に質問できるチャンスなので…。
- ・個人ワーク、及びグループワークを実施されたことにより、とても理解度が高まりました。
- ・内容からして、学科、学部指定で座った方がグループワークにはよかったと思う。
- ・意図的にグループを作って行ってもよかった気がします。
- ・グループワークを大人数で行うと、まわりの声にかき消されてしまって同じグループ内の会話が聞き取れません。
- ・とても参考になりました。
- ・今回学んだことを実践しようと思います。
- ・ワークショップで、他学部の先生の授業の様子がきけたのが大変参考になった。
- ・ワークがあったのは、具体的な気づきがあって良かった。(2)
- ・参考になるレジュメ、資料など、ありがとうございました。(2)
- ・他者との比較によって自分の立ち位置などを確認することができました。非常に興味深いワークショップでした。
- ・分からなかった事が明確になりました。
- ・グループディスカッションのレベルが高く、とても参考になりました。
- ・評価指標を事前に学生に提示することの重要性を改めて認識することができました。
- ・プレゼンテーション評価の仕方が参考になった。

- ・非常に目新しい情報が多く、楽しめました。
- ・学習効果が高いことが分かりました。とくに「決められたことをする」のが得意な現代の学生には向いているように思います。これがより主体的な学習態度につながるような項目を作成することも大切だと思います。
- ・人間は総合的な存在であり、分解してはならないと実感した。
- ・学習者がわかりやすいかという点が大事ということがよくわかりました。ありがとうございました。
- ・個別の事例を見ていただけて良かったです。ありがとうございました。
- ・ワークショップを2会場では、助言をもらいづらく、残念でした。
- ・前回も書きましたが、講師の先生の映る画面にもポインターの先（ポインターがパワーポイントのどこを示しているのか）まで見えるような映像にしてください。「この表のこの部分ですね」といった説明が「どこの部分か」分かりにくいです。→途中から改善されました。ありがとうございます。…がやはりポインターがどこを示しているのか、多摩校では分かりませんでした。(2)
- ・自身の授業評価、評価の指標を改善し、よりよいものにしていきたいと思いました。
- ・とてもよかった。まさに、自分のできていないことを学べた。目からウロコでした。今後、さっそく、いくつかの科目で実施していきたい。
- ・今回作成をしたループリックを次年度に使用してみようと思います。ありがとうございました。
- ・レポートの評価基準について、しっかり作り込んで作成要領を学生に説明することを実際にやってみたいと思います。
- ・評価について改めて考えるきっかけになった。
- ・遠隔授業の工夫について参考になる機会でした。
- ・この研修を受けてからシラバス作成ができると更に良いと思う。
- ・学科・専攻で統一したループリックを作る必要性を強く感じました。(2)
- ・他の学部先生とお話ができて楽しかったです。
- ・ディスカッションした先生方との話が参考になりました。
- ・講師の話が聞き難い（モゴモゴしている）
- ・熱意は感じられた。
- ・座席が向かい合わず、内容が共有しづらいことがあった。
- ・現在、個人で授業を担当していないので、すぐに実践できずに残念である。
- ・事前情報がもう少しあると準備できました。(2)
- ・例年部屋が寒すぎる（毎年アンケートに書いてます。ぜひ改善を!!）(2)
- ・講師の先生のループリック例が小さい（印刷で文字がつぶれている）のが残念でした。大きな見やすいもの（＝参考にしやすいもの）をアップして下さると嬉しいです。(5)

問3 今後の研修会で希望されるテーマ・内容（実施方法でも可）をお書きください。

- ・全てのループリックが完成できるような内容で引き続きお願いします。
- ・講義科目において、学生が自覚的に取り組み、自分で評価するループリックのつくり方。
- ・本日のように各自の科目に落としこんで検討できるテーマであれば良いと思います。
- ・今回のように、作業形式の研修は参考になります。
- ・本学での具体的とりくみが知りたい。最後の人間関係の先生の例のように。
- ・ループリック実践編。添削と改善の仕方を実際にやってほしい。
- ・日本の他の大学のより具体的な事例、実践についての紹介を御願いたい。
- ・ループリックの事例を紹介していただくのも良いと思います。
- ・各ポリシーとの関係
- ・模範授業
- ・学生に役立つディスカッションスキル講座みたいなお話をしたいと思います。
- ・教育学など、専門家の話は少し能書きっぽさを感じる。理屈も大切だが、実践できるかも大切。実際、教育、事務、行政、研究に均一にとりくんでいる教員の話の方がピアレビューになってよい。
- ・大学改革の現状及び今後と問題について。テクニカルな内容ではなくて、現在進行中の大学改革の教育政策上の現状と課題について知りたいです。
- ・専門上、ほとんど存じあげている事柄（で更に一般向け概論でした）。どうしてもFDでご提示いただく内容・テーマは個人的には既知もしくは当然のことです。事前に研修のテーマやレベルをご提示いただくか、分野、専門的に適切なFD企画をご用意いただけましたら幸いです。

大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程

平成15年3月7日

制定

(設置)

第1条 大妻女子大学大学院、大妻女子大学及び短期大学部（以下「本学」という。）に、本学の教育の内容及び方法の検討、さらにそれらの組織的な研修、研究及び改善（以下「FD」という。）を推進するため、大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 副学長 1名
- (2) 人間文化研究科長及び人間文化研究科FD委員長
- (3) 家政学部長、文学部長、社会情報学部長、人間関係学部長、比較文化学部長及び大妻女子大学短期大学部長
- (4) 各学部及び短期大学部から選出された教員各1名

2 学長及び委員以外の副学長は、必要に応じて出席することができる。

(任期)

第3条 前条第1項第4号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 前項の委員が欠員となった場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(審議事項)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) FDの企画及び実施に関する事項
- (2) FDに関する情報の収集及び提供に関する事項
- (3) FDの実施に係わる支援及び評価に関する事項
- (4) 研究科、各学部及び短期大学部におけるFD活動に関する事項
- (5) その他、委員会が必要と認める事項

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、副学長をもって充てる。

2 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長が指名した者がその職務を代理する。

(議事)

第6条 委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。

2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは委員長の決するところによる。

(委員以外の出席)

第7条 次の各号の者は委員会に出席して意見を述べることができる。

- (1) 事務局長、教育支援センター部長、多摩事務部長
- (2) 委員会の同意を得て委員長が必要と認めた者

(事務)

第8条 委員会の事務は、教育支援センターにおいて処理する。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、委員会の議を経て、大学運営会議において定める。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年1月11日から施行し、平成16年12月1日から適用する。
ただし、第7条第1項第1号の規定は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年3月23日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年5月7日から施行し、平成22年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員名簿

		2019年度
副学長(委員長)		大 澤 清 二
副学長		高 山 宏
人間文化研究科長		堀 江 正 一
家政学部長		青 江 誠 一 郎
文学部長		村 上 丘
社会情報学部長		山 倉 健 嗣
人間関係学部長		福 島 哲 夫
比較文化学部長		佐 藤 円
短期大学部長		下 坂 智 恵
委員	人間文化研究科	三 浦 元 博
	家政学部	小 林 実 夏
	文学部	鈴 木 紀 子
	社会情報学部	本 郷 健
	人間関係学部	本 田 周 二
	比較文化学部	井 上 淳
	短期大学部	塚 越 恵 久 子